

現代と社会 SA  
現代社会 SA  
社会学 SA

10940

授業開講期間 後期                      単位数 2                      配当回生 1回生  
担当教員 松葉 正文  
深澤 敦  
竹濱 朝美

講義内容・テーマ

現在私たちは、21世紀に向かって大きな社会変化に直面している。この科目は、身近な社会現象を手がかりにしながら、現代とはどのような時代なのか、どう変わろうとしているのか、を考える理論の手がかりを提供しようとするものである。今年度は、以下の内容を取り上げる。

労働と福祉とジェンダーをめぐる問題  
市民社会の現在  
消費スタイルとマス・マーケティング、環境にやさしい消費スタイルをめぐる問題

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

私語、途中の出入りは、慎んでほしい。大学生としての良識をもって参加してほしい。

評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施  
\*日常点:加味する  
深澤担当分:評価は、定期試験結果を中心とする。出席を重視し、コミュニケーション・ペーパーなどの提出を求める。  
評価は、試験以外のこれらの項目も加味して行う。

松葉担当分:評価は、定期試験結果を中心とする。

竹濱担当分:評価は、定期試験結果を中心とする。授業中に分析作業の課題を与えるので、その小レポートも提出すること。

講義スケジュール

この科目は、3名の教員によるリレー講義となる。

担当 深澤敦教授(労働と福祉とジェンダー)

「労働と福祉とジェンダー」という視点から、現代社会を明らかにすることを獲得目標とする。日本社会を相対化し、国際比較の中で日本の労働・福祉・ジェンダーの特色を浮き彫りにすることが必要となる。また、歴史と理論と現状という三つの側面から総合的に把握することによってこそ、「奥の深い」理解が可能となる。

第1週 日本の「超」長時間労働と社会の「歪み」  
・「超」長時間労働の実態:過労死・過労自殺の急増  
・ILOの労働時間に関する全条約の日本による未批准問題

第2週 今日の雇用形態の多様化  
・パート、派遣労働など「非正規」雇用の拡大  
・ILOのパート労働条約と均等待遇原則

第3週 今日の賃金形態の変化  
・日本の「成果主義賃金」と生活の不安定化  
・「社会的賃金」の現代的意義

第4週 生活再構築の主体と多様な取り組み  
・労働組合の本来の機能  
・市民運動の台頭と国際化

第5週 現代社会と福祉国家  
・社会保障の成立と機能  
・福祉国家とジェンダー  
\*日常的に新聞やテレビで取り上げられている日本および世界の労働・福祉・ジェンダーの諸問題に注目すること。

担当 松葉正文教授(市民社会の現在)

第6週 市民社会の諸要素と留意点:

・概念規定、歴史、市民社会の復権、政治社会

第7週 市民社会と公共性および公共空間:

・公と私、世間、公共圏、合理的意思形成

第8週 市民社会と経済社会:

・市場の二重性、効率性と公平性、競争と連帯原理

第9週 現代世界と民主主義:

・現代世界の概観図、現代民主主義の諸条件

第10週 まとめ

担当 竹濱朝美助教授(消費とマーケティング、環境保全)

第11週 現代マーケティングの基礎理論:

・差別化、市場細分化、ポジショニング、製品ライフサイクル

第12週 現代マーケティングにおけるブランド戦略

・マーケティングにおけるブランドの役割、ブランド・イメージの構築と広告、ブランド戦略と価格戦略の関係

第13週 現代の消費スタイルと環境負荷

・マス・マーケティングの歴史、大量生産・大量消費、マス・マーケティングと消費スタイル

・消費スタイルと環境負荷の関係、製品ライフサイクルからみた環境負荷

第14週 環境配慮製品とグリーン・コンシューマー

・グリーン・コンシューマーの意義、環境配慮製品の広告表示と消費者の権利および義務

・環境配慮商品のマーケティング、環境マーケティングの光と影、市場主導の環境対応の限界

第15週 まとめ

## テキスト

深澤担当分: テキストは用いない。講義初めにレジュメや資料をその都度配布する。

松葉担当分: 講義中に指示する。

竹濱担当分: 講義中に指示する。

## 参考書

深澤担当分:

国際交流基金編『女性のパートタイム労働---日本とヨーロッパの現状』新水社、1999年

木本喜美子・深澤和子編『現代日本の女性労働とジェンダー』ミネルヴァ書房、2000年

松葉担当分: 講義中に適宜参考文献・資料などを紹介する。

竹濱担当分:

和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦『マーケティング戦略』有斐閣

和田安彦・中野加都子・山本良一『環境にやさしいライフスタイル』技報堂出版

グリーンコンシューマー全国ネットワーク、『グリーンコンシューマーになる買い物ガイド』、小学館

## 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

深澤担当分: <http://www.ilo.org> <http://www.socialeuropa.com>

松葉担当分: 講義中に指示する。

竹濱担当分: 講義中に指示する。

## その他

現代と福祉 SA  
社会福祉論 SA

10727

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 1回生  
担当教員 加藤 園子  
中川 勝雄  
峰島 厚

#### 講義内容・テーマ

講義内容は次のようなものとなる。社会福祉は、生活問題への社会的対応策のひとつとして形成・発展してきたもので、すべての人々の生活上の諸困難や障害を社会的責任において緩和し解決することを目標とする政策的・実践的な諸活動である。本来人間の尊厳や人間に値する生活社会的保障をめざす社会福祉が、歴史的にどのように発展してきたのか、諸外国の動向をも概観しつつ明らかにし、現代社会における社会福祉の異議と課題について論ずる。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

・大学での学習への入門的科目なので、できるだけ理解しやすいように、大きな字で板書したり、必要に応じて資料を配布、受講者の理解度の確認のための質問、など工夫していきたい。  
・毎回出欠席をとる。  
・授業内容は、社会福祉の定義・歴史的 성격・現代的展開、社会福祉をめぐる政策動向と生活問題、社会福祉制度の体系と現実、の3つの柱で構成される。これらの柱は、それぞれに完結した講義となるので、講義順序がクラスによって違っていても受講者に理解できるよう配慮している。

#### 評価方法・基準

\* 筆記試験：定期試験として実施  
\* 日常点：加味する  
定期試験を中心に総合的に評価する。

#### 講義スケジュール

を中川勝雄、 を加藤園子、 を峰島厚が担当し、講義順序はクラスによって異なるが、それぞれがほぼ5回ずつを担当する。

##### 社会福祉の定義・歴史的 성격・現代的展開

1. 社会福祉の定義(多義的な社会福祉の概念)
2. 社会福祉と関連領域(とりわけ社会保障との関係)
3. 都市型社会の成立と「福祉国家」の登場
  - 1) 資本主義の発展と「福祉国家」の登場
  - 2) 日本の都市型社会以前における社会供給体制
  - 3) 都市型社会の成立と「福祉国家」の登場
  - 4) グローバリゼーションと「新福祉国家」構想

##### 社会福祉をめぐる政策動向と国民生活

1. 社会福祉をめぐる国際動向 - 「福祉国家」から「福祉社会」へ -
2. 戦後日本の社会福祉と「転換期」の意味
3. 国民生活の現実と社会福祉 - 社会福祉の対象と分野 -

##### 社会福祉制度の体系と制度

1. 現代における社会福祉制度の転換
2. 社会福祉基礎構造改革
3. 戦後日本の社会福祉制度の体系
4. 施設福祉から地域福祉へ

#### テキスト

使用しない。

#### 参考書

授業の進行に応じて紹介していく。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

授業開講期間	後期	単位数	2	配当回生	1回生
担当教員	増田 幸子 柳澤 伸司 長澤 克重				

講義内容・テーマ

本講義は三つのパートで構成される。「メディアの歴史的展開」では、印刷メディアから電波メディアに至るまでのメディアの生成・展開過程を検討する。「メディア産業・制度」では、新聞、放送、出版などの産業制度的な環境について解説する。「メディアの研究史」では、メディアの個人、集団、社会に及ぼす影響・効果に関する理論的アプローチおよび事例研究を取り上げる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

他の受講生の迷惑になるような遅刻早退・私語・携帯電話の使用を禁止する。

評価方法・基準

\* 筆記試験・定期試験として実施  
レポートおよび定期試験。各部ごとに、日常点として必修文献の読書感想文などのレポートを課す。

講義スケジュール

第1回 「現代とメディア」講義ガイダンス

## 第1部「メディアの歴史的展開」

- 1 なぜ「グーテンベルク革命」なのか、印刷技術は人類社会をどう変えたのか
- 2 「表現の自由」という思想はどのようにして確立されたのか
- 3 なぜ「無線通信」というテクノロジーは「ラジオ」として想像されたのか。
- 4 メディア融合の時代の未来はどうなっていくのか

## 第2部「メディア産業・制度」

- 1 マスメディアが社会で果たしている基本的な機能とは何か
- 2 メディアはどのような制度的な仕組みの下で現代の情報環境を作っているのか
- 3 メディア産業界の仕組みはどうなっているのか
- 4 メディアにおける生産・制作のプロセスはどうなっているのか。

## 第3部「メディアの研究史」

- 1 メディアは大きな効果をもっているのか(1)
- 2 メディアは大きな効果をもっているのか(2)
- 3 「受け手」はどのように研究されてきたか(1)
- 4 「受け手」はどのように研究されてきたか(2)

最終回 講義総括および質疑応答

テキスト

講義レジュメや講義内容に関連した資料(コピー)を配付する。

参考書

授業中に随時紹介していく。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

授業中に随時紹介していく。

その他

本講義は、各パートを3人の担当者がリレー形式で行うため、実際の講義の順序は、クラスによって異なる。毎回出欠をとる。

授業開講期間	前期	単位数	2	配当回生	1回生
担当教員	小澤 亘 景井 充 山下 高行				

### 講義内容・テーマ

文化現象といっても、その内実は多様である。本講義では、文化交流、文化形成、文化表現の三つの視点から、現代社会における文化的課題を明らかにしていく。「文化表現」では、絵画・イベント・漫画などの媒体を取り上げ、カルチュラルスタディーズの立場から現代社会の文化的な課題に接近していく。「文化交流」では、現代社会において急激に進行する「情報化」の流れに注目し、文化と人間の変容を分析していく。「文化形成」では、現代若者論およびボランティア文化の国際比較調査を素材として、若者たちが能動的な文化形成の主体となるための条件を模索していく。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

「文化の学び」には多様なアプローチがありうる。受講生には、3つのセッションで展開されるさまざまな文化研究の方法や成果を吸収することによって、自分自身の「文化を見る視点」を獲得することを期待したい。

### 評価方法・基準

- \* 筆記試験：定期試験として実施
  - \* 日常点：加味する
- 原則として試験による。各講義期間中に出席及びそれに代わるレポート等を課す。

### 講義スケジュール

#### 「文化表現」のセッション

- 第1回 表象文化と社会(1): 絵を読む  
絵を読むとはどのようなことか。そこで生み出される問題は何かをドイツ退廃芸術展などを例に論じる。
- 第2回 表象文化と社会(2): イベントを読む  
イベントもテキストとして「読む」ことができる。そのメッセージ性について、事例を挙げて分析する。
- 第3回 表象文化の分析方法: カルチュラルスタディーズ入門  
記号論の初歩と、カルチュラルスタディーズの考え方やその研究手法を概説する。
- 第4回 聴衆と読者: 制度としての受け手と読みの多様性  
聴衆や読者は、社会的に制度化されたなかで生まれる。そのメカニズムと意味をロジェ・シャルチエや中井正一の論理を手がかりに明らかにする。
- 第5回 媒体と作品: マンガ作品のつくられ方  
最後に、マンガを素材に、作品がどのように媒体の論理の中に組み込まれていくのかを示していく。

#### 「文化交流」のセッション

- 第1回 情報化社会とはどういう社会か  
近代社会の最先端といった印象を与える情報化社会は、どのような過程を経て現在にいたり、いかなる特徴を持っているか。こうした問題をまず概観する。
- 第2回 現代文化の趨勢: 資本主義化の徹底とグローバリゼーション  
ひとびとの生の営みの総体としての文化が、近代の開始以降、絶えざる資本主義化の影響をどのように受け、現在どのような動きを見せているか。グローバリゼーションの一環としての文化帝国主義を例にして考える。
- 第3回 情報化による文化変容(1): コンピュータ・ネットワークによるコミュニケーションの変質  
情報機器・システムが普及したことによって私たちのコミュニケーションがどう変わったのか。コンピュータ・ネットワークが作り出す情報空間を例に考える。
- 第4回 情報化による文化変容(2): 生活世界のリアリティの変容  
私たちの現実感覚全体がどのような変化を受けているか。ビデオなど映像メディアがつくりだすヴァーチャル・リアリティを例に考える。
- 第5回 情報化による文化変容(3): <私>の変容、<私>という問題  
情報化による文化変容は、当然<私>の変容を伴う。最後に、そうした<私>は、社会と文化の変容に改めてどう対応しているのかについて考える。

#### 「文化形成」のセッション

- 第1回 「学びの文化」再考  
アクティブラーニングとその基盤となるノートテイキングの方法を紹介し、あらたな学びの文化について考える。
- 第2回 現代若者論入門(1)  
「見えない文化」を認識する立場として、「文化相対主義」を取り上げる。70年代の古典的若者論を紹介しながら、文化を見る視点について具体的に考える。
- 第3回 現代若者論入門(2)  
続いて、90年代における若者論の新たな展開を紹介しながら、現代日本の文化的課題を考える。
- 第4回 ボランティアの文化社会学  
「ボランティア文化」に関する比較調査を照会しながら、現代日本の若者たちが抱えている問題を提起する。
- 第5回 ゲストスピーカー招聘: 「フィールドを持つこと」

ゲストを招聘し、若者たちの新たな挑戦を紹介していくことによって、新たな文化創造の可能性を模索する。

テキスト

各セッションの開講時に、それぞれの担当者より指示するので、それに従うこと。

参考書

授業中に、適時、担当者が紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この講義は、上記3つの分野を担当する3人の講義責任者が、それぞれのクラスをローテーションしながら、授業を進めていく。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 小暮 宣雄

講義内容・テーマ

1) アーツ(=アート、芸術)を社会に伝えるにはどうすればいいのか。2) アーティストが「いま、ここ」にいる意味とは。3) 教育/福祉/医療現場にアーツはどう関われるのか。4) 演劇ダンス音楽映画美術文学などの各アーツジャンルはどのように鑑賞され創造されるべきか。

これらアーツマネージャーが行うアーツマネジメント課題を明らかにしつつ、アーツマネジメント手法を更に社会に広げる方策(冠婚葬祭など)を考える。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

中間に小テストを行うので、小劇場演劇あるいはコンテンポラリーダンスを実際に鑑賞しておくこと。その際は劇場ホール、周辺などの環境観察を行っておくことも大切。そのためには、チラシやインターネット情報をよくチェックすること。なお小テスト、定期試験とも持ち込み可。演劇ダンス公演、美術工芸展、音楽リサイタルなどを告知したい学生は冒頭にプレゼンテーションできるように配慮する。

評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施

\*日常点:加味する

定期試験60%、中間小テスト30%、あと時折感想カードを配布して出席状況などを得て平常点10%を加味する。中間小テストがどうしても受けられない者は小テスト実施日までにレポートを提出すること。

定期試験は基礎知識とともに企画力を問う内容とする予定。

講義スケジュール

- 1.はじめに～文化政策、まちづくりとの関係。市場芸術以外のアーツとは？
- 2.アーツマネジメントのabc～アーツマネージャーはどこにいる？
- 3.アーツマネジメントの分類(1)～実演芸術とNPO
- 4.アーツマネジメントの分類(2)～視覚芸術とNPO
- 5.アーツの「いれもの」論(1)～劇場ホール・ライブハウス
- 6.アーツの「いれもの」論(2)～美術館・ギャラリー・映画館
- 7.アーツの「いれもの」論(3)～カフェ・歴史的建造物・野外・出版
- 8.中間テスト(演劇ダンスの鑑賞レビューと環境観察)
- 9.限界芸術(親密圏でのアーツ)をサポートするには
- 10.アウトリーチを巡って～ワークショップ、パブリックアートなど
- 11.芸術の可能性～アーツセラピーとエイブルアーツ
- 12.冠婚葬祭にあるアーツマネジメント的要素とは？
- 13.「葬祭セレモニー」と「墓デザイン」にみられる自由な動き
- 14.人生の節目節目マネジメント～「親密圏アーツマネジメント」
- 15.まとめ～アーツマネジメントが向かうべき「みち」とは

テキスト

なし

(但し、アーツ情報を得るため、インターネット「アーツ・カレンダー」の情報マガジンに登録することが望ましい。

<http://www.arts-calendar.co.jp/Registration.html>)

参考書

「自治体政策とユニバーサルデザイン」小暮宣雄他著、学陽書房

「社会とアートのえんむすび」小暮宣雄他著、トランスアート

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

アーツ・カレンダー <http://www.arts-calendar.co.jp>

こぐれ日録 <http://www.t3.rim.or.jp/~hs01-ckc/KOGURE/Diary.html>

OBPアーツプロジェクト <http://www.obpartsproject.com/index2.htm>

その他

京橋の大阪ビジネスパーク(OBP)ではOBPアーツプロジェクトを実施して各大学のアーツやアーツマネジメントに関心のある学生が参加している。またここではJAM West(日本アートマネジメント学会関西支部)例会も開催。アーツマ

ネージャーの仕事に興味がある学生は是非参加すること。



アジア文化論 S  
現代文明論 S

14049

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 文 楚雄

講義内容・テーマ

アジアには多くの国や地域があり、様々な文化や伝統がある。また豊かな人的資源があり、潜在的な大きな経済市場もある。日本はアジアの一員である。地理的にも歴史的にも文化的にもアジアと強い絆を持っている。故に日本は大いにアジアに目を向けるべきであると思う。

本授業は、東アジアの日本、中国、韓国を中心に、アジアの文化、伝統、価値観、生活スタイルなどを比較し、その同質性や異質性を考えることにしたい。そして、この授業を通じて、アジアの国々の文化に対する関心や理解を深めると同時に、日本文化に対する再認識をも深めたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義方式を取るが、ビデオも見ていく。また、留学生との討議も組み合わせたい。

評価方法・基準

- \* レポート: 試験に代わるレポートとして実施
  - \* 日常点: 加味する
- 最終レポートや出席などの平常点を総合して判断する。

講義スケジュール

およそ次のような内容で授業を進めていきたい。(一部変更する場合がある)

- 第1回 文化とは何か。視点と方法
- 第2回 文化発生のプロセス、文化の衝突
- 第3回 大陸・島・半島 気質と性質
- 第4回 日本人、中国人、韓国人
- 第5回 日・中・韓文化の特徴 風土説
- 第6回 本学の留学生との交流
- 第7回 日・中・韓文化の特徴 船、馬、儒教
- 第8回 日・中・韓文化の特徴 仏教
- 第9回 言語と文化 日本語、中国語、英語の比較から
- 第10回 文学から見る文化 平家物語を中心に
- 第11回 家族と社会 婚姻法から
- 第12回 食文化とマナー
- 第13回 道教、神道、禅
- 第14回 服装、建物
- 第15回 まとめ。娯楽、歌、映画

テキスト

授業時プリントを配布する。

参考書

- 『中国人と日本人』(邱英漢、中央公論者)
- 『韓国人と日本人』(金容雲、サイマル出版会)
- 『日本人と日本文化』(司馬遼太郎、中公新書)

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

医学一般 S 医学一般 SG	12062
-------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 中川 克

### 講義内容・テーマ

本講義は社会福祉士を目指すものの必修講義として、医学・医療の基礎知識の習得を目的とする。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会福祉士としてのみならず、学生諸君の健康管理に必要な医学的知識を概説するため、基礎医学から臨床医学におよぶ広範な領域を短時間でカバーする。  
専門的知識の習得のためには積極的な勉学姿勢を要求する。

### 評価方法・基準

- \*筆記試験：定期試験として実施
  - \*レポート：試験に代わるレポートとして実施
- 出欠の有無は問わない。レポートと定期試験の成績をもって評価する。

### 講義スケジュール

1. 臨床医学の概観 [1週]  
(医学の歩み、社会福祉士と医療・医学の関連)
2. 人体の構造と機能 [2～8週]  
(解剖と生理)  
細胞、血液、呼吸、消化器・物質代謝、泌尿器・皮膚、循環器、支持運動器官、内分泌、神経科、感覚器、生殖器
3. 先天性疾患 [9週]  
(概念、遺伝子と遺伝、発生、先天性疾患)
4. 感染症 [10週]  
(従来の感染症の動向、感染症新法、O157・結核・AIDSなど近年注目される感染症)
5. 神経系疾患 [11～12週]  
(パーキンソン氏病、神経痛、頸椎症、など)
6. 生活習慣病の病態・概念と、その予防 [13～14週]
7. 老化と身体的変化 [15週]  
(老化現象とは、高齢者の疾病の特徴と注意すべき点について)

### テキスト

新版社会福祉士養成講座13「医学一般」、福祉士養成講座編集委員会編、中央法規出版2001

### 参考書

新訂「目でみるからだのメカニズム」、堺 章著、医学書院

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/>

### その他

医療福祉論 S  
 社会保障論 S

11983

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 安井 豊子

講義内容・テーマ

疾病や障害を伴うことから起こる生活上の課題(福祉的課題)や、逆に人々に疾病や障害をもたらす福祉的課題を理解し、課題解決のための保健医療・福祉政策の今後のあり方を探求するとともに、対象者や家族への健康権・生活権の保障を基本理念とした援助のあり方を学習する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

ソーシャルワークについての知識を習得していることが望ましい。自己の障害者観、死生観を築き上げていくことに挑んで欲しい。文学、や映画、演劇等の芸術にも多く触れ、生や死、病や障害が人生に投げかける意味を探って欲しい。

評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施

\*日常点:加味する

出席状況、受講態度も配慮し、レポートおよび定期試験の成績による総合評価。

講義スケジュール

- 第1回 保健医療福祉の概念・倫理・価値
- 第2回 保健医療福祉課題について(歴史の変遷を通して)
- 第3回 保険医療福祉政策の現状と課題
- 第4回 保健医療ソーシャルワークの概念
- 第5回 保険医療ソーシャルワークの歴史(日本・欧米)
- 第6回 保健医療ソーシャルワーク業務と専門性・固有性
- 第7回 保健医療ソーシャルワークの展開過程
- 第8・9回 重度身体障害者への保健医療ソーシャルワークの現状と課題
- 第10・11回 精神障害者への保健医療ソーシャルワークの現状と課題
- 第12回 ターミナル医療について
- 第13回 ターミナル医療における医療ソーシャルワーク(その役割と課題)
- 第14回 脳死臓器移植と医療ソーシャルワーク
- 第15回 総括

テキスト

「保健医療ソーシャルワーク原論」(社)日本医療社会事業協会編 相川書房

参考書

「新 医療福祉論」大野勇夫著 ミネルヴァ書房

「医療福祉学概論」佐藤俊一・竹内一夫編著 川島書店

「医療におけるソーシャルワークの展開」杉本照子監修 相川書房

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 高橋 裕子

講義内容・テーマ

Carol Brooks Gardner "Analyzing Gender in Public Places: Rethinking Goffman's vision of Everyday Life"  
Randall Collins & Scott Coltrane Sociology of Marriage and the Family: Gender, Love, and Property  
の文献研究を通してジェンダー理解を深める。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

最初の講義で講読の進み方については協議する。  
内容については適宜、講義する予定。

評価方法・基準

\* 日常点: 加味する  
試験はしない。日常点にて評価。

講義スケジュール

テキスト

特になし

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 福地 潮人

講義内容・テーマ

1990年代以降、市民社会に関する議論が多くの社会科学の領域で注目を集めています。ここでいう市民社会とは、国家と市場から相対的に自律した領域のことであり、具体的にはNPOやNGO、各種クラブなどのボランタリー・アソシエーションから構成される空間のことをさしています。この講義ではWalzer.M.やCohen.J.、Hirst.P.Q.などの代表的な現代市民社会論者の論文を購読し、現代市民社会論が何を語ろうとしているのか、考察していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

オンラインシラバスに参考文献をあげていますので、ぜひご参照ください。講義中にも理論の背景など、適宜解説しますが、現代市民社会論の性格上、内容は少々難解なものとなる場合がありますので、ご注意ください。  
 なお、講義中の私語、飲食、講義開始後20分以上の遅刻は厳禁です。翻訳ソフトの使用も禁止します(というか、使用しても無駄です。購読文献は翻訳ソフトで対処できるような英文ではありません)。また、忙しい方、予習をやる自信のない方は受講されない方が無難です。

評価方法・基準

\* 日常点: 加味する  
 とくに試験は行いません。講義中の翻訳や発言・質問、出席などの平常点で厳密に評価します。  
 なお、出席日数は3分の2以上を必要とします。

講義スケジュール

使用テキストについては、現段階では以下の3つものものをあげておきます。なお、いずれの場合も、コピーを用意します。

1. Walzer.M. `The Concept of Civil Society` Walzer.M.ed.,  
Toward A Global Civil Society, Probidens/Oxford:Berghahn,1995,7-28.
2. Jean L. Cohen and Andrew Arato,Civil society and political theory ,  
Cambridge, Mass. : MIT Press , 1994.
- 3.Hirst,P.Q.`Democracy and Civil Society` Hirst,P.Q. From Statism to Pluralism,  
London:UCL Press,1997, 115-135

なお、余力があれば、講義の理解を深める上でも、以下の参考文献を読んでおくことをお勧めします。

1. 中村健吾(1996)「現代ドイツの市民社会論争:ハバースマス、グラムシ、ヒルシュ」  
『経済学雑誌(大阪市立大学)』第97巻第1号、13-34頁。
2. 森 政稔(1998)「現代日本市民社会論:その批判と構想」  
『ライブラリ関連社会科学5 現代日本のパブリック・フィロソフィ』、新世社、23 - 59頁。
3. 八木紀一郎 他編著(1998)『復権する市民社会論:新しいソシエタル・パラダイム』、日本評論社。

テキスト

使用テキストについては受講生のレベルに合わせて、決めたいと思います。コピーを予め用意します。

参考書

上記をご参照ください。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 市井 吉興

### 講義内容・テーマ

本講義の目的は、情報化社会論の系譜を辿りながら、情報化社会論が陥りやすい「落とし穴」を検証し、その克服への糸口を探求することを目的とする。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講に際し、「参考文献」で紹介した文献を読んでおくことが望ましい。なお、講義毎に講義内容に関わった文献を紹介するので、それもあわせて読むことを求めたい。

### 評価方法・基準

- \*レポート:試験に代わるレポートとして実施
  - \*日常点:加味する
- 平常点(特に出席重視!)とレポートで評価を行う。

### 講義スケジュール

以下の5つのテーマを15回の講義で考察したい(若干の変更の可能性あり)。

1. 情報化社会とは何か?
2. 脱工業化社会としての情報化社会
3. 情報と国民国家:監視と管理
4. 情報と「新しい時代」:ポスト・フォーディズムとポスト・モダン
5. 情報とグローバリゼーション

### テキスト

Frank Webster, Theories of The Information Society, Routledge, 1995. 使用する部分は、講義で配布する。したがって、購入する必要はない。

### 参考書

- 佐藤俊樹『ノイマンの夢・近代の欲望:情報化社会を解体する』講談社選書メチエ、1996年。  
デヴィッド・ハーヴェイ 吉原直樹監訳『ポストモダニティの条件』青木書店、1999年。  
ジェニファー・D・スラック、フレッド・フェジェシス編 岩倉誠一・岡山隆監訳『神話としての情報社会』日本評論社、1990年。  
デイヴィッド・ライアン 河村一郎訳『監視社会』青土社、2002年。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 池田 知加

講義内容・テーマ

Mackay,H.,W.W.Maples, P.Reynolds (eds.)  
Investigating the Information Society. (Routledge, 2001) を講読する。

## 目標

- ・英文を読み、日本語に訳す
- ・テキストの内容を理解する
- ・「情報社会」についての理解を深める

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

自主学習は必要。少なくとも、テキストは毎回読んでくること。  
情報化社会やメディア論について興味・関心があることが望ましい。

評価方法・基準

- \* 日常点:加味する
- 平常点で評価する。
- 出席と担当箇所翻訳。

講義スケジュール

- 第1回  
オリエンテーション:テキスト配布、授業の進め方など
- 第2回～第14回  
基本的に担当者を決めて輪読していく。  
専門用語などについてはその都度解説する。
- 第15回  
まとめ

テキスト

最初の授業で配布

参考書

参考書は授業内でその都度紹介していく。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他



映像メディア分析 S  
メディア・リテラシー論 S

13227

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回数 3回生  
担当教員 鈴木 みどり

## 講義内容・テーマ

テレビを中心とする映像メディアの分析をとおしてメディア・リテラシーについて、また、その取り組みのグローバルな展開について、理論研究と実践的研究の両面から学ぶ。とくに本科目では、テレビのジャーナリズム機能に焦点をあて、時々のメディア報道をとりあげつつ、それらを市民の視座から社会・政治・経済・文化の文脈で分析する方法を学ぶ。さらに、市民が創るオルタナティブ・メディアの可能性を考え、人間がメディアの能動的な「読み手」へ、創造的に発言する市民へと、主体性を確立していくプロセスを自らの経験として理解する。

## 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

グループ学習活動としてのメディア分析と討論、個人によるメディア・ログ(メディア分析レポート)の提出、クラス全体での発表と対話、という運営方式を基本に、文献を使いながら行う講義を織り交ぜ、全体として参加型の授業を行う。したがって、授業への能動的参加が受講条件といえる。

## 評価方法・基準

\* レポート: 試験に代わるレポートとして実施  
\* 日常点: 加味する  
評価は授業への出席/参加の度合い(50%)と授業中に課すメディア・ログ(メディア分析レポート)の内容による(25%×2=50%)。筆記式の定期試験や最終授業試験は行わない。なお個人で提出するメディア・ログは、授業の進行に沿って随時だす課題のなかから少なくとも2回を選んで執筆し、原則として翌週に提出する。

## 講義スケジュール

- 第1回～第2回 メディア・リテラシー研究と映像ジャーナリズム
- ・Introduction / メディア・リテラシーの基本概念をタテ軸に、メディア研究のテーマをヨコ軸に
  - ・メディア・リテラシー研究の理論的展開とグローバルな実践
  - ・パラダイムの移行: 「送り手」研究から「オーディアンス」研究へ、「市民とメディア」研究へ
  - ・メディア・リテラシーの基本概念 / 分析方法 / 学び方
  - ・日本におけるメディアの発達小史
  - ・ビデオパッケージ「スキヤニング・テレビジョン日本版」(STJ)について
- 第3回～第5回 メディアが記号化し構成する「現実」/ジャーナリズムとメディア・リテラシー
- ・基本概念: リプレゼンテーション(representation)(記号化し構成された表現)について
  - ・テーマ1: メディアと政治
  - ジャーナリズムとしてのメディアとメディア・リテラシー
  - ・分析1: 政治とメディア / メディアが構成する「現実」
  - STJから: マイケル・ムーアの「恐るべき真実: アフリカ系アメリカ人の財布交換プロジェクト」
- 第6回～第8回 映像言語、価値観・イデオロギー / メディアのニュース報道、選挙報道
- ・基本概念: メディア言語 / 映像言語、について
  - ニュース報道の映像言語
  - ・テーマ2: テレビのニュース報道、選挙報道
  - ニュースバリュー / アジェンダセッティング / 誰のためのニュースか
  - ・分析2: ニュース報道を構成する映像言語 / 価値観・イデオロギーを読み解く
  - STJから: ケネディ - ニクソンの討論
- 第9回～第11回 オーディアンス / 報道人権
- ・基本概念: オーディアンスが解釈し、意味を創りだす
  - ・テーマ3: 報道と人権
  - 松本サリン事件報道を検証するメディア、松本サリン事件から8年
  - ・産業・制度としてのメディアとメディア・リテラシー
  - ・分析4 報道と人権: メディアはオーディアンスをどう捉えているか
  - 参照: STJから: メディア、戦争、そして検閲
- 第12回～第14回 メディアと市民 / オルタナティブ・メディアの可能性
- ・基本概念: コミュニケーションを創りだす
  - ・コミュニケーションする権利と国連「世界情報社会サミット」(WSIS)
  - ・テーマ4: メディア・デモクラシーをめざす市民とオルタナティブ・メディア
  - クリティカルな読み手の時代のメディア・コミュニケーション

・分析5 オルターナティブ・メディアを読む  
Independent Media Centerによる「9.11」  
STJから:9.11メディア報道の報道  
第15回 まとめ

#### テキスト

『メディア・リテラシーの現在と未来』(鈴木みどり編、世界思想社、2001)  
『メディア・リテラシーを学ぶ人のために』(鈴木みどり編、世界思想社、1997)

#### 参考書

授業の初回に参考文献リストを配布し、授業の進行に沿って随時このリストから紹介する。  
受講生には書籍を多く読むことを期待する。なお、参考文献リストは以下のWWWページ  
「メディア・リテラシーの世界」から各自でプリントアウトできる。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

メディア・リテラシーの世界(Media Literacy Project in Japan) <http://www.mlpj.org/>  
Media Awareness Network (Mnet) <http://screen.com/mnet/eng/>

#### その他

メディア・リテラシー論 を受講していることが望ましい。

NPO・NGO論 S  
非営利組織論 S

12280

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 秋葉 武

講義内容・テーマ

社会的に重要な役割を持ち始めたNPO・NGOについて、福祉分野の組織を中心にあげていく。受講者にNPOの社会的役割を考えてもらう。企業、行政組織と比較して、NPOのサービスの特徴を考察していく(例えば、NPOのリーダーの多くが社会福祉の「専門家ではない」地域の市民 既存の社会福祉制度から「はみ出した」専門家、である)。  
上記のテーマを学んでいくため、講義においてはビデオ等の視覚教材を毎回使用する。ゲスト・スピーカーを何度か招くなどして最新の話題を取り上げていく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

産業社会学科3回生以上 / 人間福祉学科2回生以上 福祉に関する一定の知識を必要とする。下記の行為をする受講生は自動的に「F」評価となる。他の受講生の受講権の侵害 授業中の私語、大幅な遅刻、頻繁な途中入退室など マナーの欠如(携帯電話の時計以外の目的での使用など)、レポートの記述の不適切な表現(タメ口や口語表現など) 開始後10分以内に経てば教室に鍵を掛けるので、遅刻者は入室できない。出席に厳しいので就職活動中の4回生は勧められない。

評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施

\*日常点:加味する

評価基準...学部科目中、最も厳しい評価基準(Aは全体の10%以内、Fも多い)

評価方法 出席および授業の理解力、表現力 30% 講義中の質問、議論における発言の積極性 20% 中間レポート 25% 期末試験 25% ガイダンスに欠席した場合、履修を認めない(成績評価は即「F」となる)。履修希望者は「必ず」「絶対に」出席すること。

講義スケジュール

(受講者とのコミュニケーションのなかで、講義内容の変更もありうるので留意して欲しい)また、数回ゲスト・スピーカーを招くことになる。

- 1、ガイダンス(授業の趣旨、達成目標、成績評価方法)
- 2、NPO・NGOとは何か 阪神大震災におけるボランティア活動を事例にして
- 3、NPO・NGOとは何か 阪神大震災における救援活動の変遷を事例にして
- 4、地域社会の変動とNPO 施設福祉から地域福祉へ
- 5、地域社会の変動とNPO 宅老所・グループホームの台頭
- 6、NPOの組織構造 NPOの人材とその課題
- 7、NPOの組織構造 NPOと組織ネットワーク
- 8、NPOと公共性 公共財の開発を事例として
- 9、NPOの先駆性 アメリカの事例から
- 10、NPOの先駆性 アメリカの事例から
- 11、NPOの制度化 NPO法案をめぐる
- 12、NPOの制度化 介護保険法案との関連で
- 13、NPOと他組織の関係 行政間のパートナーシップをめぐる
- 14、NPOと他組織の関係 企業間のパートナーシップをめぐる
- 15、まとめ

テキスト

特に使用しない

参考書

山岡義典編(1997)『NPO基礎講座』ぎょうせい。講義時間中にも適時紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ担当教員のHP <http://www.ritsumeai.ac.jp/~akiba/>その他

NPOを理解することで、これから起こる社会の潮流を自分なりに予測できるようになるかもしれません。その点で、社会人になった時、大いに役立つスキルを習得できるかもしれません。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 久津内 一雄

講義内容・テーマ

映画が持っているエンターテインメント性と芸術性とは原理的に二律背反的なものか？

映画史的に見ていくと、映画はエンターテインメントか芸術かという点を中心に議論されてきた。映画作家主義などは映画論のその中心的な論点である。では、何故、映画はエンターテインメントか芸術かという点を軸に議論されてきたのか？

世界の映画史において、黄金期と呼ばれている時代には、実に多くの観客が映画館に足を運んだ。例えば、日本映画の黄金期、五十年代にも、多くの日本人が、溝口健二、小津安二郎、成瀬巳喜男、五所平之助、木下恵介、黒澤明などの巨匠の映画を見に映画館に足を運んだ。観客は何を求めて映画館に足を運んだのか？

映画は、誕生からわずか60年でそのピークを迎え、その後一気に凋落することを余儀なくされるわけだが、映画に未来があるとすればどんな未来がありうるか？

以上のテーマを中心に、映像文化の有り様について理解を深める。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

20世紀最後の映画の黄金期の作品を上演し鑑賞する。具体的には、授業中、以下の映画を上演し鑑賞する。

グイム・ヴェンターズ：「ハルリン天使の詩」(1987) (独)

アンドレイ・タルコフスキー：「ナスタルジア」(1983) (露)

テオ・アングロプロス：「シテル島への船出」(1984) (ギリシア)

グイクトル・エリセ：「エル・スール」(1983) (西)

タヴィアーニ兄弟：「サン・ロレンツォの夜」(1982) (伊)

評価方法・基準

\*筆記試験：定期試験として実施

\*日常点：加味しない

上記のテーマで14回の講義を行い、その後試験を行う。試験を含めて計15回の講義となる。試験問題は論述問題1問。

講義スケジュール

映像文化論

(1) 人類は映像の時代に足を踏み入れた。二十世紀は映画の時代、映画はエンターテインメントか芸術か？という映像文化論の永遠のテーマをめぐって、映画は隆盛し、そして凋落する。

(2) アメリカ映画の黄金期とジョン・フォード、アメリカ古典主義の極致を代表する、豊かで素朴で雄弁な映画話法のスタイル。映画がエンターテインメントでも芸術でもあることを実感し得た時期。

(3) 日本映画の黄金期。溝口健二と小津安二郎。日本映画がエンターテインメントの線を超えて、芸術の領域に入り込んだ時期。

(4) フランス映画の黄金期とヌーヴェル・ヴァーグ。人類は、本格的に、映画がエンターテインメントか芸術か？という映像文化論の永遠のテーマに直面した。

(5) 映像文化論の永遠のテーマ、すなわち映画はエンターテインメントか芸術か？をめぐる、ホスト・ヌーヴェル・ヴァーグの取り組み。映画は凋落をくい止め得たか？

(6) 映像文化論(まとめ)

14回の授業を以上のような6部編成で構成する。

テキスト参考書

参考文献一覧(総論部分のみ紹介)

映画論講座1～4	山田和夫監修	合同出版	1977年
映画芸術への招待	杉山平一	講談社	1987年
映像のロシア	アンドレイ・タルコフスキー	キネマ旬報社	1988年
映画理論集成	岩本憲児編	フィルムアート社	1987年
映画の教科書	ジェイムズ・モナコ	フィルムアート社	1989年
モンタージュ探究	谷川義雄	風濤社	1985年
映画の言語	ロッド・ホイカー	法政大学出版局	1983年
映画と現実	ロイ・アームス	法政大学出版局	1985年
映画の記号論	Yu.M. ロトマン	平凡社	1987年
映像学原論	植条則夫編	ミネルヴァ書房	1990年
映画	イドガール・モラン	法政大学出版局	1983年
映画における記号と意味	ピーター・ウォーレン	フィルムアート社	1986年
映画芸術の社会学	G.A.ヒュアコ	有斐閣	1987年
季刊リュミエール6(グリフィス特集)		筑摩書房	1986年

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 池内 靖子

講義内容・テーマ

演劇というメディアは、劇場、舞台空間のデザイン、衣装、メイク、照明、演出、演技、台本といった多様な要素を含む、ライブの総合芸術である。講義では、演劇の魅力について、学際的な知の枠組み、演劇的なパラダイムから、広く現代のパフォーマンス・アートを含めて考察する。俳優やパフォーマーを招待し、演劇やパフォーマンス空間、身体というテキスト、観客のまなざしなどについてワークショップを行う。京都の劇場やパフォーマンス・スペースのフィールドワークも行う。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

\* レポート: 試験に代わるレポートとして実施

\* 日常点: 加味する

グループ・ディスカッションに積極的に参加する(日常点を加味する)。一つのレポート課題として、各グループで、劇場やパフォーマンス・スペースのフィールドワークを行う。そのフィールドワークについてグループ・プレゼンテーションを行い、レポートを提出する。もう一つのレポートは、個人の課題として、自由に設定したテーマについて書き提出する(試験に変わる最終的なレポート)。

講義スケジュール

- 第1回 都市・地域と劇場  
鈴木忠志のシアター・オリックスというコンセプト
- 第2回 近代国民国家の文化的象徴としての演劇  
帝国劇場の建設 / 近代演劇と女優の誕生
- 第3回 パフォーマンス・アートの現在  
異性装 / 越境について / ジェンダーの脱構築  
森村泰昌の女優シリーズ
- 第4回 パフォーマンス・アートの現在  
アイデンティティ・ポリティクス / セクシュアリティ  
イトー・タリーの『わたしを生きること』
- 第5回 パフォーマンス・アートの現在  
都市 / 身体 / エスニシティ / コミュニティ  
デニズ・ウエハラ『都市と身体地図』『ハロー・セックス・キティ』  
イトー・タリーのトークとパフォーマンス『恐れはどこに』
- 第6回 パフォーマンス・アートの現在  
パントマイム・アーティスト、ヨネヤマ・ママコ『主婦のタンゴ』  
アジア女性演劇会議 / 女性のアート・ネットワーク  
東京代官山ヒルサイド・フォーラムというアートスペース  
ニューヨークのシアター / パフォーマンス・アートスペース  
カレン・フィンレーの『欲望の恒常状態』
- 第7回 パフォーマンス・アートの現在  
アート・アクティヴィズム / 言説と身体 / セクシュアリティ  
ダムタイプの『S/N』
- 第8回 パフォーマンス・アートの現在  
ダンスとシアターの間 / 異化効果について  
ピナ・バウシュのコリオグラフィー(振り付け)
- 第9回 韓国演劇グループMYTHOSを招待し、ワークショップを行う  
劇団パフォーマンス公演『ディクテ』を観る
- 第10回 60~70年代のアングラ小劇場運動のパラダイム  
前近代・土着的なものへのまなざし  
土方巽の『暗黒舞踏』『肉体の反乱』  
60~70年代のアングラ小劇場運動のパラダイム  
寺山修司の『天井桟敷』の実験 / 現実と虚構の境界
- 第11回 80年代~90年代の演劇シーン  
アングラ小劇場運動を越えて  
岸田理生の『身毒丸』(蜷川幸夫演出、白石加代子、武田真治主演)  
岸田理生の『忘れな草』(佐藤信演出、山口小夜子主演)
- 第12回 80年代~90年代の演劇シーン  
消費文化・情報化社会の只中で  
如月小春・渡辺えり子・木野花(『青い鳥』グループ)
- 第13回 80年代~90年代の演劇シーン

遊戯空間の拡大

野田秀樹演出・主演の『半神』(萩尾望都原作の少女マンガ)

第14回 グループ・プレゼンテーションI

第15回 グループ・プレゼンテーション

<授業の方法>

講義だけでなく、テーマを深めるためにグループ・ディスカッションを行う。適宜、ビデオ教材を補う。

テキスト

指定しない。授業で参考文献を提示するので、それを読むこと。

参考書

さまざまな演劇論、演出論を参考文献として授業で紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演出論 S

12865

演劇・演出論 S

授業開講期間 前期単位数 2配当回生 3回生担当教員 松田 正隆講義内容・テーマ

名作と呼ばれている世界の戯曲を読み、その名作たる根拠をできるだけ先入観を排して批判的に検証したい。ギリシャ悲劇、シェイクスピア、チャーホフ、そして日本の戯曲(戦後)の中から一作品ずつ取り上げる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

授業中、戯曲のせりふを読んでもらうことがありますが、なるべく小さな声にならないようにしてください。もちろん、棒読みでも結構です。

評価方法・基準

\* 日常点:加味する  
一作品ごとに、400字の感想文(レポート)を提出してもらいます。

講義スケジュール

リーディング(配役して声に出して読む)。  
作品の内容に関する討議とレポート提出。  
提出されたレポートを配布し、作品の本質にせまる。

一作品につき以上の流れで授業を行う予定。

テキスト

授業で配布する戯曲(プリント)

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他



エンターテインメント産業論 S  
現代産業論 S  
現代産業論 NB

13504

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 3回生  
担当教員 増田 幸子

#### 講義内容・テーマ

本講義では、ハリウッド映画を中心にした映画産業をとりあげ、エンターテインメントについて学ぶ。主に、映画産業の発展の歴史を踏まえながら、経済的社会的側面から見た映画産業の状況を整理していくが、後半は日本の映画産業についても触れる。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

#### 評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施  
\*日常点:加味する  
授業中に課す数回の受講エッセイ  
中間レポートと期末レポート:課題・字数・提出方法などについては授業中に知らせる。  
中間レポートを提出しない者は期末レポートの提出資格がないものとする。

#### 講義スケジュール

第1回 ガイダンス  
第2～4回 ハリウッド小史  
第5～9回 ハリウッドの映画産業  
1)世界のなかのハリウッド映画  
2)企画/資金、製作、配給、利益の分配など  
3)メジャーと独立系  
第10回 日本映画小史  
第11～14回 日本の映画産業  
1)企画/資金、製作、配給、利益の分配など  
2)日本映画の現在と未来  
第15回 まとめ

#### テキスト

特に指定しない。授業中にレジユメや資料を配付する。

#### 参考書

ミドリ・モール(2001)『ハリウッド・ビジネス』文春新書。  
村上世彰・小川典文(1999)『日本映画産業前線』角川書店。  
他は授業中に紹介する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

研究室:修学館403

介護概論 S  
介護概論 SG

13591

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 2回生  
担当教員 沖野 良枝

### 講義内容・テーマ

どのような状態になろうとも、人は最後まで自尊感情と自律の精神を持ち続けたいと切望するものです。病気や障害を抱え、老年期に達し多くのものを喪失してきたかも知れない介護を必要とする人々に対して、その望みを絶たず、喪失を超えるほどの獲得を可能にできる介護のあり方を、探っていきたいと考えています。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

介護は、社会福祉の専門職としてはまだ歴史の浅い領域です。医療や看護とは境界不明瞭な部分も多く、現在、介護のアイデンティティは確立途上にあるといえます。講義では、専門知識や技術、経験の伝聞に留まることなく、幅広い視点、多様な思考でマクロに学習する立場にたっただけことを希望します。

### 評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施

\*日常点:加味する

定期試験の受験は、原則として6割以上の授業出席を条件とする。

筆記試験により介護問題の背景、関連する専門知識、対象の理解、援助の方法論などの習得状況を評価する。

### 講義スケジュール

- 第1回 1. 介護の理解
  - 1) 介護の概念と原則
  - 2) 介護の発生と歴史
- 第2回 3) 今日介護問題とその背景
- 第3回 2. 介護対象者の理解
  - 1) 人・対象者にとっての生活
  - 2) 人・対象者にとっての健康
- 第4回 3) 人・対象者にとっての自律/自立
  - 4) 援助の目標としてのQOL(クオリティ・オブ・ライフ)
- 第5回 3. 介護のしくみ
  - 1) 介護に関する制度、政策
  - 2) 介護の場
- 第6回 3) 保健・医療・福祉の連携
  - 4) 介護を担う人と役割
- 第7回 4. 介護のスキル
  - 1) 介護(問題解決)過程
- 第8回 2) 介護(援助)技術
  - 観察
  - コミュニケーション
- 第9回 ADL(日常生活)援助
- 第10回 3) 主な領域と介護
  - 寝たきり高齢者と介護
- 第11回 痴呆性高齢者と介護
- 第12回 終末期と介護
- 第13回 4) 安全管理と対策
- 第14回 5. 介護における倫理
  - 1) 対象者の自律と人権
  - 2) 専門職者の義務と責任

### テキスト

指定なし

### 参考書

適宜、紹介します

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

適宜、紹介します

その他

外国語文献研究 S	11488
中国語文献研究 S	

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 洪 潔清

### 講義内容・テーマ

この授業では、一年間以上集中的な中国語を学習した学生を対象に、中国文化、中国社会及び中国人の思考方法等中国に関する認識を深めると同時に、総合的な中国語能力を向上することを目的とする。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

### 評価方法・基準

- \*筆記試験:最終講義日試験で実施
- \*日常点:加味する
- 出席率50%と試験50%により評価する。

### 講義スケジュール

- 第1回 授業展開の説明と自己紹介
- 第2回 中国の概況
- 第3回 中国の文字
- 第4回 中国人の呼称
- 第5回 中国の家庭教育
- 第6回 中国の食文化
- 第7回 中間まとめ
- 第8回 中国の住宅事情
- 第9回 中国人の表現方式
- 第10回 中国人の思考方式
- 第11回 中国の祝祭日
- 第12回 中国の改革開放
- 第13回 恋愛・婚姻について
- 第14回 まとめ
- 第15回 試験

### テキスト

随時プリントを配布する。

### 参考書

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

外国語文献研究 S	11672
中国語文献研究 S	

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 洪 潔清

#### 講義内容・テーマ

この授業では、一年間以上集中的な中国語を学習した学生を対象に、中国文化、中国社会及び中国人の思考方法等中国に関する知識を深めると同時に、総合的な中国語能力を向上することを目的とする。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

#### 評価方法・基準

- \*筆記試験:最終講義日試験で実施
  - \*日常点:加味する
- 出席率50%と試験50%により評価する。

#### 講義スケジュール

後期では主にビデオテープを使って授業を進めたい。ビデオを観賞した上に、その内容について口頭で発表する。ビデオに出る新出単語や表現などは事前にプリントを配って予習してもら場合もあるし、授業中説明する場合もある。

#### テキスト

随時プリントを配布する。

#### 参考書

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 高垣 忠一郎

講義内容・テーマ

現代社会は人々の心にどのような問題をもたらしているのか？「癒し」「心の時代」「心の教育」「心の商品化」「心の専門家」「臨床心理士」「カウンセリング」などの言葉が氾濫しているなかで、「心の問題」をどのようにとらえればいいのか？カウンセリングは「心の問題」をどうとらえ、どのようにアプローチするのか？現代社会における心理臨床やカウンセリングの意義、役割、その功罪は何なのかを考えると共に、主要なカウンセリングの理論や方法についても紹介する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

たんに、心やカウンセリングについての知識を得るのではなく、自分自身をくぐり抜けて、今日の社会や心の問題を真剣に考えてみようと思う人に受講してもらいたい。

評価方法・基準

- \* 筆記試験：定期試験として実施
- \* 日常点：加味する

講義スケジュール

- 1 カウンセリングとはどういうものか
- 2 カウンセラーの仕事はどんな仕事？
- 3 カウンセリングの歴史
- 4 今日の社会とカウンセリング(1)
- 5 今日の社会とカウンセリング(2)
- 6 カウンセリングの基本問題(1)
- 7 カウンセリングの基本問題(2)
- 8 カウンセリングの基本的態度とプロセス(1)
- 9 カウンセリングの基本的態度とプロセス(2)
- 10 クライアント中心療法
- 11 認知療法
- 12 交流分析
- 13 精神分析
- 14 行動療法
- 15 その他の療法

テキスト

なし。

参考書

- 高垣忠一郎「心の浮輪のさがし方ー子ども再生の心理学ー」柏書房  
高垣忠一郎「共に待つ心たちー登校拒否・ひきこもりを語るー」かもがわ出版  
高垣忠一郎「癌を抱えてガンガーヘー性と死の不安と向き合うー」三学出版

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

家族関係論 S  
家族社会学 S

15137

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 2回生  
担当教員 櫻谷 真理子

#### 講義内容・テーマ

今日、社会構造の急激な変化に伴い、さまざまな家族問題が出現している。育児不安、児童虐待、家庭内暴力、夫婦、親子の断絶の危機等、家族の崩壊へもつながりかねない不安定要素が増大し、あらためて家族のあり方が問われている。そこで、家族がお互いの人格を尊重しあい、独自の存在として生きることを妨げる要因及び家族福祉の課題を探りながら、これからの家族について考えてみたい。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

テーマを設定して、レポートを書いてもらうことが多い。

#### 評価方法・基準

\*筆記試験：最終講義日試験で実施  
レポートと出席状況(40%)、定期試験(60%)によって評価する。

#### 講義スケジュール

1. 変わりゆく家族  
少子化と家族の変化  
結婚観、夫婦関係の変化
2. 現代家族の子育てをめぐる問題  
母親一人の子育てと育児不安  
3歳児神話、母性愛神話の影響  
父親の役割  
児童虐待その1  
児童虐待その2  
子育て支援、家族支援の実態と課題
3. 家族の葛藤と子ども  
女性の社会進出と子ども  
思春期、青年期危機と親子関係その1  
思春期、青年期危機と親子関係その2  
機能不全家族とは
4. 家族福祉の課題  
ドメスティック、バイオレンスとその対応  
子どもの権利擁護と家族支援  
21世紀家族への展望

#### テキスト

桜谷真理子他編『子育て支援の現在』ミネルヴァ書房

#### 参考書

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 柳澤 伸司

講義内容・テーマ

活字メディアである新聞は最も古いメディア形式であり多様性に富んだ耐久性のあるメディアである。私たちは日常的に活字メディアの持つ権威(活字で表現されたもの)を疑うことなく接していることが多い。この科目ではメディアリテラシーのひとつとして新聞を分析対象として、その目的、方法、分析結果の読み方を学ぶ。主として新聞を中心に活字メディアのあり方について考察する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講者はグループに分かれて互いに協力しながら調査・分析作業ができることを前提に受講登録すること。毎回の授業時間だけ出席していれば済むという授業形態ではないので注意してほしい。受講者にとって互いに迷惑となる遅刻、無断欠席等は許されない。

評価方法・基準

\* 日常点:加味する

参加型授業となるので、参加の度合いを平常点とし、最後にまとめを兼ねた各自が作成し提出する分析レポートとあわせて総合的に評価する。従って、出席と能動的参加は必須条件となる。遅刻は減点する。初回およびグループ分けの第2回目の授業に出席しない人は受講意志なしとして判断するので注意してほしい。

講義スケジュール

授業はグループ活動と並行して考察に必要な講義を行う。受講者はグループに分かれてテーマに基づき実際に新聞等をベースに文献などを活用しながら調べた内容を整理考察していく。グループで分析した結果を発表し、それについて討論する。最後にグループの研究成果から発展させたレポートを各自で提出してもらう。

- 第1回 ガイダンス / 授業の進め方について
- 第2回 分析の視点 / グループ分け(登録)・作業の計画
- 第3回 メディア分析の目標と方法 研究のアプローチ / メディア分析モデル  
(以下毎回グループによる分析作業 / 分析結果を読む:グループ討議)
- 第4回 新聞記事の分析方法 / グループによる分析作業
- 第5回 分析の対象(紙面構成) / グループによる分析作業
- 第6回 分析の対象(報道記事と表現) / グループによる分析作業
- 第7回 分析の対象(見出し) / グループによる分析作業と中間報告
- 第8回 分析の対象(社説とコラム) / グループによる分析作業
- 第9回 分析の対象(投書) / グループによる分析作業
- 第10回 分析の対象(新聞広告) / グループによる分析作業
- 第11回 分析の対象(報道写真) / グループによる分析作業
- 第12回 分析結果の報告と討論(1)
- 第13回 分析結果の報告と討論(2)
- 第14回 分析結果の報告と討論(3)
- 第15回 論点整理と講評

テキスト

新聞(一般紙:各自用意すること)、必要に応じて週刊誌など。  
適宜資料等を用意する。

参考書

毎日新聞社編『開かれた新聞 新聞と読者のあいだで』明石書店(2002)  
玉木明『ニュース報道の言語論』洋泉社(1996)  
岸本重陳『新聞の読み方』岩波ジュニア新書(1992)

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

<http://www.ritsumeit.ac.jp/acd/cg/ss/views/>

その他



授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 菅沼 完夫

講義内容・テーマ

メディア状況は多様化し、活字メディアとりわけ新聞の存在意義が問われている。講師は、情報収集・分析能力など様々な面で意義は高まりこそすれ薄まってはいないと思っている。しかし、新聞の未来をより輝かしいものにするためには、反省し、努力しなければならない点が多々ある。記者、論説委員を歴任し、いまでも日々新聞作りに携わる者の視点で新聞・新聞記者のあるべき姿を論じたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

希望者に文章指導を行う

評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施

\*日常点:加味する

レポート、小論文

講義スケジュール

序論 ジャーナリズムの役割、存在意義  
活字メディアと電波メディア その違いと役割分担  
メディアの歴史1 多様化の流れ  
メディアの歴史2 新聞報道の100年  
新聞づくりの24時間 根本は人間  
ニュースの価値判断 扱いの大小はどのように決めるのか等  
記者論1 「記者は事実の商人」  
記者論2 客観性と個性の葛藤  
取材論1 現場主義と記者クラブ  
取材論2 特ダネ競争の功罪  
メディアと権力 忍び寄る誘惑等  
報道倫理をめぐる諸問題 メディアスクラム等  
調査報道の必要性  
報道と人権 ジャーナリストのモラル  
活字メディアの将来

テキスト

特になし、日々の新聞、記事

参考書

特になし

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

環境技術論 S  
環境計画論 S

11667

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 山口 歩

### 講義内容・テーマ

テーマ:再生可能社会に向けての技術の課題

各種技術の在り方は、今後の地球環境の変化の方向を定める最も重要な要素である。そして、その問題解決にむけては、工学的な知識や理論枠組みとともに、流通・経済構造から、生活スタイルにいたる社会システム全般を視野に入れた幅広い思考枠組みが求められる。本講義では、まず、地球環境に大きく影響する技術課題をわかりやすく整理し、その解決方策について社会科学的に考察していく視座を提供するものである。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

同時に産業技術sを受講するとより理解が深まる。

### 評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施  
セメスター末に試験を実施する。

### 講義スケジュール

- 1 オリエンテーション
- 2 地球環境問題概説
- 3 大量生産システムと環境1
- 4 大量生産システムと環境2
- 5 大量生産システムと環境3
- 6 現代のエネルギー生産システムの問題
- 7 再生可能エネルギーシステム1
- 8 再生可能エネルギーシステム2
- 9 再生可能エネルギーシステム3
- 10 原子力の問題1
- 11 原子力の問題2
- 12 交通システムの問題1
- 13 交通システムの問題2
- 14 再生可能社会システム考
- 15 まとめ

### テキスト

テキストは使わない。適宜資料とレジュメを配布する。

### 参考書

『新・地球環境論』和田武 創元社  
『環境問題を学ぶ人のために』和田他 世界思想社

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

環境保全論 S リサイクル論 S	14913
---------------------	-------

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 和田 武

講義内容・テーマ

環境保全論/リサイクル論「持続可能な環境保全型社会の構築」  
20世紀後半に展開された物とエネルギーの使い捨て型大量生産・消費を軸とする社会は、地球環境破壊や資源枯渇を引き起こす持続不可能な社会であることが判明してきた。本講では、「物」と「エネルギー」の生産体系の現状と問題点を国際的、国内的事例に基づいて、21世紀に持続可能な環境保全型社会への転換を実現するための条件とプロセスについて論じる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

高度な予備知識はとくに必要ないが、講義ははじめに出席、受講すること。ときどき、授業中に小レポート(感想、意見、質問など)を書き、提出を求める。また、環境保全に関して自主的に調査、実践、学習した成果を「自主レポート」として提出することを歓迎する(テーマや作成方法は自由。提出期限は6月の最後講義)。

評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施

\*日常点:加味する

期末試験に日常点(小レポート)を加味して評価。評価の比重は、試験80%、日常点(小レポート)20%。

なお、優れた「自主レポート」については、成績評価にプラスする。「自主レポート」は内容により+5~+20%。

講義スケジュール

1. 自然の物質、エネルギー、生態系の循環平衡と人間活動
2. 大量生産消費システムがもたらす問題・資源枯渇、廃棄物問題と有害物質汚染
3. 大量生産消費システムがもたらす問題・地球環境破壊
4. 持続可能な環境保全型生産消費システムのあり方
5. 日本の資源循環利用の現状と問題点(1)資源循環利用の方法
6. 日本の資源循環利用の現状と問題点(2)廃棄物・リサイクルに関する制度
7. 諸外国の資源循環利用対策(1)ドイツの包装廃棄物リサイクル
8. 諸外国の資源循環利用対策(2)EU諸国の包装廃棄物リサイクル
9. 諸外国の資源循環利用対策(3)製品リサイクル
10. エネルギー資源利用のあり方(1)日本のエネルギー利用
11. エネルギー資源利用のあり方(2)デンマークとドイツのエネルギー対策
12. エネルギー資源利用のあり方(3)持続可能なエネルギーシナリオと市民参加による再生可能エネルギー普及
13. 環境保全と技術、産業、経済発展
14. 環境保全型生産消費システムの構築
15. まとめ

テキスト

テキストは使用しない。配布資料を中心に講義を行う。理解を深めるためにビデオ教材等も活用する。

参考書

和田武『新・地球環境論』創元社、『環境問題を学ぶひとのために』世界思想社、日本科学者会議『環境展望1999-2000』『環境展望 Vol.2』『環境展望 Vol.3』実教出版、循環型社会法制研究会『循環型社会形成推進基本法の解説』ぎょうせい、ジェトロ・ワールドナウ『21世紀世界のリサイクル』JETRO、林智ら『地球温暖化を防止するエネルギー戦略』実教出版、日本科学者会議『地球温暖化防止とエネルギーの課題』水曜社

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

環境省; <http://www.env.go.jp/>、厚生労働省; <http://www.mhlw.go.jp/>、日本容器リサイクル協会; <http://www.jcpra.or.jp/>、環境goo; <http://eco.goo.ne.jp/>、資源エネルギー庁; <http://www.enecho.meti.go.jp/>、NEDO(新エネルギー産業技術開発機構); <http://www.nedo.go.jp/>、気候ネットワーク; <http://www.jca.apc.org/kikonet/>、など。

その他

自主的、積極的に学んでほしい。質問は大いに歓迎する。  
なお、「環境社会論」との重複受講は不可のため、注意すること。

環境問題論 S	12859
都市・農村計画論 S	

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 深井 純一

講義内容・テーマ

環境問題を講義する切り口は様々にありうるが、本講では誰にも身近な水環境に焦点を当てて、山林・農地・海岸を結ぶ河川と湖沼・ダムを通じての砂防・洪水防止・水質保全の現状とあり方を、具体的な事例に即して検討してみたい。旧来の伝統的な仕組みからも祖先の英知を学びたい。ダムに関しては廃止を含む再検討の気運が、田中長野県知事などにより高まっているが、その意義と問題点を考察する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

教員と受講生との自由で対等な関係をめざしたい。開講当初に期末レポートの出題と成績評価の基準案の提案をする。また下記の「授業の流れ」に示すように、ビデオや特別講義に関する感想・批判のアンケートの提出を求めるので、出席を心がけてほしい。

評価方法・基準

\* レポート: 試験に代わるレポートとして実施

\* 日常点: 加味する

講義概要に関連したテーマの中から自由に選択する期末レポートを主要対象、5回ほどの各種アンケートを副次的な対象とし、その基準は上記のように開講当初に提案し、受講生の合議で決めたい。閉講近くなつての合議による決定は以前から実施していたが、受講生の希望を入れて今年度は開講当初に行うことにする。

講義スケジュール

開講に当って - 教員と学生の対等な関係、学生の自由な批判と討論をいかに実現するか

第2講 ビデオ上映『マザー・トゥリー プナ原生林の四季・白神山地』、アンケート

第3講 ビデオ・アンケートへの回答

原生林の動植物、特にクマガラとブナについて

第4講 序論・環境問題論の基礎

第5講 日本の風土が育んできた河川との関わり

第6講 遊水地と霞堤 - 祖先の「治水」の英知に学ぶ

第7講 水害防止型集落・家屋 - 祖先の「治水」の英知(続)

第8講 琵琶湖・淀川水系の伝統的な治水・水質保全機構

第9講 ビデオ上映『濁流が都市を襲う』その他、感想・質問アンケート実施

第10講 ビデオ・アンケートへの回答

ダム問題を考える・序論

第11講 ビデオ上映『水のない川 - 大井川紀行 -』、感想・質問アンケート実施

第12講 ビデオ・アンケートへの回答

第13講 全国のダムの堆砂現象の概観と原因分析

第14講 香川県の「どんぐり銀行」に関する特別講義

第15講 講義内容・講義方法に関する感想・批判アンケート

成績評価基準案の協議・決定

テキスト

特になし。必要な資料はその都度コピーを配布する。

参考書

参考文献の検索法をガイドする。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業に出ることも有意義だろうが、自分のオリジナルな問題意識を磨く旅を重ねてほしい。それこそが自由選択テーマでの優れたレポートを書くことを可能にするはずだ。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 4回生

担当教員 牧野 泰典

### 講義内容・テーマ

社会は生産力の増大や都市化による人口増、交通網の発達による物流と労働力の流動化などを通じて、産業が発展する。

それらの産業社会の発展経緯は一樣ではなく、欧米の「市民社会」を主体にしたモデル、日本の「企業社会」を主体にしたモデル、近年のアジアの産業社会に区分できる。本講義では日本の「企業社会」の特色と課題について、トヨタや日産の事例を交えながら紹介する。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

### 評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施

\*日常点:加味する

定期テストと出席調査を兼ねたミニテスト

### 講義スケジュール

1. 授業の概要
2. 日本の「企業社会型」の産業社会(欧米の「市民社会」型の産業社会、アジア型産業社会との相違点)
3. 日本企業の労務管理(1)企業内の教育訓練制度
4. 日本企業の労務管理(2)企業の各種レクリエーション活動
5. 日本企業の労務管理(3)賃金制度と労働時間の課題について
6. 日本企業の労務管理(4)人事考課査定制度
7. 日本企業の労使関係
8. 第1回ミニテスト
9. 欧米企業の労使関係
10. 欧米企業の労務管理(客観的な査定にもとづく技能等級を査定)
11. 日本企業の「企業社会」の事例(トヨタにおける「企業城下町」について)
12. 日本企業の脱「企業社会」に向けての事例(日産の大規模リストラについて)
13. 日本と欧米の経済的な逆転現象
14. 第2回ミニテスト
15. まとめ

### テキスト

牧野泰典『小集団活動の機能と役割』八千代出版, 2001年

### 参考書

職業・生活研究会編『企業社会と人間』法律文化社, 1994年

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

定期テストはテキストの範囲から設定するのでテキストを購入すること

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 飯田 哲也

### 講義内容・テーマ

社会学は「現在科学」であり、現に起きている現象や社会問題の解明を目指す。人間と社会の全領域は、お互いに関連しあういくつかの下位領域に区分することができる。基礎社会学は「行為と集団」、「家族」、「地域」、「職業」、「文化」、「現代社会」という領域について講義する。どの領域についてもできるだけ戦後から今日までの主要な変化の傾向や動向、現在の状態、近い将来についての予測、の3項目について留意して解説する。全体として諸君たちに求めたいのは「社会学的想像力」の形成である。社会学的想像力というのは、たとえば、一人の失業者の背後には社会全体で進んでいるリストラの動きがあり、リストラの背後には産業構造の転換や勤労者の意識変化がある、というように、個別現象を生み出す社会的な背景をさぐることである。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

本講義は学部基幹科目の扱いとなっている。三つのクラスで並行して同一テキストで同一内容の講義を行う。出席をとる。毎回出席すること、静粛に努めること、テキストを使用した予習復習を行うよう要望したい。また、社会学的創造力の養成のためには社会の現実に関心をもって普段から、新聞や報道に注意する姿勢をもって欲しい。

### 評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施

\*日常点:加味する

期末試験を行う。試験では客観的に評価できる問題、用語説明と論述形式の問題を組み合わせで出題する。なお、本講義は学部の基幹科目の扱いであり、出席も重視しており、期末試験を基本としつつも出席状況と中間レポートを勘案して評価する。

### 講義スケジュール

本講義は、産業社会学部の学びの土台となる社会学について、その基礎的な知識と研究領域の概略を講義する。社会学は大変幅広い学問であるが、産業社会学部で学ぶ学生のために精選した領域について基本的な理解を得られるように工夫してある。本講義は社会学のガイドである。受講者は本講義をもとにさらに専門で社会学の広く奥深い研究分野に進んでいって欲しい。

本講義の流れは以下の通りである。

1. イントロダクション 日常生活のなかの社会学
2. 社会学の出発点 「行為論」と「集団論」 その1 その2
3. 家族と両性関係 両性関係 親子関係 その1 その2
4. 地域と住民関係 地域社会関係 コミュニティ形成 その1 その2
5. 企業と職場関係 企業・従業員関係 職場人間関係 その1 その2
6. 文化と意識 文化批判 文化創造 その1 その2
7. 現代(日本)社会 市民社会 産業社会 脱産業社会 その1 その2
8. まとめ「社会学的想像力」に向けて その1 その2

授業の方法 この科目は3人の講師が担当し、3人は基本的に同じ教材を用いて同じ内容について講義する。受講生の立場からみると、特定クラスで全期間について同じ講師から講義を受けることになる。授業では本講義のために作成された教科書に基づいて講義する。各自入手し、受講時にならず持参することが求められる。なお、毎回出席をとる。

### テキスト

本講義では、下記の教科書を使用し、それにもとづいて講義する。

受講者は、9月の講義開始の前までに、必ずこの教科書を購入し、講義では常に手元において受講すること。

教科書:飯田哲也編著、佐藤春吉、河原晶子、辻勝次、出口剛史『「基礎社会学」講義』学文社 本体価格2000円

なお、本教科書はこの産業社会学部の本講義のために作成されたものである。各自授業にしようするだけでなく、予習・復習など普段の学びに役立てて欲しい。

### 参考書

教科書には、主要な参考書が指示してある。また、講義においてもその都度必要に応じて他の参考書を紹介する。なお、社会学は現実科学である。新聞やテレビの報道に目をむけ、日頃から「社会学的想像力」を鍛えてほしい。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他





居住環境デザイン論 S 都市構造論 S	12941
------------------------	-------

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 乾 亨

講義内容・テーマ

本講義では、一人ひとりにとって居心地のいい居住環境とはどのようなものなのかを明らかにするとともに、そのような環境を創出するための考え方や知恵や技を伝授する。

多くの具体的事例を通して、「空間・場(都市・まち)」の質が「ひと」の在り方(社会関係や文化等)を規定し「できごと(生活のドラマ)」を誘発すると同時に、「ひと」の「思い」や「できごと」が「場」に意味を与えるという、「場」と「人」の「創り・創られる」相互浸透的で重層的な関係として「居住環境」を読み解く視点を学んでいく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

スライド映像等を活用しつつ、事例をもとに「見える都市」から「見えない都市」をよみといていく。

知識提供型ではなく、事例を物語りその意味を考えてもらう問題提起型の講義なので、きちんと出席して継続して受講することを望みます。

評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施

\*日常点:加味する

「試験にかわるレポート」を中心に評価しますが、

評価には講義中出席がわりにたまたま書いてもらうミニレポートの回数を加味します。

講義スケジュール

・「居住環境」ってなに? (第1週)

本授業の視点が「ひと」と「場所=都市(まち・地域)」の関係論であることを明確にする。

・「都市」ってなに? (第2週)

・だから「都市」は面白い (第3~5週)

主に京都を題材にしなから、「都市」の魅力がその多層性・多義性にあることを示す。

あわせて、都市を「無数の中心(結び目)のある」「自然成長的で非方向的な」小単位の

「網目」(コミュニティ)の重なり合いとして捉えようとする視点を紹介し、

「ひと」の眼差しのなかに「都市」を位置づける「まちづくり」の視座を準備する。

・「都市を創る企て」としての近代都市計画 (第6~8週)

はたして「住みよい都市」は「創れる」のか、近代都市計画の光と影を通して考える

・「都市」の構造を継承するところみ (第9~11週)

具体的な事例をみながら、「ひと」と「まち」の関係を継承し発展させていく「まちづくり」

の必要性を考える。

(事例:一寺言問のまちづくり・北九州市北方みずき団地・神奈川県真鶴町等、適宜選択する)

・「都市」に住み続けるために (第12~14週)

京都を中心にいくつかの「まちづくり」事例をみながら、人々が「都心=インナーシティ」に

住み続けていける方策を考える。(事例は適宜選択する)

・まとめ (第15週)

住み手の思いの積み上げによる「まちづくり」にむけて=「市民参加」の必要性とその可能性。

テキスト

教科書は使わず、資料はプリントを配布します。

参考書

適宜講義のなかで指示する

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 蔵田 力

講義内容・テーマ

テーマ「高齢者・障害者が住まいで地域で安心して住み続けられるために」  
 我国の急速に進む高齢社会において、障害を持つ高齢者も増え続けている。高齢者・障害者が住まいで、地域で人間らしく安心して住み続けられる環境はどうあるべきか。日本の住宅政策、福祉政策を先進の北欧等の国々と歴史的に比較しながら考察していく。また、国連においての「居住の権利」宣言等の最近の動きも学びながら、「住まうことは基本的人権」であることを確認する。  
 なお現在、世界および日本の各地で取り組まれている住民と各分野の専門家及び行政の連携による「住まいの環境改善」や「福祉のまちづくり」の実践例を学ぶ。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

高齢者・障害者の福祉および「住まい」「まちづくり」に対して興味を持っていること。又、将来それらに関わることを目指している。

評価方法・基準

- \* レポート: 試験に代わるレポートとして実施
  - \* 日常点: 加味する
- 前期試験・レポートの提出による～講義内容の理解及び自主的な学習の度合い等考慮して評価する。

講義スケジュール

第1講	住居総論	「住まい」とは、住まいの歴史
第2講	住居総論	日本、世界の住宅政策、福祉政策
第3講	住居総論	「居住の権利」論
第4講	住宅各論	バリアフリーデザインの歴史
第5～6講	住宅各論	「住まいの環境改善」制度
第7～8講	住宅各論	多分野の専門家のネットワーク
第9～10講	住宅各論	実践研究
第11～14講	地域論	地域社会と高齢者・障害者
第15講	まとめ	

テキスト

「住居福祉」(早川和男著)岩波新書  
 入手方法: 大学生協等にて各自購入

参考書

「社会福祉方法原論」(植田、蔵田他著)法律文化社

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

グローバルメディア論 S  
マス・コミュニケーション論 S

11491

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 黄 盛彬

### 講義内容・テーマ

本講義では、メディアの資本、活動、そして表象の諸側面におけるグローバル化動向を検討・考察する。そのために、まず実際のメディアの国際化・グローバル化の展開状況を紹介し、また主要なグローバル・メディアの現状についても解説を行う。そして東アジア地域における国際コミュニケーション動向を、地域固有の状況や最近における社会変動との関連で、分析・考察を行いたい。その上で、国際コミュニケーション状況をめぐる理論パラダイムや諸言説を紹介し、国際コミュニケーション論における主要な理論上の対立点について、メディアの国際化・グローバル化がさらに進んだ今日の視点で、再評価を行なう。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

### 評価方法・基準

\*筆記試験：定期試験として実施

### 講義スケジュール

1. イントロダクション
2. 2002年FIFAワールドカップをグローバル・メディア論の文脈で考えてみよう。
3. グローバル・メディアとしての「オリンピック」
4. ハリウッド映画とは何か
5. CNNは何を伝えているのか - 湾岸戦争から9.17まで
6. 情報は国境を越える？ 国境を壊す？
7. アメリカの魂が買収された？ - 世界のソニーのグローバル戦略
8. 中間総括
9. 海外のメディアは「日本」をどう見ているのか
10. 日本のメディアは「世界」をどのように描いているか
11. 日本のメディアは、国境を越えられるか
12. 東アジア地域における「メディア・文化」の越境動向
13. 「文化が侵略される」ということは、どういうことか
14. 国際コミュニケーション論の現状と課題
15. 講義総括および評価

### テキスト

### 参考書

開講時に案内する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

その都度、案内する。

### その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 小川 栄二

### 講義内容・テーマ

欧米では、社会福祉費用の圧縮、コミュニティケアの歴史、多様な問題をかかえるクライアントに対するソーシャルワークなどを背景にして、ケアマネジメントが形成された。日本では社会福祉基礎構造改革の政策動向のもとで浮上し、2000年4月以降、介護保険制度の運営として採用されている。本講では高齢者ケアマネジメントを中心に、具体的なアセスメントやプラン作成も行い、その方法・特徴・問題点を学ぶ。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

高齢者のケアに関心のある学生で、できれば、事前に老人福祉論、介護概論を学習していることが望ましい。

### 評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施

### 講義スケジュール

1. ケアマネジメントの概要  
ケアマネジメントの歴史 ケアマネジメントの考え方
2. 高齢者の生活問題と介護課題を把握する。
2. ケアマネジメント方法と対象  
インタビュー、ニーズ、アセスメント、プランなど主要な概念の及びプログラムの解説を行う。ケアマネジメントの対象とされる人と問題を整理して把握する。その上で、高齢者の社会福祉課題とケアマネジメントの枠組みを考える。生活課題の切り分けにともなう社会福祉の方法(社会福祉援助技術)の変容を考察する。
3. 介護保険におけるケアマネジメント  
ケアマネジメント導入の経過、介護保険制度で採用されているアセスメント方式の実際、介護保険制度運用の実際(要介護認定、サービス計画作成、給付管理)など介護保険下での実際を理解する。介護保険制度の問題をケアマネジメントの角度から検証する。
4. 障害者のケアマネジメント  
身体障害者、知的障害者、精神障害者分野でのケアマネジメントの動向を解説する。
6. ケアマネジメントの実際  
受講者の希望に応じ、高齢者分野で課題分析、サービス計画作成をモデル的に行う。
7. ケアマネジメントの発展方向  
ケアマネジメントの政策的意図を検討し、またケアマネジメント有効性と問題点の評価を行う。そして措置制度下の公的社会福祉におけるソーシャルワークと介護保険下でのケアマネジメントとを比較し、ケアマネジメントの発展方向を検討する。

### テキスト

指定しない。

### 参考書

参考図書として石川満他『自治体は高齢者介護にどう責任を持つか』萌文社、2002年を読んでおくこと。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

経済学理論 S  
経済学理論 S  
経済理論 NB

14280

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 奥村 宏

#### 講義内容・テーマ

現代資本主義を株式会社を中心にして考察するとともに、株式会社を理論的歴史的に解明して、新しい企業像を論じる。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

産業社会学科2回生以上 / 人間福祉学科3回生以上

#### 評価方法・基準

\*筆記試験・定期試験として実施  
期末試験により評価

#### 講義スケジュール

- 1 現代株式会社論
- 2 アメリカの株式会社
- 3 日本の株式会社
- 4 企業会計
- 5 コーポレート・ガバナンス
- 6 経営者支配論
- 7 機関投資家
- 8 法人所有
- 9 証券市場論
- 10 株式会社の歴史(1)
- 11 株式会社の歴史(2)
- 12 株式会社の歴史(3)
- 13 株式会社の危機
- 14 新しい企業像

#### テキスト

奥村宏 『エンロンの衝撃』NTT出版

#### 参考書

奥村宏 『会社とはなにか』岩波書店 ジュニア新書

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

芸術社会論 S  
芸術社会論 S

12695

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 須藤 泰秀

講義内容・テーマ

ルネサンス絵画と社会

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施  
期末試験による

講義スケジュール

人間が現実を作り、現実が人間を作る。そして人間の意識が芸術を創造し、芸術が人間の意識を発達させる。これらの間には、創造的な相互関係が成り立っている。もとより、これらのうちのいずれか一要因にしか芸術史の動因を認めないのは誤りであろう。もっとも社会的現実が文化の究極的要因であろうから、芸術は社会学的に理解されてもよい。この講義では言わば社会学の立場から、主としてヨーロッパの歴史と芸術を分析し説明しようと試みる。ヨーロッパの諸々の豊富な芸術的素材を駆使し、芸術は社会構造やその変動に条件付けられている、という命題を具体的に立証してゆく。

テキスト

なし

参考書

その度 紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

芸術表現論 S  
 芸術表現論 S

13396

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 篠 雅廣

講義内容・テーマ

芸術はアーティストが創造するものである、というだけでは不十分で、鑑賞者がいることによって、初めて存在意義を持つものです。わたしは美術館に勤務していますが、この講義では、とりわけ造形芸術の分野において、わたしたちが「芸術と出会う機会」や「鑑賞の場」とはどのようなものか、さらに鑑賞行為にともなう「感動すること」や「芸術を評価すること」、「芸術を消費すること」などを、具体的事例に沿って考えてみたいと思います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

日々の生活のなかで、アートや芸術と呼ばれていることがらに興味のある学生の受講を希望します。講義中は携帯電話・メールなどの使用は禁止します。

評価方法・基準

- \* レポート: 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点: 加味する
- 1. 講義期間中に課題として与える小レポート(800字程度・翌週提出)を2回
- 2. 試験に代わるレポートの提出(2000字程度)  
 成績評価の比重は1を4割、2を6割とする。

講義スケジュール

- 第1回: ガイダンス、受講生へのアンケート
- 第2回: 「芸術に触れる」ということ
- 第3回: 街なかの芸術
- 第4回: なぜヌードなのか 歴史篇
- 第5回: なぜヌードなのか 現状篇
- 第6回: わたしの日
- 第7回: 第1回リクエスト講義
- 第8回: ミュージアム 記憶を留める装置
- 第9回: ミュージアム 永遠に存在できないもの
- 第10回: 「芸術がわかる」 理解できても、共感できない
- 第11回: 具体的に芸術はどのように表現されているのか 場所論
- 第12回: 芸術を評価する 市場論
- 第13回: 第2回リクエスト講義
- 第14回: 芸術はどのように保護されるのか 法的なこと
- 第15回: 芸術の周辺 排除されているもの

テキスト

ありません。

参考書

授業への理解を深めるための入手可能な文献は、その都度指示します。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 4回生

担当教員 篠 雅廣

### 講義内容・テーマ

この講義では、「芸道論」と題して、『芸のためなら……も捨てる』といった、芸術家の一途な精進を好む、日本人の心性の一端を、日本近代美術史上の具体的事例から探ります。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この講義は通史的ではありませんが、皆さんが歴史や芸術について、なにかを考え始める端緒の一助になれば幸いです。講義中は携帯電話・メールなどの使用は禁止します。

### 評価方法・基準

- \* レポート: 試験に代わるレポートとして実施
  - \* 日常点: 加味する
  - 1. 講義期間中に課題として与える小レポート(800字程度・翌週提出)を2回
  - 2. 試験に代わるレポートの提出(2000字程度)
- 成績評価の比重は1を4割、2を6割とする。

### 講義スケジュール

- 第1回: ガイダンス、受講生へのアンケート
- 第2回: 芸道論
- 第3回: 「芸道」の一般的イメージ
- 第4回: 早く死ぬと偉いのか 夭折に次ぐ夭折の日本近代美術史
- 第5回: 夭折の画家 事例その一
- 第6回: 夭折の画家 事例その二
- 第7回: 夭折の画家 事例その三
- 第8回: 絶え間ない移入と消化不良 美術のスタイルも短命である
- 第9回: 描かれた「道、あるいは坂」の歴史の変遷
- 第10回: 画家が自画像を描くとき
- 第11回: どのようなとき、どのようなことに画家は苦勞を重ねるのか
- 第12回: 「社会人」として芸術家を取り組まねばならないこと
- 第13回: わたしの事例 芸術家の一途な要請にどのように応えたか
- 第14回: リクエストによる講義
- 第15回: 最後に ことからはいつでも具体的である

### テキスト

ありません。

### 参考書

授業への理解を深めるための入手可能な文献は、その都度指示します。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他



計量社会学 S  
計量統計学 S  
計量社会学 S

11149

授業開講期間 後期 単位数 2 担当回生 2回生  
担当教員 奥川 櫻豊彦

### 講義内容・テーマ

この科目では、社会学方法論 特に、量的調査データ、マクロデータ分析 の一環として、データ分析を中心に展開される。ツールとして、SPSSの統計解析ソフトプログラム等を用いる。調査データの編成についての知識が十分にえられた後、SPSSを使用するが、このソフトを使えば魔法のように答えが出てくるものではない。やたら滅多ら、相関係数やクロス表をだして「はい、出来ました」と単純に考える人がいるが、論理志向に欠けている場合がある。たとえば、従属変数 x 従属変数のクロス表結果を出して、云々する受講生がいるが、これなどは方法的に理解が十分なされていない例である。

統計解析するデータがどのように編成されているかを理解するのも、この科目が重視する点である。第4回目の授業からは、実習形式でデータ解析の取り組みを中心に展開される。与えられたテーマに沿って、内容ある分析報告書を作成する力を養成することがこの科目の目標である。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この科目では、「社会調査士プログラム」で収集した量的データを中心に分析する。

### 評価方法・基準

- \* レポート: 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点: 加味する
- 1. 分析作業4回のプレゼンテーション(60%) 2. 最終分析報告書(40%)

### 講義スケジュール

- 第1回 科目ガイダンス、担当教員の自己紹介、受講生データ用紙の記入
- 第2回 社会学方法論 質的方法と量的方法のちがひ
- 第3回 社会学方法論 マクロデータファイルの編成について
- 第4回 データファイルのプレゼンテーション
- 第5回 データファイルのプレゼンテーション つづき
- 第6回 データ解析の手法 変数の度数分布と多重回答の記述統計
- 第7回 多重回答の単純集計のプレゼンテーション
- 第8回 データ解析の手法 クロス集計:なぜ、従属変数どうしのクロス表は気をつけないといけないか?
- 第9回 クロス表のプレゼンテーション
- 第10回 クロス表のプレゼンテーション つづき
- 第11回 データ解析の手法 相関係数
- 第12回 相関係数のプレゼンテーション
- 第13回 最終分析報告書の書き方について
- 第14回 各自の分析実習
- 第15回 各自の分析実習

### テキスト

- 酒井麻衣子『SPSS完全活用法 データの入力と加工』(東京図書,2001年).
- 石村貞夫『SPSSによる多変量解析の手順』(東京図書,2001年).
- 田部井明美『SPSS完全活用法 共分散構造分析(Amos)によるアンケート処理』(東京図書,2001年).

上記のテキストは、「社会調査士プログラム室」に蔵書されているので、自由に閲覧できる。

### 参考書

- 原純輔「非定型データの処理・分析」原純輔他編『数理社会学の展開』(数理社会学会).
- ばばこういち『視聴率競争 その裏と表』(岩波書店,1996年).
- 岸野洋久『生のデータを料理する 統計学における調査とモデル』(日本評論社,2001年).
- 岸野洋久『社会現象の統計学』(朝倉書店,1992年).

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

授業時間以外にも、週1回、以学館2階の「情報処理教室」を使用できるようにしますが、利用者がなければ中止します。  
担当教員への質問を歓迎しますが、授業中以外は、オフィスアワーを利用するようにしてください。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 坂本 利子

**講義内容・テーマ**

テーマ: 社会、文化とコミュニケーション

**講義内容**

コミュニケーション能力(コンピテンス)を高めるために、ことばと社会と文化の様々な関係や、社会を背景に言語はどのように変化するかなど、多様な言語の様相を知ることが重要である。言語が社会においてどのように使われているか、その変化を引き起こす社会的要因は何かを探求する社会言語学の方法を用いて、人間の言語能力とコミュニケーションの問題を、社会と文化を軸に考える。

**受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目**

講義に関する情報はすべてWebCTに掲載するので、WebCTの坂本担当「言語コミュニケーション論S」のページを参照のこと。教材は各自必要に応じてダウンロードすること。また、テーマごとに学生によるプレゼンテーションとディスカッションを行い、理解を深めるとともに、コミュニケーション能力の向上を図る。プレゼンテーションとディスカッションの方法については、後日詳しく講義の中で指示する。学生はプレゼンテーションのための十分な準備と、講義及びディスカッションへの積極的な貢献が求められ、講義の終わりに質問表に答えてフィードバックを提出する。これをもって出席と見なす。

**評価方法・基準**

\* 筆記試験: 定期試験として実施

\* 日常点: 加味する

出席及び授業(講義、ディスカッション)への積極的貢献(20%)

プレゼンテーション(20%)

応用問題(20%)

定期試験(中間10 + 期末30 = 40%)

**講義スケジュール**

第1週	10/1	なぜコミュニケーションを学ぶのか?	
第2週	10/8	コミュニケーションとは何か? (基本概念)	
第3週	10/15	言語コミュニケーション コミュニケーションの技術	
第4週	10/22	言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション	
第5週	10/29	インターパーソナル・コミュニケーション(1)	プレゼンテーション1
第6週	11/5	インターパーソナル・コミュニケーション(2)	プレゼンテーション2
第7週	11/12	コミュニケーションとジェンダー	プレゼンテーション3
第8週	11/19	コミュニケーションと階級	プレゼンテーション4
第9週	11/26	中間テスト	
第10週	12/3	日本人のコミュニケーション	プレゼンテーション5
第11週	12/10	異文化コミュニケーション(1)	プレゼンテーション6
第12週	12/17	異文化コミュニケーション(2)	プレゼンテーション7
第13週	12/24	現代社会とコミュニケーション	プレゼンテーション8
第14週	1/7	グローバル・コミュニケーション	プレゼンテーション9
第15週	1/14	期末テスト	

**プレゼンテーション・スケジュール**

1回	10/29
2回	11/5
3回	11/12
4回	11/19
5回	12/3
6回	12/10
7回	12/17
8回	12/24
9回	1/7

**講義スケジュール**

1回	10/29	インターパーソナル・コミュニケーション(1)
2回	11/5	インターパーソナル・コミュニケーション(2)
3回	11/12	コミュニケーションとジェンダー
4回	11/19	コミュニケーションと階級
5回	12/3	日本人のコミュニケーション
6回	12/10	異文化コミュニケーション(1)
7回	12/17	異文化コミュニケーション(2)
8回	12/24	現代社会とコミュニケーション
9回	1/7	グローバル・コミュニケーション

**テキスト**

田中春美・田中幸子編著『社会言語学への招待 社会・文化・コミュニケーション』(ミネルヴァ書房、1996年)

参考書

WebCT参照

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

WebCT参照

その他

WebCT参照

言語表現論 S  
言語表現論 S

14114

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 瀧本 和成

### 講義内容・テーマ

< 浪漫主義文学の魅力とその特質 > 1887(明治20)年から1894(明治27)年、国会開設の時期に創立、発刊された文学結社、機関紙やそれらを拠点に活躍した作家たちを取り上げ、その表現の特徴や言語感覚の分析を通して作品を鑑賞する。

とくに、北村透谷、島崎藤村の詩から森鷗外の小説「舞姫」の発表に至る浪漫主義の系譜を中心に考察する。その際、尾崎紅葉が主宰した硯友社と「我楽多文庫」、徳富蘇峰が興した民友社と「国民之友」などの文学運動についても当時の時代状況、芸術環境を視野に入れつつ、言及したい。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

テキストを中心に講義を進めていくが、必要資料はその都度配布する。

### 評価方法・基準

定期試験の成績を主とし、これに出席等平常点を加味して総合評価する。

### 講義スケジュール

1. 明治20年代の文壇
2. 硯友社と「我楽多文庫」
3. 尾崎紅葉、山田美妙、泉鏡花
4. 紅露の文学 - 紅葉と幸田露伴
5. 民友社と「国民之友」 - 徳富蘇峰
6. 国木田独步、樋口一葉、山路愛山
7. 「文学界」創刊
8. 北村透谷、島崎藤村
9. 「於母影」刊行 - 新声社の人々
10. 森鷗外 - 独逸留学と初期三部作
11. 「舞姫」の魅力とその評価をめぐって
12. 「舞姫」の詩的空間

### テキスト

上田 博・瀧本和成編『明治文芸館』(嵯峨野書院 2002・10)

### 参考書

上田 博・瀧本和成編『明治文学史』(晃洋書房 1998・11)

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 深江 誠子

### 講義内容・テーマ

日本では近年、熟年離婚が増えているし、パラサイトシングル、つまり、親から離れられない子どもが1000万人にも及んでいる。「過食症」「拒食症」「引きこもり」「キレる子ども」など、問題が山積している。学校でも「学級崩壊」も出て、理念と現実の落差をまざまざと見せ付けられる時代になった。中高年の男性も年間3万人は自殺している。おそらく女性たちが専業主婦を生きようとすると、実家にながりの財産がない限りは無理なじだいではある。また、家庭内暴力も増えていくにちがいない。これからは、親たちの価値観で生きていくと、とんでもないツケがまわってくるだろう。では、新しい時代に、私たちはどんな恋愛、どんな家族づくりをしていけばいいのか、をいろんな側面から考えていきたい。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この講義は、ビデオを頻繁に使います。受講生は、男女を問いません。ただし、私は自分の考え方を話します。もし、それに反発を覚えたら、それで、自分の考えが構築されるのです。私は、違う意見も大いに歓迎です。だから、私が主張することを、押し付けとは受け取らないで、いただきたいです。

### 評価方法・基準

- \*筆記試験：最終講義日試験で実施
- \*日常点：加味する

### 講義スケジュール

- 1、日本の家族の変遷
- 2、どうして、日本の家族は性教育しないのか
- 3、過労死の実態
- 4、女性の仕事について
- 5、日本の子育て・学校神話
- 6、不登校・いじめ
- 7、援助交際
- 8、自分の体を守ろう
- 9、自分の体を守ろう
- 10、夫・恋人からの暴力
- 11、日本の男性の買春
- 12、エイズの感染
- 13、エイズの感染
- 14、女性の視点に立った福祉とは
- 15、これからの家族

### テキスト

『家族ってなんだろう』深江 誠子 明石書店 大学の生協で。

### 参考書

- 『「家族すること」からの自由』深江 誠子 かもがわ出版
- 『21世紀のジェンダー論』池内靖子他編集 晃洋書房

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

深江 誠子のホームページ <http://www.galstown.ne.jp/4/school/fukae/>

### その他

現代企業論 S  
 企業社会論 NA  
 企業社会論 S

15248

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 3回生  
 担当教員 櫻井 純理

#### 講義内容・テーマ

テーマ「日本の企業労働と企業統治の変容」  
 経済のグローバル化の影響を強く受け、日本企業における労働のありようは大きな転換期を迎えている。若年層の就職難とフリーターの増加、中高年層のリストラ増大、非正規雇用の拡大と正規雇用者に対する「成果主義」的評価の導入などが進行している。この講義では、企業と労働者の関係、企業と株主の関係、そして企業と社会の関係に今起こりつつある変化について、現状と課題点を考えていく。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

必要な知識・スキルは特にない。授業に出席し、この問題への関心をもっと深めてください。

#### 評価方法・基準

\*筆記試験・定期試験として実施  
 ベースは定期試験の成績(100点満点)。出席はとらないが、感想文程度の提出を授業中に求めることが1、2回あり、それについては各回5点程度を加点する。授業テーマに関連した自主レポートを提出してもかまわない(A4ワープロ打ち、3～5枚、参考文献リスト付き)。内容に応じて5～20点の範囲で加点する。

#### 講義スケジュール

主な授業内容は下記(進行状況に応じて若干変更する)。

- (1)イントロダクション(講義の概要と授業の進め方)
- (2)さまざまな賃金制度
- (3)能力主義と成果主義
- (4)企業における能力開発と「自助努力」の強調
- (5)リストラの手法、企業再編と解雇、解雇ルールの法制化
- (6)過労死と過労自殺、サービス残業の摘発
- (7)「パートタイマー」という身分
- (8)フリーターの増加と若年失業者の増大
- (9)派遣労働と業務請負、個人事業主
- (10)男女雇用機会均等法、総合職と一般職、OLとサラリーマン
- (11)ペイ・エクイティと間接性差別
- (12)企業の環境政策と障害者雇用

#### テキスト

特に指定しない。レジュメと資料を配布する。資料は1～2週間前に配布して予習を促す場合もある。

#### 参考書

熊沢誠『能力主義と企業社会』(岩波新書)、島本慈子『子会社は叫ぶ』(筑摩書房)、櫻井純理『何がサラリーマンを駆りたてるのか』(学文社)、その他近刊書を適宜紹介する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

株主オンブズマン、大阪過労死問題連絡会、労働基準オンブズマン、派遣労働ネットワークなど。詳細は授業中に適宜紹介する。

#### その他

就職活動を控えた学生のみなさんには身近なテーマのはずなので、関心を持って授業に臨んでください。ビデオ教材等も使用し、なるべく時事的な話題を取り上げていこうと考えています。

現代経済論 S  
現代経済論 S

13624

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 松葉 正文

### 講義内容・テーマ

現代日本経済分析をテーマとし、はじめに方法として「市民社会と企業社会」について考えたうえで、1990年以降のバブル崩壊不況など、文字通りの「現局面」分析を行う。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

本科目は、もちろん独立した科目であるが、隔年開講科目「日本経済論」と連結しておりその前半部分にあたる。

### 評価方法・基準

\*筆記試験：定期試験として実施  
定期試験(又は、もし実施可能であれば第15週目試験)

### 講義スケジュール

1. はじめに - ガイダンス、問題の所在
2. 日本経済の概況
3. 「高度成長」と企業社会の成立
4. 企業社会と市民社会
5. 市民社会の概念規定
6. 大企業体制の2類型
7. 貿易関係と資本の対外的展開
8. 同上(2)
9. 不良債権問題の経過と問題点
10. 同上(2)
11. 六大企業集団と法人資本主義
12. 同上(2)
13. 日本の経営について
14. まとめ
15. 試験

### テキスト

なし、但し統計資料を中心としたレジュメを講義に配布する。

### 参考書

授業中に適時紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他



現代産業論 S  
現代産業論 S  
現代産業論 NA

13411

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 3回生  
担当教員 林 堅太郎

### 講義内容・テーマ

現代の社会は、国際化、情報化、サービス化の真只中にある。その土台となり、基軸になっているのが、諸般の産業活動である。本論は、このように変化する現代の産業活動を、総合的かつ包括的に分析するために必要となる理論と方法を学習し、これをもとに現代産業の構造とその発展方向を解明する。とくに現代日本の産業活動の具体的な内実注目し、ここに主眼をおいた分析を進める。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

シラバスに沿ってレジュメや資料を配布して講義を行うので、毎回の受講が必須となる。また今日の課題を扱うので、新聞などによって産業をめぐる情報を独自に収集することを薦めたい。

### 評価方法・基準

\*筆記試験・定期試験として実施  
基本的に試験によって評価するが、授業中に小レポートを課すことがある。また講義内容に関わって受講者が自発的にレポートなどを提出する場合は独自に評価する。

### 講義スケジュール

- (第1セッション) 資本主義と産業 そのフレームワーク
- 1講 資本主義の発展と生産概念の展開
  - 2講 技術と労働、労働編成
  - 3講 資本 = 企業の蓄積と競争
  - 4講 社会的分業と産業構造
- (第2セッション) 現代の産業 その構造と展開
- 5講 社会的分業の深化と産業連関
  - 6講 産業経済論と競争・独占
  - 7講 技術革新とプロダクト・サイクル
  - 8講 産業活動とポリシー・ミックス
  - 9講 日本産業発展と蓄積パターン
  - 10講 現代産業の情報化とサービス化
  - 11講 産業発展と資源・環境問題
- (第3セッション) 現代産業の国際的展開
- 12講 国際産業体制とEU統合
  - 13講 日本産業の国際化と東アジア
  - 14講 北東アジアにおける国際産業連携
  - 15講 21世紀の産業展望 その理論と政策課題

### テキスト

とくに指定せず。

### 参考書

宮沢健一、『産業の経済学』、東洋経済新報社  
基礎経済科学研究所、『国際化のなかの日本』、青木書店  
中村・林編、『日本経済の国際化とアジア』、青木書店  
その他、適宜、授業中に指示する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

現代史 S  
産業発達史 S

10463

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 伊藤 武夫

講義内容・テーマ

テーマ:世界史における現在。現代はグローバル化の進展により多面的な異文化交流が繰り広げられる一方、人種・民族・宗教問題、あるいは地域間経済格差などの拡大を背景とした戦争が絶えない。

この講義では、世界の近現代の流れを確認しつつ、世界史の視点から日本の近代化、教育・福祉・地方自治、階層間格差などの問題の今日的な位置と課題を検討する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

産業社会学科2回生以上 / 人間福祉学科3回生以上

1回生時に「現代と社会」、「現代とメディア」を受講していることを希望する。

評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施

\*日常点:加味する

授業の進行過程で、小レポート・質問紙の提出を求める。

評価は、定期試験(70%)、小レポート・質問紙の提出(30%)

講義スケジュール

はじめに - 1492年の頃、そして今 -

第1部 国民国家の誕生と産業革命(3回ほど)

・資本主義世界システムの形成

・国民国家の誕生とブルジョアジー

第2部 第一次世界大戦(3回ほど)

・第一次世界大戦前夜・終戦と新しい世界秩序

・日本の国際舞台への登場

第3部 戦間期と第二次世界大戦(3回ほど)

・ドイツの2度目の挑戦とヨーロッパ・アメリカの覇権拡大とラテン・アメリカ

・欧米列強とインド・中国・日本・第二次世界大戦

第4部 東西冷戦体制とその後(4回ほど)

・日本の戦後

・植民地主義の崩壊と発展途上国の困難

・先進工業諸国の家族・地域・教育

まとめ - グローバリゼーションの文脈のなかで -

テキスト

テキストは指定しない。各講義ごとにレジュメを配布する。

参考書

平田雅博『イギリス帝国主義と世界システム』、晃洋書房、2000年

中村隆英『昭和史』全2巻、東洋経済新報社、1993年

そのほか、講義のなかで適宜、紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

・講義のなかで適宜、紹介する。

その他

現代市民社会論 S  
住民自治論 S

10624

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 篠田 武司

講義内容・テーマ

市民社会についての議論が近年大きくクローズアップされています。それは、これまで国家がもっぱら公共性の名のもとに経済的にも社会的にも大きな影響力を社会に与えてきたことに対して疑問が出始めているからです。といて、国家がやってきたことを民間企業に任せるのでは利潤主義に走りかねないので社会にとっては困ります。福祉事業などをみればこの点明らかです。したがって、国家や企業だけでなく、市民社会を育てながら新たな公共性を作り上げ、協治のシステムを作り上げていくことが可能なかどうか議論されはじめています。しかし、こうした議論はすでにこれまで社会形成論として議論されてきました。社会科学は、これまで一貫して市民社会とは何かを問うてきたのです。こうした議論を振り返りながら、本講義では、あらためて何故いま市民社会の議論が必要なのかを考えていきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施

\*日常点:加味する

講義の内容が理解されているかを定期試験にて考査する。

また、出席を2 - 3度とり、評価に加味する。

講義スケジュール

## 1回 講義の目的・課題

なぜいま市民社会なのか。ヨーロッパで、日本で、開発途上国で何が問題とされているのか。

## 市民社会の成立

## 2回: フランス革命を辿る - 近代の夜明け

## 3回: フランス人権宣言を読む - なにが問題とされたのか?

## 市民社会の思想家達

## 4回: ルソーの描いた社会 - 文明社会批判と社会契約論

## 5回: スミスの描いた社会 - 経済社会と社会のエートス

## 6回: マルクスの描いた社会 - 批判されたブルジョア社会

## 現代の市民社会

## 7回: 復興する市民社会論 - なぜ、いま市民社会なのか?

## 8回: ハーバマスの市民社会論 - 社会学者ハーバマスは何を考えたのか?

## 9回: 市民社会と公共性 - 公共性を考える

## 10回: ラディカル・デモクラシーと市民社会 - 現代のデモクラシーとは?

## 新しい社会形成と市民社会

## 11回: 「第三の道」と市民社会 - 現代ヨーロッパ社会はどこに行くのか?

## 12回: 発展途上国と市民社会 - 発展途上国が抱える問題

## 13回: グローバル化と市民社会 - グローバル市民社会は可能なのか?

なお、各講義が1回で終わることを想定していないので注意。

テキスト

テキストは特に指定しない

参考書

『復興する市民社会論』(千賀等編、日本評論社、1999)

『相対化の時代』(坂本義和、岩波新書、1997)

『公共性』(斎藤純一、岩波書店、2000)

『第三の道』(A・ギデンス、日本経済新聞社、2000)

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

現代生活論 S  
生活経済論 S

14715

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 飯田 哲也

### 講義内容・テーマ

テーマ 現代日本の生活と理論

講義内容 戦後50余年の国民生活をトータルに概観し、現在どんな課題が提起されているかを具体的に考え、現実に対する社会学的見方を養う。生活の変化に対するこれまでの見方を検討し、社会的現実と理論を結びつけて考える。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

### 評価方法・基準

\*筆記試験・定期試験として実施

期末試験による。講義の受け止め方による評価。

### 講義スケジュール

#### 1. 生活論への誘い

現代日本の生活研究についてトータルなイメージを鮮明にし、どんな課題があるかについて具体的に紹介し、学生の関心を喚起する。

#### 2. 予備的な歴史的確認

近世末期および近代日本社会と国民生活

#### 3. 戦後日本社会の変化と生活

戦後復興期、高度経済成長期、「転換期」それぞれにおける日本社会の性格と国民生活を、民主主義を基準として展開する。

#### 4. 生活研究の課題と方法

生活研究の必要条件と課題、生活研究の基本視覚と方法について

#### 5. 生活研究の史的展開

貧困研究として生活研究が研究史としてスタート

戦後生活研究の展開、生活研究の理論的焦点

#### 6. 生活研究の視角について

人間、生活、活動、活動の条件とそれらの相互関係

#### 7. 「全体としての生活」把握の理論について

生活過程論、生活様式論、生活構造論の検討と課題提起

#### 8. 生活理論の構築に向けて

生活構造論試論、「構造化」と「全体化」が発想の機軸

#### 9. 生活理論から社会学理論へ

社会学理論構築の課題と方向

### テキスト

飯田哲也著『現代日本生活論』(学文社)

### 参考書

飯田哲也他編『新・人間性の危機と再生』(法律文化社)

飯田哲也『現代日本家族論』(学文社)

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

講義には継続して出席することが望ましい

現代政治論 S  
現代政治論 S

13408

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 國廣 敏文

講義内容・テーマ

20世紀の科学 = 技術や医学の飛躍的進歩によって、人類は宇宙旅行を現実のものとしクローンを作り出すまでになった。だが同時に20世紀は"紛争と革命の世紀"でもあり、飢餓や貧困、紛争や差別、エネルギー・食料問題など未解決の問題が山積しており、その意味で、人類は自然と社会を統治しえていない。

政治学の観点から見ると、20世紀は「国民国家」の時代であるが、その国家が世紀末に至って"ゆらぎ"始めている。本講義では、分裂と統合との間を揺れ動く現代国家および世界政治の諸相と諸問題を把握するとともに、現代世界の構造と動態についての政治学的分析に必要な基礎概念や視点・方法を探る。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

新聞やニュースに普段から接するように心がけること、分からない言葉や問題があったときに、それを調べる癖を身につけること。そうした探求心や好奇心から、勉強することへの興味が湧いてきます。

評価方法・基準

\*筆記試験・最終講義日試験で実施

成績評価 = 単位認定は、セメスター終了時の論述試験を中心としますが、毎回出席を取ります。100点満点のうち、10点として総合点に参入します。

講義スケジュール

以下の概要で講義を行なう予定である。

- ・ 歴史認識と政治学の視点

第1回： 現代という時代 20世紀から21世紀へ

科学技術・医学発展の世紀、戦争と革命の世紀

第2回： 政治学の方法と課題

グローバル・プロブレマティクとは何か

- ・ 現代政治の諸相 国家、民族、紛争

第3回： 「国民国家」の拡大と"ゆらぎ" 「相対化の時代」

第4回： 国家とは何か

第5回： 民族とは何か

第6回： 国家形成と国民形成

第7回： 現代民族問題の概観 旧ソ連・東欧

第8回： 現代民族問題の概観 アメリカ合衆国・EU

第9回： 「国民国家」と民族問題の将来

- ・ 分析枠組

第10回： 「世界システム論」の方法

第11回： 「世界システム論」の意義と問題点

第12回： 「国際社会学」の方法 超国家・国家・地域ないし民族

第13回： 「国際社会学」の意義と問題点

- ・ まとめと展望

第14回： グローバルデモクラシーの可能性

グローバリゼーションとリージョナリゼーション、ナショナリズムの相克

現代社会のゆくえと主体形成、日本の課題

テキスト

テキストはとくに指定しないが、授業に際して参考文献等を適宜紹介するので、事前・事後の学習に役立てて欲しい。

参考書

現代の世界的状況を理解するための参考書として、D.ヘルド編(中谷義和監訳)『グローバル化とはなにか』法律文化社、2002年10月刊を挙げておきます。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

その他

「私語」は、自らの学習権の放棄であると同時に、他者のそれへの侵害でもあるので、厳禁する。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 IAN T. HOSACK

講義内容・テーマ

Democracy has become a key concept for understanding the modern world, but it is a concept that means different things to different people. What exactly is democracy and how can it be achieved? What is the relationship between democracy and individual rights? What is the future for democracy in an era of globalisation ? These are just some of the questions students will consider on this course.

In addition to introducing students to some of the key issues concerning democracy, the course will also develop students' academic English skills in areas such as reading, listening to lectures, note-taking and discussion.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

All lectures will be conducted in English. Students will need to prepare for classes by reading selected articles written in English and by learning key vocabulary. There will also be occasional assignments in which students give short written responses to what they have read.

評価方法・基準

\* 日常点:加味する  
Assessment will be based on:  
(i) attendance and participation  
(ii) several assignments in which students make short written responses to the readings  
(iii) regular short tests  
(iv) a final examination

講義スケジュール

The following is a tentative schedule, subject to amendment. In particular, the readings may be subject to change.

Week 1: Defining democracy: key concepts and questions  
Reading from Robert Dahl, Democracy & Its Critics.

Week 2: Protective and Developmental Arguments for democracy  
Reading from Ian Budge, The Challenge of Direct Democracy

Week 3: Athenian democracy  
Reading from Robert Dahl, Democracy & Its Critics.

Week 4: Representative government  
Reading from David Beetham & Kevin Boyle, Introducing Democracy

Week 5: Electoral systems  
Reading from David Beetham & Kevin Boyle, Introducing Democracy

Week 6: A right or a duty? Should voting be compulsory?  
Readings Chris Puplick, The case for compulsory voting

Padraic McGuinness, The case against compulsory voting

Masumi Ishikawa, New heights, louder message: abstentions in Japan's national elections

Week 7: Measuring democracy

Reading from Robert Dahl, On Democracy

Week 8: Measuring democracy

Reading from Freedom House survey, Freedom in the World

Week 9: The Third Wave of Democracy

Reading Renske Doorenspleet, Reassessing the Three Waves of Democratization

Week 10: Democracy & Human Rights

Reading from David Beetham & Kevin Boyle, Introducing Democracy

Week 11: Globalization: the implications for democracy

Reading from David Held & Danielle Archibugi, Cosmopolitan Democracy

Week 12: Cosmopolitan democracy Democracy in the UN

Reading from Ian Budge, The Challenge of Direct Democracy

Week 13: Electronic Democracy

Reading from James Fishkin, The Voice of the People

Week 14: Deliberative Polls

Week 15: Review: final examination

#### テキスト

No textbook.

All readings relating to this course will be provided by the instructor.

#### 参考書

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他



公共政策論 S  
社会政策論 S  
社会政策 NB

13086

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 重森 臣広

### 講義内容・テーマ

この講義では、イギリスにおける社会政策領域の発展を促した救貧法(Poor Law)の歴史的動向をとりあげる。およそ350年におよぶ歴史をもつこの制度は、困窮者の社会的救助の理念を基本にすえながらも、時代の変化とともに様々な要素が付加され、改訂され、また社会的な論争の焦点となってきた。家族手当をはじめとする所得補給、社会的に周辺部分に位置する人々の隔離収容、独立生活への復帰をめざしたフィランソロピ運動、公的な予防医療などのアイデアはどれも、この制度の改訂や批判の中から生まれてきたものである。ここでは、救貧法という制度をめぐるどのような政策理念が交錯してきたのかについて思想的な考察を行なう。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義は担当者が用意した配布物にそって行なわれる。

### 評価方法・基準

\* 筆記試験・定期試験として実施  
定期試験によって評価する。

### 講義スケジュール

講義は概ね以下の内容にそって行なわれる。

1. 独立労働生活の危機
2. 改訂救貧法と政治経済学
3. 統計運動
4. フィランソロピの科学
6. 貧困の科学的定義
7. パブリックサイエンスと優生学

### テキスト

講義は担当者が用意した配布物にそって行なわれる。

### 参考書

講義のさいに適宜指示する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

<http://www.ps.ritsumei.ac.jp/shige2/biblio2/search.htm>

<http://www.ps.ritsumei.ac.jp/shige/sgb/chronology.html>

### その他

広告論 S  
情報産業論 S

20246

授業開講期間 夏期集中

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 西村 秀樹

講義内容・テーマ

今年2003年は、テレビの放送開始からちょうど50年。テレビ、ラジオ、新聞、雑誌などマスメディア抜きに、民主主義社会は考えられません。ところが、なぜNHKは視聴料が必要で、なぜ民間放送は要らないのでしょうか？ 民間放送や新聞、雑誌は広告に経営基盤の多くを依存しています。つまり、広告は、メディアの下部構造を形作っているのです。

と同時に、たばこ、ジェンダーなど、広告表現は現代社会の意識を反映したり、先導します。現代社会における広告の実情と問題点を講義します。講師は、現役の民間放送の部長。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

特にありませんが、夏期集中講義であり、いろいろなアプローチを試みるため、毎回出席が望ましい。

評価方法・基準

\* 筆記試験：最終講義日試験で実施

\* 日常点：加味する

基本は、最終講義日で実施する試験で評価します。夏期集中講義のため、出席も加味します。

講義スケジュール

広告の歴史、概論などのレクチャーのほか、過去のテレビ番組、テレビCMなどのビデオをいっしょに視聴しながら、問題点や実情を講義します。

また、新聞については新聞記者に、テレビCMについてはメーカーの広告担当部長に、それぞれゲストスピーカーに招き、専門的な話を具体的にわかりやすく扱います。

テキスト

特にありません。

参考書

特にありませんが、天野祐吉『広告論講義』岩波書店(02/08刊)が入手容易で、かつ、内容がわかりやすく参考になります。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

電通、博報堂などの広告業。日本民間放送連盟、日本新聞協会などの業界団体のホームページ。

その他

公的扶助論 S  
公的扶助論 SG

10201

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 山本 隆

### 講義内容・テーマ

Course description

国民の最低生活を保障する最終的な救済手段が公的扶助であるが、その中心である生活保護制度は社会保障の土台をなしている。講義では、現代貧困論から始まり、公的扶助の歴史、現代社会における公的扶助の理念と意義、生活保護制度の仕組みと近年の動向、関連分野の組織、その連携のあり方、諸外国の公的扶助について述べる。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

Introduction

### 評価方法・基準

\*筆記試験・定期試験として実施

### 講義スケジュール

現代社会と公的扶助、  
貧困の概念、  
わが国の公的扶助の史的展開 - 戦前期 -、  
わが国の公的扶助の史的展開 - 戦後期 -、  
生活保護の仕組み、  
生活保護および関連分野の組織・専門職・連携のあり方、  
公的扶助の相談援助活動、  
諸外国の公的扶助 - アメリカ、イギリスを中心として -

### テキスト

『社会福祉士要請講座6 公的扶助論』中央法規

### 参考書

木下秀雄編著『生活保護法の挑戦』高菅出版

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

国際教育援助論 S 社会教育論 S	10467
----------------------	-------

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 東 自由里

講義内容・テーマ

国際援助の中でも教育事業を取り上げる。普遍的な価値としての教育を推進するユネスコ、その他の国際機構、世界各国の民間教育援助団体(NGO)の活動を前半に取り上げる。後半は、特定の文化的、社会的背景から生まれた教育思想の実践例を検証する大きくわけて四つのテーマをとりあげる: 1)国家形成と教育施策(例:海外の日本人学校、ブラジルのNGO)、2)芸術/音楽と教育施策(例:ハーレムの音楽活動、シュタイナーの芸術教育)、3)コミュニティと教育施策(例:アメリカのチャータースクール)。4)学校のカタチ(建築、遊戯、教材)。「学校教育」をめぐる問題群を社会、文化的コンテキストの中で学際的な視野でとらえなおす。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

アカデミック・ペーパー(レポート)は、ワープロで打ったものを提出。テキストの購入は、初回の授業に出席して、担当者からの授業の展開方法に関する説明を聞き、どのテーマに絞るかを各自が決めてからにすること。

評価方法・基準

\* 日常点:加味する

期末試験なし。平常点評価。アカデミック・ペーパーを開講中にB評価以上のペーパーを最低二つ。希望者は二つ以上だしてもよい。(50%)。授業中に書いてもらう5回の課題コミュニケーション・エッセイ(50%)。提出締切日の講義開始時間20分以内に提出なきものは、いかなる事情でも受け付けない。メールでの提出は認めない。

講義スケジュール

\*国家形成と教育施策

- 1) 平和教育 ユネスコと近代化論
- 2) 海外の日本人学校 シンガポール
- 3) 被抑圧者の教育学 パウロ・フレイレ
- 4) NGOと教育援助 ブラジル
- 5) 脱学校 イヴァン・イリイチ

\*芸術/音楽と教育施策

- 6) カリキュラム シュタイナー教育
- 7) 芸術教育 ドイツのシュタイナー教育
- 8) 音楽教育 NY ハーレムのNPO活動

\*コミュニティと教育施策

- 9) 福祉とコミュニティ シュタイナー教育
- 10) 「市民が創る学校」 米国チャータースクール
- 11) 民主主義と学校教育 ジョン・デューイ
- 12) 「生きる力」 カリフォルニア州のカリキュラム

\*学校のカタチ(建築、遊戯、教材)

- 13) モンテソーリの教材
- 14) モンテソーリと建築、内装
- 15) 総復習

テキスト

- ・「脱学校の社会学」イヴァン・イリイチ
- ・「子供が"個立"できる学校」日米チャータースクール挑戦」天野一哉 角川書店
- ・「被抑圧者の教育学」パウロ・フレイレ
- ・「私のミュンヘン日記 シュタイナー学校を卒業して」中公新書
- ・「学校と社会」ジョン・デューイ  
生協で購入

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

その他

ペーパーの内容は授業で詳しく説明するのでその指示に従うこと。自分なりのテーゼを序文で明確にする。段落は序文、本文、結部で分ける。A4で3-4枚。直接引用した箇所は必ず「」をつけ文末脚注を最後につける。3行以上の直接引用は避ける。他人の業績、インターネットからの写しは不合格。参考文献リストは原稿の文字数に入らない

国際社会政策論 S  
 社会政策論 S  
 社会政策 NA

10216

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 深澤 敦

講義内容・テーマ

21世紀を迎え、経済のグローバル化が進んでいくと思われるが、それと共に、これまで基本的には各国家を政策主体として遂行されてきた社会政策も大きな変容を余儀なくされ、その一層のグローバル化が求められることになる。とはいえ、第一次世界大戦の終結と共にILOが創設されて以来、20世紀においても社会政策は一国の枠を超えて明確に国際化の方向性を示してきた。本講義は、こうした「国際社会政策」の歴史と現状の検討を通じて、とりわけ日本の社会政策の特異性、すなわちグローバルスタンダードからのその大きな乖離の実態を解明することを課題としている。そして、これによって、日本社会の特異性、とりわけ多方面に現われているジェンダー・バイアスや経済・社会のその他の格差構造などの問題性を浮き彫りにすることを意図している。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

日常的に新聞などを通じて労働問題や社会政策の動向に注目すること。そして、毎年6月にスイスのジュネーブで開催されるILO総会で何が議題になっているかに関心を持つこと。

評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施

\*日常点:加味する

出席を重視し、適宜レポートの提出を求める。評価は、期末試験以外にもこれらの項目を加味して行う。

講義スケジュール

## I 社会政策の基礎理論

- 1) 社会政策とは何か、時代と共にその定義はどのように推移してきたか。
- 2) 社会政策の道義論・政治論・経済理論などの発展
- 3) 今日の社会政策の領域

## II 国際社会政策の登場

- 1) ILOの前史--国際労働者保護立法協会の設立(1900年)
- 2) 第一次世界大戦とILOの創設
- 3) ILOと日本
- 4) 第二次世界大戦後の国際社会政策--OECD、EU、WTOなど

## III ILOの構造的特色と機能

- 1) 三者構成システムと専門委員会制度
- 2) ILO年次総会による国際社会政策の採択
- 3) 国際社会政策遵守のメカニズム

## IV 現代の国際社会政策と日本

- 1) 国際社会政策における基本的人権--結社の自由、強制労働からの自由、差別禁止など
- 2) ジェンダーと国際社会政策
- 3) 雇用のフレキシビリティと国際社会政策--パート、労働者派遣・職業紹介、有期限雇用規制など
- 4) 生活の質と国際社会政策--年次有給休暇、有給教育休暇など
- 5) 社会保障の国際基準

## V 国際社会政策とその推進力--労働組合、NGO・NPOなど

- 1) 国際社会政策と労働組合運動の課題
- 2) 福祉国家と国際社会政策

テキスト

テキストは用いない。講義の初めにレジюмеや資料をその都度配布する。

参考書

木本喜美子・深澤和子編著『現代日本の女性労働とジェンダー』ミネルヴァ書房、2000年  
 石畑良太郎・牧野富夫編著『社会政策—国際化・高齢化・雇用の弾力化』ミネルヴァ書房、1999年

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

<http://www.ilo.org>  
<http://www.socialeurope.com>

その他

国際社会論 S 国際社会論 I	14462
--------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 林 堅太郎

講義内容・テーマ

今日、政治、経済、文化など、社会の各レベルにおいてグローバル化が強まる中で、国際社会に関する包括的な認識とアプローチを強めることが、いよいよ緊要になっている。本論は、ヨーロッパ共同体、NAFTA、アセアンなどに照準を合わせながら、近年、顕著となってきた国際地域形成について、比較評価する。また世界銀行などの国際諸機関が取り組んでいる多文化共生型の社会開発、社会統合プログラムなどを参考にしつつ、新たな国際地域形成も射程に入れた国際社会のあるべき姿を模索する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

シラバスに沿ってレジュメや資料を配布して講義を行うので、毎回の受講が必須となる。またゲスト・スピーカーによる英語による講義なども適宜、企画する。もちろん、国際社会をめぐる情報を意識的に収集されることを薦めたい。

評価方法・基準

\*筆記試験：定期試験として実施

\*日常点：加味する

基本的に試験によって評価するが、授業中に小レポートを課すことがある。また講義内容に関わって受講者が自発的にレポートなどを提出する場合は独自に評価する。

講義スケジュール

(第1セッション)国際社会論の要請

1講 「The Voices of the Poor」と「人間発達、人間の権利」

2講 東西対立や南北格差の歴史的・現実的射程

3講 国際化やグローバリゼーションのなかで

(第2セッション)国際社会の構築

4講 貧困削減への世界銀行の取組み

5講 世界銀行「Global Development Networkの構築」(遠隔講義)

6講 国際機関の社会開発、社会統合プログラム

7講 知的インフラとCivil Society Organizations (CSOs)の課題

(第3セッション)国際地域社会形成の状況 EUの場合

8講 欧州連合への半世紀の歩み

9講 欧州市民のアイデンティティと活力

10講 戦後ヨーロッパ分断の終焉としてのEU拡大

11講 ゲストによる特別講義

(第4セッション)国際地域社会の形成 東アジア、その他

12講 グローバリゼーションのなかで進む国際産業体制

13講 東アジアの国際経済社会発展(1)

14講 東アジアの国際経済社会発展(2)

終講 21世紀の国際社会展望

テキスト

林堅太郎、『グローバリゼーションと貧困緩和』(立命館産業社会論集37巻2号)、2001年

林堅太郎、『ヨーロッパの新たなガバナンス』(立命館産業社会論集37巻3号)、2001年

参考書

授業中に適宜指示する。 林堅太郎、『新たな知的社会基盤への挑戦』(立命館国際地域研究19号)、2002年も参考のこと

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ<http://www.europa.eu.int><http://www.worldbank.org>その他



国際福祉論 S  
比較福祉論 S  
国際福祉論 I

13509

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 前田 信彦

講義内容・テーマ

「国際福祉」という学問分野はまだ未開拓の分野であるため、国際比較から見た「比較福祉」という視点から講義する。この講義では、国際比較の視点から、特に「労働」と「福祉」について考え、これからの日本の福祉社会のあり方を探る。講義は主に次の手順で行われる。  
まず第一に、国際福祉の方法について講義する。特に福祉社会を国際比較の視点から捉えるための枠組みを提示する。第二に、主にオランダ、日本を対象として比較福祉論を講義する。具体的には、女性の労働、家族、高齢者の就業・介護問題といった個別の領域について国際比較の視点から講義する。第三に、国際比較から各国の福祉の実態を相対化し、日本のこれからの福祉について考える。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会学の基礎的な知識があること。

評価方法・基準

\*筆記試験：最終講義日試験で実施  
\*レポート：試験に代わるレポートとして実施  
\*日常点：加味する  
出席点・小テスト・レポート・定期試験による総合評価。出席は厳しく評価する。  
講義期間に何度か小テストを実施する。講義中にあげた参考図書の感想文などのレポートを課す。  
小テスト・レポートを提出しなかったものは定期試験は受験不可とする。  
遅刻・早退は厳禁。  
かなり厳しい講義なので、出席しないで単位だけを取る学生にはすすめない。

講義スケジュール

1回 講義の進め方について  
2 - 3回 福祉国家の形成と危機  
4 - 5回 中高年の失業と福祉  
6 - 10回 女性の就業と社会的支援  
11 - 13回 高齢者の就業と社会参加  
14 - 15回 まとめ・試験

テキスト

テキストは特に指定しない。  
講義中に参考文献を随時紹介する。

参考書

富永健一 2001 『社会変動の中の福祉国家 - 家族の失敗と国家の新しい機能』中公新書  
前田信彦 2000 『仕事と家庭生活の調和 - 日本・オランダ・アメリカの国際比較』日本労働研究機構  
アラン・ウォーカー1997 『ヨーロッパの高齢化と福祉改革 - その現状とゆくえ』ミネルヴァ書房  
(ほか、講義中に紹介する)

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 秋葉 武

講義内容・テーマ

途上国の貧困や民族紛争、環境破壊は、世界全体を不安定な状態に陥れている。そうしたなか、市民によって結成されたNGO(非政府組織)の役割に注目が集まっている。本講義では「NGOの時代」といわれる21世紀のなかで組織の活動、課題を検証していく。

講義は毎回ビデオを使用し、またゲストスピーカーを招聘する。それによって、アップデートな事象についてより具体的な理解を深めてもらう。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

下記の行為をする受講生は自動的に「F」評価となる。他の受講生の受講権の侵害 授業中の私語、大幅な遅刻、頻繁な途中入退室など マナーの欠如(携帯電話の時計以外の目的での使用など)、レポートの記述の不適切な表現(タメ口や口語表現など) 開始後10分以内に経てば教室に鍵を掛けるので、遅刻者は入室できない。出席に厳しいので就職活動中の4回生は勧められない。

評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施

\*日常点:加味する

評価基準...学部科目中、最も厳しい評価基準(Aは全体の10%以内、Fも多い)

評価方法 出席および授業の理解力、表現力 30% 講義中の質問、議論における発言の積極性 20% 中間レポート 25% 期末試験 25% ガイダンスに欠席した場合、履修を認めない(成績評価は即「F」となる)。履修希望者は「必ず」「絶対に」出席すること。

講義スケジュール

(講義内容の一定の変更もありうるので留意して欲しい)

- 1、NGOの台頭とその社会的背景
- 2、「政府の限界」とNGOの「機動性」 「国境なき医師団」を事例として
- 3、4、NGOの活動分野と協力形態 国際協力NGOにみる
- 5、6、NGOの活動分野と協力形態 環境NGOにみる
- 7、NGOの組織構造 スタッフ、ボランティアと組織との関係性
- 8、NGOの組織構造 会員、寄付者と組織
- 9、NGOとネットワーキング NGO間の連携にみる活動
- 10、NGOとネットワーキング 国際機関との連携
- 11、NGOを取り巻く課題 政府とのパートナーシップをめぐって
- 12、NGOを取り巻く課題 社会への影響力行使をめぐって
- 13、14、NPOの社会制度 海外を事例として
- 15、まとめ 日本におけるNGOの役割と今後の課題

テキスト

馬橋憲男、斎藤千宏編著(1998)『ハンドブックNGO 市民の地球的規模の問題への取り組み』明石書店、税込2,060円。生協で販売。

参考書

講義中に指示する

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

この授業を通じて、一般メディアから流れる国際社会の情報とは違った角度から社会を見ていくことができるかもしれません。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 黄 盛彬

講義内容・テーマ

メディアの産業化動向、さまざまなニューメディアの登場、そして近年におけるデジタル技術の発展などによって、既存のコミュニケーション制度の根幹を揺るがす変動が起こっており、社会的コミュニケーション全般について、包括的に考慮するコミュニケーション政策への要請は年々高まっている。本講義では、コミュニケーション政策論の成立に関わる歴史的経緯、政策論の展開および今日の状況、理論的枠組みおよび対立点について検討する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

\* 筆記試験：定期試験として実施

講義スケジュール

- 1 イントロダクション
- 2 「NHK予算審議」から考えるコミュニケーション政策の諸問題
- 3 放送ネットワークの制度の成立と放送政策の展開
- 4 放送のデジタル化で何か起こっているのか
- 5 デジタル化時代における放送・通信政策の課題
- 6 メディア政策と公共性
- 7 公共放送論
- 8 中間総括
- 9 メディアのグローバル化とコミュニケーション政策 - 現在の課題の整理
- 11 国境を越えるテレビをめぐる諸問題 その1
- 12 国境を越えるテレビをめぐる諸問題 その2
- 13 グローバルなメディア、ナショナルな政策の弁証法
- 14 グローバルなコミュニケーション政策は可能か
- 15 講義総括および評価

テキスト参考書

須藤春夫編『デジタル放送で何か起こるか』大月書店、2001年  
メディア総合研究所編『デジタル放送用語事典2003』花伝社

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

その都度、案内する。

その他

コミュニケーション理論 S  
コミュニケーション論 S

10210

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 赤井 正二

講義内容・テーマ

あふれる情報や過剰なコミュニケーションは、かえって紋切り型の理解や慣習的な行動を拓げてしまう。いわゆる「情報化」は同時に情報無視や省略化をも引き起こす。このようなパラドクスになかで、個人の「コミュニケーション・リテラシー」といったものが必要となるが、社会の問題としても理解する必要もある。

この講義では、「状況」をキーワードにして日常的コミュニケーションをめぐる問題と社会的コミュニケーションの問題とを関連づける視点から、コミュニケーションの社会理論を展開する。

具体的な学習目標は、

- (1)「説得コミュニケーション」の基礎的理解、
  - (2)コミュニケーションについての社会理論的な研究(とくにJ. ハーバーマスの「コミュニケーション行為論」)の基礎的理解、
  - (3)シャノンの通信理論の社会的意味についての初歩的理解、であり、
- これらをおして自分たちの日常的コミュニケーションをめぐる問題と社会的コミュニケーションをめぐる問題とを関連づける発想を学び取ってもらいたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

2回生までの学習内容を前提として進行するので、3回生以上での履修が望ましい。

評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施

講義スケジュール

1 はじめに

A コミュニケーションの力

2 コミュニケーションに働く状況の力

3 説得のされ方

4 交渉の術と議論の論理

5 状況の力とコミュニケーション・リテラシー 第一中間まとめ

B コミュニケーションの社会的条件

6 都市とコミュニケーション 「他者」との出会い

7 「世論」という考え方

8 社会的コミュニケーションの回路 公と私の区分

9 社会科学のコミュニケーション論的転回 第二中間まとめ

C 通信としてコミュニケーションの社会的意味

10 情報の量という考え方 シャノン理論1

11 情報の伝達という考え方 シャノン理論2

12 情報通信システムがもたらすもの

13 社会的空間の構造変動 第三中間まとめ

14 全体まとめ

15 試験

テキスト

レジメ(資料)を使用する。

参考書

- ・赤井「コミュニケーション論 メディアの力と現代文化」(『世紀の転換期と社会学』法律文化社、第6章) /
  - ・ハーバーマス『コミュニケーション行為の理論』未来社 /
  - ・リップマン『世論』岩波文庫 /
  - ・E.M.ロジャーズ『コミュニケーションの科学』共立出版 /
  - ・フィッシャー他『ハーバード流交渉術』三笠書房
- など。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

参加のデザイン論 S 市民参加論 S	13605
-----------------------	-------

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 乾 亨

講義内容・テーマ

世間では「参加」が大流行。もはや「参加」を思索・啓蒙する時代ではない。参加の意味と必要性(あるいは必然性)を踏まえながら、実践のなかで「参加」の状況をデザインする態度と力が求められている。本講義では、環境創造(まちづくり)活動における住民参加・住民主体の事例を紹介しつつ、「参加」の意味や成立要件、行政や住民の役割などについて考えていく。あわせて、「参加型まちづくり」を展開するための手法についても学習する。時間及び講義規模が許せば、ワークショップによる参加型学習も行いたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

理論的アプローチではなく、スライドを活用しつつ事例をもとに考える。「参加」の「制度」論ではない。事例を物語りその意味を考えてもらう問題提起型の講義なので、継続的出席を望む。  
とりわけ第1週・第2週・第3週は問題提起編なので必ず出席のこと

評価方法・基準

- \* レポート: 試験に代わるレポートとして実施
  - \* 日常点: 加味する
- 「試験にかかわるレポート」を中心に評価しますが、  
評価には講義中出席がわりにたまたま書いてもらうミニレポートの回数を加味します。

講義スケジュール

- ・はじめに (第1週)  
参加のデザインってなに? この講義の目的と位置づけ
- ・まず「参加」の事例を見てから考えよう...パート1 (第2週)  
住み手参加(主体)の住まい・まちづくりであるコーポラティブ・ハウジングの優れた事例であるユーコート(京都)を通して「参加」の持つ可能性と現実性を実感し、そこから参加の意味を考える
- ・まず「参加」の事例を見てから考えよう...パート2 (第3週)  
30年にわたって住民主体のまちづくりを進めてきた神戸市真野地区のこれまでの歩みと被災後の住民の自律的な活動、そして復興まちづくりへ向けての活動を通して、「参加」の意味や必要性について考える。
- ・なぜ「参加」なのか...パート1 (第4～6週)  
ユーコートのプロセスとその中での主体の変容を追うことで、市民が自らの環境を主体的に創造する行為としての「参加」の意味や可能性、および状況のデザインのポイントを論じる(適宜他のコープ住宅事例も紹介しつつ論じる)
- ・なぜ「参加」なのか...パート2 (第7～9週)  
真野地区のまちづくりのプロセスとその特質を明らかにしながら、「まちづくり」のように、多様な人々が関わる場合の「参加」のありかたについて考える。  
(適宜他のまちづくり事例も紹介しつつ論じる)
- ・「参加」における行政・専門家の役割 (第10～11週)  
これまでの行政システムと「参加」における行政・専門家の役割の違いを明らかにした上で、事例を通して行政と住民のパートナーシップ型によるまちづくりの可能性を考える  
(最近の京都の事例等、適宜選択)
- ・ワークショップのすすめ (第12～14週)  
参加を促す手法として近年盛んになりつつある「ワーク・ショップ」について、具体事例に基づいて、考え方や意義、方法を紹介する。  
(時間及び講義規模が許せば、ワークショップによる参加型学習を行う)
- ・ふたたび、「参加」とはなにか (第15週)

テキスト

教科書は使わず、資料はプリントを配布する。

参考書

(下記以外は適宜講義のなかで指示する)  
「これからの集合住宅づくり」延藤安弘+熊本大学延藤研究室 晶文社  
「新・人間性の危機と再生」法律文化社編集部

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

第1週・第2週・第3週はいわば問題提起なので必ず出席のこと  
(この注意はちょっとへんやね...常に出席するのが当然です、勘違いしないように。念のため)

産業技術論 S  
産業技術論 S

12349

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 山口 歩

### 講義内容・テーマ

現代における大量生産システムの問題

一国の生産技術のありかたは、その経済状況のみならず、生活水準や諸文化のスタイルにも大きな影響を与える。またそれ以上に、技術は今後の地球環境の変化の方向に決定的な影響を与える因子でもある。本講義では、生産技術が社会の諸事象にいかに関与しているのかを具体的に解きほぐし、またその発展過程を歴史的に解明していくことで、現代技術を批判的に捉える視点を示し、問題解決に向けての指針を与えるものである。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

科学・技術の基本事項についてもその都度丁寧に説明するので、理系的知識を前提としてません。

### 評価方法・基準

\* 筆記試験・定期試験として実施  
セメスター末に試験を実施する

### 講義スケジュール

- 1 オリエンテーション
- 2 序論1 発明と普及のタイムラグ
- 3 序論2 技術発展の論理
- 4 序論3 発明の袋小路
- 5 社会における生産の網の目1
- 6 社会における生産の網の目2
- 7 機械と道具 繊維
- 8 機械と道具 機械
- 9 機械と道具 鉄鋼
- 10 大量生産システムの生成過程1
- 11 大量生産システムの生成過程2
- 12 大量生産システムの生成過程3
- 13 現代生産システム論1
- 14 現代生産システム論2
- 15 まとめ

### テキスト

テキストは使わない。適宜資料とレジュメを配布する

### 参考書

『技術と労働』大沼正則 岩波書店  
『アメリカンシステムから大量生産へ』D.ハクシエル 名古屋大学出版会

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他



授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 4回生

担当教員 山口 歩

講義内容・テーマ

現代社会における技術の課題 電力技術・エレクトロニクス機器の問題

エレクトロニクス機器は、今や各種インフラから諸生活機器に組み込まれ、社会において欠くべからざる存在となっている。また半導体技術の発展を背景に、関連機器やそれに依存する社会生活は絶えざる変化の中に置かれている。本講義では、エレクトロニクスに関する諸技術のあり方を電気技術全般の中に整理して位置づけ、それにまつわる技術の問題を批判的に考察するための指針を与えるものである。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

同時に産業技術sを受講するとより理解が深まる

評価方法・基準

\* 筆記試験・定期試験として実施  
セメスター末に試験を実施する。

講義スケジュール

- 1 オリエンテーション
- 2 序論 技術発展過程概論
- 3 序論 技術体系の考察
- 4 電気技術の発展過程概観
- 5 電気通信システム 19世紀の発展過程
- 6 電気通信システム デバイスの発展とメディア
- 7 電気通信システム 現代の通信技術
- 8 電力生産システム考1 電力技術の基本構造
- 9 電力生産システム考2 技術発展と社会
- 10 電力生産システム考3 21世紀に向けて
- 11 半導体技術の問題
- 12 エレクトロニクス製品の問題1
- 13 エレクトロニクス製品の問題2
- 14 動力と制御 現代生産システムとエレクトロニクス
- 15 まとめ

テキスト

テキストは使わない。適宜資料とレジュメを配布する。

参考書

『電気の技術史』山崎・木本 オーム社  
『電子楽器産業論』田中健次 弘文

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 牧野 泰典

講義内容・テーマ

産業社会学を「産業社会としてとらえられる現代社会の学」としつつ、主としてそこに生きる人々の生活スタイル(労働や生活をめぐる生き方)に焦点をしばり、生活スタイルの今まで、今日、そしてこれから、を見ていく。主として日本社会をあつかうが、大きく企業社会から新自由主義社会への変容を軸としつつ、雇用(不況)、女性、若もの/子ども、国際化などをめぐる環境変化のなかで、日本人の生活スタイルおよび日本社会の今後の像を考えていきたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

レジュメ・資料にもとづいて講義する。時々コメント(コミュニケーション・ペーパー)を出してもらい、講義へのあなたのたちの思索を把握したり、講義の往復に使ったりする。

評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施

講義の基本的な内容の理解を問う試験をする。講義へのコメントは、評価に加味する場合もある。

講義スケジュール

(1週) はじめに	本講義の産業社会学について
(2週) 現代社会と生活スタイル1	現代社会論と日本社会の位置
(3週) 現代社会と生活スタイル2	社会学理論と生活スタイル
(4週) 日本社会と生活スタイル1	日本社会の変容:企業社会から新自由主義社会へ
(5週) 日本社会と生活スタイル2	今までの生活スタイル:私生活志向と企業社会志向
(6週) 日本社会と生活スタイル3	両方志向(狭い私生活志向と企業社会志向)をめぐって
(7週) 日本社会と生活スタイル4	日本人論、日本の集団主義論をめぐって
(8週) 日本社会と生活スタイル5	企業社会の病理とその変容
(9週) 日本社会と日本人の諸層1	働く人々の環境変容
(10週) 日本社会と日本人の諸層2	女性の社会的進出
(11週) 日本社会と日本人の諸層3	若者/子供の意識変容
(12週) 日本社会の変容と生活スタイル1	国際化のなかの日本社会
(13週) 日本社会の変容と生活スタイル2	日本社会の新しい状況
(14週) 日本社会の変容と生活スタイル3	日本人の新しい生活スタイル
(15週) まとめ	

テキスト

決まったテキストはない。講義のなかでレジュメ・資料を配布する。参考文献は、講義のなかでで紹介する。

参考書参考書

浪江巖・木田融男・守屋貴司編『変容する企業と社会 現代日本の再編』八千代出版。

渡辺治『企業社会・日本はどこへ行くのか』教育史料出版会

佐々木嬉代三・中川勝雄編『転換期の人間と社会』法律文化社。

木田融男・佐々木嬉代三編『変貌する社会と文化』法律文化社。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 4回生

担当教員 牧野 泰典

講義内容・テーマ

産業社会学を「産業社会としてとらえられる現代社会の学」としつつ、主としてそこに生きる人々の生活スタイル(労働や生活をめぐる生き方)に焦点をしばり、現代社会の変容のなかで、生活スタイルの今まで、今日、そしてこれから、を見ていく。主として日本社会をあくが、今までの企業社会的統合のなかでの「私生活志向」と「企業社会志向」(「両方志向」)の具体像、そして企業社会の変容と新しい生活スタイルを見通していく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

\* 筆記試験: 定期試験として実施

\* 日常点: 加味する

定期テストと出席調査を兼ねたミニテスト(1回)

講義スケジュール

- |                        |                      |
|------------------------|----------------------|
| 1. はじめに                | 本講義の産業社会学について        |
| 2. 現代社会と生活スタイル(1)      | 現代社会論と今日の日本社会とは      |
| 3. 現代社会と生活スタイル(2)      | 生活諸過程と生活スタイルとは       |
| 4. 社会と生活スタイルのながれ(1)    | 社会学理論と生活スタイル(今まで)    |
| 5. 社会と生活スタイルのながれ(2)    | 社会学理論と生活スタイル(今日)     |
| 6. 日本社会と日本人の生活スタイル(1)  | 今日の日本社会: 企業社会的統合     |
| 7. 日本社会と日本人の生活スタイル(2)  | 私生活志向と企業社会志向         |
| 8. 日本社会と日本人の生活スタイル(3)  | 両方志向をめぐって            |
| 9. 日本社会と日本人の生活スタイル(4)  | 日本人論・日本的集団主義論をめぐって   |
| 10. 日本社会と日本人の生活スタイル(5) | 生活スタイルの病理            |
| 11. 日本社会の変容と生活スタイル(1)  | 日本社会の環境変容            |
| 12. 日本社会の変容と生活スタイル(2)  | 環境変容と生活スタイル          |
| 13. 日本社会の変容と生活スタイル(3)  | 企業社会の変容と日本社会は?       |
| 14. 日本社会の変容と生活スタイル(4)  | 企業社会の変容と「新しい生活スタイル?」 |
| 15. まとめとミニテスト          |                      |

テキスト参考書

木田融男・佐々木嬉代三編『変貌する社会と文化』法律文化社、佐々木嬉代三・中川勝雄編『転換期の人間と社会』法律文化社

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

## 産業デザイン論 S

12934

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 藤田 治彦

講義内容・テーマ

デザインとメディアとの関係をおもに取り上げる。機械生産の問題、国際化の問題などをデザイン論という観点から考察する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

\*筆記試験:最終講義日試験で実施

\*日常点:加味する

最終試験と出席で評価する。授業中に小テストをする場合がある。

講義スケジュール

- 1 音声言語と文字言語
- 2 印刷術
- 3 機械化とデザイン
- 4 アーツ・アンド・クラフツ運動
- 5 デザイン論とメディア
- 6 国際化とデザイン研究

テキスト参考書

印刷博物誌出版委員会『印刷博物誌』凸版印刷株式会社  
藤田治彦『現代デザイン論』昭和堂

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

自我論 S  
社会行動論 S

14932

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 景井 充

### 講義内容・テーマ

日本社会に浸透しつつある心理主義を批判的に問題とする。私たちの日常に浸透しつつある心理主義は、管理社会化の徹底による私生活空間の極小化の逢着点とも言えるものである。他の社会的要因をも背景にして急速な広がりを見せつつあり、それならではの意義とともに、いくつもの問題点や検討課題が次第に明らかになってきている。本講義では、「私」の実質として主観的に体験される自我心理が心理主義に回収されていくことの問題を、社会学的視点から批判的に問題化してみたい。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

大規模講義ではあるが、受身の姿勢ではなく、教員とともに行き戻りつしながら、ともに問題を考えてもらうことを望んでいる。知識のパッケージではなく、想像力を働かせることによって私たち自身の日常生活を捉え返す視点を探るつもりで臨んで欲しい。

### 評価方法・基準

\* 筆記試験：定期試験として実施

\* 日常点：加味する

出席はとらない。中途のレポート<30%> + セメスター末レポート(4000字以上) <70%> の割合で評価する。なお、評価基準等については、種々の説明とともに最初の時間に述べるので、必ず出席のこと。

### 講義スケジュール

講義の主題は次の3点を予定している。(1)心理主義とは何か。学問的心理主義と日常的心理主義傾向。その性格、特徴、歴史、帰結、等(2)心理主義の問題点。心理主義はなぜ問題なのか。心理主義を超えるための方途は何か等。(3)心理主義の社会的背景。日常生活の管理化の浸透(管理社会化)とその影響等。なお、上の「評価方法・基準」に記したように、主題の区切りで感想などを小レポートとして書いてもらい、レスポンスを返すことを考えている。

### テキスト

なし。レジュメ・資料などは必要に応じて配布する。

### 参考書

講義の中で適宜紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

児童青年の心理 S  
児童福祉論 S  
児童青年の心理 SG

11409

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 加藤 直樹

#### 講義内容・テーマ

本講義では、児童心理学、青年心理学の基本を講義する。なおこれに加えて、児童福祉について母子保健、障害児福祉を中心に解説する。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

随時小テストを行う

#### 評価方法・基準

\*筆記試験：定期試験として実施  
試験を行うと共に小テスト結果を加味する

#### 講義スケジュール

- § 1 乳幼児の発達
  - § 1.1 乳児期の発達(1)
  - § 1.2 乳児期の発達(2)
  - § 1.3 1歳児の発達
  - § 1.4 2歳児の発達
  - § 1.5 3歳児の発達
  - § 1.6 4歳児の発達
  - § 1.7 5歳児の発達
- § 2 児童・青年の発達
  - § 2.1 学童期の発達
  - § 2.2 思春期の発達
  - § 2.3 青年期の発達
- § 3 子育てと児童福祉
  - § 3.1 生まれる前から始まる母子保健
  - § 3.2 乳幼児健診・相談
  - § 3.3 障害児の早期発見・対応
  - § 3.4 子育て支援と保育
  - § 3.5 子ども - 家庭 - 学校 - 地域

#### テキスト

特に設けない

#### 参考書

講義の中で紹介する

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

児童福祉論 S  
 児童福祉論 S  
 児童福祉論 SG

11271

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 野田 正人

講義内容・テーマ

児童福祉は、最近では「子ども家庭福祉」とも呼ばれ、社会福祉分野の重要な一領域である。特に子どもの権利を視野に、子どもの福祉に関するさまざまな制度や施策を理解すると同時に、その実現のためのソーシャルワークをも理解することが必要である。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会福祉士の基本分野のひとつであり、児童に関する専門職としての基礎を学ぶものであるため、教養レベルではないのでこころして受講されたい。

評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施

中間のレポート提出を求め、それと定期試験で評価し、日常点を加味する。

欠席を理由に不合格とはしないが、原則として毎回コミュニケーションカードによるコメントを求め、日常点として扱う。

講義スケジュール

- 第1回 子ども家庭福祉の原理
- 第2回 子どもの権利の系譜
- 第3回 子どもの権利条約
- 第4回 日本の子どもの課題
- 第5回 子ども家庭福祉の施策
- 第6回 子ども家庭福祉の実施体制
- 第7回 児童福祉法
- 第8回 分野別の課題(子育て支援)
- 第9回 分野別の課題(健全育成)
- 第10回 分野別の課題(自立支援)
- 第11回 分野別の課題(児童虐待)
- 第12回 分野別の課題(非行)
- 第13回 分野別の課題(ひとり親)
- 第14回 子ども家庭福祉の専門職
- 第15回 子ども家庭ソーシャルワーク

テキスト

高橋重宏・才村純編著 野田正人他著『子ども家庭福祉論』建帛社 / 生協扱い

参考書

峯本耕治『子どもを虐待から守る制度と介入手法』明石書店 2001 他  
 厚生統計協会『国民の福祉の動向』2002

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

厚生労働省 ホームページ  
 外務省 条約・人権のホームページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 野田 正人

講義内容・テーマ

司法福祉は、司法を通じて福祉課題を解決しようという営みであり、政策から臨床技術を含む。従来は少年非行問題を中心に研究が進んできたが、今日では福祉全般における法的手続きの課題が大きくなり、家族介入や権利擁護などの分野でも必要とされるようになってきている。本講ではその流れを受けて、非行にとどまらない分野での取り組みに言及する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

小課題と最終レポートによる。  
原則毎回のコメントを求める。

講義スケジュール

- 第1回 司法福祉の概念と定義
- 第2回 司法手続の概要
- 第3回 司法福祉の対象
- 第4回 司法に関わる福祉課題(親族)
- 第5回 司法に関わる福祉課題(夫婦と子ども)
- 第6回 司法に関わる福祉課題(児童虐待)
- 第7回 司法に関わる福祉課題(地域福祉権利擁護事業と成年後見)
- 第8回 少年保護制度と少年法
- 第9回 少年法と児童福祉法
- 第10回 非行へのまなざし
- 第11回 非行を見分けること
- 第12回 非行を克服すること
- 第13回 非行を罰すること
- 第14回 被害者を支えること
- 第15回 まとめ

テキスト

指定しないが、六法は準備されたい。

参考書

司法統計年報(家事・少年)、犯罪白書、警察白書、厚生労働白書など。  
加藤・野田・赤羽『司法福祉の焦点』ミネルヴァ書房、  
山口幸男『司法福祉論』ミネルヴァ書房

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

法務省、最高裁、警察庁、日本弁護士連合会などのホームページ

その他



授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 柳澤 伸司

講義内容・テーマ

現代の市民社会に不可欠なメディア。環境や権力の監視とそれを伝える機能はジャーナリズムの本質である。何を伝え、何を言わなければならないか。現代社会におけるジャーナリズムの役割はますます重要になってきている。本講義では主として日本におけるジャーナリズムの機能・役割と責任、言論・表現の自由とそれをめぐる歴史・現状などについて多面的に考察する。時事的・実際的な問題を取り上げながらジャーナリズムについて考える。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

一方的な講義ではなくテーマに関わって受講者の発言や意見を求めながら授業を進めたい。時事的なテーマによっては内容の変更もある。レジュメ・資料等の配布物は授業時(教室)以外では配布しない。

評価方法・基準

\* レポート: 試験に代わるレポートとして実施  
 評価は試験に代わるレポート(4000字以上)。ジャーナリズム論の評価に関わるレポートの課題・評価基準等、詳細な執筆要領とレポート評価点票を最初の授業時に配布し説明する(この評価点票がないとレポートの評価点が下がる)ので必ず出席して受け取ること。なお、この評価点票の配布は第3回目までの授業時までとし、それ以降の配布は原則として行わない。

講義スケジュール

基本的に以下の流れに沿って授業を進めるが、ゲストスピーカーの都合により内容の変更などもありうるので、その点は了解の上受講してほしい。

- 第1回 はじめに 授業の進め方と評価について(重要な説明事項があるので受講者は必ず出席すること)
- 第2回 ジャーナリズムとジャーナリストを考える
- 第3回 報道メディアの特色/歴史的視点(1)
- 第4回 報道メディアの特色/歴史的視点(2)
- 第5回 ジャーナリズムのアキレス腱?
- 第6回 報道システムの構造的問題
- 第7回 報道倫理はどうなっているか
- 第8回 放送ジャーナリズムの課題と可能性(放送記者によるゲストスピーカーを予定)
- 第9回 取材のプロセスをめぐって
- 第10回 メディアが作り出す報道被害/報道と人権の狭間で
- 第11回 権力とジャーナリズム(1)
- 第12回 権力とジャーナリズム(2)
- 第13回 新聞ジャーナリズムの課題と可能性(新聞記者によるゲストスピーカーを予定)
- 第14回 ジャーナリズムをどうするか?
- 第15回 まとめ

テキスト

特に使用しない。必要に応じてレジュメ・資料等を用意する。

参考書

門奈直樹『民衆ジャーナリズムの歴史』講談社学術文庫(2001)  
 その他、適宜紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

<http://www.ritsumeit.ac.jp/acd/cg/ss/views/>

その他

社会意識論 S  
社会意識論 S

12863

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 須藤 泰秀

講義内容・テーマ

人間・歴史・意識

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施  
期末試験による

講義スケジュール

人間は社会をどのように自覚し、科学的に解明しようとしてきたのか、このことを明らかにする。そのためにはまず、人間の意識の発生史まで逆上り、それ以降の意識発展の社会的性格を捉える。そのうえで、様々な時代の社会意識とそれらを作り出した社会の在り方との対応関係、また社会意識が社会変動に与えた影響を、具体例を観察しつつ社会学、経済学、哲学の境界領域において把握する。

週	テーマ	講義内容
1	ガイダンス	社会意識の論理的把握のために
2	脳と意識	脳のメカニズムと意識するという行為の特徴(1)
3	"	脳のメカニズムと意識するという行為の特徴(2)
4	意識の発生	原始人
5	"	現代人

( 以下省略 )

テキスト

なし

参考書

その度 紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会階層論 S 労働問題 S	14915
-------------------	-------

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 中井 美樹

### 講義内容・テーマ

本講では、現代社会における階層変動や社会移動をめぐる問題について、理論的・方法論的にアプローチし検討することを目的とする。具体的には、社会調査に基づく研究を用いながら、社会階層と職業、価値パーソナリティやライフスタイルなどのテーマに関して計量モデルを構築し、実証的に明らかにすることを試みる。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

### 評価方法・基準

\* 筆記試験：最終講義日試験で実施

\* 日常点：加味する

適宜、簡単なレポートを提出してもらう予定。期末試験とレポートによって評価する。

### 講義スケジュール

1. イントロダクション
2. 社会階層とは何か
3. 現代社会と階層分化、階層変動(1)
4. 現代社会と階層分化、階層変動(2)
5. 階層と市場、職業(1)
6. 階層と市場、職業(2)
7. 社会階層と価値意識(1)
8. 社会階層と価値意識(2)
9. 社会階層とジェンダー(1)
10. 社会階層とジェンダー(2)
11. 階層とライフスタイル・文化(1)
12. 階層とライフスタイル・文化(2)
13. 社会階層と再生産
14. まとめ
15. 試験

### テキスト

特に使用しない。

### 参考書

原純輔・盛山和夫、1999、『社会階層 - 豊かさの中の不平等』東京大学出版会  
盛山・原・海野・近藤・今田・高坂編、2000、『日本の階層システム』(全6巻)

東京大学出版会

富永健一、1979、『日本の階層構造』東京大学出版会

その他、講義中に紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 須藤 泰秀

### 講義内容・テーマ

社会科学とは何か？

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

産業社会学科3回生以上 / 人間福祉学科2回生以上

### 評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施

\*日常点:加味する

何回かの小レポートを提出してもらう。

### 講義スケジュール

社会科学の何たるかを古典から学ぶには、初めのうちは流読を薦めておきたい。内容に囚われず、形式を読み取ることが必要。

そのうえで、何ゆえかくかくの構成部分が取り上げられそれらが決められた手順で組み立てられざるを得なかったのか、構成諸部分それぞれの中がどう大別されて諸々のパラグラフが組み入れられ、これらがそこの順序に従って配列されざるを得なかったのか(だから小見出しが必要)、パラグラフ内のいろいろな文章がそのような文脈で述べられざるを得なかったのか、文章各々の中にしかじかの用語が何ゆえに取り入れられそれぞれの順番で並べられざるを得なかったのか、必要な事柄を漏らしていないのか、不必要な事項を盛り込んでいないのか等々、論文の中へ中へ「下向的に」検討してゆかねばならない。そして最後に構成部分、パラグラフ、文章、および用語の各々がいかなる認識論的カテゴリーあるいは論理学的カテゴリーとして位置付けられるのかを考える。以上が、論述形式を読むということの概略なのである。

何でそんなに細かいことを言うのかと疑問が出されそうだがこれが、対象の必然性を必然性に基づいて認識し必然的に説明する科学にとっての武器たる抽象力の発見、科学的方法の学習なのであって、科学にとっては実際に細かい詮索が肝心。論述内容だけを読んで済ませるとすれば、用語や文章や節などが前後していたとしても大人としての頭脳の持ち主であればそれを理解できるはず。何も好き好んで苦勞を背負い込むことはない。しかし一見、苦難に満ちたように思えるあの論文鑑賞法はほとんどが小、中学校での国語で習ったことの応用にしか過ぎないのではなからうか。元来科学論文というものは全体的に緊張感漲るべき性質のものであって、それはちょうど映画『アマデウス』の中で、ディサルリがモーツァルトの佳作に驚嘆しての台詞「あの音が一度でも、否、半度でも違っていたら曲全体が壊れてしまう」というのと全く同じなのである。

この授業は、社会科学の方法を学ぶための入門的なレベルで進めることにしたい。

### テキスト

エンゲルス著 大内兵衛訳『空想より科学へ』岩波文庫。

### 参考書

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

社会学講読 SA

14459

授業開講期間 後期単位数 2配当回生 3回生担当教員 須藤 泰秀講義内容・テーマ

社会科学とは何か？ 社会学講読 の続き。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

産業社会学科3回生以上 / 人間福祉学科2回生以上

評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施

\*日常点:加味する

何回かの小レポートを提出してもらう。

講義スケジュール

教室で指示する

テキスト

エンゲルス著 大内兵衛訳『空想より科学へ』岩波文庫

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

社会学史 S  
社会学概論 S

10370

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 佐藤 春吉

講義内容・テーマ

社会学を基礎づけてきた古典的な社会学者の社会学説を理解し、その重要概念や研究方法、社会学研究に立ち向かう考え方について学び、社会的思考のための基礎的な素養を身につけることを目標にする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会学を学ぶ学生にとっては必須の知識ともいえる事柄なので、軽視しないでプリントや参考書をもとに自主的に学習して欲しい。

評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施

\*日常点:加味しない

この講義は、基本的な知識の習得が肝心なので、重要事項が理解できているかを試験する。講義に出席し、プリントを読み、講義内容をしっかり理解していないと応えられないので、そのつもりで学習して欲しい。

講義スケジュール

本講義では、社会学の基本的な常識となる古典的な社会学の諸理論を歴史的な発展過程にそくして、その社会的背景、それぞれの学説を支える方法的な問題意識などにも留意しつつ概説する。

特に、重要なK.マルクス、G.ジンメル、E.デュルケム、M.ヴェーバーについてはやや詳しく検討する。

講義の流れは以下ようになる。

・社会学成立の背景;19世紀ヨーロッパの市民社会の危機と変容と社会思想ならびに社会科学の課題

・社会学の前史としての社会思想;近代市民社会の成立と啓蒙主義的市民社会論・社会学の生誕とその意味;資本主義の矛盾と啓蒙主義思想の破綻という時代状況に立ち向かう社会科学としての社会学、マルクス、スペンサー、コント(特にマルクスについてはやや立ち入って論ずる)

・社会学の確立、社会学の古典期の成果;19世紀末から生じた20世紀的な社会の構造転換と社会学の対象、方法の自覚的な仕上げ、ジンメル、デュルケム、ヴェーバー(なかでもヴェーバーを重視する)

・その後の展開と現代社会学;古典期以後の社会学の発展は極めて多彩、多様である。

時間的制約からきちんと論じることはできないが、トマス、シカゴ学派、マンハイム、ミード、パーソンズ、その後のさまざまな現代社会学の諸学派については、簡略な見取り図を提供し簡単な解説を行う。

授業の方法;配布するプリントをもとに講義形式で行う。

テキスト

テキストは特に指定しない。授業中にプリントを配付する。プリントは出席者にのみ配布する。ボックスは利用しないので前回欠席者も次回の授業に出席して受領して欲しい。

参考書

講義(プリント)で詳しい参考文献は提示するが、以下の参考書はあらかじめ購入し、参考にすると理解に役立つと思う。

新睦人他『社会学の歩み』有斐閣新書

同『社会学の歩み、パート2』有斐閣新書

那須壽編『クロニクル社会学』有斐閣選書

浜島朗他『社会学小事典』有斐閣

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

社会学理論 S	10377
社会学理論 S	

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 景井 充

### 講義内容・テーマ

社会学は、近代社会に生じるさまざまな諸現象に対する合理的認識を獲得するとともに、翻って社会に対する実践的態度決定および関与の可能性を追求するというモチベーションを持って始まり、現在もその営みは活発に続けられている。社会学の主要な一部である社会学理論は、そのようなモチベーションに基づきながら、近代社会をどのように捉え、どのような可能的態度を提示してきたかを了解してもらうことを目的とする。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

産業社会学科2回生以上 / 人間福祉学科3回生以上

講義は、オムニバスではなく積み上げ方式で行う。継続して出席しないと全体像が把握できなくなる恐れがあるので、注意のこと。

### 評価方法・基準

\* 筆記試験：定期試験として実施

\* 日常点：加味する

出席はとらない。レポートを日常点として評価し(30%)、これにセメスター末試験(70%)を加えて、最終的な評価とする。評価基準については、最初の時間に教場で述べる。

### 講義スケジュール

講義の主題とスケジュールの大枠は次の通り。講義の主題は、(1)まず、我々が生きている現代社会を理解するために、産業革命、宗教改革等以降西欧に始まった近代化の経過を整理する。(2)次いで、近代社会の特質を公共的社会空間と私的生活空間への分裂と捉え、両者それぞれの特質、両者の関係、および問題点、現段階における状況、などについて概観する。(3)最後に今後の展望に触れ、受講者に問題意識を深めてもらう機会としたい。以上3主題を順に述べる。なお、(2)が終わった段階でレポートを書いてもらい、(3)の後にレスポンスを返す時間をとる。

### テキスト

なし。レジュメ・資料などは必要に応じてプリントし配布する。

### 参考書

講義の中で必要に応じて紹介・指示する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 福地 潮人

講義内容・テーマ

NPO法の施行から約4年を経た今日、NPO法人の登録件数もすでに1万件に達しようとしています。こういったNPOの数の増加にともない、全国各地で行政と市民のパートナーシップが盛んに唱えられ、数々の事業が生まれています。この講義では、ガバナンス(「協治」という新しい考え方を学びつつ、このガバナンスという視点から、市民と行政の新しい協働関係のあり方と問題点について、考察していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

ガバナンス論を理解するうえでは、政治学、行政学の基礎的知識が必要になります。基礎知識の習得を疎かにしない、意欲的な諸君の受講を望みます。また、積極的な発言、質問をこころがけてください。具体的な講義の進め方については第1回目のオリエンテーションで受講生の皆さんと協議して決めたいと思います。受講を希望される方は必ず第1回目に出席してください。なお、受講生数、受講生の希望によってはゼミ形式をとる場合がありますので、予めご了承ください。質問・討論以外の私語や、講義中の飲食は厳禁です。目に余る行為があった場合、以降の受講を認めない場合もありますのでご注意ください。

評価方法・基準

\* 筆記試験:最終講義日試験で実施

\* 日常点:加味する

小テスト×2(40%) + 期末考査(40%) + 平常点(出席、受講態度など:20%)。

ゼミ形式の場合:出席(3分の2以上:50%) + グループないしは個人発表(1回以上:50%)

なお、それぞれの比重(%)は仮のものです。

講義スケジュール

以下の内容については、今後変更する場合があります。

あらかじめご了承ください。

- 1.オリエンテーション
- 2.「国家の空洞化」と「市民社会の再生」
- 3.ガバナンス論の諸相
- 4.市民社会とガバナンス
- 5.小テスト
- 6.社会福祉のガバナンス:NPM論を中心に
- 7.社会福祉のガバナンス:福祉ミックス論
- 8.地域経済とガバナンス:地域通貨の可能性
- 9.地域経済とガバナンス:コミュニティ・ビジネスと社会的企業
- 10.グローバル化とガバナンス
- 11.小テスト
- 12.デモクラティック・ガバナンス論1:アソシエーションリズムの伝統
- 13.デモクラティック・ガバナンス論2:ハーストのアソシエーティブ・デモクラシー論
- 14.デモクラティック・ガバナンス論3:コーエン＝ロジャースのアソシエーティブ・デモクラシー論
- 15.期末考査

テキスト

とくに指定しませんが、講義中、下記の参考書を使用することがありますので、読んでおくことをお勧めします。

山本 啓 他編著「NPOと法・行政」、ミネルヴァ書房、2002年。

生協に発注しますので、お求めください。

参考書

上記を参照ください。



授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会経済学 S  
経済学 S

11418

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 篠田 武司

講義内容・テーマ

経済のグローバル化がいま大きく進んでいます。世界の各国は其中に不可避に巻き込まれています。そして、いま進みつつあるグローバル化は世界の各国に規制のない市場を求め、国家があるいは国際機関が経済や社会の問題に口をはさむことを嫌うという特徴をもっています。こうした流れを新自由主義といいます。では、具体的に新自由主義はどんな政策を掲げ、世界を変えていこうとしているのでしょうか。またそれは、どんな価値観にもとづいているのでしょうか。本講義は、グローバル化のもとでいま進みつつある経済的变化、そしてまたそれにとどまらず社会的変化がどのようなものであるかを日本に焦点を合わせつつ見ながら、そうした現実を経済学がどう見てきたのかについても考察していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

質問があれば、講義後、あるいは研究室に来られたい。

評価方法・基準

\* 筆記試験：定期試験として実施

\* 日常点：加味する

講義の内容が理解できているかを定期試験で考査する。

なお、2 - 3回、出席をとり評価に加味する。

講義スケジュール

1回 講義の目的

経済と社会

2回：市場と社会 - そもそも社会とはなにか？

3回：市場、政府、諸制度 - 市場は万能なのか？

経済・社会の戦後の歴史

4回：戦後高度成長と福祉国家の成立 - 経済・社会はどのように大きく変わったのか？

5回：理論的総括 - フォーディズム論、あるいはケインズ主義とは？

新自由主義と福祉国家

6回：新自由主義の経済学 - その主張の特徴は？

7回：新自由主義の価値観 - 自由とは？ 平等とは？

8回：日本の新自由主義 - デフレとは？ その対策の特徴は？

9回：構造改革と新自由主義 - 雇用は？ 福祉はどうなるのか？

グローバル化の時代

10回：グローバル化の現状 - 経済のグローバル化とは？

11回：グローバル化への懐疑論 - 本当に世界は一つになるのか？

12回：グローバル化がもたらすこと - 格差社会の拡大か？

これからの経済社会を考える

13回：「第三の道」とローカリズム - どのような道がありうるのか？

14回：人間中心の経済学を求めて - スウェーデンを例として

各講義で1回分とは限らない。

テキスト

テキストは使用しない。下の参考書を参照。

参考書

『21世紀の経済社会』（浅野、篠田編、八千代出版、2000年）

『現代市民社会とネオリベリズム』（篠田『さんしゃ』28号、1995）

『漂流する資本主義』（佐和隆光、ダイヤモンド社、1999）

『グローバル化とはなにか』（中谷他訳、法律文化者、2002年）

なお、その他適時提示する事とする。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

レジメ、資料は講義時のみに配布するものとする(必要なら直接に適時請求されたし)。

社会史 S  
社会史 S

14278

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 鈴木 栄樹

講義内容・テーマ

テーマ:世紀転換期の社会史 今から100年前、すなわち19世紀から20世紀に移り変わる時期、日本は資本主義化をとげるとともに、日清戦争から日露戦争を経て欧米列強に伍するまでになった。言い換えると、この時期は明治初年以來追っていた文明開化のターニングポイントでもあった。この世紀転換期に焦点をあてつつ、この前後の日本社会の特徴を多面的に見てみることで、現在に通じる問題点をも発見していきたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

産業社会学科3回生以上 / 人間福祉学科1回生以上

ある程度日本近代史に関する基本的な知識が必要になる。概説書などを通じて理解しておいてほしい。参考文献等については、授業のなかで指示するとともに、下記のサイトを参考にされたい。

評価方法・基準

\* 筆記試験:定期試験として実施

\* 日常点:加味する

定期試験期間中に論述式の筆記試験を実施する。ただし、試験内容については事前にある程度の指示を行う予定である。講義ノートなどの持ち込みは認めない。平常点については、受講人数の多寡によって決めたいが、できるだけ考慮する方向でいる。試験については、講義の理解度をみるとともに、オリジナルな思考力を期待している。

講義スケジュール

- 第1回 開講にあたって(授業の概観、受講に際しての説明や注意、その他)
- 第2回 幸徳秋水の「帝国主義」論(幸徳の著書「廿世紀の怪物帝国主義」を中心に「文明」観の転回をみる)
- 第3回 文明開化の問題性(1)(「公論」と「国威宣揚」という維新期の理念がどのような経過をたどったかをみる)
- 第4回 文明開化の問題性(2)(福沢諭吉における文明開化の論理と対外観をみる)
- 第5～7回 戦争と日本社会の変容(日清・日露の両戦争が日本社会および国民の意識に与えた影響をみる)
- 第8回 資本主義化と社会問題(1)(社会問題・労働問題がどのように認識されはじめたのかをみる)
- 第9回 資本主義化と社会問題(2)(社会政策思想がどのように社会問題・労働問題に対処しようとしたかをみる)
- 第10回 資本主義化と社会問題(3)(社会主義思想がどのように社会問題・労働問題に対処しようとしたかをみる)
- 第11・12回 資本主義化と政党(資本主義化にともない政党がどのような変貌をとげたのかをみる)
- 第13・14回 世紀転換期における国家・社会・個人(授業のまとめをおこないながら、いわゆる「大正デモクラシー」の時代を展望する)
- 第15回 閉講(定期試験期間中に試験を実施する)

テキスト

使用しない。適宜、プリントを配布する。

参考書

大久保利謙他編『日本歴史大系』近代、(山川出版社) 講義のなか、あるいは下記のサイトで随時紹介する

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

<http://www.kyoto-phu.ac.jp/labo/kyouyou/eijuszk/index.html> に講義関連の情報を掲載する

その他

直接(授業の終了後が望ましい)、あるいはメールなどを通じた質問を期待している。

社会思想 S  
社会思想 S

11045

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 笹田 恭史

### 講義内容・テーマ

17世紀の哲学者、スピノザの思想を、たんに哲学として読むのではなく、その『政治・神学論』などを利用して、スピノザの政治的な革新性について考え、今日の問題とつなげていくことをも目的とする。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義の小テスト、小レポートを実施していく。また哲学用語が出る場合も多いので受講者は積極的に質問すること。

### 評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施

\*日常点:加味する

試験と平常点によって評価する。

### 講義スケジュール

- 第1回 はじめに
- 第2回 スピノザについて
- 第3回 意識と身体(1)
- 第4回 意識と身体(2)
- 第5回 道徳と倫理(1)
- 第6回 道徳と倫理(2)
- 第7回 受動性と能動性
- 第8回 情動について
- 第9回 情動と力能
- 第10回 主権について スピノザとホッブス
- 第11回 国民と群衆
- 第12回 群衆と力能
- 第13回 国民と群衆 市民権について
- 第14回 国民と群衆(2) 難民について
- 第15回 まとめ

### テキスト

G.ドゥルーズ 鈴木雅大訳『スピノザ』平凡社ライブラリー

### 参考書

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

社会思想 S

14486

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 4回生

担当教員 笹田 恭史

講義内容・テーマ

現代の国際情勢を(帝国)として読み解いたネグリ=ハートの『帝国』を軸としながら、現在の社会情勢について考察する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義では、小テスト、小レポートを課すので積極的に出席すること。

評価方法・基準

\* 筆記試験: 定期試験として実施

\* 日常点: 加味する

試験と平常点で評価する。

講義スケジュール

- 第1回 はじめに
- 第2回 (帝国)の構成
- 第3回 管理社会における生政治
- 第4回 主権の移行
- 第5回 ネットワーク的権力
- 第6回 (帝国)の主権
- 第7回 帝国主義の諸限界
- 第8回 規律的統治性
- 第9回 生産の情報化
- 第10回 混合政体
- 第11回 対抗 (帝国)
- 第12回 抵抗、危機、変革
- 第13回 潜在性
- 第14回 (帝国)に抗する群衆
- 第15回 おわりに

テキスト

講義中に配布する。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

社会心理学 S	11975
社会心理学 S	

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 森田 浩平

### 講義内容・テーマ

意識を含む広義の人間行動を社会心理学的に理解しようとするためには、社会心理学の対象、方法、課題をはじめとして、社会心理学の基礎的な概念や理論について理解を得ることが必要である。当科目ではそのような理解を得ることを目標とし、テーマ「社会心理学の基礎」と置いて、人々の社会的行動の動機づけや態度、関係形成における対人認知や対人コミュニケーション、さらには集団形成を論点として取りあげ、それらの基礎的な理論と知見を講義内容とする。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

1初歩的な、しかし科学的な心理学の知識をもっていることが望ましいが、それを受講条件にはしない。とくに受講上の注意事項はない。

### 評価方法・基準

\*筆記試験・定期試験として実施

定期試験として筆記試験を実施する。評価は、試験の成績によってのみおこなう。試験は、上記の目標の到達度をみるためのものであり、できるだけ客観的な基準によってそれを見ることにしたい。

### 講義スケジュール

授業は以下のスケジュールに沿って進めていく予定である。

第1回 社会心理学への案内(テキスト第1章)

第2回～第7回 社会的欲求と社会的態度(テキスト第2章)

第8回～第10回 対人行動と対人関係形成(テキスト第3章)

第11回 集団の形成(テキスト第4章)

第12回～第15回 集合行動・集合現象と社会的相互作用(テキスト第10章)

### テキスト

森田浩平著「社会心理学」晃洋書房。図書館に所在。生協にて入手可能。

### 参考書

授業の途次、必要に応じて提示することにした。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 4回生

担当教員 森田 浩平

### 講義内容・テーマ

人びとの社会的行動、あるいは社会的現象に関する科学的な「ものの見方」のなかで、社会心理学的な「ものの見方」を理解することを当科目の目標とする。このような目標に到達するために、当科目では集団行動・集団的現象に注目し、その中のいくつかの個別的、具体的な論点、たとえば"集団間の社会的葛藤とその解決"をとりあげ、そこにみられる人びとの間の相互作用の過程 - 集団過程 - とその所産に関する理論と知見の検討を通して上記の目標を達成したい。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初歩的な、しかし科学的な心理学の知識をもっていることが望ましいが、それを受講条件とはしない。その他の受講上の注意事項はとくにない。

### 評価方法・基準

\*筆記試験・定期試験として実施

定期試験として筆記試験を実施する。評価は、試験の成績によってのみおこなう。試験は上記の目標の到達の程度を、できるだけ客観的な基準によってみる。

### 講義スケジュール

授業は、以下のスケジュールに沿って進めていく予定である。

- 第1回 ~ 第4回 集団移行と集団の発達(テキスト第5章)
- 第5回 ~ 第6回 集団における社会的影響(テキスト第6章)
- 第7回 ~ 第10回 集団のリーダーシップ(テキスト第7章)
- 第11回 ~ 第12回 集団の意志決定(テキスト第8章)
- 第13回 ~ 第15回 集団間関係(テキスト第9章)

### テキスト

森田浩平著「社会心理学」晃洋書房。図書館に所在。また生協にて入手可能。

### 参考書

授業の途次、必要に応じて提示することにした。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他



社会調査論 S 社会調査論 S	14625
--------------------	-------

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 中井 美樹

### 講義内容・テーマ

社会調査は、複雑で常に変化している社会や経済の諸現象をとらえるための重要な手段である。社会調査を行って実証研究をすすめるためには、基礎的な知識や技法の修得が不可欠である。本講では、社会調査全般に対する理解を深めることを目標にして、社会調査の種類と特徴を整理し、社会調査の準備・計画と実査についての注意点を検討する。また、もっとも一般的な社会調査の方法となっている調査票調査について、標本調査法、測定方法、調査票の作成法などを修得していく。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

産業社会学科2回生以上 / 人間福祉学科1回生以上

### 評価方法・基準

\* 筆記試験：最終講義日試験で実施

\* 日常点：加味する

適宜、簡単なレポートを提出してもらう予定。期末試験とレポートによって評価する。

### 講義スケジュール

1. イントロダクション
2. 社会調査の種類と特徴
3. 社会学と社会調査
4. 社会調査と理論
5. 社会調査の手順
6. 標本調査の考え方
7. サンプリングの方法(1)
8. サンプリングの方法(2)
9. 測定の基礎：変数の測定
10. 調査票の作成
11. コーディング
12. 調査票の集計 データの記述(1)
13. データの記述(2)
14. まとめ
15. 試験

### テキスト

特に使用しない。

### 参考書

参考文献は講義中に紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 藤島 寛

講義内容・テーマ

テーマ 動機づけ (motivation) の基礎と他者・集団・文化から生じる認知的動機の理解  
動機づけの基礎について概括した後、本講義では特に社会的動機に関わる認知、意思決定、態度変容をとりあげ、動機づけにおける社会的、文化的側面を考察する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

心理学に関わる基本的な知識については各自勉強しておくことを望む。  
講義に出席して、講義時に示される参考資料から「文化社会的対人関係論」について考察することを期待する。

評価方法・基準

\* レポート: 試験に代わるレポートとして実施

講義スケジュール

- 第 1回 動機づけの基礎と人間的動機づけ
- 第 2回 達成動機
- 第 3回 態度の斉合性理論 バランス理論による均衡と不均衡
- 第 4回 認知的不協和理論
- 第 5回 内発的動機づけと外発的動機づけ
- 第 6回 学習性無力感と自己効力感
- 第 7回 帰属過程
- 第 8回 自己非難的で否定的な帰属と他者に焦点づけられた否定的な帰属
- 第 9回 社会的促進と社会的手抜き
- 第10回 集団意思決定
- 第11回 社会的アイデンティティ
- 第12回 自己と文化 北山による文化的自己観の研究
- 第13回 成人期の発達課題に反映される社会からの要求
- 第14回 宗教心とケア
- 第15回 まとめ

テキスト

特に使用しない。

参考書

講義内容に応じて、参考文献は適宜紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

WWWページに掲載されている情報、及び内容は表層的であることが多く、そこから考察することにはなかなか結びつかないと考えます。

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 2回生  
担当教員 長澤 克重

講義内容・テーマ

この講義では、社会調査データを集計・分析する上で必要となる統計的分析方法の基礎を学ぶ。調査データを集計し要約的に記述する方法、母集団の特性値を推定する方法、母集団についての仮説を検定する方法について、理論的な基礎を講義するとともに練習問題を通じて実際にデータ分析を行ってみる。練習用のデータとして、受講生の友人・知人を対象に実施する簡単なアンケート調査の結果などを利用する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

産業社会学科2回生以上 / 人間福祉学科1回生以上

評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施  
\*日常点:加味する  
課題提出(30%)と筆記試験(70%)で評価する。

講義スケジュール

- 第1回 授業計画説明、統計的データ分析の考え方
- 第2回 標本と母集団、標本抽出法
- 第3回 標本データの記述(1) 統計変量、度数分布表とヒストグラム
- 第4回 標本データの記述(2) 代表値と散布度
- 第5回 データの分布 様々な分布、正規分布の性質
- 第6回 標本分布(1) 母数と統計量、標本分布、大数の法則と中心極限定理
- 第7回 標本分布(2) 標本平均の標本分布、標本比率の標本分布、小標本法
- 第8回 母数の推定(1) 点推定と区間推定、母平均の区間推定
- 第9回 母数の推定(2) 母比率の区間推定
- 第10回 統計的仮説検定(1) 仮説検定の考え方
- 第11回 統計的仮説検定(2) 母平均の差の検定、母比率の差の検定
- 第12回 統計的仮説検定(3) 独立性の検定、適合度検定
- 第13回 2変量間の関係(1) 相関関係
- 第14回 2変量間の関係(2) 回帰分析

テキスト

D.ロウントリー『涙なしの統計学』新世社  
授業中に配布するプリントを併用する。

参考書

授業中に適宜紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業には電卓( の計算のできるもの)を持参のこと。  
遅刻・欠席をすると以降の講義が理解困難になるので、各人注意すること。

社会発展論 S  
産業発達史 S

20248

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 青木 圭介

講義内容・テーマ

近代以降の社会発展について、生活様式と人間発達に焦点をあてて総合的に講義する。

特に、市民革命、産業革命と社会改良、重化学工業化とアメリカの生活様式、戦後改革と福祉国家、サービス経済化と福祉国家の危機について論じる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施

\*日常点:加味する

種々のレポートによる

講義スケジュール

テキスト

使用しない。

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会病理学 S  
社会病理学 S

15135

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 山元 公平

講義内容・テーマ

社会病理学は、犯罪、少年非行、自殺、貧困、家族解体、スラム、薬物・アルコール依存などの逸脱行動や社会生活上の障害にかかわる社会現象を扱う社会学の一分野である。しかも、これらの現象を単に表面的に記述するだけでなく、その現象の社会的・文化的な原因・背景や、それが社会にもたらす意味について説明を行おうとする学問である。講義では、いくつかの領域(自殺と少年非行)の実態の把握と、それらの背景の考察をおこない、合わせて、逸脱行動についての社会学的理論を概説する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義ノートは、板書された単語を断片的にとるだけではなく、後で文章化できるように工夫すること(つまりポイントをおさえること)。

評価方法・基準

\* 筆記試験: 定期試験として実施

\* 日常点: 加味しない

講義の内容に則して、論理的かつ具体的に書くこと。小論文形式であるので、一読明快が望ましい。

講義スケジュール

第1回: 若干の予備的考察: 社会病理学とは

I: 自殺研究の社会学的研究: デュルケームの業績をふまえて

第2回: 自殺研究の対象・課題・方法: 集団の自殺傾向と社会的原因による説明

第3回: 自己本位的自殺: 社会的統合力の弛緩と生の無意味感

第4回: 集団本位的自殺: 社会的統合力の過剰と自殺への誘導

第5回: アノミー的自殺: 規範の崩壊と欲望の肥大化(近代社会の診断としてのアノミー)

第6回: 日本の自殺: 全体傾向、戦前・戦中・戦後の自殺の推移

第7回: 日本の自殺: 年齢別、配偶関係別、職業別、地域別等

II: 少年非行

第8回: 少年非行とは: 非行、犯罪、問題行動等の用語解説

第9回: 統計からみた非行: 非行の増加、凶悪化、質的に変化についての検証

第10回: 非行の社会学的理論: 社会解体論

第11回: 非行の社会学的理論: 社会的学習論と緊張論

第12回: 非行の社会学的理論: 下位文化論

第13回: 非行の社会学的理論: 構造的非決定の視点と統制論

第14回: 非行の社会学的理論: 社会統制のプラスとマイナスの効果

第15回: 閉講

テキスト

特になし

参考書

E.デュルケーム『自殺論: 社会学的研究』中公文庫

R.K.マートン『社会理論と社会構造』(IV章とV章)みすず書房

T. ハーシ『非行の原因』文化書房博文社

佐々木嬉代三『社会病理学と社会的現実』学文社

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

## 社会福祉援助技術現場実習 SA～SJ

99092

授業開講期間 夏期集中

単位数 4

配当回生 3回生

担当教員

講義内容・テーマ

社会福祉の方法は、援助活動によって実践されることから、学生全員が希望に従って社会福祉施設・機関において社会福祉実習を行う。社会福祉実習中は、教員が実習先を訪れ現場の職員とともに社会福祉実習指導を行う。また、そこでの学生の姿を後の実習後指導に引き継ぐものとする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会福祉援助技術実習指導 を履修済みのこと。

評価方法・基準

実習記録によって評価する。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期 単位数 2 担当回生 2回生  
担当教員

#### 講義内容・テーマ

この科目は、3年次の「人間福祉演習」及び「社会福祉援助技術実習指導」を履修するための基礎学習を目的としたものである。また、3年次の「社会福祉援助技術現場実習」では、福祉の現場に入って自ら援助実践の経験を積む配属実習を行う。そのため、この授業では実習に向かう基本姿勢と問題意識の確立、福祉現場の現状に関する基礎知識の確立を目指す。また、現場への理解を深めるため、数回の見学実習を行う。

#### 受講生に関わる情報

社会福祉士課程の必修科目。履修しない場合は、3年次に「社会福祉援助技術現場実習」を履修できない。また、実習先分野を決めるための個別ヒアリングや見学実習を行うので、必ず出席すること。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

#### 評価方法・基準

\* 日常点:加味する  
見学実習のレポートやその他課題レポート、出席状況による総合評価とする。

#### 講義スケジュール

1. オリエンテーション
2. 見学実習(児童福祉施設)
3. 見学実習(高齢者福祉施設)
4. 見学実習(障害者福祉施設)
5. 見学実習のフィードバック
6. 分野別講義(児童福祉施設)
7. 分野別講義(障害児・者福祉施設)
8. 分野別講義(高齢者福祉施設)
9. 分野別講義(地域指定、社会福祉協議会)
10. 分野別講義(相談機関)
11. 実習先選定について
12. 実習先選定について
13. 擬似体験
14. 擬似体験
15. 介護実技

#### テキスト

テキストは使用しない。随時、プリントを配布する。

#### 参考書

必要に応じて紹介する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 3回生  
担当教員

#### 講義内容・テーマ

この授業は「社会福祉援助技術実習」「人間福祉演習」と連動して運営され、実習に向けた事前準備のための学習を行なう。実習先の現状や課題、機能、体制などの状況をより詳しく理解し、実習に対するイメージをより明確にしていく。特に実習先となる社会福祉の現場理解を重視した授業内容とするが、詳細については演習初日に説明する。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この授業は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前の演習であるため、毎回の出席を心掛けること。また実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。

#### 評価方法・基準

\* 日常点:加味する  
毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート等をもとに総合的に評価するが、詳細は演習初日に説明する。

#### 講義スケジュール

前期  
オリエンテーション - 社会福祉現場実習の位置付け / 社会福祉従事者の基本的態度・価値・技術 / 実習施設・機関についての基礎的理解 / 社会福祉現場実習の理解 / 社会福祉実習施設・機関のリサーチ報告 / 実習計画の作成(実習課題と計画) / 実習計画のプレゼンテーション / スーパービジョン

#### テキスト

別途指示する

#### 参考書

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他



授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 3回生  
担当教員

#### 講義内容・テーマ

この授業は「社会福祉援助技術実習」「人間福祉演習」と連動して運営される。実習体験をフィードバックし、実習計画や実習課題が如何に達成されたか、これからの課題は何かについて、個別あるいはグループ学習の中で報告・確認していく場とする。また自己の実習を振り返り、社会福祉現場の現状や課題、機能、体制などの状況をより深く理解するとともに、これからの社会福祉及び社会福祉従事者について考察する。詳細については授業初日に説明する。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この授業は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の振り返りであるため、毎回の出席を心掛けること。また実習報告会の開催や実習レポート集の作成等についても提起するので、毎週の演習以外にも時間を工面すること。

#### 評価方法・基準

\* 日常点:加味する  
毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート等をもとに総合的に評価するが、詳細は授業初日に説明する。

#### 講義スケジュール

後期  
オリエンテーション / 実習振り返り(実習体験の共有) / 実習レポートの作成と自己評価(実習課題と達成) / 実習報告プレゼンテーション / 今後の課題(研究課題・進路) / スーパービジョン

#### テキスト

別途指示する

#### 参考書

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

社会福祉援助技術論 S	10469
社会福祉援助技術論 SG	

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 小川 栄二

### 講義内容・テーマ

社会福祉援助活動(ソーシャルワーク)の総括原理を以下の内容で講義する。社会問題としての国民の生活問題、それに対応する社会福祉制度と社会福祉援助活動との関係を学ぶ。事例を通じて社会福祉課題と社会福祉援助活動の現状を理解する。社会福祉援助活動の体系と概要、社会福祉援助活動の場と展開、関連する方法・技法の基本的な知識と社会福祉援助活動の共通課題を学ぶ。ここでは、社会福祉が必要となる状況とそのための活動の姿を出来る限りリアルに理解することである。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

### 評価方法・基準

- \* 筆記試験: 定期試験として実施
- \* 日常点: 加味する

### 講義スケジュール

1. 社会福祉援助活動をとらえる視点
  - ・社会福祉援助活動を必要とする国民生活の現状と課題
  - ・社会保障制度、社会福祉制度と社会福祉援助活動との関係
2. 社会福祉活動における専門援助技術の体系と概要
  - ・社会福祉援助技術の概念と体系
  - ・直接援助技術の概要
  - ・間接援助技術の概要
  - ・関連援助技術の概要
3. 社会福祉援助活動の展開
  - ・対人活動とコミュニケーション
  - ・社会福祉援助活動の原則と倫理
  - ・社会福祉援助活動の共通事項と展開過程
4. 社会福祉援助活動の場と援助技術
  - ・社会福祉援助技術の対象者・利用者と問題の理解
  - ・相談機関、社会福祉施設などの社会福祉の現場
  - ・社会福祉援助技術を規定する要因

### テキスト

指定しないが

### 参考書

参考書 中央法規『社会福祉援助技術論』 植田章『社会福祉方法原論』法規文化社1998年 岡崎裕司他『社会福祉原論』高学出版2002年 その他授業中に紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

社会福祉援助技術論 S  
社会福祉援助技術論 SG

13779

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 小川 栄二

講義内容・テーマ

社会福祉援助活動と専門技術を以下の内容で深める。社会福祉援助活動の生成の過程と背景を歴史的に学ぶ。ソーシャルワーク論の理論動向代表的な理論の概要を理解する。国民の生活問題と要援護課題、社会福祉政策の動向、国民の運動、福祉従事者の主体的活動などの理解を通じて、専門性を規定する諸要因を検討し、専門技術のとらえ返しを行う。社会福祉専門職の専門性と倫理のあり方、社会福祉従事者が主体になった援助技術の研究方向と方法を考える

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

- \* 筆記試験：定期試験として実施
- \* 日常点：加味する

講義スケジュール

1. 社会福祉援助活動の歴史的展開
  - ・社会福祉援助活動の生成、専門化の始まり、専門的枠組みの形成のそれぞれの概要
  - ・生成・専門化から専門的枠組みの形成に至る歴史的・社会的背景
2. 社会福祉援助技術の近年の理論動向と理論モデル
  - ・理論の枠組み・理論モデルの概要
  - ・専門援助技術の統合化
  - ・各々の枠組み・モデルを生み出した社会的要請。
3. 日本における社会福祉援助技術論の動向
  - ・技術論と政策論
  - ・最近の「援助技術」を巡る議論の動向
4. 社会福祉労働における専門技術の意義と役割
  - ・社会福祉労働と専門技術
  - ・国民生活と専門技術
  - ・社会福祉労働と「援助技術」研究の視点と方法
5. 社会福祉専門職の自己・倫理・専門性
  - ・従事者が獲得すべき倫理と専門性・技術の関係
  - ・「技術」の担い手としての社会福祉労働者・従事者の自己と発達
  - ・倫理綱領の具体的内容

テキスト

指定しない

参考書

中央法規『社会福祉援助技術論』植田章『社会福祉方法原論』法規文化社1998年 岡崎裕司他『社会福祉原論』高菅出版2002年 植田章他編『社会福祉労働の専門性と現実』かもがわ出版2002年 伊藤淑子『社会福祉職発達史』ドモス出版1996年 その他授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

社会福祉援助技術論 S  
社会福祉援助技術論 S

12688

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 岡田 まり

#### 講義内容・テーマ

本講義では、社会福祉実践(ソーシャルワーク)の基礎を習得することを目的とする。講義内容は、ソーシャルワークの基本的な考え方(価値・倫理)や視点(モデル)、実践に必要な専門知識、専門技術についてである。ソーシャルワークは、個人、家族、小集団、地域、計画、調査、組織、運営管理とさまざまなレベルで展開されている。本講義では、ソーシャルワークの全体像を視野に入れつつ、個人、家族、小集団への支援、すなわちミクロレベルでの実践に焦点をあてる。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義対象は、社会福祉士課程に登録した学生である。講義の合間に演習活動を行うほか、随時、学習課題を課す。したがって受講生は、講義を聴くだけでなく、積極的に授業時間内外の課題に取り組むことが求められる。毎回の講義は、テキストの指定ページや配布文献を読んだことを前提として進めるため予習が必要である。

#### 評価方法・基準

\* 筆記試験：定期試験として実施

\* 日常点：加味する

評価の比重は、定期試験 50%、日常点 50%

日常点は、課題ミニレポートおよびミニクイズに基づいて評価する。

#### 講義スケジュール

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 ソーシャルワークの概要
- 第3回 ソーシャルワーク実践が行われる分野
- 第4回 ソーシャルワークの専門価値と倫理
- 第5回 ソーシャルワーカーの視点(モデル)と目標
- 第6回 ソーシャルワークの構成要素
- 第7回 ソーシャルワーカーの役割
- 第8回 ソーシャルワーカーの役割
- 第9回 ソーシャルワークの実践過程 : 問題発見、アセスメント
- 第10回 ソーシャルワークの実践過程 : 契約、計画、実行
- 第11回 ソーシャルワークの実践過程 : モニタリング、評価
- 第12回 ソーシャルワーカーとコミュニケーション
- 第13回 記録、スーパービジョン
- 第14回 自己覚知
- 第15回 閉講もしくは補講

#### テキスト

北島英治・畠田あけみ・高橋重宏・渡部律子編『ソーシャルワーク実践の基礎理論』有斐閣 2002年

#### 参考書

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

社会福祉援助技術論 S	12848
社会福祉援助技術論 SG	

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 岡田 まり

### 講義内容・テーマ

本講義は、社会福祉援助技術論Ⅲの続編で、社会福祉実践(ソーシャルワーク)の基礎を習得することを目的とする。本講義ではマイクロレベルでの実践(個人、家族、小集団への支援)のあり方とその重要性を踏まえたうえで、調査、地域、計画、組織、運営管理に関わるメゾおよびマクロレベルでのソーシャルワーク実践を取り上げる。問題の解決・発生予防のためには、さまざまなレベルでの取り組みが必要であることを認識し、状況に応じて適切な援助技術を選び、活用する力をつけたい。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会福祉援助技術論Ⅲの講義内容を習得していることが必要である。Ⅲの授業と同様に、受講生には講義を聴くだけでなく、積極的な態度で授業時間内外の課題に取り組むことを期待する。また、毎回の講義は、テキストの指定ページや配布文献を読んだことを前提として進めるため予習が必要である。

### 評価方法・基準

\* 筆記試験: 定期試験として実施

\* 日常点: 加味する

評価の比重は、定期試験 50%、日常点 50%

日常点は、課題ミニレポートおよびミニクイズに基づいて評価する。

### 講義スケジュール

- 第1回 オリエンテーションとマイクロレベルでのソーシャルワークの振り返り
- 第2回 福祉情報とは
- 第3回 福祉情報の収集と活用: 質的調査
- 第4回 福祉情報の収集と活用: 量的調査
- 第5回 地域援助とは
- 第6回 住民組織化
- 第7回 住民組織化、社会福祉計画
- 第8回 社会福祉計画
- 第9回 ソーシャルアクション
- 第10回 ソーシャルワーカーと政策
- 第11回 ソーシャルワーカーと組織
- 第12回 ソーシャルワーカーと組織
- 第13回 ソーシャルワークにおける利用者保護
- 第14回 ソーシャルワーカーの教育・研究・専門職団体
- 第15回 閉講もしくは補講

### テキスト

黒木保博・小林良二・坂田周一・森本佳樹編『ソーシャルワーク実践とシステム』有斐閣 2002年

### 参考書

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

## 社会福祉法制S

12580

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 山田 耕造

講義内容・テーマ

テーマ:戦後社会福祉法制の歴史と現行社会福祉法制

戦後の社会福祉法制の歴史を概観した後、現行の各社会福祉関係法の概説を行う。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施

期末試験による

講義スケジュール

1. 社会福祉の法と体系
2. 戦後社会福祉法制の展開
3. 社会福祉法
4. 児童福祉法
5. 母子及び寡婦福祉法
6. 身体障害者福祉法
7. 知的障害者福祉法
8. 精神保健福祉法
9. 老人福祉法
10. 介護保険法
11. 老人保健法
12. 生活保護法
13. その他の主要福祉関係法

テキスト

桑原洋子『社会福祉法制要説第4版』(有斐閣)ミネルヴァ書房編集部編『社会福祉小六法2003年版』(ミネルヴァ書房)

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

社会福祉論 S  
 社会福祉原論 SG  
 社会福祉論 S

12572

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 加藤 園子

講義内容・テーマ

社会福祉は(social welfare)と表現され、現代社会が作り出す多様な生活困難・生活問題に対する社会的対応策の一つであるが、それは各国の歴史的状況を反映しつつ歴史的・社会的実態として成立・発展してきたものである。とりわけ21世紀の高齢社会を迎え、人権・生存権保障としての社会福祉への期待と関心が高まっているが、わが国の社会福祉はその期待に応えているといえるのか。本講義では、生活問題解決のための政策・実践の体系である社会福祉の理念と現実の乖離を明らかにし、社会福祉が当面する課題と展望について論ずる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

現代の社会問題・生活問題の科学的分析力量を養うこと。

評価方法・基準

\*筆記試験：定期試験として実施  
 定期試験および随時実施する小テストなど、総合評価を行う。

講義スケジュール

- はじめに 「社会福祉をどうとらえるか」を明確にすること  
 —目的概念規定と実体概念規定—
1. 社会福祉の基本理念と社会的性格
    - 1) 戦後社会福祉論争の系譜と課題
    - 2) 社会福祉の二面性と社会福祉実践・労働の意義
  2. 社会福祉の分野と社会的規定要因
    - 1) 生活問題の質的・量的変化、民主主義の水準、福祉運動
    - 2) 社会福祉の対象の「対象化」
  3. 社会福祉対象の現実と制度・政策(「福祉三プラン」を中心に)
    - 1) 生活保護—生活保護「適正化」政策と「餓死事件」
    - 2) 高齢者福祉—「ゴールドプラン」と「介護保険」
    - 3) 障害者福祉—「障害者プラン」とノーマライゼーション
    - 4) 児童・母子福祉—「エンゼルプラン」と子育て支援
    - 5) 地域福祉・在宅福祉—在宅三本柱とホームヘルプ事業
  4. 社会福祉の供給主体多元化と実施体制
  5. 社会福祉の専門性と専門職制度確立の課題
  6. これからの社会福祉と展望
 

「社会福祉基礎構想改革」をめぐる動向と21世紀の課題

テキスト

テキストは使用しない。

参考書

講義内容の進展にあわせ、必要な参考文献については適宜紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

社会福祉士国家試験の取得を希望する受講生は、「現代と福祉」および本科目が必修であることに注意すること。

社会文化論 S  
社会行動論 S

12851

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 出口 剛司

講義内容・テーマ

批判理論における「理性による自然支配」テーゼを文化社会的な視点から多面的に検討していく。われわれは、日常生活のなかであまりにも自明なものとして「食べる」「におう」「見る」「読む」「聞く」「感じる」などの身体的行動を繰り返している。また同時にこのような身体的経験を、個人の感覚・感情・好みに左右される最も私的なものと考えている。それに対して社会学は、日常生活にあふれる、一見主観的で個人的な感性的経験を社会や歴史のなかで抑圧的あるいは拘束的に形成されてきたものとして捉える。本講義では、このような「個人」の身体的経験とそれを「社会」にまとめあげるメディアの効果を考察することによって、近代社会のしくみやその変容過程について明らかにしていく。またそれらの考察をふまえ、ポスト近代社会にふさわしい倫理のあり方について、受講生とともに考えてみたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

\*筆記試験:最終講義日試験で実施

\*日常点:加味する

講義終了後に簡単なコミュニケーションペーパーを作成してもらう。

講義スケジュール

視覚的近代の成立(身体社会学のために)  
抹殺された嗅覚(嗅覚とアロマ)  
抹殺された嗅覚(公衆衛生と視覚・嗅覚の交差)  
食と洗練された身体(食・このおぞましくも魅惑的なもの)  
食と洗練された身体(テーブルマナーとガストロノミー)  
食と洗練された身体(見えないコルセット=体重計)  
食と洗練された身体(見えない体重計と魂のコルセット)  
覆いつつ露わにする身体(ファッションと記号を求めるまなざし)  
覆いつつ露わにする身体(ドレスとスーツの誕生)  
文字と声(声の文化と文字の文化)  
文字と声(書物の出現と文字の想像力)  
読書と社会(宗教改革とナショナリズム)  
読書と社会(スキャンダルのまなざしと聖性剥奪)  
2003年度講義のまとめ  
最終講義日試験

テキスト

拙著『エーリッヒ・フロム:希望なき時代の希望』(新曜社)

徳永恂『フランクフルト学派の展開:20世紀思想の断層』(新曜社)

参考書

講義のなかで適宜紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他



社会保障論 S  
 社会保障論 S  
 社会保障論 SG

12355

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 芝田 英昭

講義内容・テーマ

社会保障の生成と発展

講義内容:現在、私たちの生活にとって社会保障は、必要不可欠な生活条件となっているが、その生成・発展の歴史を辿ることによって、社会保障の本質・機能・理念ついて学びたい。また、21紀における福祉国家再生のための「社会保障の在り方」を考えたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

毎回の講義の終わりに「授業アンケート」を実施しますが、これは講義内容への質問も兼ねていますので、疑問点があればどしどし質問を書いてください。

評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施

授業アンケートによって出席確認をするので、3分の2以上の出席がない者は、定期試験の受験資格はない。評価は、出席(50%)と定期試験(50%)によって行う。

講義スケジュール

1. オリエンテーション
  - ・社会保障のあゆみと運動の歴史
2. 社会保障前史
3. 第二次世界大戦後の社会保障の発展
  - ・社会福祉法成立がもたらすもの
4. 社会福祉基礎構造改革の狙いもの
5. 社会福祉基礎構造改革と社会福祉のあり方の変容
6. 社会福祉における公的責任の放棄
7. 公的責任を踏襲した社会福祉改革の視座
  - ・年金の変質経緯と将来像
8. 国民年金・厚生年金の問題点、確定拠出型年金「401K」の問題点
9. 公的年金制度の課題
  - ・高齢者医療構造改革のあるべき姿
10. 高齢者医療保障のあゆみ、介護保険の高齢者医療保険
11. 高齢者医療保険の観点
  - ・社会保障の財源を考える
12. 消費税はなぜ導入されたのか、福祉目的税化への道程
13. 消費税の福祉目的税化の狙い、社会保障の財源
  - ・福祉国家再生へのプログラム
14. 社会保障の統合化をめざす
15. 福祉国家再生の新社会保障

テキスト

芝田英昭編著『福祉国家崩壊から再生への道』あけび書房

参考書

坂寄俊雄『社会保障第二版』岩波新書  
 芝田英昭『これからの社会保障』かもがわ出版  
 広井良典『社会保障』岩波新書

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

社会倫理学 S  
社会学理論 S

14673

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 3回生  
担当教員 佐藤 春吉

### 講義内容・テーマ

私たちの人間社会には、多くの倫理的な問題が埋め込まれている。マクロなレベルでは近代社会の基本骨格を構成する自由、平等、友愛、所有といった社会的な倫理基準がある。これらの諸基準は、近代社会そのものの矛盾や現代社会のあらたな展開のなかでさまざまな問い直しを受けている。また、ミクロな日常的な行為のなかにも意図と結果の相違や自由と公正をめぐる問題が待ちかまえている。本講義では、出来るだけ社会学的な行為論や近代以降の社会の構造的な理解と重ね合わせながら、私たちの生活と社会における基本的な倫理問題を考えていきたい。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

### 評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施  
時々、簡単なレポートを提出してもらうつもりであるが、それらを加味しながら最終レポートを課す。  
評価出席、提出物、最終レポートを総合的に判断する。

### 講義スケジュール

まず、社会倫理とはなにか、どのように倫理問題と社会科学(社会学)がかかわっているのかを考える。そのために、はじめに社会的行為と倫理問題発生構造の構造を検討する。つぎに近代社会の基本倫理にかかわって現在盛んに議論をよんでいる自由論、正義論、公共性論といったテーマを中心に主要な見解を紹介しつつ、学生諸君と共に現代社会の倫理問題を考えていきたい。また、グローバル化の進展のなかで現代社会の新しい倫理的な問題が注目されるようになってきている。そのなかから、いくつかの問題を取り上げて検討するつもりである。現在の時点で一応以下のような内容と流れを考えている。

1. 社会的行為と倫理問題(社会学的行為論の背後にある倫理問題)
2. 歴史と倫理(歴史教科書をめぐる責任と倫理問題をてがかりに)
3. 日常的行為のなかの倫理問題(嘘は必要悪か?)
4. 近代社会の基本倫理の諸相  
自由、平等、友愛、所有の倫理基準と近代社会  
自由論/自由主義的諸価値のジレンマリバタリアニズムとロールズの正義論とその検討
5. 公共性(圏)論  
公共性とはなにか、ハンナ・アーレントとハーバーマスの公共性論を中心に
6. 応用問題としての社会倫理  
現代社会とアイデンティティ(消費社会、情報社会、サービス社会)  
不平等と差別  
家族と個人化

<授業の方法> 毎回レジュメを用意し、それをもとに講義する。問題を一緒に考えるような授業展開をこころがけたい。  
今回は適当な時期に『うその倫理学』の著者をゲストスピーカーに招聘したいと考えている。

### テキスト

テキストは特に指定しない。授業中にレジュメプリントを配布する。プリントは出席者にのみ配布する。  
参考書は講義で取り上げる。

### 参考書

詳しくは、授業時に指示する。嘘をめぐる日常倫理については亀山純生『うその倫理学』大月書店、正義論については、井上達夫『共生の作法』創文社、ロールズ『公正としての正義』木鐸社、同『正義論』紀伊国屋書店、公共性論については、ハンナ・アーレント『人間の条件』みすず書房、ハーバーマス『公共性の構造転換』未来社、斎藤純一『公共性』岩波書店は基本文献。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他



障害者とコミュニケーション S  
 障害者福祉論 S  
 障害者とコミュニケーション SG

13081

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 坂井田 美代子

講義内容・テーマ

私たちは日々コミュニケーションを重ねることで、人間関係を深め、広げ豊かに創りだしている。また、コミュニケーションを通して、様々な刺激を受け人間として発達をしてゆく。そのことは情報を共有することなくしては成り立たない。

聴覚に障害を持つ人たちは、この情報を共有することから遮断されることが多い、さらに聴覚障害に対する理解の不十分さやコミュニケーション手段方法等の相違からコミュニケーションの壁を作られやすく、人と人との係わり合いや社会参加に大きな制約を受けてしまう。

情報保障の課題は聴覚障害者の社会生活全般に関わる、このことの解決なしには聴覚障害者の暮らしは発展しない。

よって本講義では、聴覚障害についての理解を通して、聴覚障害者のコミュニケーション環境の歴史・現状・課題等について学ぶこととする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

本講義は、聴覚障害者のコミュニケーション環境を中心に展開する。

ビデオ教材・当事者の体験や自分の生活圏における聴覚障害者のコミュニケーション環境調査等を取り入れた講義を展開する。

また、自分にとってのコミュニケーションについても、具体的な課題として実感的に学ぶ姿勢を大切にすることを望む。

評価方法・基準

\* レポート: 試験に代わるレポートとして実施

\* 日常点: 加味する

最終試験レポート・ミニレポート・出席状況等を考慮し評価をする。

講義スケジュール

第1回 本講義のねらいと概要

第2回 コミュニケーションの意味と役割

第3回 聴覚生理と聴覚障害

第5回 ゲスト講師(障害の受容と手話)

第6回 言語習得と発達過程

第6・7・8回 聴覚障害者をとりまく社会環境  
 とうろう運動の歴史から

第8回 手話の成立と発展

第9回 ビデオ学習(ろう教育と手話)

第10・11・12回

聴覚障害者とコミュニケーション環境  
 労働・教育・参政権

第13回 聴覚障害者のコミュニケーション保障の歴史と課題(制度)

第14回 聴覚障害者とバリアフリー(調査)

第15回 ビデオ学習(コミュニケーション)

テキスト

最初の授業で提示する。

参考書

講義の進行にあわせて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

<http://www.jfd.or.jp>

他、講義時に紹介する。

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 水谷 裕

講義内容・テーマ

障害のある人とスポーツについて、講師の今までの体験と実践を中心にした講義および障害者スポーツ等のビデオ画像を通して、障害のある人の真の姿を理解し、障害のある人のスポーツ活動における、より良きパートナーとして、「障害のある人に何が出来るかではなく、どうしたら出来るか」を考える力を育てて欲しいと考えます。

テーマ「すべての障害のある人にスポーツを」

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

障害のある人のスポーツに興味を持ち、スポーツ活動を通して障害のある人の社会参加活動の理解ある良きパートナーを目指す学生なら誰でも歓迎します。

評価方法・基準

- \* 筆記試験・最終講義日試験で実施
- \* 評価は、期末試験においての獲得点にて行います。
- \* 他にレポートを提出してもらうことがありますが、評価対象にはしません。

講義スケジュール

- 第1回 小レポート「障害のある人とスポーツ」について、ビデオ
- 第2回 講義「わが国における障害のある人の実態(人数・傾向等)と福祉の概要(戦後の歴史等)」、ビデオ
- 第3回 講義「障害について(原因・病状等)」、ビデオ
- 第4回 講義「障害を考える(意味・とらえ方等)」、ビデオ
- 第5回 講義「障害の受傷時期による相違(葛藤・受容・心理)」、ビデオ
- 第6回 講義「障害のある人との関わるための留意点(言葉づかい・態度・考え方等)」、ビデオ
- 第7回 講義「障害のある人とスポーツ(スポーツ観・残存能力・訓練との相違等)」、ビデオ
- 第8回 講義「障害のある人に何故スポーツ?(運動は動物存在の基礎条件等)」、ビデオ
- 第9回 講義「障害者スポーツの歴史(時代的背景等)」、ビデオ
- 第10回 講義「障害者スポーツの組織(施設・団体等)」、ビデオ
- 第11回 講義「障害のある人のスポーツ権(背景にある みんなのスポーツ運動等)」、ビデオ
- 第12回 講義「障害のある人がスポーツをする意義(身体的・精神的等)」、ビデオ
- 第13回 講義「障害のある人のスポーツを行うにあたって(阻害要因・視点等)」、ビデオ
- 第14回 講義「障害のある人や家族の願い(人間的平等・発達保障等)と今後の課題(指導者・環境・現状把握等)」、ビデオ
- 第15回 講義 最終講義試験

テキスト

- \* 特に決まったテキストは使用しません。
- \* 適時、コピー等を配布します。

参考書

- \* 「障害者スポーツ」日本リハビリテーション医学会スポーツ委員会編集、医学書院発行
- \* 「障害者とスポーツ」芝田徳造著、文理閣発行
- \* 「身体障害者のスポーツ指導の手引き」(財)日本障害者スポーツ協会編集、株式会社ぎょうせい発行

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

- \* (財)日本障害者スポーツ協会WWWページ
- \* 京都障害者スポーツ振興会WWWページ
- \* 全国車いす駅伝競走大会WWWページ
- \* その他、障害者スポーツ関係WWWページ多数あり

その他

\* 京都障害者スポーツ振興会発足時(1971年11月)より活動に参加し、以後、障害のある人のスポーツ活動の普及・振興にかかわっています。

障害者福祉論 S

14371

障害者福祉論 S

障害者福祉論 SG

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 峰島 厚

講義内容・テーマ

障害者福祉の現代的な課題は、「同一年齢の他の国民と同等の生活・権利の保障」というノーマライゼーション理念を具体的に保障していくことにある。この点から授業では、現代の障害者問題と課題を中心に展開する。

具体的には、現代的課題へ到達点(歴史的な変遷)をもとに、現代の制度・政策理念を学習し、2003年度から実施される新たな支援費制度も検討したい。さらに今後の地域生活支援の課題についてもともに考えたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

障害者福祉の入門・基礎的な知識については、授業のはじめに展開するが、テキストの事前学習に期待したい。なお現代の支援費制度に関しては、主にテキストを使用する。

評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施  
期末試験等により評価する。

講義スケジュール

- 1回 はじめに - 現代の一般的な障害・障害者観の変革課題
- 2 - 4回 障害者福祉の基礎的知識
  - 1) 障害とは、障害者人口 2) 障害者に関する法制度 3) 障害者に関する諸サービスの体系と内容
- 5 - 8回 障害問題と障害者観の変遷
  - 0) 障害者問題とは 1) 障害者差別の始まり 2) 同情・保護・憐れみの時代 3) 劣等処遇・隔離収容・分類処遇 4) 社会防衛的保護 5) 「能力」主義と障害者施策
- 9 - 12回 現代における障害者福祉の理念をめぐる
  - 1) ノーマライゼーションと障害者の権利宣言 2) 国際的な障害者権利保障運動にみる自立観、障害観等の変革 3) 日本における障害者権利保障運動にみる発達観等の変革 4) 社会福祉基礎構造改革にみられる障害者観
- 13 - 14回 地域生活支援の課題
  - 1) 自己実現をめざす過程への援助とは 2) 支援費制度の課題 3) 三つの世界の保障(日中における仕事の保障、住まいでの暮らしの保障、休日等の生涯学習の保障)
- 15回 予備

テキスト

峰島厚「転換期の障害者福祉」全障研出版部、峰島・白沢・多田・塩見編著「支援費制度活用のすべて(仮題)」全障研出版部(4月刊行予定)

参考書

秦安雄、鈴木勉、峰島厚「障害者福祉学」全障研出版部

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

とくに指定しない。

その他

なし

消費者環境論 S 現代消費論 S	12282
---------------------	-------

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 竹濱 朝美

講義内容・テーマ

テーマ:消費者教育としてのマーケティング知識、および消費生活論。

主な内容:

- 1)消費者保護政策の基礎知識を獲得する。
- 2)マーケティングの基礎知識、消費生活との関わりを理解する。
- 3)消費生活問題の事例分析  
食品の安全性と有機農産物表示、  
健康食品の表示制度、  
遺伝子組み換え食品と表示制度  
環境保全とグリーン・コンシューマー

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

授業中に配布する資料は、理解を助けるための補助資料である。  
統計および事例について、補助資料を配付するので、毎回持参すること。

評価方法・基準

- \*筆記試験:定期試験として実施
- \*日常点:加味しない

講義スケジュール

- 1)消費者主権、消費者の権利と利益、消費者行政の機構、消費者保護関連法。
- 2)消費者法1:消費者取引の適正化、消費者契約法、クーリングオフ。
- 3)消費者法2:安全性の確保と被害救済、安全にかかわる法律と制度、製造物責任法。
- 4)消費者法3:信頼できる情報の確保、景品表示法、表示関係の法律、自主規制。
- 5)消費者法の基礎のまとめと練習問題。
- 6)マーケティングと消費者1:製品戦略、製品差別化、市場細分化、
- 7) 続き:製品ライフサイクル、ポジショニング。
- 8)マーケティングと消費者2:ブランド戦略、ブランド・イメージの活用、認知度。
- 9) 続き:ブランド戦略の事例分析
- 10)マーケティングと消費者3:価格戦略、ブランド戦略を通じた価格戦略。  
続き:競争維持と独占禁止法、再販売価格維持行為。
- 11)環境保全と消費者:環境配慮製品のマーケティング、  
環境配慮製品のマーケティングの事例分析  
環境広告と表示規制、環境広告の問題点
- 12)環境に配慮したライフスタイル  
グリーン・コンシューマー、消費生活における環境負荷。
- 13)食品の安全性と表示  
健康食品の表示制度
- 14)有機農産物の表示とマーケティング
- 15)遺伝子組み換え食品と表示制度

テキスト

- 1)及川・森島監修・国民生活センター編「消費社会の暮らしとルール:変貌する社会と消費者」中央法規、2000年。
- 2)鈴木深雪「消費生活論・消費者政策」尚学社、1999年。  
消費生活の諸問題と消費者保護 政策を簡潔に論述した文献。

参考書

- 1)松村晴路「消費者主権と消費者法」嵯峨野書院、2001年。消費者法の参考書。
- 2)日本生活協同組合連合会「はやわかり食品の安全ブック」コープ出版、2000年。  
食品の安全性について。
- 3)竹濱朝美「環境配慮製品の広告表示とISO14021」立命館産業社会論集、37巻2号。2001年。  
環境広告に関する資料。
- 4)柏尾昌哉編「現代社会と消費者問題」大月書店、1995年。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

授業中に指示する

その他



授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 3回生  
担当教員 長澤 克重

### 講義内容・テーマ

インターネットを始めとする情報インフラの整備が進展し、社会的コミュニケーションのあり方、経済活動、社会活動に大きな変革が生じている。経済活動においては電子商取引の普及が進み、ビジネスの方法、企業組織、流通構造、産業構造も変わりつつある。

この講義では経済活動面の変化の実態を理解しつつ、電子商取引を支える技術的基盤の仕組み、社会制度面で必要となる環境整備の課題等について考察する。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

通信ネットワークやセキュリティについて、入門レベルでの技術的内容も取り扱う。講義では参考となるWebページを随時紹介するが、自分からも進んでネット上の資料を検索してみよう。

### 評価方法・基準

- \* 筆記試験：定期試験として実施
  - \* 日常点：加味する
- 課題提出(20%)と筆記試験(80%)によって評価する。

### 講義スケジュール

- 第1回 インTRODクシヨン 社会の諸分野で進む情報化、情報経済とは？
- 第2回 電子商取引(EC、Electronic Commerce)とは何か、ECの様々なフェーズ、市場規模
- 第3回 企業・消費者間(BtoC)のEC(1): BtoCの実例、ユーザー像と事業者像
- 第4回 企業・消費者間(BtoC)のEC(2): メリット・デメリット、様々なビジネスモデル、発展に向けた課題
- 第5回 企業間(BtoB)のEC(1): 企業活動の情報化、インターネット上でのBtoBの実例
- 第6回 企業間(BtoB)のEC(2): EDIとCALS
- 第7回 ECの技術的基盤(1): 情報処理システムの変化
- 第8回 ECの技術的基盤(2): 通信ネットワークの構成とネットワーク技術
- 第9回 ECの技術的基盤(3): インターネットの仕組み
- 第10回 ECの技術的基盤(4): セキュリティ技術、暗号化と認証
- 第11回 電子決済システム 電子マネーの諸形態
- 第12回 デジタルエコノミーと経済法則の変化
- 第13回 ECと消費者保護、個人情報保護
- 第14回 ECの発展に伴う取引形態の変化
- 第15回 IT経済がもたらすもの

### テキスト

特定のテキストは使用せず、授業中に配布するプリント・資料を用いて講義する。

### 参考書

井上英也『エレクトロニック・コマース入門』日本経済新聞社  
篠崎彰彦『IT経済入門』日本経済新聞社、日経文庫ベーシック  
尾家・後藤・小西・西尾『インターネット入門』岩波書店、岩波講座・インターネット第1巻

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

電子商取引推進協議会 <http://www.ecom.or.jp/>

### その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 上出 浩

### 講義内容・テーマ

「ユビキタス・ネットワーク」へと変遷していく中で、ネットワークを単なる受動的な情報源としてとらえるのではなく、情報の発信やそのやりとりを含めたコミュニケーション・ツールとして活用していくことが求められている。本講義では、この中で必要な情報処理の実践として、情報倫理等も学習しながら、情報を発信及びコミュニケーションの場としてのWebページを作成し、公表する。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

情報リテラシーを受講し、Windowsの基本的知識、操作(特にファイル操作)を習得していることが前提となる。必要最小限の解説は行うが、テーマに合わせ各自がページを作成する形態であるため、自らペース配分を考え、制作を進めていく必要がある。

### 評価方法・基準

\* レポート: 試験に代わるレポートとして実施  
\* 日常点: 加味する  
作成し公開されたWebページ及びそのプレゼンテーションに加え、出席、平常点、Webページ計画書による総合評価とする。

### 講義スケジュール

以下に示すのは、予定である。受講生のスキル・レベル、到達度により必要に応じ調整を行う。

- 第1回 : オリエンテーション、Windowsおさらい。
- 第2回 : ネットワークの基礎知識、情報収集のテクニック。
- 第3回 : 情報収集と整理。計画書提出。
- 第4回 : 計画書修正と情報収集。
- 第5回 : HTMLの基本とWeb Page作成方法。
- 第6回 : 作成。
- 第7回 : 作成。
- 第8回 : 中間チェックと修正。
- 第9回 : 作成
- 第10回 : 作成。
- 第11回 : アップ・ロードと公開。
- 第12回 : 修正。
- 第13回 : プレゼンテーション。
- 第14回 : プレゼンテーション。
- 第15回 : まとめ。運営方法。

### テキスト

指定しない。必要に応じ講義中指示する。

### 参考書

見やすく使いやすいと思うHTMLタグなどについての参考書があると良い。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

講義中紹介する。

### その他

全て実習形式で行うため、欠席や遅刻は厳禁である。スケジュールより遅れた部分については、講義外で補わなければならない。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 上出 浩

### 講義内容・テーマ

「ユビキタス・ネットワーク」へと変遷していく中で、ネットワークを単なる受動的な情報源としてとらえるのではなく、情報の発信やそのやりとりを含めたコミュニケーション・ツールとして活用していくことが求められている。本講義では、この中で必要な情報処理の実践として、情報倫理等も学習しながら、情報を発信及びコミュニケーションの場としてのWebページを作成し、公表する。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

情報リテラシーを受講し、Windowsの基本的知識、操作(特にファイル操作)を習得していることが前提となる。必要最小限の解説は行うが、テーマに合わせ各自がページを作成する形態であるため、自らペース配分を考え、制作を進めていく必要がある。

### 評価方法・基準

\* レポート: 試験に代わるレポートとして実施  
\* 日常点: 加味する  
作成し公開されたWebページ及びそのプレゼンテーションに加え、出席、平常点、Webページ計画書による総合評価とする。

### 講義スケジュール

以下に示すのは、予定である。受講生のスキル・レベル、到達度により必要に応じ調整を行う。

- 第1回 : オリエンテーション、Windowsおさらい。
- 第2回 : ネットワークの基礎知識、情報収集のテクニック。
- 第3回 : 情報収集と整理。計画書提出。
- 第4回 : 計画書修正と情報収集。
- 第5回 : HTMLの基本とWeb Page作成方法。
- 第6回 : 作成。
- 第7回 : 作成。
- 第8回 : 中間チェックと修正。
- 第9回 : 作成
- 第10回 : 作成。
- 第11回 : アップ・ロードと公開。
- 第12回 : 修正。
- 第13回 : プレゼンテーション。
- 第14回 : プレゼンテーション。
- 第15回 : まとめ。運営方法。

### テキスト

指定しない。必要に応じ講義中指示する。

### 参考書

指定はしないが、見やすく使いやすいと思うHTMLタグなどについての参考書があると良い。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

講義中紹介する。

### その他

全て実習形式で行うため、欠席や遅刻は厳禁である。スケジュールより遅れた部分については、講義外で補わなければならない。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 上出 浩

### 講義内容・テーマ

「ユビキタス・ネットワーク」へと変遷していく中で、ネットワークを単なる受動的な情報源としてとらえるのではなく、情報の発信やそのやりとりを含めたコミュニケーション・ツールとして活用していくことが求められている。本講義では、この中で必要な情報処理の実践として、情報倫理等も学習しながら、情報を発信及びコミュニケーションの場としてのWebページを作成し、公表する。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

情報リテラシーを受講し、Windowsの基本的知識、操作(特にファイル操作)を習得していることが前提となる。必要最小限の解説は行うが、テーマに合わせ各自がページを作成する形態であるため、自らペース配分を考え、制作を進めていく必要がある。

### 評価方法・基準

\* レポート: 試験に代わるレポートとして実施  
\* 日常点: 加味する  
作成し公開されたWebページ及びそのプレゼンテーションに加え、出席、平常点、Webページ計画書による総合評価とする。

### 講義スケジュール

以下に示すのは、予定である。受講生のスキル・レベル、到達度により必要に応じ調整を行う。

- 第1回 : オリエンテーション、Windowsおさらい。
- 第2回 : ネットワークの基礎知識、情報収集のテクニック。
- 第3回 : 情報収集と整理。計画書提出。
- 第4回 : 計画書修正と情報収集。
- 第5回 : HTMLの基本とWeb Page作成方法。
- 第6回 : 作成。
- 第7回 : 作成。
- 第8回 : 中間チェックと修正。
- 第9回 : 作成
- 第10回 : 作成。
- 第11回 : アップ・ロードと公開。
- 第12回 : 修正。
- 第13回 : プレゼンテーション。
- 第14回 : プレゼンテーション。
- 第15回 : まとめ。運営方法。

### テキスト

指定しない。必要に応じ講義中指示する。

### 参考書

指定はしないが、見やすく使いやすいと思うHTMLタグなどについての参考書があると良い。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

講義中紹介する。

### その他

全て実習形式で行うため、欠席や遅刻は厳禁である。スケジュールより遅れた部分については、講義外で補わなければならない。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 上出 浩

### 講義内容・テーマ

「ユビキタス・ネットワーク」へと変遷していく中で、ネットワークを単なる受動的な情報源としてとらえるのではなく、情報の発信やそのやりとりを含めたコミュニケーション・ツールとして活用していくことが求められている。本講義では、この中で必要な情報処理の実践として、情報倫理等も学習しながら、情報を発信及びコミュニケーションの場としてのWebページを作成し、公表する。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

情報リテラシーを受講し、Windowsの基本的知識、操作(特にファイル操作)を習得していることが前提となる。必要最小限の解説は行うが、テーマに合わせ各自がページを作成する形態であるため、自らペース配分を考え、制作を進めていく必要がある。

### 評価方法・基準

\* レポート: 試験に代わるレポートとして実施  
\* 日常点: 加味する  
作成し公開されたWebページ及びそのプレゼンテーションに加え、出席、平常点、Webページ計画書による総合評価とする。

### 講義スケジュール

以下に示すのは、予定である。受講生のスキル・レベル、到達度により必要に応じ調整を行う。

- 第1回 : オリエンテーション、Windowsおさらい。
- 第2回 : ネットワークの基礎知識、情報収集のテクニック。
- 第3回 : 情報収集と整理。計画書提出。
- 第4回 : 計画書修正と情報収集。
- 第5回 : HTMLの基本とWeb Page作成方法。
- 第6回 : 作成。
- 第7回 : 作成。
- 第8回 : 中間チェックと修正。
- 第9回 : 作成
- 第10回 : 作成。
- 第11回 : アップ・ロードと公開。
- 第12回 : 修正。
- 第13回 : プレゼンテーション。
- 第14回 : プレゼンテーション。
- 第15回 : まとめ。運営方法。

### テキスト

指定しない。必要に応じ講義中指示する。

### 参考書

指定はしないが、見やすく使いやすいと思うHTMLタグなどについての参考書があると良い。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

講義中紹介する。

### その他

全て実習形式で行うため、欠席や遅刻は厳禁である。スケジュールより遅れた部分については、講義外で補わなければならない。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 寺尾 洋子

### 講義内容・テーマ

この講義ではC言語によるプログラミングの基礎を実習を通して学ぶ。C言語はオペレーティングシステムUNIX、さまざまなソフトウェアを記述している言語である。また、通産省が行っている情報処理技術者試験で採用されているプログラム言語でもある。C言語を学ぶことにより、コンピュータのしくみや活用法をより深く理解することを目指す。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

最低限必要なスキルとして、以下の3点を求める。

1. タッチタイピングができること
2. ファイル管理ができること(ファイルのコピー、削除、移動、ファイル名の変更)
3. 複数のウィンドウを切り替えて操作できること。

### 評価方法・基準

\* 日常点:加味する

平常点(出席10%、中間テスト15%、最終テスト15%、課題提出60%)で評価する。課題提出による評価に重きを置くので、毎週の予習復習など、自主的な学習姿勢を持つことが必要である。

### 講義スケジュール

- 第1回 講義計画説明、コンピュータスキルテスト
- 第2回 プログラミングの基礎1  
コンピュータのしくみ、ハードウェアとソフトウェア
- 第3回 プログラミングの基礎2  
問題解決のための3つの方法  
プログラム開発の流れ
- 第4～8回 C言語の基礎知識  
初めてのCプログラム  
変数とデータ型、演算子  
制御構造(条件分岐、繰り返し)  
ポインタと配列
- 第9回 中間テスト
- 第10～13回 C言語によるさまざまなプログラム  
成績並べ替え、うるう年判定、カレンダー、数当てゲームなど
- 第14回 プログラム発表会
- 第15回 最終テスト

### テキスト

結城浩 C言語プログラミングレッスン入門編改訂第2版 1998年 ソフトバンク 2000円

### 参考書

Cの絵本 (株)アंक 翔泳社  
パソコンプログラミング入門以前 伊藤華子 毎日コミュニケーションズ  
プログラミング言語C 第2版 B.W.カーニハン/D.M.リッチー著 石田晴久訳 共立出版

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

<http://www.ritsumeit.ac.jp/kic/-ytt06067/index-j.html>

### その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 上出 浩

### 講義内容・テーマ

アプリケーション・ソフトの受動的な使用にとどまらず、簡単なアプリケーション・ソフトの作成、すなわちプログラミングを通し、その基本的な仕組み、思想を学び、ITの積極的活用を探る。言語には、分かりやすく、広く使われている、Visual Basicを用いる。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

情報リテラシーを受講し、Windowsの基本的知識、操作(特にファイル操作)を習得していることが前提となる。

### 評価方法・基準

- \*レポート:試験に代わるレポートとして実施
  - \*日常点:加味する
- 講義中に作成したプログラム及び、最終レポート、平常点、出席点の総合評価とする。

### 講義スケジュール

以下に示すのは、予定である。受講生のスキル・レベル、到達度により必要に応じ調整を行う。

- 第1回 : オリエンテーション、Windowsおさらい。
- 第2回 : Visual Basicの基礎知識。
- 第3回 : プログラミング方法と、プロパティ、イベント。
- 第4回 : 画像の扱い方。
- 第5回 : おさらいと発展演習。
- 第6回 : 移動アニメーション、メソッド、タイマー。
- 第7回 : 入れ替えアニメーション、タイマーとタイミング。
- 第8回 : おさらいと発展演習。
- 第9回 : 四則演算、「+」。
- 第10回 : アルゴリズムの重要性、素数発生。
- 第11回 : 高速化と発想、配列。
- 第12回 : おさらい。
- 第13回 : スコープ、コントロール配列など。
- 第14回 : レポート作成。
- 第15回 : レポート作成。

### テキスト

講義中指示する。

### 参考書

必要に応じ講義中紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

必要に応じ講義中紹介する。

### その他

全て実習形式で行い、全てが積み重ねであるため、欠席や遅刻は厳禁である。遅れた部分については、講義外で必ず補わなければならない。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 鈴木 未来

### 講義内容・テーマ

テーマ: SPSSの利用による統計解析の基礎を身につける

今日の社会調査では大量のデータを収集する。社会調査で得られるデータはどれ一つとっても人間生活における社会的現実であり、ひとつひとつのデータがどのような社会的な意味をもつのかを検証することが、今日の社会問題の特徴を明らかにする上で重要な作業となる。この実習では、統計解析ソフトSPSSの利用方法を学ぶことで、大量のデータを処理する技術だけでなく、得られたデータひとつひとつの相関や散らばりなどの社会的な意味を探究する力を身につけることを目的としている。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

表計算ソフトの基本操作を身につけていることが、受講のための条件となる。

### 評価方法・基準

\* レポート: 試験に代わるレポートとして実施

\* 日常点: 加味する

### 講義スケジュール

- 第1回 インTRODクシヨン: 社会調査と統計解析
- 第2回 SPSSの入力方法
- 第3回 度数分布図とグラフの作成
- 第4回 記述統計とは
- 第5回 相関を調べる
- 第6回 正規分布とは
- 第7回 2群の平均値の差を検定する(t検定)
- 第8回 クロス集計
- 第9回 質的な変数の関連を調べる(二乗検定)
- 第10回 量的な変数の関連を調べる(相関係数)
- 第11回 多変量解析(1)標準化することの意味
- 第12回 多変量解析(2)重回帰分析の初歩
- 第13回 課題の作成(1)
- 第14回 課題の作成(2)
- 第15回 課題の作成(3)

### テキスト

使用しない。授業時のプリントを配布する。

### 参考書

室淳子・石村貞夫『SPSSでやさしく学ぶ統計解析』東京図書、1999

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

SPSSを使った作業が多いので、毎回出席のこと、やむをえない事情で欠席する場合は、各自自習したうえで、次回の授業に臨むこと。



授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 寺尾 洋子

### 講義内容・テーマ

この講義ではSPSSを学ぶことにより、社会調査等で得たデータを自分で解析する力を身につけることを目指す。SPSSは統計処理に特化したソフトウェアである。統計処理を行うソフトとしては表計算ソフトがよく使われるが、様々な統計的検定を行うにはSPSSを用いるほうが適している。その点で、卒論等で社会調査を実施することを計画している学生には身につけるべきスキルだと言えよう。

履修にあたって、社会統計学の履修を前提とするが、意欲のある者ならば参加して欲しい。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講するにあたって最低限必要なコンピュータスキルとして、以下の3点を求める。

1. タッチタイピングができること
2. ファイル管理ができること(ファイルのコピー、削除、移動、ファイル名の変更)
3. 複数のウィンドウを切り替えて操作できること。

### 評価方法・基準

\* 日常点:加味する

平常点(出席10%、中間期末テスト30%、課題提出60%)で評価する。筆記試験は行わない。なお、毎回実習を行い、課題提出を求めるので、遅刻・欠席は可能な限り避けること。それによる学習の遅れは自分で取り戻すことを原則とする。また、課題をこなすためには自習が必要になるので自主的な学習姿勢を持つことが必要である。

### 講義スケジュール

以下のような予定で実習を進める。

- 第1回 : 講義計画説明、コンピュータスキルテスト
- 第2回 : 記述統計量を求める
- 第3回 : データをグラフ化する
- 第4回 : 2群の差の検定を行う(T検定)
- 第5回 : クロス集計を行う
- 第6回 : 2群の関係を求める(相関と回帰)
- 第7回 : 群間の偏りを調べる( $\chi^2$ 検定)
- 第8回 : 群間の差を調べる(分散分析)
- 第9～14回 : 社会調査データをもとに、自分で分析方法を決めて分析を行い、レポートを作成する。

### テキスト

SPSSでやさしく学ぶ統計解析 室淳子、石村貞夫 東京図書 2200円  
必要に応じて、授業中にプリントも配布する。

### 参考書

データ分析はじめの一步 清水誠 1996 ブルーバックス  
クリティカル進化論 道田泰司・宮元博章まんが:秋月りす 1999 北大路書房

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

ytt06067@ss.ritsumeai.ac.jp

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 寺尾 洋子

講義内容・テーマ

この講義ではSPSSを学ぶことにより、社会調査等で得たデータを自分で解析する力を身につけることを目指す。SPSSは統計処理に特化したソフトウェアである。統計処理を行うソフトとしては表計算ソフトがよく使われるが、様々な統計的検定を行うにはSPSSを用いるほうが適している。その点で、卒論等で社会調査を実施することを計画している学生には身につけるべきスキルだと言えよう。

履修にあたって、社会統計学の履修を前提とするが、意欲のある者ならば参加して欲しい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講するにあたって最低限必要なコンピュータスキルとして、以下の3点を求める。

1. タッチタイピングができること
2. ファイル管理ができること(ファイルのコピー、削除、移動、ファイル名の変更)
3. 複数のウィンドウを切り替えて操作できること。

評価方法・基準

\* 日常点:加味する

平常点(出席10%、中間期末テスト30%、課題提出60%)で評価する。筆記試験は行わない。なお、毎回実習を行い、課題提出を求めるので、遅刻・欠席は可能な限り避けること。それによる学習の遅れは自分で取り戻すことを原則とする。また、課題をこなすためには自習が必要になるので自主的な学習姿勢を持つことが必要である。

講義スケジュール

以下のような予定で実習を進める。

- 第1回 : 講義計画説明、コンピュータスキルテスト
- 第2回 : 記述統計量を求める
- 第3回 : データをグラフ化する
- 第4回 : 2群の差の検定を行う(T検定)
- 第5回 : クロス集計を行う
- 第6回 : 2群の関係を求める(相関と回帰)
- 第7回 : 群間の偏りを調べる(χ<sup>2</sup>検定)
- 第8回 : 群間の差を調べる(分散分析)
- 第9～14回 : 社会調査データをもとに、自分で分析方法を決めて分析を行い、レポートを作成する。

テキスト

SPSSでやさしく学ぶ統計解析 室淳子、石村貞夫 東京図書 2200円  
必要に応じて、授業中にプリントも配布する。

参考書

データ分析はじめての一步 清水誠 1996 ブルーバック  
クリティカル進化論 道田泰司・宮元博章まんが:秋月りす 1999 北大路書房

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

<http://www.ritsumeai.ac.jp/kic/~ytt06067/index-j.html>

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 4回生

担当教員 坂田 謙司

### 講義内容・テーマ

今や、パソコンはネットワークと接続されて初めてその真価を発揮する。また、パソコンは単に情報を処理するだけでなく、研究や仕事などの成果あるいは自己を表現するためのツールとしても重要である。本講義では、基本的な操作方法から始め、ネットワーク利用に関する知識、WordとExcelの基礎とデータ連携させたレポート作成などを中心に、初心者でも理解できる内容を実習する。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

パソコン教室での実習が中心。遅刻・欠席は授業内容習得の妨げとなるので、自己管理が大切である。自己都合による遅れは、自身でカバーすること。また、ユーザーIDとパスワード管理を自己責任においてしっかりと行うこと。

### 評価方法・基準

\* 日常点:加味する  
出席点と課題の提出状況、最終課題により評価する。

### 講義スケジュール

- 第1回 インTRODクシヨン パスワードとセキュリティの重要性
- 第2回 Windows基礎1 ファイルとフォルダ 保存とバックアップ
- 第3回 Windows基礎2 日本語入力と簡単な文書作成 コピーと貼付
- 第4回 ネットワーク1 電子メールの作成、送信、受信、エラーメッセージの確認と対処
- 第5回 ネットワーク2 情報検索とセキュリティ
- 第6回 Word1 基本操作と保存
- 第7回 Word2 編集とレイアウト
- 第8回 Word3 ちょっとした応用(タブ、インデント)
- 第9回 Word4 図や画像の挿入
- 第10回 Excel1 基本操作と保存
- 第11回 Excel2 簡単な表作成と計算式
- 第12回 Excel3 関数を使った計算
- 第13回 Excel4 グラフの作成
- 第14回 Excel5 Wordとの連携(表とグラフの貼付)
- 第15回 最終課題

### テキスト

『Computer System textbook コンピュータ利用の基礎XP版 1基本操作とインターネット』コンピュータ教育工学研究所

『Computer System textbook コンピュータ利用の基礎XP版 2ワープロ・表計算・プレゼンテーション』コンピュータ教育工学研究所

### 参考書

適宜授業中に紹介

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

教員のホームページにリンク集を用意

### その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 4回生  
担当教員 寺尾 洋子

#### 講義内容・テーマ

電子メールやWorld Wide Web(WWW)などで自分の意見を発信する機会が増え、簡潔で明瞭な文章を書く技術は現代人に必須の能力となっている。この講義ではそのような情報発信を行うために必要な文章技術とコンピュータ技術を養う。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

最低限必要なスキルとして、以下の3点を求める。

1. タッチタイピングができること
2. ファイル管理ができること(ファイルのコピー、削除、移動、ファイル名の変更)
3. 複数のウィンドウを切り替えて操作できること。

#### 評価方法・基準

\* 日常点:加味する

平常点(出席10%、課題提出90%)で評価する。課題提出による評価に重きを置くので、自分のWebサイトを作成できなかった者は出席していても単位取得は難しい。なお、筆記試験は行わない。

#### 講義スケジュール

第1回 Windows NT基本操作、ワープロ、電子メール等の復習

第2回 Webサイトを評価する

第3回 Webサイトを評価する(各自発表)

第4回 Webページ制作のプロセスについて

第5回 HTML入門1

HTMLの構造と基本ルールの説明

第6回 HTML入門2

基本的なHTMLタグを使ってのサンプルページ作成

第7回 ~ 個人Webサイト制作

最終回 相互批評会

#### テキスト

学校で教わっていない人のためのインターネット講座 有賀妙子・吉田智子 北大路書房 1800円

#### 参考書

ノンデザイナーズ・ウェブブック John Tollett著 吉川典秀訳 毎日コミュニケーションズ 2900円

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

<http://www.ritsumeai.ac.jp/kic/-ytt06067/index-j.html>

#### その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生

担当教員 市川 正人

### 講義内容・テーマ

情報化社会において法が持つ意味を検討する。マス・メディアとの関わりを中心とするが、個人情報の保護、インターネットと法、情報公開も取り上げる。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

### 評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施

\*日常点:加味する

基本的には定期試験の結果に基づき評価するが、出席点等も若干考慮に入れる。

出席点等の比重は10%。

### 講義スケジュール

- 1 報道と人権(1) - 有名人の名誉・プライバシーの侵害
- 2 報道と人権(2) - 犯罪報道の犯罪
- 3 取材の自由(1) - 取材源の秘匿
- 4 取材の自由(2) - 国家秘密漏洩のそそのかし
- 5 編集権と編集過程における自由
- 6 マス・メディアへのアクセス権
- 7 ニュー・メディア時代の放送 - 放送の自由と公平
- 8 放送と青少年の保護
- 9 プライバシーの権利 - 個人情報保護法
- 10 プライバシーの権利 - 納税者番号制等
- 11 インターネットと法(1) - 性表現の規制、名誉毀損
- 12 インターネットと法(2) - 電子商取引
- 13 インターネットと法(3) - 著作権
- 14 知る権利と情報公開制度(1) - 知る権利と情報公開条例
- 15 知る権利と情報公開制度(2) - 情報公開法

### テキスト

松井茂記『マス・メディア法入門 第3版』(日本評論社)

(第3版は夏までに刊行の予定。万一、講義開始に間に合わなければ第2版を教科書とする)

### 参考書

石村善治・堀部政男編『情報法入門』(法律文化社)

他は講義の中で指示する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

講義の中で紹介する。

### その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 加藤 直樹

講義内容・テーマ

人格の発達についての基礎的な解説と21世紀の担い手に求められるものは何かという観点から人格発達のための課題を論じる

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

随時小テストを実施する

評価方法・基準

\* 筆記試験: 定期試験として実施  
試験を行うほか小テスト結果を加味する

講義スケジュール

- § 1. 現代社会における人格発達の課題
  - § 1.1 「人格」とそれを決定づけるもの
  - § 1.2 人格をめぐる今日的課題
  - § 1.3 人格発達の「危機」の背景
- § 2. 現代社会における自立を考える
  - § 2.1 「自立の時代」と自立をめぐる二つの潮流
  - § 2.2 新しい自立論の主張
  - § 2.3 「自律」を考える = 自己コントロール
- § 3. 21世紀の担い手のために
  - § 3.1 自己教育力とその形成(その1)
    - § 3.1.1 自己意識・自己認識・自覚
    - § 3.1.2 もうひとりの自分との葛藤
    - § 3.1.3 自己肯定の意義
  - § 3.2 自己教育力とその形成(その2)
    - § 3.2.1 目標・希望・展望
    - § 3.2.2 信頼・共感・連帯
  - § 3.4 人格と集団
    - § 3.4.1 人格形成における集団の意味
    - § 3.4.2 集団の発展と人格発達

テキスト

特に設けない

参考書

加藤直樹「障害者の自立と発達保障」全国障害者問題研究会出版部1997

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 川瀬 雅也

### 講義内容・テーマ

市川浩『精神としての身体』をテキストとして、われわれ人間の諸経験の中での身体の働きや意味を探究する。著者は、この書の中で、メルロ＝ポンティやサルトルなどの身体現象学の成果に基づきつつ、さらに、精神医学、生理学、生物学などの知見も取り入れた形で、身体という現象が、われわれの経験の中でいかなる働きと構造を持っているか、さらに、(人間を含めた)さまざまな生物の行動において、身体がいかに機能しているかを考察している。こうした著者の考察の中から、とりわけ、人間の日常的諸経験における身体の機能、構造、意味について(現象学的に)考えたい。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

現象学や哲学に関する知識は必要としない。

授業はテキストに沿った形で進めるので、あらかじめか、あるいは、授業の進行とともに各自がテキストを精読すること。

### 評価方法・基準

\* 筆記試験: 定期試験として実施

\* 日常点: 加味する

### 講義スケジュール

- 第一回 身体現象学的考察の意味。
- 第二回 主体としての身体
- 第三回 客体としての身体
- 第四回 私の対他身体 他者の身体
- 第五回 錯綜体としての身体
- 第六回 働きとしての構造
- 第七回 向性的構造
- 第八回 志向的構造
- 第九回 身体の私性
- 第十回 自己と他者
- 第十一回 構造の生成
- 第十二回 精神としての身体
- 第十三回 行動と生活世界 癒着的形態の行動
- 第十四回 可能的生への展開 可動的形態の行動
- 第十五回 シンボルの形態の行動

### テキスト

市川浩著 『精神としての身体』 講談社学術文庫

### 参考書

市川浩 『身 の構造 身体論を越えて』 講談社学術文庫  
その他は授業中に適宜指示する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

身体表現論 S  
身体表現論 S

11278

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 遠藤 保子

### 講義内容・テーマ

我々の身体は、しぐさや身振りなどによって言語以上に雄弁にものを伝えることが可能である。こうした身体表現は、ことばならざることばであるところの非言語コミュニケーションと考えられ、コミュニケーションの主要な部分をなし、独自の様式を形成している。この講義では、日本のみならず世界のさまざまな国々にみられる非言語コミュニケーションの諸相を鳥瞰しつつ、民族的・文化的特性を明らかにしたい。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義は、適宜プリントを配布し、視聴覚教材も使用する。

### 評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施

\*日常点:加味する

評価は、期末テスト、中間レポート、出席状況などを考慮して総合的に行う。

### 講義スケジュール

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 身体表現(非言語コミュニケーション)の概念
- 第3回 身体表現の研究史・分類
- 第4回 表現体としての身体
- 第5回 身体変工
- 第6回 討論と中間レポート(1)提出
- 第7回 世界の身体表現(しぐさを中心にして)
- 第8回 身体表現の日欧比較(1)
- 第9回 身体表現の日欧比較(2)
- 第10回 身体表現の日韓比較
- 第11回 身体表現にみられる空間・色彩
- 第12回 自己表現法(1)
- 第13回 自己表現法(2)
- 第14回 まとめと中間レポート(2)提出
- 第15回 閉講

### テキスト

### 参考書

マジョリー・F.ヴァーガス著 石丸正訳 1987『非言語コミュニケーション』新潮社  
野村雅一著 昭和58年『しぐさの世界ー身体表現の民族学』日本放送出版協会 など

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他



授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 4回生

担当教員 三上 賀代

講義内容・テーマ

身体と表現をあわせ持つ「身体表現」は、存在論、認識論、表現論等様々なアプローチを可能とする。本講義は、1960年代の日本に生まれ、日本から世界に発信した身体表現である「暗黒舞踏」(BUTOH)を手がかりとして、舞踊文化を中心にグローバルであることとオリジナルであることの意味を探る。日常を生きる私にとっての「身体」と「表現」の枠組みが広がることで、自己へのまなざしが深まることを目指したい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

舞踊に関心がない人にも、「私にとって私の身体とは何か」といったことを漠然と考えて欲しいと思います。身体、感覚、言語、イメージ、美、表現、コミュニケーション等について考える中から、「私の身体表現」を探ってみましょう。

評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施

\*日常点:加味する

出席点を重視、毎授業時に提出してもらうコミュニケーション・ペーパーと、期末レポートによって評価。自己へのまなざしの深まりと、新たな感覚、知識の獲得を、各自の絶対評価としたい。

講義スケジュール

- 第1回 名前のない自己紹介 存在即表現
- 第2回 BUTOHが提起した肉体 制度化された身体の検証
- 第3回 暗黒舞踏と日本の風土 民族と身体と私と表現
- 第4回 身体へのまなざしのスケール 原初生命体の記憶から
- 第5回 神なき祭りの時代と表現 祭祀として始まった舞踊
- 第6回 外来舞踊の受容と日本人 日本人の感性
- 第7回 民俗舞踊における宗教性と娯楽性
- 第8回 世阿弥と能の時空
- 第9回 出雲の阿国と歌舞伎舞踊の特性
- 第10回 呪具としての人形と文楽
- 第11回 バレエの発生 ディオニソスとアポロンから
- 第12回 モダンダンスの変遷 時代と個の反映
- 第13回 パフォーマンスと美術、音楽、文学、演劇
- 第14回 人はなぜ踊るか 身体意識変容と舞踊
- 第15回 身体、感覚、言語、イメージ、美、コミュニケーションから

テキスト参考書

『器としての身体 土方巽・暗黒舞踏技法へのアプローチ』三上賀代 ANZ堂

『原初生命体としての人間』野口三千三 岩波同時代ライブラリー(絶版なのでプリント配布)

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

<http://members.jcom.home.ne.jp/torifune-butohsha/>

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 目黒 朋

講義内容・テーマ

本講義では、初歩的な入門書を用いて心理検査の基礎を学ぶ。心理検査の歴史と発展、心理検査の意義、心理検査における数量的データのとらえかた、処理の仕方を具体的に学習する。また、心理検査の実際について、知能検査法、発達検査法、人格検査法の代表的なものを取り上げ、それぞれの意味と具体的な手法を学ぶ。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

心理学についての基本的な知識を得ていることが望ましい(自学でも可)。できるだけ具体的な例を用いて参加型の講義を予定しているため、出席を重視する。

評価方法・基準

\* レポート: 試験に代わるレポートとして実施  
 \* 日常点: 加味する  
 レポート + 平常点(コメントカードの提出・講義への参加)  
 講義内容を理解した上で自分自身の考え方を考察してもらいたい

講義スケジュール

第1回 心理検査の歴史  
 第2回 心理検査におけるデータ  
 第3回 心理検査におけるデータ  
 第4回 心理検査の信頼性  
 第5回 心理検査の妥当性  
 第6回 因子分析の考え方  
 第7回 心理検査の実際 知能検査  
 第8回 " 知能検査  
 第9回 心理検査の実際 発達検査  
 第10回 " 発達検査  
 第11回 " 発達検査  
 第12回 心理検査の実際 性格検査(質問紙法)  
 第13回 心理検査の実際 性格検査(投影法)

テキスト

渡部 洋 編著『心理検査法入門 正確な診断と評価のために』福村出版 生協書籍部ほか一般書店にても入手可

参考書

水田善次郎 編『心理検査の実際』ナカニシヤ出版  
 市川伸一 編著『心理測定法への招待 測定から見た心理学入門』サイエンス社 ほか

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

心理臨床論 S 心理臨床 S	12069
-------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 松木 繁

### 講義内容・テーマ

近年、子育て支援から老人介護問題まで、人生のあらゆるライフサイクルの中で心理臨床の果たす役割の重要性が強調され始めてきた。しかし、現代社会に生きる人間にとっての心理臨床の果たす役割とその意義とは一体どのようなものであろうか。本講義では幾つかの社会問題を提示し、その中で心理臨床の果たす役割について具体的に捉え直していきたい。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

心理臨床を個人臨床の世界から社会的な視点へと総合的に捉えていきたいが、そのためには臨床心理学の基礎知識は前もって十分に理解できていることが望ましい。同時に心理臨床から得られた臨床の知恵を社会に還元していく意気込みを持つことのできる意欲的な学生の受講を望む。

### 評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施

\*日常点:加味する

評価は定期試験によるものが70%。残りは講義中に実施するレポート、ならびに平常点を加算して評価する。

### 講義スケジュール

- . 現代社会と心理臨床
- 1. 心理臨床の視点と社会的視点
- 2. 現代社会に生きる人間と心の問題
  - . さまざまな社会問題と心理臨床
- 3~4. 虐待問題と心理臨床
- 5~6. 子育て支援と心理臨床
- 7~8. 不登校問題と心理臨床
- 9. "いじめ"問題と心理臨床
- 10~11. 被害者支援と心理臨床
- 12~13. 障害者問題と心理臨床
  - . 現代社会における心理臨床の果たす役割とその意義
- 14. 社会臨床学的視点の形成と今後の課題
- 15. まとめ

### テキスト

特に指定はしない。講義中に適宜、レジユメを配布する。

### 参考書

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

スポーツ規範論 S  
 スポーツ文化論 S

13759

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 草深 直臣

講義内容・テーマ

スポーツの構造と規範

スポーツ文化論で解明した問題の所在をふまえて、文化様式としての内容・構成要素を分析する。

スポーツが単なる日常の身体活動と異なる最大の理由は、それが“ルール”によって設定された虚構空間としての特殊な活動であるからである。では、スポーツ・ルールはどのような意味を持つのか、それはどんな原則から成り立つのか、変化は何故起こるのかについて、解明する。

第二に、スポーツは一つのシンボルであり、メッセージである。それはどんな意味と理念をもつものなのか、を解明することを通じて、“ルール”に隠された規範のあり方を解明する。そして、そのことを通じてプロとアマ、エリートとマスに分裂した多元的スポーツ観を問い直す。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施  
 定期試験による。

講義スケジュール

- (はじめに) 1 “スポーツのルールの意味”  
 格闘技と空間  
 意味空間と「技」の構成
- (1 章) 1 “スポーツルールの発生”  
 慣習からの明文化  
 ルールの性質  
 明示的ルールの原則
- 2 “明示的ルールの性格と役割”  
 ルールの不変性と可変性  
 ルールの役割
- 3 “ルールの構成”  
 ゲームのルール  
 組織のルール
- 4 “ルールの変化と原理”  
 可変性の要因  
 可変性の原則
- (2 章) 1 “ルールの暗示性”  
 ルールを支えるモラル  
 行動綱領
- 2 “モラルとフェアプレイ”  
 フェアプレイの成立  
 スポーツの目的とモラル
- 3 “フェアプレイ宣言”  
 フェアプレイ宣言の背景  
 フェアプレイ宣言の意義
- 4 “ドーピング問題”  
 ドーピング問題の社会的基盤  
 ドーピング禁止の根拠とスポーツ規範
- 5 “スポーツ規範の国際性と民族性”  
 武道精神と礼節  
 「型」の美学  
 “JUDO”と柔道
- (3 章) 1 “スポーツの競争と交流”  
 スポーツの高度化と競争主義  
 競争的序列と結果主義・優勝劣敗主義
- 2 “スポーツの価値と鑑賞”  
 能力的評価と人格  
 結果から過程へ  
 評定と鑑賞  
 虚構の中の真実

授業の方法 出来るだけ、時事問題から分析するが、皮相的にならないように基本を理解することが重要である。

#### テキスト

テキストは使用せず、章毎にレジユメを教室で配布する。

#### 参考書

参考書(必読のこと)

伊藤高弘・草深直臣他編「スポーツの自由と現代」上・下(青木書店)

中村敏雄「スポーツ・ルールの社会学」(有斐閣)

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

スポーツ文化論の受講が望ましく、基本概念を的確に把握した上で、現実の問題を分析する必要がある。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 金 恵子

講義内容・テーマ

「2002年日韓ワールドカップ共催」をきっかけに両国の関係が著しく変化しつつある。この講義ではワールドカップやオリンピックなどのスポーツを媒介にした日本と韓国の関係などスポーツを取り巻く社会、文化などについても論ずることとしたい。すすんで今までのヨーロッパやアメリカ中心から脱皮してアジアにスタンスをおいてできるだけアジア地域のスポーツ事情も紹介していきたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

特になし

評価方法・基準

\*筆記試験:最終講義日試験で実施

\*日常点:加味する

出席チェックを授業時3回行う(小テストや感想を提出)。比重:は50%

最終講義日試験を実施。比重:50%

講義スケジュール

1. 2002年ワールドカップ韓日大会  
W杯日韓共催と韓国社会 韓国人のメンタリティと共催問題  
W杯と日韓関係
2. もうひとつの甲子園  
日本の甲子園  
韓国の高校野球大会
3. スポーツグローバリゼーション(プロスポーツ)
4. ファッションとスポーツ
5. 日韓のスポーツ文化の映像-スポーツはどう表象されるか  
映画  
テレビ
6. スポーツイベント-オリンピック大会
7. アジアにおけるバスケットボールの仕組み
8. 日本人とスポーツ
9. アジア地域スポーツ文化
10. まとめ

テキスト

特になし

参考書

『スポーツで読むアジア』(平井肇編、2000、世界思想社、1900円)

『スポーツ文化を学ぶひとのために』(井上俊・亀山佳明編、世界思想社、1999、2300円)

『NHK人間講座日本人とスポーツ』(玉木正之、2001、560円)

『現代スポーツ評論』(中村敏雄編、2002、創文企画、1600円)その他の資料は、随時授業中に配布する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

スポーツ産業論 S  
 スポーツ産業論 S

14734

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 川口 晋一

講義内容・テーマ

本講義は、「スポーツ・レジャー産業」や「プロスポーツ・ビジネス」をマクロな視点で捉え、政策・経営批判を行っていく。そもそもスポーツという文化は、時間、空間、財といった基本的要件の社会的な在り方によって枠づけられる。したがって、社会に歪みがあればスポーツもまた根本的な問題や矛盾を孕む関係にある。以上のようなことから、戦後日本の高度成長期からのスポーツ・レジャーを地域経済や国土開発との関わりで考えていくこと、また、プロフェッショナル・チーム(リーグ)スポーツ産業やスポーツイベント・ビジネスを資本の流れに焦点を当てて検討し、今日のグローバル経済における文化変容の問題として考えていくことを主要内容とする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講を検討する際に、本講義が現状のスポーツ産業やスポーツ・ビジネスを「どうしたら繁栄させることができるか」といった内容のものでないことを十分理解してもらいたい。

評価方法・基準

\*筆記試験：定期試験として実施  
 定期試験：授業で話された内容の理解度によって評価する。

講義スケジュール

通産省のスポーツ産業政策と国民スポーツ政策の不在  
 高度成長経済における「消費革命」と「自由時間」の消費：  
 娯楽・スポーツの組織化  
 内需拡大政策とスポーツ産業の展開  
 「企業社会」における自由時間の分断と消費的レジャー・スポーツ  
 長時間・過密労働、過労死問題と余暇・スポーツ産業  
 産業立地政策と国民の余暇・スポーツ  
 地域経済とスポーツイベント：長野オリンピック  
 地域経済とスポーツイベント：大阪五輪招致  
 イベントビジネスと連盟・スポンサー  
 グローバル資本とリーグ・スポーツ  
 ドイツにおける消費経済の進行とスポーツ・クラブの変容  
 カナダにおける公共スポーツの破壊とスポーツ産業  
 地域生活の再生とスポーツ大会  
 まとめ  
 期末定期試験

テキスト

特に指定しない。

参考書

必要により授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 4回生

担当教員 海老島 均

講義内容・テーマ

授業の前半では我が国の余暇活動の分析という観点からスポーツ産業を考えていく。次にイギリスにおけるサッカーのプレミアシップの立ち上げからその隆盛に向う変遷、ラグビー(ユニオン)のプロ化という、1990年代にスポーツの母国で起きた二つの大きな流れを分析検証していく。授業の後半では総括的にスポーツ産業に深く関連するスポーツ・グローバリゼーション、メディア論といったテーマを取り上げていく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

国の内外におけるスポーツ産業の状況に問題意識(どんなレベルでも)を持っている学生が望ましい。

評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施

\*日常点:加味する

出席、レポート、筆記試験を総合的に評価する。

レポートは2~3回を予定している。

なお全体の3分の1以上を欠席した場合は例外なく不可とする。

講義スケジュール

- 1, イントロダクション:スポーツ産業論の枠組み
- 2, 我が国のスポーツ産業を取り巻く環境、その1(余暇活動とレジャー産業に焦点を当てて)
- 3, 我が国のスポーツ産業を取り巻く環境、その2(余暇活動と価値観を中心に)
- 4, 我が国のスポーツ産業を取り巻く環境、その3(若者を取り巻くレジャー、スポーツ環境に焦点をあてて)
- 5, イギリスにおけるスポーツ産業の変遷及びその現状(サッカー、ラグビーを中心に)
- 6, "
- 7, "
- 8, "
- 9, スポーツ・グローバリゼーションとスポーツ産業
- 10, "
- 11, メディア論みたスポーツ産業
- 12, "
- 13, スポーツ産業が引き起こす様々な問題
- 14, "
- 15, スポーツ産業 - その今後の展望

テキスト

特定のテキストは使用しない。

参考書

「レジャー白書」財団法人自由時間デザイン協会

Eric Dunning, Sport Matters, Routledge 1999

Ian Malin, Mud, Blood And Money, Mainstream Publishing, 1997

Derek Wyatt, Rugby Disunion, Victor Gollancz, 1995

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

授業において紹介していく。

その他

特になし。



スポーツ社会学 S  
 スポーツ社会学 S

15139

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 山下 高行

講義内容・テーマ

本講義では、これまで研究されてきたスポーツ社会学の代表的領域、課題について紹介し、あわせて今日のスポーツの問題をスポーツ社会学ではどのように捉えているのかを説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

しばしば誤解されるが、スポーツ社会学は、「社会学」であることを銘記して欲しい。従ってここでも、現代社会学の理論的成果をかなりの程度取り入れているので、この授業とともに文化研究を中心とした現代社会学の諸理論についても学んでもらいたい。

評価方法・基準

- \* レポート: 試験に代わるレポートとして実施
  - \* 日常点: 加味する
- 通常のレポートと、講義終了後提出のレポートにより評価する

講義スケジュール

- 1回目、スポーツ社会学とは; 歴史と研究状況
- 2回目、スポーツの社会化
- 3回目、スポーツ・バーナウトの構造
- 4回目、組織と役割  
役割期待のアンヴィバレンス
- 5回目、組織構造とパフォーマンス
- 6回目、小集団の凝集性
- 7回目、「日本的」スポーツ組織の構造
- 8回目、スポーツ社会学の代表的理論(1)  
ブルデューとフランススポーツ社会学
- 9回目、スポーツ社会学の代表的理論(2)  
カルチュラル・スタディーズと英国スポーツ社会学
- 10回目、スポーツ社会学の代表的理論(3)  
「文明化の過程」とスポーツ
- 11回目、スポーツ社会学の代表的理論(4)  
グローバルスポーツの展開
- 12回目、日本社会の変化とスポーツの変容; 地域の変化
- 13回目、スポーツの産業化とスポーツの様態の変化
- 14回目、ナショナリズムとスポーツ
- 15回目、15回目、まとめ: グローバルなものローカルなもの

テキスト

特に使わない。

参考書

授業中適宜指示する。とりあえずここでは以下をあげておく。  
 D.ジェリー、清野正義他編著『スポーツ・レジャー社会学』道徳書院  
 有賀郁敏他著『スポーツ』ミネルヴァ書房  
 エリアス、ダニング著『スポーツと文明化』法政大学出版局

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

日本スポーツ社会学会ホームページ(4月よりアドレスが変わる予定。検索して開いてください)。

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 4回生

担当教員 小石原 美保

### 講義内容・テーマ

スポーツ文化が社会のなかでどのように位置づけられ、どのような価値観のもとに共通認識されているかを、とくにスポーツ活動にまつわるさまざまな言説形成の過程から検討する。

参考資料となる文献の講読を通じて、言説を批判的、分析的に読解する力を高めることも目標としたい。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

新聞、雑誌、インターネットなどのメディアを通じて日々流されるスポーツに関する言説にアンテナをはり、意識的に目を向けてもらいたい。

### 評価方法・基準

\* レポート: 試験に代わるレポートとして実施

\* 日常点: 加味する

毎週1度の割合で講義のなかで受講生に書いてもらうミニレポートも日常点として加味し、評価に組み入れることにする。

### 講義スケジュール

- 1 オリエンテーション: スポーツと社会
- 2 スポーツジャーナリズムの現在
- 3 スポーツ評論(1)
- 4 スポーツ評論(2)
- 5 スポーツライティング論(1)運動記述研究
- 6 スポーツライティング論(2)運動記述研究
- 7 スポーツライティング論(3)スポーツノンフィクション研究
- 8 スポーツライティング論(4)スポーツノンフィクション研究
- 9 スポーツライティング論(5)サッカー批評
- 10 スポーツライティング論(6)スポーツ専門誌のコラムをめぐって
- 11 スポーツファン・カルチャーの言説
- 12 新聞報道におけるスポーツをめぐる言説(1)
- 13 新聞報道におけるスポーツをめぐる言説(2)
- 14 まとめとディスカッション
- 15 最終講義日試験

### テキスト

テキストはとくに指定しない。講義のなかで参考文献をその都度紹介する。

### 参考書

多木浩二『スポーツを考える』ちくま新書

中村敏雄編集『現代スポーツ評論』1号～7号、創文企画発行  
ほか

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

スポーツネットワークジャパン <http://www.sportsnetwork.co.jp/>  
週1度、スポーツメールマガジン「Sports Advantage」が配信されている。

### その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 4回生

担当教員 小石原 美保

### 講義内容・テーマ

近代から現代に至るまで歴史的・社会的存在としてのスポーツの個性を多様な視点から探求し、近代スポーツを形づくったシステムと、そのなかでさまざまなかたちで開花したスポーツ文化を包括的に理解することを目標とする。さらに、後近代の新しいスポーツ史観についても視野に入れる。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講生の講義にたいする理解度などを考慮して数回に1度の割合でミニレポートを書いてもらい、それについて講義のなかでディスカッションする場を設けたい。

### 評価方法・基準

- \*筆記試験:最終講義日試験で実施
  - \*レポート:試験に代わるレポートとして実施
  - \*日常点:加味する
- 最終講義日試験ならびにミニレポートなどを総合的に評価する。

### 講義スケジュール

- 1 オリエンテーション:スポーツ文化の歴史
- 2 近代国民国家とスポーツ・身体教育(1)
- 3 近代国民国家とスポーツ・身体教育(2)
- 4 スポーツと民衆娯楽(1)
- 5 スポーツと民衆娯楽(2)
- 6 レジャーの誕生(1)
- 7 レジャーの誕生(2)
- 8 社交としてのスポーツ(1)
- 9 社交としてのスポーツ(2)
- 10 スポーツ・ハビトゥスの形成(1)
- 11 スポーツ・ハビトゥスの形成(2)
- 12 スポーツ・ハビトゥスの形成(3)
- 13 ニュー・スポーツ展望
- 14 講義のまとめ
- 15 最終講義日試験

### テキスト

テキストとしてとくに指定しないが、主として、有賀郁敏ほか著『スポーツ』ミネルヴァ書房(2002年)を中心に講義をすすめる予定である。

### 参考書

有賀郁敏ほか『スポーツ』ミネルヴァ書房  
坂上康博『権力装置としてのスポーツ』講談社現代選書  
A. コルバン編『レジャーの誕生』藤原書店  
ほか

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

スポーツ文化論 S  
 スポーツ文化論 S

11280

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 草深 直臣

講義内容・テーマ

『スポーツの構造と概念』

スポーツは単なる身体運動として存在するのではなく、人間の創り上げた文化様式として、また国境を越える世界文化として益々注目をされている。そのために、学生諸君が持っているスポーツの固定観念をうち破り、スポーツの概念を歴史的にたどりながら、その社会的背景を捉えることを重視する。更に、その概念から構想されるスポーツ機構 (Institution) の意味と問題点に焦点を当て、スポーツ文化を構造的に把握し、その構成要素と基本的枠組みを明らかにする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

\* 筆記試験：定期試験として実施

評価は定期試験によって行う。基本的概念の的確な理解と理論展開過程の特徴の理解を重視する

講義スケジュール

- ( ) 体験としてのスポーツと意識  
 活動としてのスポーツ / 感覚言語とスポーツ用語  
 グローバリゼーションとスポーツ  
 イベントとシンボル / スポーツ規範とドーピング
- ( ) スポーツ概念の変遷  
 スポーツの語源 / 19世紀の概念 / ドイツ・フランス圏の概念 / イギリス圏の概念 / 日本の類似概念  
 スポーツ概念の特徴：行為本性説と目的価値規定 / アマチュア規範と価値規定  
 スポーツ文化の外延と内包
- ( ) スポーツ機構説の土壌  
 スポーツの起源論争 / プレイとしてのスポーツ / ホイジンガのプレイ論  
 カイヨワのプレイ把握 = 2極4領域説
- ( ) スポーツ機構説の展開  
 ロイのカイヨワ批判 = スポーツ機構説の特徴  
 機構としてのスポーツ / 状況としてのスポーツ  
 佐伯のスポーツ体系説 その意義と問題点  
 多々納のスポーツ・シンボル説 その意義と問題点
- ( ) スポーツの構造化  
 プレイ論の主観主義 / 多元化論の問題点  
 「2層3領域」説の方向

授業の方法

レジュメをもとに講義する。現代的な問題を例示するが、現象にとらわれなくて理論的枠組みを理解することが重要である。

テキスト

特別なテキストは使用しない。適宜教室でレジュメを配布する。

参考書

伊藤高広・草深直臣他編「スポーツの自由と現代」上・下 青木書店  
 体育原理分科会編「スポーツの概念」不昧堂  
 菅原禮編「スポーツ社会学の基礎理論」不昧堂

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

一般教育科目「スポーツの歴史と発展」「スポーツと現代社会」を受講していることが望ましい

スポーツメディア論 S  
 スポーツ・メディア論 S

15038

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 川口 晋一

講義内容・テーマ

本講義では、スポーツイベントとメディアがどのような関係にあるのか、スポーツ番組がどのように構成されているのか、視聴者や読者がどのような状況に置かれているのかといった問題を、スポーツ文化それ自体の特性(メディア性)をふまえて考察していく。また、スポーツの意味や価値が自明のものではなく、様々な力関係もとで、一定の仕掛けを経て創り出されていること、「メディアスポーツ」が政治・経済や権力と深く結びついたものであることを主要なテーマとして追求する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講を考える際に、本講義が、メディアの制作現場のハウ・トゥーものや単なる現状分析でないことに注意してもらいたい。

評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施  
 定期試験:授業で話された内容についての理解度によって評価する。

講義スケジュール

オリエンテーション  
 スポーツとメディアに関する研究 領域と課題  
 「利用と満足」研究とスポーツ視聴の「多様性」  
 スポーツ番組のプロデュースと構造原理  
 テレビにおける映像変形の原理  
 「プレビュー番組」の構造と役割  
 メディアがつくる物語 その提示と修正について  
 メディアイベント論とスポーツ  
 高校野球の発展と新聞の社会面の役割  
 武道の普及とメディアの役割  
 「文化装置」としての国民体育大会  
 スターとパーソナリティシステム:  
 イデオロギーおよび「マスクング」について  
 「受け手」と「読み」:  
 「エンコーディング・デコーディング」モデルとスポーツ視聴者  
 まとめ  
 期末定期試験

テキスト

特に指定しない。

参考書

必要により授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 関谷 龍子

講義内容・テーマ

目的:勤労者生活をとりまく諸条件を明らかにし、自分の将来は自分で切開くのだという、姿勢をつちかう契機にさせていただくこと。勤労者の生活は労使関係を機軸として展開される。生活費、住居、生活時間、レジャーや休養、そして人生とアイデンティティ形成の問題など、生活にかかわる資源、行動、価値のほとんどは、安定的仕事に就き、老年期までの生活設計を展望しえるかどうかに左右される。しかし今日、労使関係は激しく流動化しつつある。社会階層論をふくめ、人間らしく生きるための諸条件を「冷徹な目」で把握できる視角を身につける。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

予備知識は不要。人間らしく、自信をもって生き、子どもを一人前にする。この一見簡単に見える皆さんの親の営みが、実は厳しく困難にみちたものという実感をもてればよい。上手にノートをとると理解が深まる。毎回出席されることが前提。但し、講義進度には変更がありえるので了解してほしい。

評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施

\*日常点:加味する

期末試験による客観評価(80~70%程度)、講義中の小レポートと出席点による客観評価(20~30%程度)。評価の方法は受講者数の大小により若干の変更があります。

講義スケジュール

- 第1回 講義の解題
- 第2回 生活の主体(ヒト、人間、欲望)、生活の構造(自我、組織、目的、代謝)
- 第3回 生き方の様式:エートス(民族と文化、宗教的陶冶、近代的陶冶)
- 第4回 家族の種類、構造、周期(類型と変動、核家族と家族周期、コウホート)
- 第5回 生活空間の種類と意味(場所と人間、祭りと人間、集落・都市のイメージ)
- 第6回 生活時間の類型(人生モデルと生死の哲学、現代人の時間配分、)
- 第7回 住いと生活様式(民家の歴史、都市の様式、靈魂の行方)、中間総括(第1-7回)
- 第8回 社会階層と生活構造(生産手段、労働力、階層移動)
- 第9回 都市勤労者の形成と定着(日本の経験)
- 第10回 世帯経済の構造(類型、賃金と社会的弱者)
- 第11回 世帯調査の歴史( エンゲル方式)
- 第12回 世帯調査の歴史( ロントリー方式)
- 第13回 現代日本の支出構造(総務省家計調査)
- 第14回 講義総括(第8-13回、および全体)
- 第15回 閉講

テキスト

使用しません。必要に応じて、資料とデータを配布します。

参考書

中川清『日本都市の生活変動』勁草書房、2000年(図書館)。  
総務省『家計調査年報』各年次(図書館、白書年鑑コーナー)

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

生活福祉論 S 都市生活特論 S	14613
---------------------	-------

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 前田 信彦

講義内容・テーマ

この講義では、戦後の社会科学で展開されてきた生活論を手がかりに、家族・地域・労働・社会階層等に関する生活福祉を講じる。特に、最近の福祉国家の再編の動向を把握しながら、家族・コミュニティ・都市生活の再編過程について考える。

福祉国家の再編 家族の変動 コミュニティの変容 といったテーマが講義の柱となるであろう。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会学の基本的な知識が必要。

評価方法・基準

\*筆記試験:最終講義日試験で実施

\*日常点:加味する

出席点・小テスト・レポート・定期試験による総合評価。出席点は厳しい。遅刻・早退は厳禁。

講義期間に何度か小テストを実施する。

講義中にあげた参考図書の感想文などのレポートを課す。小テスト・レポートを提出しなかったもの

は定期試験は受験不可とする。かなり厳しい講義なので、出席しないで単位だけを取る学生にはすすめない。

講義スケジュール

- 1回 生活福祉の視点
- 2-4回 福祉国家とコミュニティ
- 5-6回 コミュニティの機能
- 7-8回 ボランティアと専門家
- 9-11回 福祉国家と家族の機能
- 12-13回 家族のつながりとは何か
- 14-15回 まとめ・試験

テキスト

テキストは特に指定しない。  
講義中に参考文献を紹介する。

参考書

富永健一2001『社会変動の中の福祉国家 - 家族の失敗と国家の新しい機能』中公新書

宮島洋1992『高齢化時代の社会経済学 - 家族・企業・政府』岩波書店

アラン・ウォーカー1997『ヨーロッパの高齢化と福祉改革 - その現状とゆくえ』ミネルヴァ書房

(ほか、講義中に紹介する)

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

生活文化論 S  
生活文化論 S

13761

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 木津川 計

### 講義内容・テーマ

人はみな人間的、文化的に生きていきたいのです。そのためには何をどう考え、どう行動したらよいのか、本講は主として近代以降の人間の生き方と、それが生活文化に与えた影響を究明しながら、人びとの暮らしに豊かな生活文化を根づかせようとするものです。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

私語するために教室へ入る学生は受講しないでください。

### 評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施  
試験を行います。

### 講義スケジュール

1. なぜ生活文化論なのか - 概説
2. 時代と人間と生活 - 明治の志と勤勉
3. 時代と人間と生活 - 15年戦争と若者の運命
4. 時代と人間と生活 - 高度成長と家族の変容
5. 時代と人間と生活 - IT革命と老人の困惑
6. 時代と人間と生活 - 熱狂以後と父権の構図
7. <趣味人>とは誰をいうのか - 趣味の力と生活の彩り
8. <道楽>観の再検討 - 「道楽」をどう復権させるか
9. <文化人>とは誰をいうのか - 誰もが文化人となるために
10. <中流意識>の再検討 - <中流9割>はなぜ崩壊するのか
11. <草の根文化と一輪文化> - 文化の力と人間の暮らし
12. <夫婦同伴文化>はなぜ育たなかったのか - 男と女の地平を拓く
13. 働き甲斐と生き甲斐 - 何のために生きるのか
14. 人間らしく生きるとは - 「生活文化論」のまとめ

### テキスト

ありません。毎回プリントを配ります。

### 参考書

折にふれ紹介します。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他



授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 大山 博史

講義内容・テーマ

精神医学は人間の精神現象とその障害、すなわち、精神障害を扱う学問として、医学の一分野をなす。福祉活動においては、こころの病を持つ人やその人と関わりのある人々と接することが主要な業務の一つであることから、精神的な病気を正しく理解し、その知識を身に付けることが重要である。

本講では、社会福祉の領域で業務を行う専門家に必要とされる精神医学の基礎的知識を身に付けることを目的とする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

臨床的知識の習得を目指す者は、精神医学 Sと併せて受講することが望ましい。

精神保健福祉士国家試験受験資格において必要とされる専門科目として履修する者は、精神医学 Sと併せて履修すること。

評価方法・基準

\*筆記試験:最終講義日試験で実施

\*日常点:加味する

筆記試験を主体とし、日常点評価を加味した総合的評価

講義スケジュール

- |           |  |
|-----------|--|
| 第1 - 5回   | 1. 精神医学の概念<br>1) 精神医学とは<br>2) 精神障害の成因と分類<br>3) 精神症状と状態像<br>4) 防衛機制 |
| 第6回       | 2. 精神医療の歴史   |
| 第7 - 8回   | 3. 脳および神経の生理・解剖<br>1) 神経系の発生と構成<br>2) 中枢神経系<br>3) 末梢神経系            |
| 第9 - 11回  | 4. 精神医学的診断法<br>1) 診断の手順と方法<br>2) 身体検査と心理検査<br>3) 構造化面接と操作的診断基準     |
| 第12 - 13回 | 5. 代表的な精神障害<br>1) 精神分裂病、分裂病型障害および妄想性障害                             |
| 第14回      | まとめ・補足   |
| 第15回      | 試験日(予定)  |

テキスト

改訂 精神保健福祉士養成セミナー / 第1巻 精神医学. 編集 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会. へるす出版. 2001.

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 大山 博史

講義内容・テーマ

精神医学は人間の精神現象とその障害、すなわち、精神障害を扱う学問として、医学の一分野をなす。福祉活動においては、こころの病を持つ人やその人と関わりのある人々と接することが主要な業務の一つであることから、精神的な病気を正しく理解し、その知識を身に付けることが重要である。

本講では、社会福祉の領域で業務を行う専門家に必要とされる精神医学の臨床的知識を身に付けることを目的とする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

精神医学 Sの講義内容と同程度の基本的知識を前提として本講の授業を進めるため、精神医学 Sと併せて受講することが望ましい。

精神保健福祉士国家試験受験資格において必要とされる専門科目として履修する者は、精神医学 Sと併せて履修すること。

評価方法・基準

\* 筆記試験：最終講義日試験で実施

\* 日常点：加味する

筆記試験を主体とし、日常点評価を加味した総合的評価

講義スケジュール

- 第1 - 10回 1. 代表的な精神障害
- 1) 症状性を含む器質性精神障害
  - 2) 精神作用物質使用による精神および行動の障害
  - 3) 気分(感情)障害(躁うつ病)
  - 4) 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害
  - 5) 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群
  - 6) 成人の人格および行動の障害
  - 7) 精神遅滞
  - 8) 心理的発達の障害
  - 9) 小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害
  - 10) 神経系の疾患
- 第11 - 13回 2. 精神医学的治療法
- 1) 身体的療法
  - 2) 精神療法
  - 3) 環境・社会療法
  - 4) 精神科リハビリテーション
- 第14回 3. 病院精神医療および地域精神医療
- 1) 病院精神医療
  - 2) 精神科救急医療
  - 3) 地域精神医療
- 第15回 試験日(予定)

テキスト

改訂 精神保健福祉士養成セミナー / 第1巻 精神医学. 編集 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会. へるす出版. 2001.

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

精神分析論 S  
精神分析論 S

10952

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 村本 邦子

### 講義内容・テーマ

フロイトによる精神分析の基礎を学び、人間理解を深めるとともに、精神分析が、私たちの文化や社会に与えてきた影響を考察することを目的とする。講義では、フロイトの生きた時代的背景について学んだ後、フロイトの主な論文と概念を取り上げ、解読していく。最後に、批判的なものも含め、フロイト以降の精神分析の発展を概観する。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

授業中、発表とミニレポートがある

### 評価方法・基準

- \* レポート: 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点: 加味する
- 平常点とレポート

### 講義スケジュール

1. フロイト以前
2. フロイトの生涯
3. ヒステリーの病因について(外傷理論)
4. 夢判断
5. 日常生活の精神病理
6. トーテムとタブー
7. 精神分析入門
8. 快感原則の彼岸
9. 集団心理と自我の分析
10. 自我とエス
11. 幻想の未来
12. 続精神分析入門
13. モーゼと一神教
14. フロイト以後
15. 予備日

### テキスト

『援助者のためのフロイト入門』村本邦子・三学出版(6月出版予定)

### 参考書

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 松田 亮三

講義内容・テーマ

精神保健学の基礎概念、ライフサイクル別の課題とアプローチ、精神保健行政などの関係機関について学習する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

本科目は、精神保健福祉士受験資格取得のための指定科目である。将来、精神保健福祉領域で働くことを考えている人を対象とする。

評価方法・基準

\*筆記試験：定期試験として実施

講義スケジュール

以下の内容を中心に学ぶ。

## &lt;精神保健についての基本知識&gt;

- 1) 精神保健の概要
- 2) 精神保健の意義と課題

## &lt;ライフサイクルにおける精神保健&gt;

- 1) 胎児期および乳幼児期における精神保健
- 2) 学童期における精神保健
- 3) 思春期における精神保健
- 4) 青年期における精神保健
- 5) 成人期における精神保健
- 6) 老年期における精神保健

## &lt;地域精神保健と地域保健&gt;

- 1) 地域精神保健施策の概要
- 2) 地域保健施策の概要
- 3) 関係法規
- 4) 関連施策

テキスト

精神保健福祉士養成セミナー編集会編『精神保健福祉士養成セミナー 第2巻 精神保健学』(第2版)へるす出版  
精神保健福祉士養成講座編集委員会編『精神保健福祉士養成講座 2 精神保健学』中央法規出版  
など(どちらでも可能)。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

全国の精神保健福祉センター、例えばパレアモア広島(<http://ww1.enjoy.ne.jp/~mh-hiroshima/index.htm>)から各種のリンクをたどるとよい。

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 松田 亮三

講義内容・テーマ

精神保健における個別の課題の特徴と現状、解決のための活動のアプローチを学習する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

本講義は、精神保健学S1の続編であり、本講義の受講にあたっては、精神保健学S1の履修を終えている。

評価方法・基準

\* 筆記試験：定期試験として実施

講義スケジュール

<精神保健における個別課題への取り組み>

- 1) 精神障害者対策
- 2) 老人性痴呆疾患対策
- 3) アルコール関連問題対策
- 4) 薬物乱用防止対策
- 5) 思春期精神保健対策
- 6) 地域精神保健対策
- 7) ターミナルケアと精神保健

<精神保健活動の実際>

- 1) 家庭における精神保健
- 2) 学校における精神保健
- 3) 職場における精神保健
- 4) 地域における精神保健

<精神保健の国際比較>

など。

テキスト

精神保健福祉士養成セミナー編集会編『精神保健福祉士養成セミナー 第2巻 精神保健学』(第2版)へるす出版  
精神保健福祉士養成講座編集委員会編『精神保健福祉士養成講座 2 精神保健学』中央法規出版  
など(どちらでも可能)。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

全国の精神保健福祉センター、例えばパレアモア広島(<http://ww1.enjoy.ne.jp/~mh-hiroshima/index.htm>)から  
各種のリンクをたどるとよい。

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 知名 純子

講義内容・テーマ

精神障害者を中心とした社会福祉サービスと援助技法の基礎について学び、社会福祉援助活動の「目的」「価値」を具体的事例から理解する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

\*筆記試験:最終講義日試験で実施

\*日常点:加味する

出席状況(25%),小レポート(25%),試験(50%)により総合評価する。

講義スケジュール

- 1 オリエンテーション
- 2 精神障害者を対象としたケースワークとは
- 3 " の実際
- 4 " における面接技術
- 5 " におけるスーパービジョン
- 6 " における具体的事例検討
- 7 精神障害者を対象としたグループワークとは
- 8 " の実際
- 9 " におけるスーパービジョン
- 10 " の具体的事例検討
- 11 精神障害者を対象としたコミュニティワークとは
- 12 " における新しい援助技術
- 13 " の具体的展開
- 14 " の具体的事例検討
- 15 テスト

テキスト

改訂 精神保健福祉士セミナー第6巻「精神保健福祉援助技術各論」ヘルス出版

参考書

(社)全国精神障害者社会復帰施設協会編「精神障害者の生活支援の理念と方法」,中央法規  
久保紘章編著「精神障害者地域リハビリテーション実践ガイド」,日本評論社

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

精神保健福祉・精神障害者福祉に関するホームページ <http://www005.upp.so-net.ne.jp/smtm/>  
日本精神保健福祉士協会 <http://www.mmjp.or.jp/psw/>

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 知名 純子

### 講義内容・テーマ

精神障害者の生活支援を行うにあたって基本となる「援助技術」を踏まえたうえで、専門技術に基づく実践の質をより深めるために必要なケアマネジメントやその他関連援助技術、関係機関相互の連携のあり方について学ぶ。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

### 評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施  
\*日常点:加味する  
出席状況(30%),小レポート(30%),期末レポート(40%)により総合評価する。

### 講義スケジュール

- 1 精神障害者を中心とした社会福祉サービスと援助活動
- 2 精神障害者のケアマネジメントとは
- 3 " のプロセス
- 4 " ケアチームとチームワーク
- 5 " における具体的事例検討
- 6 精神障害者援助と関連専門職種との連携(精神保健福祉士の役割)
- 7 " (専門職および昨日専門職の役割と機能)
- 8 " (チームアプローチ,生活支援の理念)
- 9 " (包括的保健・医療・福祉サービス)
- 10 精神障害者への生活支援技術

### テキスト

改訂 精神保健福祉士セミナー第6巻「精神保健福祉援助技術各論」ヘルス出版

### 参考書

(社)全国精神障害者社会復帰施設協会編「精神障害者の生活支援の理念と方法」,中央法規  
久保絃章編著「精神障害者地域リハビリテーション実践ガイド」,日本評論社

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

精神保健福祉・精神障害者福祉に関するホームページ <http://www005.upp.so-net.ne.jp/smtm/>  
日本精神保健福祉士協会 <http://www.mmjp.or.jp/psw/>

### その他

授業開講期間 夏期集中

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 石神 文子

### 講義内容・テーマ

精神保健福祉援助技術は社会福祉援助技術を基礎として成立しているが、精神障害者の生活実態とその福祉的課題に対して、援助の理念や技術が未だ未熟でありいっそうの向上を意図しなければならない。本講座では社会福祉援助技法を基礎に、精神障害者に対する社会福祉援助の目的や価値を歴史、法制度、活動の現状を通して理解し、その活動を具体的な事例(個別事例、事業、街づくりなど)に基づいて学習する。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

マスコミ、地域の精神障害者社会復帰施設などの社会福祉資源、ボランティア活動などの情報に関心を向けること。

### 評価方法・基準

- \*筆記試験:最終講義日試験で実施
- \*レポート:試験に代わるレポートとして実施
- (1)レポート (2)最終講義試験 (3)その他

### 講義スケジュール

- 1) 精神障害者処遇の歴史 世界
- 2) 精神障害者処遇の歴史 日本
- 3) 精神障害者の生活の実態と福祉的課題
- 4) 精神保健福祉援助活動の現状と課題
- 5) 精神保健福祉援助活動の目的・価値・原則 その1
- 6) 精神保健福祉援助活動の目的・価値・原則 その2
- 7) 精神保健福祉援助技術の体系 直接援助技術の内容と機能
- 8) 精神保健福祉援助技術の体系 間接援助技術の内容と機能
- 9) 精神保健福祉援助活動の実際 ケースワーク
- 10) 精神保健福祉援助活動の実際 グループワーク
- 11) 精神保健福祉援助活動の実際 コミュニティワーク、ケアマネジメント
- 12) 精神保健福祉援助活動の実際 生活支援
- 13) 精神障害者の権利擁護
- 14) 精神保健福祉援助における関連専門援助技術 SST、心理教育
- 15) 精神保健福祉士の専門性と援助技術

### テキスト

『精神保健福祉援助技術総論』 精神保健福祉士養成講座 第5巻  
精神保健福祉士養成講座委員会 編集  
中央法規出版

### 参考書

『こころ病む人々の生活支援』石神文子著 やどかり出版

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

eらぼ～る ソーシャルワーク基礎講座 ～事例検討を通して～  
[http://www.e-rapport.jp/sw\\_koza/htm](http://www.e-rapport.jp/sw_koza/htm)

### その他



授業開講期間 夏期集中

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 石神 文子

講義内容・テーマ

精神保健福祉援助技術は社会福祉援助技術を基礎として成立しているが、精神障害者の生活実態とその福祉的課題に対して、援助の理念や技術が未だ未熟でありいっそうの向上を意図しなければならない。本講座では社会福祉援助技法を基礎に、精神障害者に対する社会福祉援助の目的や価値を歴史、法制度、活動の現状を通して理解し、その活動を具体的な事例(個別事例、事業、街づくりなど)に基づいて学習する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

マスコミ、地域の精神障害者社会復帰施設などの社会福祉資源、ボランティア活動などの情報に関心を向けること。

評価方法・基準

- \* 筆記試験: 最終講義日試験で実施
- \* レポート: 試験に代わるレポートとして実施
- (1) レポート (2) 最終講義試験 (3) その他

講義スケジュール

- 1) 精神障害者処遇の歴史 世界
- 2) 精神障害者処遇の歴史 日本
- 3) 精神障害者の生活の実態と福祉的課題
- 4) 精神保健福祉援助活動の現状と課題
- 5) 精神保健福祉援助活動の目的・価値・原則 その1
- 6) 精神保健福祉援助活動の目的・価値・原則 その2
- 7) 精神保健福祉援助技術の体系 直接援助技術の内容と機能
- 8) 精神保健福祉援助技術の体系 間接援助技術の内容と機能
- 9) 精神保健福祉援助活動の実際 ケースワーク
- 10) 精神保健福祉援助活動の実際 グループワーク
- 11) 精神保健福祉援助活動の実際 コミュニティワーク、ケアマネジメント
- 12) 精神保健福祉援助活動の実際 生活支援
- 13) 精神障害者の権利擁護
- 14) 精神保健福祉援助における関連専門援助技術 SST、心理教育
- 15) 精神保健福祉士の専門性と援助技術

テキスト

『精神保健福祉援助技術総論』 精神保健福祉士養成講座 第5巻  
精神保健福祉士養成講座委員会 編集  
中央法規出版

参考書

『こころ病む人々の生活支援』石神文子著 やどかり出版

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

eらぼ～る ソーシャルワーク基礎講座 ～事例検討を通して～  
[http://www.e-rapport.jp/sw\\_koza/htm](http://www.e-rapport.jp/sw_koza/htm)

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 山本 耕平

### 講義内容・テーマ

この講義では、精神保健福祉を理解する上で必要不可欠な現代の社会における精神保健福祉問題について理解することに主な目標をおく。精神障害者福祉の思想を医療・保健・福祉政策や実践がもってきた歴史さらに今日の障害者間格差の実態について学習を進めるなかで、精神障害者の全面的な社会参加の為に何が必要なのかを学んで欲しい。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

### 評価方法・基準

- \* 筆記試験：最終講義日試験で実施
  - \* 日常点：加味する
- 期末テストと集団議論、出席状況を総合的に判断する。

### 講義スケジュール

1. 障害者福祉の基本的理念の展開と精神病者および精神障害者
2. 戦後の精神病者の生活実態と医療・福祉の歴史
3. 精神障害者と地域社会 とりわけスティグマとの関わりで
4. いま、地域の主人公としていきている精神障害者
5. 精神障害者福祉の基本施策

### テキスト

特に定めないが、参考書にあげた著作を学習参照文献とする。なお、適宜講義資料を配布する。

### 参考書

- 1: 岡村正幸著 「まちづくりの中の精神保健福祉」 高菅出版
- 2: 岡村正幸著 「戦後保健福祉行政と精神病者の生活」 法律文化社
- 3: 定藤丈弘・佐藤久夫・北野誠一編著 「現代の障害者福祉」 有斐閣
- 4: 秋元波留夫 「精神障害者の医療と人権」 ぶどう社
- 5: 秦安雄・鈴木勉・峰島厚編 「講座発達保障 障害者福祉学」 全障研出版部
- 6: 林宗義 「分裂病は治るか」 弘文堂
- 7: 「我が国の精神保健福祉」
- 8: 田中英樹著 「精神障害者の地域生活支援—統合的モデルとコミュニティソーシャルワーク」 中央法規
- 9: ジョアン・パラグロウ他著, 児島美津子+中村永治監訳 「医療ソーシャルワークへの挑戦—イギリス保健関連ソーシャルワークの100年」 中央法規
- 10: 精神保健福祉行政のあゆみ編集委員会編集 「精神保健福祉行政のあゆみ」 中央法規

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 山本 耕平

### 講義内容・テーマ

この講義では、精神病患者および精神障害者の人権を擁護する働き手の一人として必要な理論をとりあげる。なかでも、精神病発症時の医療への導入、入院時の人権保障さらに「生き、働き、集う」生活と地域の創造、本人と家族の関わりをどう考えるかにつき講義を進める。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

### 評価方法・基準

- \*筆記試験：最終講義日試験で実施
  - \*日常点：加味する
- 期末テストと集団議論、出席状況を総合的に判断する。

### 講義スケジュール

- 1.権利擁護の担い手としてPSWはなにを目指してきたのか
- 2.受療への導入およびアクセスについて
  - ・精神科救急、法23条の問題性、法34条と人権
- 3.入院と人権、入院加中のいくつかの事件と人権
- 4.地域ケアとPSW

### テキスト

特に定めないが、適宜講義資料を配布する。また、参考書にあげた著作を学習参照文献とする。

### 参考書

- 1:岡村正幸著「まちづくりの中の精神保健福祉」高菅出版
- 2:岡村正幸著「戦後保健福祉行政と精神病者の生活」法律文化社
- 3:定藤丈弘・佐藤久夫・北野誠一編著「現代の障害者福祉」有斐閣
- 4:秋元波留夫「精神障害者の医療と人権」ぶどう社
- 5:秦安雄・鈴木勉・峰島厚編「講座発達保障 障害者福祉学」全障研出版部
- 6:林宗義「分裂病は治るか」弘文堂
- 7:「我が国の精神保健福祉」
- 8:田中英樹著「精神障害者の地域生活支援—統合モデルとコミュニティソーシャルワーク」中央法規
- 9:ジョアン・バラグロー他著、児島美津子+中村永治監訳「医療ソーシャルワークへの挑戦—イギリス保健関連ソーシャルワーク100年」中央法規
- 10:精神保健福祉行政のあゆみ編集委員会編集「精神保健福祉行政のあゆみ」中央法規

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 山本 耕平

講義内容・テーマ

この講義は、精神病患者および精神障害者の人権を擁護する働き手の一人として必要な理論をとりあげる精神保健論 Sと関連させた講義とし、主に事例を検討するなかで今日の精神保健福祉について理解を深めることを目的とする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事例検討であり、集団議論を重視し学期末にグループで小論文の提出を求める。

評価方法・基準

- \* レポート: 試験に代わるレポートとして実施
  - \* 日常点: 加味する
- 出席状況、学期末小論文を総合的に判断する。

講義スケジュール

1. 権利擁護の担い手としてPSW(事例検討)
2. 受療への導入およびアクセス(事例検討)
  - ・精神科救急, 法23条の問題性, 法34条と人権
3. 入院と人権, 入院加療中のいくつかの事件と人権(事例検討)
4. 地域ケアとPSW(事例検討)

精神保健福祉論 Sの講義内容に関連する事例を検討する。なお、集団での事例検討は各回30から45分とする。

テキスト

事例資料集を用意する。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

精神リハビリテーション学 S  
リハビリテーション論 S

13146

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 大山 博史

講義内容・テーマ

精神障害者のためのリハビリテーションについて、その基礎と臨床を学ぶ。  
本講では、精神科リハビリテーションの概念と構成について説明する。関連する精神医学や障害学の基本的知識を整理しながら、精神障害者のリハビリテーションについて検討を進める。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

精神保健福祉士国家試験受験資格において必要とされる専門科目として履修する者は、精神リハビリテーション学 Sと併せて履修することが必要である。

さらに実践的な基礎知識の習得を目指す者は、精神リハビリテーション学 Sと併せて受講することが望ましい。

評価方法・基準

\* 筆記試験：最終講義日試験で実施

\* 日常点：加味する

筆記試験を主体とし、日常点評価を加味した総合的評価

講義スケジュール

- |           |  |
|-----------|--|
| 第1 - 5回   | 1. 精神医学と障害学の基礎<br>1) 精神障害の成因と分類<br>2) 精神分裂病にみる症状と障害  |
| 第6 - 10回  | 2. 精神科リハビリテーションの概念<br>1) リハビリテーションの概念と歴史<br>2) リハビリテーションの理念、意義と基本原則<br>3) 精神科リハビリテーションの概念<br>4) 精神科リハビリテーションの理念と意義<br>5) 精神科リハビリテーションの基本原則<br>6) わが国および諸外国の精神科リハビリテーションの現状 |
| 第11 - 13回 | 3. 精神科リハビリテーションの構成(その1)<br>1) 精神科リハビリテーションの対象<br>2) 精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割   |
| 第14回      | まとめ・補足   |
| 第15回      | 試験日(予定)  |

テキスト

改訂 精神保健福祉士養成セミナー / 第3巻 精神科リハビリテーション学, 編集 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会, へるす出版, 2001.

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 大山 博史

講義内容・テーマ

精神障害者のためのリハビリテーションについて、その基礎と臨床を学ぶ。  
本講では、精神科リハビリテーションのプロセスおよび臨床的技法、ならびに精神障害者のリハビリテーションにおける連携について説明する。関連する精神医学や障害学の基本的知識を整理しながら、精神障害者のリハビリテーションについて検討を進める。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

精神リハビリテーション学 Sの講義内容と同程度の基本的知識を前提として本講の授業を進めるため、精神リハビリテーション学 Sと併せて受講することが望ましい。

精神保健福祉士国家試験受験資格における専門科目として履修する者は、精神リハビリテーション学 Sと併せて履修することが必要である。

評価方法・基準

\* 筆記試験：最終講義日試験で実施

\* 日常点：加味する

筆記試験を主体とし、日常点評価を加味した総合的評価

講義スケジュール

- |           |  |
|-----------|--|
| 第1 - 4回   | 1. 精神科リハビリテーションの構成 (その2)<br>1) 精神科リハビリテーションにかかわる専門職との連携<br>2) 精神科リハビリテーションの施設                    |
| 第5 - 10回  | 2. 精神科リハビリテーションのプロセスと技術<br>1) リハビリテーション計画<br>2) アプローチの方法<br>3) リハビリテーション技法                       |
| 第11 - 12回 | 3. 精神科リハビリテーションにおける連携と統合<br>1) 地域リハビリテーション<br>2) 職業リハビリテーション                                     |
| 第13 - 14回 | 4. 精神科リハビリテーションの関連領域<br>1) 精神科救急医療、身体合併症医療などとの関連<br>2) 疾病の経過、ライフサイクルと精神科リハビリテーション<br>3) 精神保健福祉施策 |
| 第15回      | 試験日(予定)  |

テキスト

改訂 精神保健福祉士養成セミナー / 第3巻 精神科リハビリテーション学 編集 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会、へるす出版、2001。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

## 生命倫理(人間学) S

13225

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 鶴田 尚美

講義内容・テーマ

この授業では、脳死・人工妊娠中絶・安楽死など、生と死にまつわる生命倫理学の問題を扱う。  
生命倫理学の基礎的な知識と、哲学的な思考方法を身につけることを目標とする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

- \* レポート: 試験に代わるレポートとして実施
  - \* 日常点: 加味する
- 期末レポート(60%)と平常点(40%)で評価する。  
授業時に提出してもらった感想・意見アンケートを平常点に含める。

講義スケジュール

生命倫理学の原則  
脳死  
人工妊娠中絶  
選択的治療停止  
安楽死  
人格  
動物の解放と種差別  
まとめ

テキスト

テキストは使用しない。資料等は授業時に配布する。

参考書

ピーター・シンガー、『生と死の倫理 伝統的倫理の崩壊』、榎則章 訳、昭和堂、1998年。  
ピーター・シンガー、『実践の倫理』、山内友三郎、塚崎智[監訳]、昭和堂、1999年。  
加藤尚武、加茂直樹[編]、『生命倫理を学ぶ人のために』、世界思想社、1998年。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 篠崎 次男

### 講義内容・テーマ

#### 1. テーマ 医療生活協同組合論

2. 趣旨 医療従事者も患者・住民も納得する医療の実現をめざすところみを、生活協同組合の医療事業とそれを支える組合員の活動をとおして検討する。

#### 3. 授業の方法と構成

方法 講義を軸に必要なに応じて医療生協の医療機関や組合員活動等の見学を実施。

構成

##### 1) 現代日本の医療問題

まず、日本の厚生労働省が、日本の医療と医療制度をどのように把握しているかについての検討をとおして、医療のなにが問題かの整理をする。

その対策としての社会保障構造改革が日本の医療をどこに導こうとしているかについて検討する。

特に、医療制度の「改正」と規制緩和にもとづく営利事業化の現状とその弊害について検討する。

##### 2) 医療とは

医療とはを医療労働の分析をとおして整理する。

あるべき医療とは、について国民の医療要求の社会的特徴の整理をとおして、それにこたえうる在り方、というかたちで整理する。

##### 3) 医療生活協同組合

医療は医療従事者と患者・住民の協同によってなされねばならない。両者の民主的関係の形成、医療への患者・住民参加の保障があって、協同は成り立つ。この視点と実践をはくむ保障として生活協同組合をとりあげ、医療生活協同組合の組織と事業・活動の分析をとおしてあるべき医療を展望する。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

### 評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施

### 講義スケジュール

### テキスト

特になし。毎回レジュメと必要な資料は配布する。

### 参考書

医療の基礎理論(日野秀逸・旬報社)

患者の権利と良い医療(篠崎編著・自治体研究社)

医療生協の歴史と特徴(篠崎・日生協医療部会)

介護保険と住民運動(篠崎共著・新日本出版社)

構造改革と健康増進法(篠崎・ほう文社・03年5月) その他

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他



授業開講期間 後期 単位数 2 配当回数 3回生  
 担当教員 功刀(くぬぎ) 遼吉

### 講義内容・テーマ

「流通論入門」

物価が下がりデフレになった、高級品と生活用品の二極化がはっきりしてきた。ものがどう流れて消費者生活者にどう届いているのか、最近の状況を見る。世界最大の巨大DSウォルマートと西友のジョイント、迎え撃つイトーヨーカ堂やイオングループ等の対応、ファーストフードやユニクロの今後、一方でルイヴィトンに代表される高級ブランドの対日本戦略etc…。資料文献と講師の体験をもとに問題提起して共に考えるミーハー的流通入門論。テーマとする。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

サービス産業のウエイトが高まる今日、社会に出てからのわれわれは、好むと好まざるとにかかわらず「流通」と関わりを持つことになる。興味と関心のある人の受講を期待する。

### 評価方法・基準

- \* レポート: 試験に代わるレポートとして実施
  - \* 日常点: 加味する
- 日常点: 講義中に Brief Report を3回記入提出してもらう。

### 講義スケジュール

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 ウォルマートの企業コンセプト
- 第3回 需要予測の手法
- 第4回 ウォルマートの世界戦略
- 第5回 Brief Report
- 第6回 絶対にノーと言わない百貨店
- 第7回 個客革命・顧客が「個客」になるとき
- 第8回 デフレ時代の小売業・ユニクロ/マクドナルド
- 第9回 メディア産業流通の特殊性・出版/音楽の例
- 第10回 Brief Report
- 第11回 伸びるダイレクト・マーケティング業界
- 第12回 高級ブランド好みの日本人
- 第13回 Outletの研究
- 第14回 Brief Report
- 第15回 まとめ

### テキスト

なし。

### 参考書

- 「ウォルマート 儲けのしくみ」ルディー和子著 あさ出版(02-11刊)
- 「ノードストロームウェイ」R・スベクター & P・D・マッカ・詞庵・日本経済新聞社(96-11刊)
- 「個客革命」ハトリシア・シーボルト著 翔泳社(01-12刊)

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

なし。

### その他

なし。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 内橋 克人

### 講義内容・テーマ

私たちの生きる社会にあって「企業」は強い力を発揮しています。人びとの日常に深くかかわる企業とその行動について、個別、断片的な専門知識をどれほど積み重ねても、全体性、国際性、整合性をもって、企業とは何か、をとらえることは難しいでしょう。

私たちの暮らしに欠かせない企業が、なぜ他面で環境破壊の元凶であったり、地域社会に敵対する存在であったり、人間排除の合理化を善としたり、するのでしょうか。

社会に果たすべき企業の重い役割、使命と、企業の利益追求行動の両方が「同心円」になることは可能なのか。21世紀国際社会のなかの「あるべき日本企業」「あり得る日本企業」について具体的に掘り下げ、「全体としての企業社会」をとらえる視点を学ぶ。これが本講義の目的・内容です。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

授業中、絶え間なく問題提起を行う。単一の回答もなく正解もない。生きた現実社会の問題に対応できない現代「経済学」への批判力を、質疑応答を通じて養う、など。緊張感の持続が求められます。

### 評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施

\*日常点:加味する

深い思考力と高い表現力を併せ持つ市民が必要です。この社会的要請に応えるべく、授業を通じて、口頭による論述、文章表現による論文の両面を評価対象とします。私の授業に正解はありません。問題提起力の有無を評価基準にするということです。

### 講義スケジュール

- 1、企業と市民社会 世界の現実
- 2、日本企業社会の特殊と普遍
- 3、日本的技術開発の可能性と限界
- 4、日本経済の成長と長期構造的停滞
- 5、世界市場化のなかの日本企業
- 6、財界・政治・政策選択
- 7、21世紀日本企業の展望
- 8、グローバリズムの未来  
など。

### テキスト

内橋克人著『共生の大地』(岩波新書)

### 参考書

『内橋克人 同世代への発言』～(岩波書店)

『匠の時代』～(新装版・講談社文庫)

『破綻か再生か』(文藝春秋社)

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

専門特殊講義 SA

15490

特殊講義(基礎) (単位互換科目) SA

特殊講義(単位互換科目) SA

ビジョン形成特殊講義(単位互換科目) SA

～NHKテレビメディア最前線 現状と社会的役割～

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 伊藤 武夫、川口 晋一

講義内容・テーマ

本講座は、NHKの番組制作取材や技術の最前線で活躍している方々やOBを講師に迎え、主にニュース、ドラマやドキュメンタリーなどの個々の番組を取り上げながら、日頃それぞれの現場で何を考え追い求めているのか、その理念と現実について語ってもらう。そして、こうしたメディアの最前線の多角的な紹介、多様なメディアから噴出するさまざまな情報を主体的に読み解き、また参加する能力を養うことを目的としている。

なお、この講座はNHK京都局の企画にもとづいて、キャンパスプラザ京都(大学コンソーシアム京都)において行われる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

2回生以上受講可

評価方法・基準

\* 日常点:加味する

講義時に提出するレポートにより評価する。

講義スケジュール

1. 海老沢勝二(NHK会長)
  - ・テレビ新時代のNHKの役割
2. 長屋龍人(前・NHK放送文化研究所・研究主幹)
  - ・放送概論(テレビメディアの50年)
3. 五十嵐公利(NHK解説委員長)
  - ・海外総支局(海外特派員)の仕事
4. 吉野武彦(NHK専務理事・技師長)
  - ・技術が支える放送文化
5. 山本壯太(NHK京都局・局長)
  - ・地域放送サービス～ケーススタディ・京都局
6. 吉田圭一郎(NHK番組制作局・制作主幹)
  - ・多様なニーズに応える教育テレビ
7. 河本哲也(NHKスペシャル番組部・エグゼクティブ・プロデューサー)
  - ・大型ドキュメンタリー番組
8. 国谷裕子(NHKキャスター)
  - ・「クローズアップ現代」が見つめてきたもの
9. 能美龍太郎(NHK大阪局報道部・記者)
  - ・報道取材と人権
10. 中谷日出(NHK解説委員室・解説委員)
  - ・ITと放送

11. 吉川幸司(NHKドラマ番組部・チーフ・プロデューサー)  
・ドラマ番組(大河ドラマ「新選組!」ほか)
  
12. 西田善夫(元・NHK解説委員 前・横浜国際総合競技場・場長)  
・スポーツと放送(メディア)～内側から見たワールドカップ
  
13. 「BSフォーラム」収録会場:以学館(予定)  
・テーマ:「メディアリテラシー」(仮)  
・コーディネーター:長屋龍人(前・NHK放送文化研究所・研究主幹)  
・パネリスト:(未定)

敬称略

なお、以上の講義計画案は、変更・交替が生じる可能性がある。

#### テキスト

指定しない。

#### 参考書

指定しない。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

NHK <http://www.nhk.or.jp>

NHK京都局 <http://www.nhk.or.jp/kyoto/>

#### その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 斎藤 喬

講義内容・テーマ

テーマ:21世紀の世界とジャーナリズム

講義内容:20世紀から21世紀へ、世界は激動している。特に、一昨年9月11日の同時多発テロ事件とその後の展開は、世界の政治、経済、文化構造を大きく変え、世界はいま、混迷の中にある。日本に目を転じて、政治の空白と閉塞状況の中で、日本人は行き暮れている。この世界の現在と未来をどう読み解くのか。マスコミのリーダーが講義する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講対象者:立命館全学部2回生以上の希望者。マスコミ(テレビ・新聞)に関心がある学生、マスコミ界を目指している人で、日々のニュースに興味を持って見ている人。

評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施

\*日常点:加味する

成績の評価:授業が終了した段階で提出してもらうアンケート用紙への回答を日常点として評価、全講義終了時、レポートを出題、2000時程度で作成してもらう。講義はレジュメを一週間前に配布、折々の新聞記事やテレビ番組、ビデオなどを使って行う。

講義スケジュール

- 4月9日 1. 国家と危機管理 読売新聞専務編集担当 老川 祥一
- 4月16日 2. メディアの情報から真実を見抜くには～ウソのようなホント、ホントのようなウソ、事実は真実とは限らない～  
YTV解説委員 辛坊 治郎
- 4月23日 3. 国際ボランティア 戦争・テロ、貧困と難民 読売新聞編集局次長 織田 峰彦
- 4月30日 4. 地上デジタル放送の基礎知識 YTV編成局 脇浜 紀子
- 5月7日 5. 関西経済の再生と提言報道 読売新聞経済部長 松尾 徹
- 5月14日 6. テレビジャーナリズムの現場から YTV解説委員 岩田 公雄
- 5月21日 7. 最先端科学と医療と人間 読売新聞科学部長 吉島 一彦
- 5月28日 8. テレビ事業のムーブメント YTV事業局 野村 倫子
- 6月4日 9. 犯罪報道の現場と現実 読売新聞社会部長 江崎 丈
- 6月11日 10. 国際報道 YTV元NNNパリ支局長 若山 陸
- 6月18日 11. 日本文化と報道 読売新聞文化部長 永井 芳和
- 6月25日 12. デジタル時代のコンテンツ戦略 YTV編成局長 村上 博保
- 7月2日 13. ジャーナリズムと社論 読売新聞論説委員長 朝倉 敏夫
- 7月9日 14. テレビの現在と未来 読売テレビ会長 土井 共成
- 7月16日 15. 報道といのち 読売新聞編集局長 河内 鏡太郎  
(講義のコーディネーターは立命館大客員教授・読売新聞編集委員・斎藤 喬)

テキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 斎藤 喬

講義内容・テーマ

- (1)テーマ:社会の変貌とニュース・情報の変容
- (2)講義内容:激しい社会情勢の変化のなかで情報価値はどう変わるかを考察、ニュースの現在、問題点を解明する。情報やニュースは生き物である。社会を映しながら、日々変容する。社会構造の変化が情報価値をどう変えていくのか、具体的な課題で考察する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

マスコミ界に興味のある人、ものの見方、考え方を換えようとする人。

評価方法・基準

- \*レポート:試験に代わるレポートとして実施  
全講義終了後、2000字程度の情報に関するレポートを提出してもらう。

講義スケジュール

以下の内容で授業を進める予定である。

1. 授業をはじめるにあたって
2. 情報とは何か
  - 地政学的にみた情報
  - 社会学的にみた情報
3. 交通機関をめぐる情報の変遷
4. 資源エネルギーをめぐる情報の変遷
5. 戦争と情報
6. 社会基盤の変化と情報
7. 国家と情報
8. 言論表現の自由と情報
9. 誤報、虚報とデマゴギー
10. 人権意識の変遷と実名報道
11. 少年法改正に見る情報社会と法
12. 住民投票と揺らぐ間接民主主義
13. 民族の対立と情報
14. 大衆社会と情報
15. まとめ

テキスト

講義の時、配付する。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

## 特殊講義(各部門共通)I RA

20257

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生以上

担当教員 山形 英郎

講義内容・テーマ

本講義の目的は、日本外交の実像に迫ることである。日本外交を担っている外務省の方に来ていただき、現在焦点の課題となっている外交問題について、講義をしていただく。主として、中東やアジアといった地域に対する外交、国連における外交、そして経済分野での協力について検討する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

国際関係学部の全コース共通の特殊講義として開講する。コースの固有専門科目である。法学部学生にとっては、日本外交論として開講する。

評価方法・基準

\*筆記試験:最終講義日試験で実施

\*日常点:加味する

出席および最終講義日試験の結果をもとに評価する

講義スケジュール

夏期集中講義日程で行う。時間割は変則的であるので注意すること。

1	9 / 8	10:40-12:40	「外務省について」	人事課
2		13:40-17:40	「中東情勢」	中東2地域調整官
3	9 / 9	10:40-12:40	「北東アジア情勢」	分析2分析官
4		13:40-17:40	「対中国外交」	分析2分析官
5	9 / 10	10:40-12:40	「南東アジア情勢」	亜東1地域調整官
6		13:40-17:40	「南西アジア情勢」	亜西地域調整官
7	9 / 11	10:40-12:40	「国連外交」	国際社会協力部
8		13:40-17:40	「対欧州外交」	欧州国際機関室長
9	9 / 12	10:40-12:40		予備
10		13:40-17:40	「経済協力」	経協局企画官
11	9 / 13			試験

テキスト

特になし。

参考書

外務省『外交青書』2002、外務省のホームページから入手可能です。  
< <http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/bluebook/index.html> >

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

参考になるホームページ

外務省 < <http://www.mofa.go.jp/mofaj/> >

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 種子田 穰

### 講義内容・テーマ

「21世紀のプロスポーツ・ビジネス」

いうまでもなくプロスポーツ・ビジネスは、スポーツ・ビジネスの1つの大きな柱である。NFLは、最近のアメリカでの人気度調査によれば、アマチュアスポーツを含む多くのスポーツのうち、NFL、MLB、NBAが人気の2分の1を占め、そのうちの2分の1をNFLが占めるといふ、掛け値なしに世界一のスポーツ・ビジネスを展開するプロスポーツ組織である。本講は、NFLの優れたスポーツ・ビジネスをケースとして学ぶことを通じ、今後のプロスポーツ・ビジネスのあり方を考えることを課題とする。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

プロスポーツ・ビジネスに関心を持っていることが望ましい。テキストに加え、パワーポイントを用いて講義を行うので出席を心掛けること。また、社会的常識を備えた態度で講義に出席すること。

### 評価方法・基準

\* 筆記試験・定期試験として実施  
中間テストと期末テスト(もしくは試験に代わるレポート)の成績による。

### 講義スケジュール

- 第1回 はじめに
- 第2回 アメリカのプロスポーツビジネス
- 第3回 NFLの歴史
- 第4回 映像で見るNFL
- 第5回 「NFLモデル」 フィロソフィー・組織・システム
- 第6回 チーム:NY Giants & NY Jets
- 第7回 ブランド構築 / 中間レポート
- 第8回 マーケティング戦略
- 第9回 メディア戦略
- 第10回 メディア戦略
- 第11回 国際戦略 / NFLヨーロッパ・NFLFL
- 第12回 日本でのNFL
- 第13回 日本でのNFL
- 第14回 おわりに
- 第15回 (予備日)

### テキスト

種子田 穰 『史上最も成功したスポーツビジネス』 毎日新聞社

### 参考書

特に指定しない。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

参考になるWWWページ / Internet Website(s) related to the course  
<http://www.nfl.com/>  
<http://www.nfljapan.co.jp>  
<http://allabout.co.jp/sports/sportsbusiness/>

### その他



授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 嘉納 新

講義内容・テーマ

社会の大きな変化と多メディア化の進展ではっきりしてきた「苦闘する新聞業界」「スリムに変容する新聞企業」「多角化する新聞メディアグループ」を大テーマに、現状を立体的に解説していく中で、これからのジャーナリズム企業の行方を探る。「情報の質と多様性と深み」を生命線としている新聞ジャーナリズムが、厳しい変化の時代に耐え抜いて輝きを増すために今何が求められるか、を根本的な問題意識に講義をする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

数回おきに講義をやや早めに終えてミニレポートを課し、回収します。その中で出された疑問などはできるだけ次週冒頭に答えませす。

評価方法・基準

- \* レポート: 試験に代わるレポートとして実施
  - \* 日常点: 加味する
- ミニレポートも4割ぐらいのウエートを置きます。

講義スケジュール

1. 日本と世界の新聞メディアグループ = 2回
2. 新聞・電波メディアグループの大競争の行方 = 数回
3. インターネットや携帯電話との相関関係 = 数回
4. 電子新聞の可能性 = 数回
5. 種々のミニコミ紙やフリーペーパーの挑戦
6. 活字離れと読読率向上の取り組み
7. スリム化・ハイテク化する新聞社と「情報の質」 = 数回
8. 今ジャーナリズムとしての新聞が守り育てるべきもの = 最終回
9. その他(ゲスト講師も1~2人予定)

テキスト

必要があれば第1回講義の中で紹介

参考書

必要があれば第1回講義の中で紹介

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

第1回講義の中で紹介

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 森田 浩平

**講義内容・テーマ**

当科目では、人々の社会的行動をコミュニケーション行動の側面から眺め、人々における他者との関係形成や他者への働きかけの諸過程をコミュニケーション過程としてみることにしたい。

そのなかで、コミュニケーションの発生や成立の諸条件、そして、対人関係や集団内関係や集団間関係の形成と変化の過程に注目する。そして付随的に、対人関係や集団において生じるコミュニケーションによる社会的影響をあつかう。

**受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目**

初歩的な、しかし科学的な心理学の知識をもっていることが望ましいが、それを受講条件にはしない。とくに受講上の注意事項はない。

**評価方法・基準**

\*筆記試験:定期試験として実施

定期試験として筆記試験を実施する。評価は、試験の成績によってのみおこなう。

**講義スケジュール**

授業は以下のスケジュールに沿って進めていく予定である。

第1回 序 - 人間コミュニケーションの過程と所産 -

第2回 ~ 第3回 コミュニケーションの発生と成立

第4回 ~ 第5回 コミュニケーションと関係形成

第6回 ~ 第7回 集団内のコミュニケーション過程

第8回 ~ 第12回 集団間のコミュニケーション過程

第13回 ~ 第15回 コミュニケーションによる社会的影響に関する諸論点

**テキスト**

テキストは使用しない。

**参考書**

授業の途次、必要に応じて提示することにした。

**授業の方法(大学院科目のみ)****参考になるWWWページ****その他**

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 リム・ボン

講義内容・テーマ

この授業では、京都市における自治体行政実務の最前線を学生たちに紹介する。現場で陣頭指揮をとっている各局課長たちが講師となり、リレー講義を行う。この授業は、京都市と大学がコラボレートしたモデル事業である。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

行政職員の仕事の中身を臨場感を伴って味わうことができます。

評価方法・基準

- \* レポート: 試験に代わるレポートとして実施
  - \* 日常点: 加味する
- 出席点および試験に代わるレポート課題の合計で採点します。

講義スケジュール

- 第1週 総論 - 現代の自治体職員像 -
- 第2週 総務局 - 市政改革とは何か -
- 第3週 理財局 - 自治体の予算はどのように決まるのか -
- 第4週 環境局 - 地球温暖化防止と環境政策 -
- 第5週 文化市民局 - 芸術、人権、スポーツ、男女参画 -
- 第6週 産業観光局 - 魅力ある観光、産業 -
- 第7週 保健福祉局 - 長寿社会への挑戦 -
- 第8週 都市計画局 - 景観とまちづくり -
- 第9週 建設局 - 京都のインフラストラクチャ -
- 第10週 区役所 - 市民と身近に接する場 -
- 第11週 消防局 - 防災対策の理想と現実 -
- 第12週 教育委員会 - 教育行政とは何か -
- 第13週 市会事務局 - 議会と行政 -
- 第14週 補論
- 第15週 シンポジウム

内容・順序等は適宜変更されることがあります。

テキスト

毎回、レジュメおよび参考資料を配布する。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 嘉納 新

### 講義内容・テーマ

「良い記事」「良い紙面」について新聞メディアの日々の取り組みを同時進行的に紹介・解析していくを通じ、全国紙・地方紙の紙面を、バランスのとれた視点からより深く理解し、公正な批判のできる読解力を養うことがねらい。選挙報道、事件記事など新聞社内外での論議を、できるだけタイムリーかつ具体的に紹介するが、それにとどまらず受け手(読者)の立場からどのような工夫・改善が望まれるかについて提起する。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

数回おきに講義をやや早めに終えてミニレポートを課し、回収します。その中で出された疑問などはできるだけ次週冒頭に答えます。

### 評価方法・基準

- \* レポート: 試験に代わるレポートとして実施
  - \* 日常点: 加味する
- ミニレポートも4割ぐらいのウエートを置きます。

### 講義スケジュール

1. 「評価される紙面、まずい紙面」「読ませる記事、欠陥のある記事」とは何か。事例紹介と新聞社内に置ける日々の論議の概略 = 初回
2. 選挙報道の落とし穴と、改善の取り組み。03年統一地方選挙紙面の善し悪しなど = 選挙・地方自治関係で3回
3. 事件報道(人権報道や、紙面上の匿名・実名問題も含む) 様々な論議の現状と改革への取り組み = 数回
4. ヒューマン報道(暗い時代の「明るいニュース」発掘など) = 数回
5. 国益尊重と政権批判の相関関係(「提言報道」の光と影、「健全な批判記事」の存在意義など) = 数回
6. 記事・紙面をわかりやすくする取り組み(ビジュアル・インフォメーションも) = 数回
7. その他各紙の注目の取り組み(講師は朝日新聞社に所属しているが、全国紙・地方紙を問わず他紙の優れた取り組みも客観的に評価し取り上げていきたい) = 数回

### テキスト

必要があれば初回の講義の中で紹介

### 参考書

必要があれば初回の講義の中で紹介

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

初回の講義の中で紹介

### その他

授業開講期間 夏期集中

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 小笠 毅

講義内容・テーマ

心身に障害や困難のある子どもや若者は多い。日本と北欧諸国なかでもスウェーデンの障害児の就学・就労・就生活の在り方や権利環境を比較し、これからの日本の状況を考えてみたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

スウェーデン大使館の協力で英文の資料を用意するので辞書が必要。

評価方法・基準

- \* レポート: 試験に代わるレポートとして実施
  - \* 日常点: 加味する
- レポートと出席状況を中心に評価。なおレポートは4000字以上。

講義スケジュール

- 第1回 就学・就労・就生活とは
- 2回 就学時健診
- 3回 教科教育
- 4回 統合教育
- 5回 子どもの権利条約
- 6回 サラマンカ宣言
- 7回 地方分権化
- 8回 障害者雇用
- 9回 法定雇用率・雇用納付金
- 10回 スウェーデンの障害者雇用
- 11回 ノーマライゼーション
- 12回 家族問題
- 13回 親なきあと
- 14回 まとめ
- 15回 質問に答えて

テキスト

特になし。なお、私の著書が「岩波」や「日評」「新評論」で刊行。

参考書

拙著『ハンディをもつ若者の進路』『ハンドブック子どもの権利条約』他(岩波書店刊)

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 夏期集中

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 八木 彌生

### 講義内容・テーマ

現代の社会環境や医療状況によって見えにくくなっている、「人が死んでいくこと」の意味を浮き彫りにしながら、そのケアのあり方を考えます。そのためにも、私たちが生きていること、老いること、病うことの意味もまた、あわせて考え直してみる機会にします。ここでは、私たちもまた、やがて、死にゆく存在であることの自覚を、あらたにする機会となるでしょう。

一方向で進む「講義」ではなく、受講者と講師がテーマについてわかりあう双方向の「授業」をめざしています。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

夏季集中講義です。

教場に入れば、連日、生・老・病・死について繰り返して考える時間になります。

できるだけ多くの著書を読み、考えながら臨んでください。相互に価値ある時間になることを願います。

### 評価方法・基準

\* 筆記試験・最終講義日試験で実施

\* 日常点:加味する

授業への参加状況、数回のレポート、最終試験等で評価します

### 講義スケジュール

1~2 人間であること・老いること

3~4 病むこと

5~6 死へのプロセスとケアの考え方

7~8 緩和ケア・ホスピスケア

デス・エデュケーション

インフォームド・コンセント

9~11 「病いの経験から・・・」 ゲスト:柳原和子氏(ノンフィクション作家)

講義・受講者全員とのディスカッション

12 在宅ターミナルケア・家族へのケア

13~14 あなたが実現したいターミナルケア・受けたいターミナルケアを考える

### テキスト

定めない。

### 参考書

フランクフル:霜山徳而訳『夜と霧』みすず書房、時実利彦『人間であること』岩波新書、キューブラー・ロス:鈴木晶訳『死ぬ瞬間』中公文庫、M・メイアロフ:田村真他訳『ケアの本質』ゆみるの出版、A・クラインマン:江口重幸他訳『病いの語り』誠信書房、柳原和子『がん患者学』晶文社 (これらは基本として読んでおいて欲しいものです。他に関連の著書はあふれるほど出ています。)

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

<http://www.arsvi.com/index.htm> <http://www.bayline.or.jp/jard/>

<http://www0.let.kumamoto-u.ac.jp/cs/cu/medanth.html>

その他、授業の流れに書いたキーワードで検索すると多くのページがあります。

### その他

大衆表現論 S  
大衆芸能論 S

13607

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 木津川 計

### 講義内容・テーマ

地上はあらゆる<表現>のつぼです。私たちは何事かを表現し、受け手の反応を待っています。芸能もまた表現形式の一つです。時代により、ジャンルにより、その表現内容は異なります。この「大衆表現論」は、もっぱら大衆芸能を見据え、その表現の種々相を探ります。また、それ以外の文化の諸相をも探りながら広く大衆文化の特質と問題点を明らかにします。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

私語するために教室へ入る学生は受講しないでください。

### 評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施レポートです。(聴講していなければ書けません。)

### 講義スケジュール

- 1、大衆表現の位相 前期概要
- 2、都市の表現 猥雑都市か含着都市か
- 3、笑い時代 笑いのうねりの起こるとき
- 4、落語の表現 何を笑うのか
- 5、漫才と松竹新喜劇の表現 平和主義の再評価
- 6、歌の表現 沁みる歌の条件
- 7、歌の表現 歌はどう変わってきたのか
- 8、ことばの表現 化粧することば
- 9、ことばの表現 揺れる日本語
- 10、語りの表現 美しい日本語のために
- 11、詩歌の表現 何を擁護するのか
- 12、愛の表現 慕情とは何か
- 13、愛の表現 水上勉と「寅さん」
- 14、文科の表現・理科の表現 めざすべき人間像
- 15、文化としての表現 大衆表現論のまとめ

### テキスト

ありません。毎回プリントを配ります。

### 参考書

折にふれ紹介します。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 小澤 亘

講義内容・テーマ

新たな社会モデルとして、「多文化共生社会」が模索されている。  
本講義では、異なる文化の間に生じる激しい軋轢や摩擦の現状を見極めながら、  
いかにして、そうした困難を乗り越え、ひとびとが、文化の違いを、むしろ、  
「生き方の多様性 = 豊かさ」として捉え返していけるのか、参加者とともに  
考えていきたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

レポート提出を重視する。

評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施  
試験結果と授業中に何回か作成してもらったレポートを総合して評価する。

講義スケジュール

## イントロダクション

1. 映画「12人の怒れる男達」の視聴
2. 文化的アイデンティティーの自己対象化: "Who am I ?" TESTの実施

## 文化摩擦問題のケーススタディ:

3. イスラムのヴェール事件:事件の経過とその背景
4. イスラム・ヴェール事件:社会学的分析
5. 差別にかんする社会学:その1
6. 差別にかんする社会学:その2
7. 「近代国民国家(ネーション・ステイト)」形成の論理とその本質

## 多文化共生社会に向けた胎動

8. 少数者文化尊重の運動の発祥
9. カナダにおける多文化主義の形成
10. 新屋英子「シンセタリオン」について
11. ゲスト招聘:新屋英子さん(あるいは、エルファ関係者)
12. 日本におけるエスニック問題
13. 外国人政治参加の新たな模索:ビデオ「外国人市民会議誕生」
14. 多文化社会とボランティア:ビデオ「多文化社会の風」

## まとめ

15. 日本における多文化共生社会の可能性:ゲスト招聘(多文化共生センター京都関係者)  
およびクラスディスカッション

テキスト

使用しない。

参考書

参考文献は、授業中に提示していくが、とりあえず、以下の2冊を挙げておく。  
石井・山内編「日本人と多文化主義」山川出版、1999年  
田村太郎著「多民族共生社会ニッポンとボランティア活動」明石書店、2000年

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他



多文化コミュニケーション論 S	12861
人間文化特論 S	

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 奥川 櫻豊彦

講義内容・テーマ

人びとは自文化の枠組みに沿って物事の処理方法を自然に身につけ、無意識のうちに自文化のモードにしたがって時間、空間の概念を培っている。同時に、人びとは母語として身につけた特定言語において、その言語固有のコミュニケーションスタイルや非言語コミュニケーションスタイルが当然のモードであると暗黙のうちに認識し、さりとして疑問に思わない。

しかし、異文化と実際に接触する過程において、当然のモードとして身につけた内容がさまざまなかたちでアレルギー反応を起こすのを経験してはじめて『はてな?』と、自問自答を試みる。このような問題意識に立ち、映像文化やスポーツ文化などを通し、エドワード・T・ホールによる文化コンテクスト論を軸に韓国、中国、台湾、ドイツ、アメリカとの比較文化分析を試みる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

第1回目の授業で、「受講生データ」に記入し、提出すること。「文化比較のペーパー課題」を提出したけれども、口頭報告しない受講生は30%減となる。

評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施

\*日常点:加味する

1. 文化のコンテクスト論、時間と空間に関する概念構造までの範囲で中間テスト(30%)
2. 比較文化の分析に関するペーパー(30%) 締切日以降は受け付けない。
3. 期末試験40%

講義スケジュール

第1回 科目ガイダンス、担当教員の自己紹介、受講生データの記入

第2回 モノクロニック・ポリクロニックの時間概念

第3回 高コンテクスト・低コンテクスト文化の概念

第4回 高コンテクスト・低コンテクスト文化の概念(つづき)

第5回 空間概念の文化的差異

第6回 時間概念の文化的差異

第7回 中間テスト

第8回 ドイツからみた日本文化の七不思議

第9回 日本からみたドイツ文化の七不思議

第10回 韓国と日本の文化比較

第11回 中国と日本の文化比較

第12回 台湾と日本の文化比較

第13回 アメリカと日本の文化比較

「文化比較のペーパー課題」の提出日

第14回 ペーパー課題の口頭発表

第15回 ペーパー課題の口頭発表(つづき)

テキスト

1. エドワード・T・ホール他『かくれた差異』(メディアハウス出版会、1986年).  
生協書籍部にて販売
2. 奥川櫻豊彦『文化のコンテクスト』『立命館産業社会論集』1994年(30巻3号).  
希望者のみに教室にてプリント配布

参考書

尾関周二他編著『国際化時代に生きる日本人』(青木書店、1992年).

若林正文『台湾の台湾語人・中国語人・日本語人』(朝日選書、1997年).

関川夏央『ソウルの練習問題』(新潮文庫、1989年)

直塚玲子『欧米人が沈黙するとき』(大修館書店、1980年)

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他



授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 中川 勝雄

### 講義内容・テーマ

講義の獲得目標は、受講生が地域社会についての確に理解し、地域社会の問題点や課題を解決する素養を習得する、ことにおく。授業の題材は、地域社会の歴史的展開を概観したうえで、現代の地域社会を舞台とする全体社会と人間生活との関わり方を解明するような事象を対象とする。即ち、地域社会論の成り立ち、前近代・近代・現代の地域社会、日本の地域社会の歴史的展開、現代の地域社会の重層構造、新しい地域社会形成、などである。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

地域社会を的確に理解するためには、グローバルな視野からローカルな事象に関心を示す必要がある。

### 評価方法・基準

\*筆記試験・定期試験として実施

定期試験によって成績評価する。評価基準は、講義内容の理解度が基本である。講義内容を理解したうえで、受講生の見解を記述すれば、加点する。出題と無関係な回答は評価の対象としない。

### 講義スケジュール

- 第1回 地域社会論(学)とは何か
- 第2回 地域社会分析の基本視点
- 第3回 地域社会理解の留意点
- 第4回 前近代の地域社会
- 第5回 近代の地域社会
- 第6回 現代の地域社会
- 第7回 村落共同体の日本的展開
- 第8回 日本の近代的な地域社会
- 第9回 現代的な地域社会の特質
- 第10回 地域社会の二重の意味での重層構造
- 第11回 地域住民の生活様式の展開
- 第12回 地域社会研究の課題
- 第13回 新しい地域社会形成その1
- 第14回 新しい地域社会形成その2
- 第15回 新しい地域社会形成その3

### テキスト

テキストは使用しない。  
毎回、レジュメを配布する。

### 参考書

1. 布施鉄治他編著『現代日本の地域社会』青木書店、1983年
2. 青井和夫監修/蓮見音彦編集『地域社会学』サイエンス社、1991年
3. 佐々木嬉代三・中川勝雄編著『転換期の社会と人間』法律文化社、1996年

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 津止 正敏

### 講義内容・テーマ

地域福祉とは何か。この一見単純な問いかけに一言で答える事はそれほど容易ではない。老人福祉法や児童福祉法などといった根拠法をもつ分野別福祉とは違ってその領域・対象確定が難しいこと、分野・領域というよりむしろ関連領域とのネットワークやシステム化、組織化といった方法論に特徴をもつこと、ボランティアなど制度を補完し、あるいは先導する市民の自主的活動により深くコミットすること、さらにはその活動を通して市民の福祉に対する価値観や態度、ひいては法制度など社会システムの変容すら課題とすること、などという地域福祉の特質がその理解をことさらに難しくしている要因かもしれない。そして、「地域福祉の推進」を柱にして2000年6月に成立した社会福祉法が新たな地域福祉理解を提起していることもその理解をより複雑にしている。この講義で現実の地域福祉プログラムの臨床研究を通して「地域福祉とは何か」に迫ってみようと思う。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この講義は、具体的な地域福祉活動の臨床研究を中心に展開するが、全体を通して「地域福祉とは何か」を問う講義とし、ゲストスピーカーも数回程度予定している。毎回簡単な感想/意見(コミュニケーションペーパー)を求め、可能な限り教員学生の双方向の授業実現に努めたい。毎回の出席が学びの達成に直結するよう進めていく。

### 評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施

\*日常点:加味する

平常点(コミュニケーションペーパー、出席等)30%、小レポート30%、定期試験40%、によって評価する。コミュニケーションペーパーを毎回の講義で活用していくので、積極的なペーパー参加を求めたい。

### 講義スケジュール

1. イントロダクション - 地域福祉論スケッチ -
2. 地域福祉プログラムの臨床研究 - 在宅介護と地域福祉 -
3. 地域福祉プログラムの臨床研究 - 在宅介護と地域福祉2 -
4. 地域福祉プログラムの臨床研究 - 障害児放課後ケアと地域福祉 -
5. 地域福祉プログラムの臨床研究 - 障害児放課後ケアと地域福祉2 -
6. 地域福祉プログラムの臨床研究 - 子育て支援と地域福祉 -
7. 地域福祉プログラムの臨床研究 - 子育て支援と地域福祉2 -
8. 地域福祉プログラムの臨床研究 - ボランティアとコミュニティ -
9. 地域福祉プログラムの臨床研究 - ボランティアとコミュニティ2 -
10. 地域福祉の方法 - コミュニティワーク -
11. 地域福祉の方法 - コミュニティワーク2 -
12. 地域福祉の機関と担い手 - 社会福祉協議会 -
13. 地域福祉の機関と担い手 - 社会福祉施設 -
14. 地域福祉の機関と担い手 - 民生委員・専門職 -
15. まとめ - 地域福祉とは何か -

### テキスト

特に指定はないが、関心ある者は、藤本文朗・津止正敏編『働きざかり 男が介護するとき』(文理閣、2003年、1890)の学習を薦める。また、社会福祉士受験を予定しているものは該当テキスト自学自習すること。

### 参考書

藤本文朗・津止正敏編『働きざかり 男が介護するとき』文理閣、2003年、  
津止正敏他編『子育てサークル共同のチカラ』文理閣、2003年

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 松田 亮三

### 講義内容・テーマ

健康は誰もが関心のあることであり、人生の重要な資源である。実際、地域社会で活動する多くの活動が、人びとの健康と何らかの意味で関わっている。この講義では、地域社会で暮らす人々 子どもも大人も、若者も高齢者も、男性も女性もすべて含んだすべての人々を視野にいれて、その人びとの健康を保持・増進するための理論と実践の基本的事項を受講者に提供したい。

内容的には、社会福祉に関わる学生諸君だけでなく、広い意味での地域づくりに関心のある学生諸君を対象とする。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

- 1) 授業はパワーポイント・プレゼンテーションを基本としてすすめる。
- 2) インターネット上の文書などの閲覧を必要とする場合が多い。

### 評価方法・基準

- \* 筆記試験：定期試験として実施
- \* 日常点：加味しない

### 講義スケジュール

以下の内容を中心に学ぶ。

- ・健康、地域、地域保健の概念
- ・健康問題を分析する視点
- ・生態学的健康論
- ・感染症と非感染症、慢性疾患と急性疾患
- ・地域健康分析
- ・健康づくり、エンパワーメント、リテラシー、生活技能
- ・地域の組織づくりと小集団活動
- ・地域保健の組織

### テキスト

### 参考書

松田亮三他『健康づくりと支援環境』法律文化社。  
『国民衛生の動向』（最新版）厚生統計協会。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

地域保健どっとネット(<http://www.chiiki-hoken.net/>)  
厚生労働省(<http://www.nih.go.jp/eiken/index.html>)  
国立健康・栄養研究所(<http://www.nih.go.jp/eiken/index.html>)  
国立保健医療科学院(<http://www.niph.go.jp/>)

### その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 木津川 計

### 講義内容・テーマ

日本人の生活様式がすっかり洋風化されるに及んで、日本の伝統芸能も遠くなりました。食わず嫌いも生み出されました。この国のゆたかな伝統芸能を理解することは、日本人として必須の教養を高めることでもあります。折に触れ、ビデオやテープを用い、実演も交えた興味深い内容です。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

私語するために教室へ入る学生は受講しないでください。

### 評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施レポートです。(聴講していないと書けません。)

### 講義スケジュール

1. 明治新派論 - 女の描かれ方と時代
2. 歌舞伎の魅力 - 「勸進帳」と荒事(ビデオ)
3. 歌舞伎の作られ方 - 「おさん茂兵衛」の境涯
4. 歌舞伎の醍醐味 - 「仮名手本忠臣蔵」の鑑賞(ビデオ)
5. 日本人の美意識 - 粋(いき)の構造
6. 文楽の魅力 - 歴史と構造(ビデオ)
7. 文楽の魅力 - 「艶容女舞衣」酒屋の段の鑑賞(ビデオ)
8. 狂言の魅力 - 歴史と特質「棒縛」の鑑賞(ビデオ)
9. 能の魅力 - 歴史と「船弁慶」の鑑賞
10. 日本人の身体表現 - 舞踊と舞踏の違い
11. 日本舞踊 - 西川右蝶・右菜さんの解説と実演
12. 伝統音楽(地歌) - 安田知博君の解説と本学邦楽部員の演奏
13. 伝統と現代 - なぜ伝統を受け継ぐのか
14. 伝統芸能への接近回路 - 伝統文化は難しくない

### テキスト

ありません。毎回プリントを配ります。

### 参考書

折にふれ紹介します。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 出口 剛司

講義内容・テーマ

社会学の古典『自由からの逃走』の著者で知られるエーリッヒ・フロム(1900-1980)の晩年の思想を取り扱った平易なドイツ語論文を輪読し、ドイツ語文法の復習と読解力の向上をめざす。また語学力の向上と同時に、フロム思想を通して見える現代社会のさまざまな病理現象について理解を深めたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

文献を理解する手がかりとして、E. フロム著『悪について』(鈴木重吉訳、紀伊国屋書店、1965年、1360円)を事前に購入の上、読んでおくことを希望する。

評価方法・基準

\* 日常点:加味する  
出席による評価とする。

講義スケジュール

初回講義で担当者を決定する。

テキスト

Bernard Landis, "Erich Fromm Theorie der Biophilie - Nekrophilie", in: Erich Fromm Materialien zu Seinem Werk, herausgegeben von Adelbert Reif, 1978, Europaverlag.  
詳細は初回講義で指示する。

参考書

適宜紹介するが、下記を参考書として指定する。  
エーリッヒ・フロム『悪について』(鈴木重吉訳、紀伊国屋書店、1965年)  
拙著『エーリッヒ・フロム:希望なき時代の希望』(新曜社、2002年)

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 尾場瀬 一郎

講義内容・テーマ

テーマ:ドイツ語に慣れること

獲得目標:ドイツ語の基本文法、およびヴェーバーの基本的な考えを理解すること

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義は輪読制にしたいと考えている。

つまり、各人が交代で、一段落ずつ訳していくことにする。

単にドイツ語の確認だけでなく、内容についても解説したい。

評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施

\*日常点:加味する

当たった部分の訳(これを平常点とする)に関する評価と、期末レポートの評価との合計点によって、成績をつける。

期末レポートの形式については、授業のなかで詳しく説明する。

講義スケジュール

テキストの内容:

テキストは、ドイツ語版マックス・ヴェーバー全集に収められている「国民国家と経済政策」を使いたい。

これは、ヴェーバーが若いころ行ったフライブルク大学就任講演に手を入れて、刊行されたものである。

もともと講演だったため、少し読みづらいところもあるが、それほど難しい単語が並んでいるわけではない。

そういった意味では、本論文は、講読に適していると言える。

また、「国民国家と経済政策」は、ヴェーバーの若いころの考えを如実に表しているという意味で、興味深いものになっている。

われわれは、本論文を読むことによって、その後展開されていくヴェーバー社会学の雛型を理解することになる。

授業の進め方:

先にも書いたように、輪読制をとる。

つまり、一人が一段落ずつ担当して訳していく。

そしてそこで使用されている概念や、主張してある内容を、担当者が解説していく。

分からない場合は、必ず辞書等に当たってくる。

あくまでも本講義は、ドイツ語学の授業ではなく、社会学の授業である。

内容の理解が欠かせない。

テキスト

Max Weber, Nationalstaat und wirtschaftspolitik ,(in) Max Weber Gesamtausgabe,2.Halbband.

講読テキストに関しては、最初の授業でコピーを配布する。

参考書

ヴェーバーに関する研究書、参考書は星の数ほどあるので、ここでは挙げられない。

そのため、授業のなかで適宜、紹介したいと思う。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

特にない。

各自で検索されたい。

その他

もしもテキストの水準が参加学生の能力をはるかに超えている場合は、テキストの変更を行う可能性がある。



都市政策論 S  
都市政策論 NA

13414

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 リム・ボン

講義内容・テーマ

都市政策とは、われわれが日常生活の場で直面する種々の都市問題を解決するための社会工学的取り組みに他ならない。本講義では、主として京都市を事例としつつ、都市のランドデザインと局所的な地域デザインとの相互関係を分析する。このような作業を通じて、都市政策における基本コンセプトの構築方法とそれを具現化するための技術的アプローチの体系のあり方を考察する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

教室で、時空を超えた世界旅行を楽しみましょう。映像をたくさん観ます。

評価方法・基準

- \* レポート: 試験に代わるレポートとして実施
  - \* 日常点: 加味する
- 教科書を用いた演習型小テスト(15点) × 4回 = 60点  
試験に代わるレポート課題 = 40点

講義スケジュール

- 第1週 都市の再生 - 明治・京都の復興計画 -
- 第2週 演習・小テスト 「京都の都心コミュニティ」
- 第3週 演習・小テスト 「京都の企業とまちづくり」
- 第4週 演習・小テスト 「京都の都心再生」
- 第5週 モザイク模様の都市計画
- 第6週 ハーレムの再生とNPO
- 第7週 演習・小テスト 「ハーレムは蘇るか」
- 第8週 リサーチ・1
- 第9週 公共事業論 - 脱公共事業 -
- 第10週 公共事業論 - 岐路に立つゼネコン -
- 第11週 まちづくりの新たな展開 - 地域通過の希望 -
- 第12週 都市の危機管理 - 阪神・淡路大震災 -
- 第13週 都市の危機管理 - ニューヨーク同時多発テロ -
- 第14週 手抜きマンション、欠陥住宅、近隣紛争を考える
- 第15週 リサーチ・2

テキスト

三村浩史・リム・ボン編著『町衆企業とコミュニティ』高菅出版、2001年  
教科書は必携です。これがないと小テストは受けられません。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 リム・ボン

講義内容・テーマ

古代から未来までの時間軸で都市の歴史の変遷過程を通時的に捉え、同時に、各時代断面ごとにみられる都市の地域間特性を共時的に概観する。誰もが同意できるような「都市の定義」というものは今もって確立してはいないが、本講義では、これまでの都市づくりの実践例とその背景にある諸学説とを学ぶ作業を通じて、われわれの身近にある都市の風俗や空間のコンテキストを解釈する能力を養うことを目的としている。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

教室で、時空を超えた世界旅行を楽しみましょう。映像をたくさん観ます。

評価方法・基準

- \* レポート: 試験に代わるレポートとして実施
  - \* 日常点: 加味する
- 教科書を用いた演習型小テスト(15点) × 4回 = 60点  
試験に代わるレポート課題 = 40点

講義スケジュール

- 第1週 歴史都市の再生(講義、映像)
- 第2週 演習・小テスト 「京都の都心コミュニティ」
- 第3週 演習・小テスト 「京都の企業とまちづくり」
- 第4週 演習・小テスト 「京都の都心再生」
- 第5週 ニューヨーク・マンハッタン(講義、映像)
- 第6週 ハーレムの再生とNPO(講義、映像)
- 第7週 演習・小テスト 「ハーレムは蘇るか」
- 第8週 リサーチ・1
- 第9週 ベルリンの歴史と地域開発(講義、映像)
- 第10週 オスマンのパリ大改造(講義、映像)
- 第11週 歴史都市・フィレンツェ(講義、映像)
- 第12週 インドネシア・ジョグジャカルタ(講義、映像)
- 第13週 北京の歴史と地域開発(講義、映像)
- 第14週 水上都市・京都(講義、映像)
- 第15週 リサーチ・2

テキスト

三村・リム編『町衆企業とコミュニティ』高菅出版、2001年  
教科書は必携です。これがないと小テストは受けられません。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

日常性の社会学 S  
社会病理学 S

10365

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 市井 吉興

### 講義内容・テーマ

C. W. ミルズが語った「社会学的想像力」という言葉がある。この言葉は、「熟知している自らの型にはまった日常生活を新たな目で見直すために、当たり前のことがらから離れてものごとを考える」ということである。本稿の目的は、このような想像力を養うことによって、個人的なものなかに社会的なものを見出し、また個別的なものなかに一般的なものを見出す機会を得ることにある。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講に際し、「参考文献」で紹介した文献を読んでおくことが望ましい。なお、講義毎に講義内容に関わった文献を紹介するので、それもあわせて読むことを求めたい。

### 評価方法・基準

\*筆記試験・定期試験として実施

定期試験を最終的な評価とする。なお、進度に合わせて講義内で簡単なレポートや感想文の提出を求めることがある。当然のことながら、これらのレポートや感想文も評価の対象とする。

### 講義スケジュール

以下の6つのテーマを15回の講義で考察したい(若干の変更の可能性あり)。

1. 「日常性の社会学」とは何か? - 社会学史からのアプローチ
2. ハビトゥスについて - マナーを題材に
3. 暴力について - スポーツを題材に
4. 感情の社会学 - 「私のキモチ(感情)」ってなに?
5. 「マクドナルド化」する社会 - マニュアル化する社会と「私」
6. 「Informalization(脱形式化)」の社会学

### テキスト

特定のテキストを使用せず、講義毎にレジユメを配布する。なお、講義においてVTR等の視聴覚教材を用いることもある。

### 参考書

ノルベルト・エリアス 赤井慧爾他訳『文明化の過程(上・下)』法政大学出版局、1977・1978年。  
ミッシェル・マフェゾリ 佐々木交賢監訳『現在の征服 - 日常性の社会学』恒星社厚生閣、1985年。  
山田富秋『日常性批判: シュツ・ガ・フィケル・フー』せりか書房、2000年。  
ジョージ・リッツァ 正岡寛司監訳『マクドナルド化する社会』早稲田大学出版部、1999年。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

乳幼児心理学 S  
認知発達論 S

15141

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 清水 民子

講義内容・テーマ

テーマ「乳幼児発達への見取り図」

内容:出生から就学まで(0～6歳)とその前後を含む時期の発達について、主として発達心理学的研究方法とその知見にもとづいて概説する。

具体的な時期区分としては胎生期、乳児期、幼児期、児童(学童)期の呼称を用い、それぞれの時期の発達の特徴を述べる。ひきつづき、運動機能、認知機能と操作、感情と社会性、人格発達と生活様式など、領域別の発達について述べる。

さまざまな方法による研究資料にふれ、乳幼児期への関心を喚起したい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準\*筆記試験:定期試験として実施  
試験による。講義スケジュール

1. 乳幼児期のアウトラインと生涯発達における位置
2. 胎生期の発達
3. 新生児期の発達と生活
4. 乳児期前後の発達と生活
5. 乳児期後期の発達と生活
6. 幼児期前期の発達と生活
7. 幼児期の質的転換期
8. 幼児期後期の発達と生活
9. 運動機能の発達と動きの遊び
10. 手操作の発達と空間関係把握
11. 言語コミュニケーションと表現の発達
12. 感情と社会性の発達
13. 集団関係と遊び
14. 乳幼児期の人格形成と生活様式 まとめ

テキスト参考書モーリス・ドベス(堀尾輝久ほか訳)『教育の段階』岩波書店 1982年  
心理科学研究会編『育ちあう乳幼児心理学』有斐閣 2000年授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

人間コミュニケーション論 S  
コミュニケーション心理学 S

10619

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 団 士郎

### 講義内容・テーマ

対人コミュニケーションには言語的なものと、非言語的なものがあります。そして人は圧倒的に多く言語的コミュニケーションを使います。そこではしばしば上手、下手の意識が生まれます。その結果ついつい、「他人とのコミュニケーションは苦手…」などという説明を自分に貼り付けてしまいます。また一方で、得意な人も苦手な人も、非言語的コミュニケーションについて自覚することは少ないものです。自分の態度が他者の目にどのように映っているのか。気にはなるけれども、明らかにすることはありません。

ここにはコミュニケーションの「技術」と「内容」の二つの課題が存在します。当然のことですが、良好な対人コミュニケーションはコンテンツ(伝える内容)とプロセス(伝達的手段技術)の両者がうまく備わってこそです。この課題に実習授業で挑戦します。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

産業社会学科3回生以上 / 人間福祉学科2回生以上

この講義は受講生参加の実習中心におこないます。ですから教室では毎回エクササイズを行ないます。そして毎回ミニレポートの提出を課します。

### 評価方法・基準

\* レポート: 試験に代わるレポートとして実施

\* 日常点: 加味する

試験ではなく、自由記述のレポートで評価は行います。ただし、毎週の実習とミニレポート提出に重点を置きます。

### 講義スケジュール

オープニング・トーク30～40分 今日のエクササイズ30～40分 ミニレポートまとめ15分  
毎回、こんな時間配分で実習をおこないます。

### テキスト

使用しません

### 参考書

団士郎 ヒトクセある心理臨床家の作り方 金剛出版

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

10回以上の出席ができそうにない方は登録しないでください。授業の進行上、実習開始後の遅刻者には配慮できません。

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3回生

担当教員

### 講義内容・テーマ

この演習は「社会福祉援助技術実習」「社会福祉援助技術実習指導」と連動して運営される。前期では実習に向けた事前準備のための学習、後期では実習終了後の振り返り学習を中心にする。演習を通して、社会福祉施設や機関・団体など社会福祉現場についての理解を深めるとともに、社会福祉従事者としての基本的態度や価値・技術・知識の習得を目指していく。特に実習先となる社会福祉の現場理解を重視した演習内容とするが、詳細については演習初日に説明する。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この演習は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前事後の演習であるため、毎回の出席を心掛けること。また実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工夫すること。

### 評価方法・基準

\* 日常点:加味する

毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート、実習計画(特に実習での課題設定)、事後に課す振り返りレポート、等をもとに総合的に評価するが、詳細は演習初日に説明する。

### 講義スケジュール

前期

オリエンテーション - 社会福祉現場実習の位置付け / 社会福祉従事者の基本的態度・価値・技術 / 実習施設・機関についての基礎的理解 / 社会福祉現場実習の理解 / 社会福祉実習施設・機関のリサーチ報告 / 実習計画の作成(実習課題と計画) / 実習計画のプレゼン

テーション / スーパービジョン

後期

オリエンテーション / 実習振り返り(実習体験の共有) / 実習レポートの作成と自己評価(実習課題と達成) / 今後の課題(研究課題・進路) / 実習報告プレゼンテーション / スーパービジョン

### テキスト

別途指示する

### 参考書

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

人間福祉工学 S  
生体機構論 S

15422

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 斎藤 正一

### 講義内容・テーマ

テーマ～誰もが生活できる人づくり・街づくり・環境づくり  
障害を持つということは如何なるものかを医学的にも精神的にも肉体的にもあらゆる角度から知る。  
誰もが障害者になる可能性を秘めており、そのとき街は、人々は、環境は、を考えましょう。  
講師は日々現場で障害者と共に悪戦苦闘している理学療法士です。その現場の生の実態を学習して下さい。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

障害者の深層心理、障害者福祉や本当に住みやすい街づくり環境づくりはどうするのか  
等 興味をお持ちの方

### 評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施  
\*日常点:加味する  
まったく出席せずにレポートだけなどの合格はありません。  
かといって出席が少ないから不合格もありません。  
出席が数回であっても私の講義を充分理解いただければ合格です。

### 講義スケジュール

受講者の人数や講義ごとの意見などでも変更していきませんが  
大まかな概要は

前半 第1講義～第4講義 障害を持つということ 身体・疾患の仕組み・精神的な動き  
中盤 第5講義～第9講義 障害体験・出来れば実技・  
後半 第10講義～第14講義 福祉用具について、家や街の仕組み・誰もが暮らしやすい環境とは  
最終 第15講義 まとめと結論

### テキスト

講義の際に配布いたします

### 参考書

目で見るとリハビリテーションの実際 東京大学出版 上田敏

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

<http://yagi.doshisha.ac.jp/bf/guide/guide-top.htm> 車椅子で回れる京都観光ガイド  
<http://www.jaeic.or.jp/hyk/index.htm> ひとにやさしい建築・住宅推進協議会

### その他

人間福祉特論 SA  
発達福祉特論 SA

11978

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 中川 克

### 講義内容・テーマ

従来の医学一般IIIに相当する医学一般の継続講義である。  
教科書後半の精神保健以降を講義する。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

積極的に学びたい者のみの出席を求む。  
私語・居眠りをする者は退席していただく。

### 評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施  
\*レポート:試験に代わるレポートとして実施  
出席は採らない。レポートと、定期試験(筆記試験)の成績を総合的に評価する。

### 講義スケジュール

1. 精神保健(第1～3週)
  - 1)精神障害
  - 2)精神保健
2. 医学的リハビリテーション(第4～5週)
  - 1)医学的リハビリテーションの概要
  - 2)リハビリテーション担当専門職種とその構造
3. 公衆衛生の現状(第6～7週)
  - 1)衛生公衆衛生学と衛生行政
  - 2)人口統計
  - 3)傷病及び受療の状況
  - 4)医療供給システム
4. 保健医療対策の現状(第8～11週)
  - 1)健康づくり対策
  - 2)地域保健対策
  - 3)感染症対策
  - 4)結核対策
  - 5)精神保健福祉対策
  - 6)難病対策
  - 7)臓器移植体制等
  - 8)痴呆性高齢者対策
5. 医事法制の概要(第12～13週)
  - 1)医事法規の意義と分類
  - 2)医療関係者に関する法の基本的構造
  - 3)医師法、歯科医師法
  - 4)保健婦助産婦看護婦法
  - 5)医療法
6. まとめ・補足(第14～15週)

### テキスト

新版・社会福祉士養成講座13「医学一般」、  
福祉士養成講座編集委員会編、中央法規出版2001

### 参考書

「国民衛生の動向」厚生指針(臨時増刊)  
2001年、財団法人厚生統計協会

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/>

### その他



人間福祉特論 SB

13143

発達福祉特論 SB～人間福祉学科キャリアディベロップメントプログラム～

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 小川 栄二

講義内容・テーマ

人間福祉学科は、人間がより人間らしく生きられる福祉社会を築く人材を養成していくという理念で設置された。すでに、人間福祉学科の前身「発達・福祉コース」の卒業生は社会福祉分野だけではなく、多様な分野で「福祉の視点」を持ちながら活躍している。本講では、多様な分野で活躍する本学卒業生等の話を聴き、現代社会のあらゆる分野において「福祉の視点」が必要であることを理解するとともに、将来どのような形で福祉に携わるのか、将来を見据えて現在どのように学習したらよいのか、等のアドバイスを受ける場としても位置づけたい

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

- \* レポート: 試験に代わるレポートとして実施
  - \* 日常点: 加味する
- 試験に代わるレポートと日常点

講義スケジュール

次のとおりリレー講義を行う

1. 「オリエンテーション - 福祉社会の『人』を考える」産業社会学部人間福祉学科 小川栄二助教授
2. 「障害学からの視点: 支援の役割と国際ネットワーク」東京大学先端科学技術研究センター-特任教授 長瀬修氏
3. 「生活トータルプランナーを目指すピップトウキョウ」ピップトウキョウ株式会社・MD第一グループベビー担当 粟野祥子氏(産業社会学部2001年度卒)
4. 「企業が何故、福祉事業を展開するのか」ベネッセコーポレーション大塚英治氏(国際関係学部1994年度卒)
5. 「高齢者福祉の今」特別養護老人ホームなごやかハウス名西・介護職員 植村若菜氏(産業社会学部2001年度卒)
6. 「医療ソーシャルワーカーとして」摂津ひかり病院医療ソーシャルワーカー 渡辺浩世氏(産業社会学部2001年度卒)
7. 「地方の時代の福祉」群馬県高崎市役所 塚本秀幸氏(産業社会学部2001年度卒)
8. 「児童福祉の展望」蜂が丘保育園園長 中西京子氏(本学文学部1988年度卒)
9. 「INAXの挑戦」INAX首都圏統括支社住器特販部 保田彰氏(産業社会学部2001年度卒)
10. 「障害者の自立支援」知的障害者入所更生施設かいぜ寮生活支援員 高田昌図氏(産業社会学部2001年度卒)
11. 「地域福祉の視点」京都市社会福祉協議会地域福祉部主事 盛武希氏(社会学研究科2001年度修了)
12. 「国家行政と福祉」厚生労働省事務官 郷原寛史氏(産業社会学部2000年度卒)
13. 「NPOの可能性」NPO法人生活支援センター・アットホーム新川指導員 島崎尚子氏(産業社会学部2001年度卒)
14. 「社会保険労務士と福祉」労働研究舎主宰社会保険労務士 戸嶋哲也氏(高知大学教育学部卒)
15. 「大学の進路支援」本学キャリアセンター・倉本氏、小川助教授

テキスト

指定しない

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

人間福祉特論 SA  
 応用社会学特論 SA

13239

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 小川 栄二

講義内容・テーマ

ホームヘルプ(訪問介護)は「在宅福祉の要」といわれ、介護保険の中でも在宅サービスの中心的なメニューとして位置付けられている。しかし低賃金、サービスへの低い評価、短時間過密介護など、国民の命にかかわる大切なサービスが大事に扱われていない現状がある。本講では我が国におけるホームヘルプ制度の生成と発展の歴史、「行革」期をへて今日の介護保険に至る経過について、制度・政策の流れ ホームヘルプを必要とする国民の現状 ホームヘルプの労働過程と専門性の3つの角度から解説し、さらに高齢期に生きること、ケアの思想など人生の意味を考える話題にも及びたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施

講義スケジュール

1. 我が国のホームヘルプ(訪問介護)制度の政策と現状。  
 社会福祉サービスとしてのホームヘルプ制度の発足と経過、「福祉見直し」下、臨調「行革」下、介護保険・基礎構造改革下での制度の制度・政策の変容を、要綱の変遷、人材政策の変遷、地域福祉政策との関係、など主要なテーマに沿って解説する。
2. ホームヘルプを必要とする国民の現状  
 ホームヘルプの対象論として、権利主体者としての利用者の現状と課題を、ホームヘルプを必要とする国民の現状と生活課題 「利用者主体」の考え方 介護保険下での生活の変容、など主要なテーマをとりあげて解説する。
3. ホームヘルプの労働過程  
 ホームヘルプの労働過程の最も先端的な事例研究を紹介する。  
 現役ホームヘルパーをゲストスピーカーに招いてリアルな現状を紹介する。
4. ホームヘルプ労働の課題  
 ホームヘルプ労働のあり方について、ホームヘルプ労働をめぐる国の政策 「介護」「ホームヘルプ」の概念について ホームヘルプの専門性について ホームヘルプ労働の争点 ホームヘルプの主体形成の課題 など、最も今日的・実践的なテーマに沿って解説する。

テキスト

テキストは指定しないが、参考書は通読しておくこと。

参考書

世田谷対人援助研究会『ホームヘルプにおける援助「拒否」と援助展開を考える』筒井書房、1999年、河合克義編  
 『ホームヘルプの公的責任を考える』あけび書房、1998年、石田一紀『介護における共感と人間理解』2002年

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

現場の実例を踏まえた専門的な内容です。

人間福祉特論 SB  
応用社会学特論 SB

10631

授業開講期間 後期                      単位数 2                      配当回生 2回生  
担当教員 津止 正敏

#### 講義内容・テーマ

【日本社会福祉理論研究の古典を読む】

社会福祉とは何かを社会福祉理論研究の古典から読み解いていく。我が国の社会福祉理論研究で特筆される「社会福祉本質論争」の当事者(孝橋正一・岡村重夫)並びにその論争後継者(真田是)の原著を教材とする。三人の先達者の理論を導きの糸としながら現代社会福祉理論の批判的考察のための基礎研究に繋げる。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

演習形式で行なう。三人の原著を各人で分担しつつ読解していくので、毎回の出席を受講登録の条件とする。

#### 評価方法・基準

\* レポート: 試験に代わるレポートとして実施

\* 日常点: 加味する

成績評価は、出席状況40%、報告内容30%、レポート内容30%とする。毎回の参加態度(発言・傾聴・小レポート)も加味する。

#### 講義スケジュール

#### テキスト

孝橋正一著『全訂・社会事業の基本問題』ミネルヴァ書房、1962年

岡村重夫『社会福祉原論』全国社会福祉協議会、1983年

真田是『現代の社会福祉理論』労働旬報社、1994年

上記のテキストのうち入手不可の場合もあるが(特に )、コピー等で各自が必ず手持ちする事。担当者が一時貸し出しする。

#### 参考書

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

授業の中で紹介する。

#### その他

人間福祉特論 SC  
応用社会学特論 SC

12869

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 加藤 園子

### 講義内容・テーマ

#### 日瑞福祉比較研究

社会福祉・社会保障の領域における国際比較研究は、たとえば年金・医療・社会サービスなど個別分野での取り組みとしてはあるが、国際比較研究の方法論を用いて総合的、理論的に体系づけた比較福祉学の確立はこれからの課題である。この講義では、福祉先進国北欧・スウェーデンの福祉の到達点を、福祉国家生成・発展の歴史とその政治理念・社会システムなどとの関わりで総合的に検討し、両者の比較をとおして日本が取り組むべき課題はなかについて考察する。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

グループ討議及び課題レポートの提出を求めるので、主体的な授業参加態度を期待する。

### 評価方法・基準

- \*筆記試験：定期試験として実施
- 定期試験、課題レポートなど総合評価。

### 講義スケジュール

#### 序 福祉比較研究の視点と課題

1. 社会福祉をめぐる国際的動向
  - 1) 資本主義の危機管理政策としての「福祉国家」と「福祉社会」
  - 2) 「福祉国家」クラスターと日・瑞の位置
2. 現代日本の社会福祉動向と日本の特徴
  - 1) 「福祉国家」から「日本型福祉社会」への転換
  - 2) 「日本型福祉社会」と「社会福祉基礎構造改革」のめざすもの
  - 3) 社会福祉における「日本的」なるもの
3. 北欧スウェーデン福祉国家政策と特徴
  - 1) スウェーデン福祉国家形成・発展の史的展開
  - 2) 福祉国家の政治理念と思想的背景
  - 3) 社会システムとしての「スウェーデン・モデル」と社会福祉
  - 4) 北欧民主主義の到達点と民主的社会制度
4. 日本とスウェーデンの福祉比較
  - 1) 社会福祉の「理念」「権利性」の視点
  - 2) 高齢者福祉制度のしくみと福祉水準比較
  - 3) 日・瑞福祉の差異の背景にあるもの
5. スウェーデン社会福祉から学ぶこと

### テキスト

とくに使用しない。

### 参考書

講義中に随時紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

人間論 S  
人間論 S

11783

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 佐藤 嘉一

講義内容・テーマ

講義内容・テーマ 行為と構造

「人間が社会をつくり、社会によって人間はつくられる」という人間と社会の間の「弁証法」の問題について、「行為」と「構造」の

二つのキー概念を用いながら、文芸作品にもふれながら、理論的歴史的に考察する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

\* 筆記試験：定期試験として実施

\* レポート：試験に代わるレポートとして実施

期末試験およびレポート(3回)によって評価する。

講義スケジュール

## 第一ステップ

1. 「いない、いない、ばあ」考
2. 「かくれんぼう」考
3. 「社会とパーソナリティ」の人間学

## 第二ステップ

4. 民話「赤ずきんちゃん」を読む
5. 「赤ずきんちゃん」のアイデンティティと社会
6. 民俗社会の「行為と構造」

## 第三ステップ

7. 「ロビンソン・クルーソーの冒険」を読む
8. 「ロビンソンの人間類型」と社会科学
9. 「ロビンソン・クルーソー」におけるアイデンティティと社会
10. 市民社会の「行為と構造」

## 第四ステップ

11. ドストエフスキー『未成年』を読む
12. 『未成年』における「アイデンティティと社会」
13. 非・否・脱「近代」社会の「行為と構造」

テキスト

教科書は指定しない。講義において毎回レジュメを配布する。

参考書

次の参考書の一冊は必ず読むことを薦めます

リースマン『孤独な群衆』みすず

ベラー『心の習慣』みすず書房

ベラー『善い社会』みすず書房

一層専門的に学びたいと思う諸君には

アルフレッド・シュッツ『社会的世界の意味構成』(木鐸社)に取り組んでほしいと思います。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 4回生

担当教員 佐藤 嘉一

### 講義内容・テーマ

講義内容・テーマ「身体・自然・社会」

哲学、社会学、人間学などこれまでの人間研究を広く学び、文化、パーソナリティ、社会の研究に必要な学習上の基礎を学ぶ。特に自然と社会との関わりにおける「身体」も問題に着眼し、「生きる」というテーマを追求する。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

### 評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施

試験およびレポート(3回)の提出

### 講義スケジュール

以下のようなトピックを取り上げて講義する。

#### 第1のステップ

1. 「精神の病」の問題
2. 「欠陥生物」としての人間
3. 身体の発見

#### 第二ステップ

4. 「痛み」の人間学
5. 「もののあわれ」の人間学
6. 「陰翳礼賛」の人間学

#### 第三ステップ

7. 「声」の人間学
8. 「眼」の人間学
9. 「行為」の人間学

#### 第四ステップ

10. セザンヌの「りんご」とクレーの「自画像」
11. からだと「ことば」
12. 「いのち」とことば

### テキスト

テキストは使用しない。教室において毎回レジュメを配布する。

### 参考書

このうちからどれか一冊を選んで読んでください

グレゴリー・ベートソン『精神と自然』思索社

アーノルト・ゲーレン『人間』法政大学出版会

M・デュフレンヌ『眼と耳』みすず書房

ベルクソン『時間と自由』白水社

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 堀 孝弘

講義内容・テーマ

講師が事務局長を務めるNPO法人環境市民の活動を中心に、NGO間のネットワーク、NGOと自治体、企業のネットワークがいかに活動領域を広げてきたか、最新の姿を紹介し、新しい社会セクターである市民セクターの理解を深める。また、成功するネットワークの条件、パートナーシップとの違いなどをおさえることで、社会運動構築の方法論の基礎も学ぶ。講師の活動としては、グリーン購入ネットワークの立ち上げ参道など、市民活動だけでなく、自治体、企業にはたらきかける活動を展開してきた。詳細はホームページを。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

特にないが、市民運動、市民セクターの新しい動きと、環境活動の展望に関心を持つ者。

評価方法・基準

- \* 筆記試験：定期試験として実施
- \* 日常点：加味する
- 出席重視、試験による評価

講義スケジュール

- 1、オリエンテーション、授業の方針と受講者の関心
- 2、ネットワークとパートナーシップのちがひ
- 3、成功するネットワークの条件
- 4、ネットワークを組む理由、環境活動の目指すもの
- 5、持続可能な社会の展望(1)自然保護、生きものたちのネットワーク
- 6、 " (2)ごみ問題、海外先進事例の紹介
- 7、 " (3)エネルギー1、効率的利用による省エネ
- 8、 " (4)エネルギー2、脱原発社会への展望
- 9、 " (5)交通 利用される公共交通
- 10、 " (6)経済 環境と経済の両立する社会
- 11、 " (7)ライフスタイル 環境を大切にすることの豊かさ
- 12、環境ネットワーク活動の実際(1)グリーンコンシューマー全国ネットワーク  
グリーン購入ネットワーク
- 13、 " (2)環境首都コンテスト全国ネットワーク
- 14、 " (3)ローカルアジェンダ21、自治体と市民の連けい
- 15、まとめ 市民活動の今後の展望

テキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

[www.kankyoshimin.org](http://www.kankyoshimin.org) 環境市民のホームページを見ておくこと

その他

農村環境計画論 S 都市・農村計画論 S	12690
-------------------------	-------

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 深井 純一

講義内容・テーマ

本講では農山漁村・農林漁業・農漁民と都市住民にとっての環境・食料・保養との関わりを多面的に考察し、前者が後者のために果たしてきた役割を改めて考えてみたい。そして前者の保全・再生のために後者がなすべきこと、なしうること、すでになしつつあることを明らかにして、日本における「都市と農村」の今日的な関係を展望したい。

昨年半年間探訪してきたスペイン・イギリスを始めとするヨーロッパ各国の農家民宿と田園観光地に見られるグリーン・ツーリズムの現状も可能な限り紹介したい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

教員と受講生との自由で対等な関係をめざしたい。開講当初に期末レポートの出題と成績評価の基準案の提案をする。また下記の「授業の流れ」に示すように、ビデオや特別講義に関する感想・批判のアンケートの提出を求めるので、出席を心がけてほしい。

評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施

\*日常点:加味する

講義概要に関連したテーマの中から自由に選択する期末レポートを主要対象、5回ほどの各種アンケートを副次的な対象とし、その基準は上記のように開講当初に提案し、受講生の合議で決めたい。閉講近くなつての合議による決定は以前から実施していたが、受講生の希望を入れて今年度は開講当初に行うことにする。

講義スケジュール

開講に当って - 教員と学生の対等な関係、学生の自由な批判と討論をいかに実現するか

第2講 ビデオ上映『段々畑の歳月 - 太田部耕地の40年』、感想・質問アンケート

第3講 ビデオ・アンケートへの回答 / 過疎問題を考える視角

第4講 過疎対策 = 山村振興策の基本

第5講 森林と木の文化 / 北山林業・磨き丸太生産の歴史と現状

第6講 旧来の農家の半自給的な生活様式と個別複合経営の崩壊がもたらしたもの

第7講 ビデオ上映(番組未定)、感想・質問アンケート

第8講 ビデオ・アンケートへの回答 / 産直のあり方を考える

第9講 現場の農民による特別講義

第10講 食料農産物と肥料になる廃棄物の交換 - 都市と農村の根源的關係

第11講 コメ文化と水田の多面的機能

第12講 ビデオ上映『襟裳岬に春を呼べ - 砂漠を緑に 北の家族の半世紀』アンケート

第13講 ビデオ・アンケートへの回答 / 各地の漁民と市民・子供たちによる森づくり

第14講 西欧と対比しての日本型グリーン・ツーリズムの方向性と課題

第15講 講義内容・講義方法に関する感想・批判アンケート

成績評価基準案の協議・決定

テキスト

特になし。必要な資料はその都度コピーを配布する。

参考書

参考文献の検索法をガイドする。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業に出ることも有意義だろうが、自分のオリジナルな問題意識を磨く旅を重ねてほしい。それこそが自由選択テーマでの優れたレポートを書くことを可能にするはずだ。



発達障害論 S  
身体発達論 S

12575

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 荒木 穂積

講義内容・テーマ

発達障害の概念、発生・成立のメカニズム、診断、予後および療育・指導方法などについて、人間の発達過程と関わらせて論じる。乳幼児においては早期発見・早期対応・早期療育などの課題と関わらせて、学童期・青年期においては学校教育・集団活動などの課題と関わらせて考えていきたい。

また、人間発達の過程において発達の質的転換期との関わりで発達障害をとらえることの意味についても論じる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

(1)講義の性質上、VTRなど視聴覚教材を利用して授業をすすめることが多くなる。

(2)授業中に資料を毎回配布する

評価方法・基準

\*筆記試験：定期試験として実施

\*日常点：加味する

成績の評価は、授業の中間レポート(必修)と定期試験による。

講義スケジュール

1. 人間発達と発達障害
  - (1).人間の発達とは
  - (2).発達障害の概念
2. 人間の発達過程と発達障害
  - (1).胎生期の発達と発達障害  
先天性障害の成立とその予防
  - (2).乳児期前期の発達と発達障害  
運動発達および運動障害
  - (3).乳児期後半の発達と発達障害  
言語の発生および言語障害
  - (4).幼児期の発達と発達障害  
遊びの発達および精神発達遅滞
  - (5).学童期の発達と発達障害  
学力の形成および学習障害
3. 広汎性発達障害をめぐって
  - (1).広汎性発達障害の概念
  - (2).広汎性発達障害の単位障害
    - a.自閉症
    - b.アスペルガー症候群
    - c.その他
4. 発達障害と社会参加
  - (1).当事者主体ということ
  - (2).自立と社会参加

テキスト

第1回目の授業で指示したもの、および授業中の配布資料。

参考書

- (1)田中昌人・田中杉恵『子どもの発達と診断』～、大月書店
- (2)尾崎望・出島直編『子どもの障害と医療』全国障害者問題研究会出版部
- (3)稲沢潤子・オノビン監修『障害を知る本』大月書店

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 荒木 穂積

### 講義内容・テーマ

発達保障は、社会福祉や保育・教育、医療などの実践や理論と関わっており、人権や社会保障を根底から成り立たしめるためにうまれてきた権利保障の思想と科学である。人間が一生をかけて自己実現を成し遂げるためには、生まれてから死をむかえるまでのライフサイクルをとおして、人生のそれぞれの時期にどのような内容の発達が保障されなければならないかを考える学問である。

特に、乳幼児や障害者(児)、青少年、婦人、高齢者などいわゆる「社会的弱者」とよばれている人たちの発達の可能性を取り上げることによって、発達を成り立たせているものや発達を疎外しているものについての理解をより本質に分け入って深めていきたいと考えている。

また、本講義では、全ての人の発達が保障されるための歴史的・社会的条件の変遷および「発達の権利」の生成・発展過程についても考えていきたい。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

- (1).授業中に資料を毎回配布する
- (2).授業中、スライド・VTR等の視聴覚教材を使用する。
- (3).ゲストスピーカーによる講義をおこなう予定である。

### 評価方法・基準

\* 筆記試験：定期試験として実施

\* 日常点：加味する

成績の評価は、授業の途中で提出を求めるレポート(必ず提出のこと)と定期試験による。

### 講義スケジュール

1. 発達保障とは何か
  - (1).発達保障の理念
  - (2).歴史的経緯
  - (3).構成要素
2. 人権と発達保障
  - (1).人権概念の発展と発達保障の国際的動向 - 人間の安全保障と発達保障 -
  - (2).平和・発達(発展、開発)・平等 - 国連開発計画(UNDP)『人間開発報告書』を中心に -
3. 障害者(児)の権利と発達保障
  - (1).現代社会と障害者の権利(1):『夜明け前の子どもたち』・発達保障思想の誕生
  - (2).現代社会と障害者の権利(2):子ども・婦人・高齢者の権利と障害者の権利
  - (3).現代社会と障害者の権利(3):誕生しつつある「障害者の権利条約」
  - (4).現代社会と障害者の権利(4):インクルージョンとバリアフリーおよび障害者の権利
  - (5).現代社会と障害者の権利(5):戦争と障害者
4. 子どもの権利と発達保障
  - (1).子どもの権利の発生と発展 - 保護から権利擁護、子ども主体へ -
  - (2).「子どもの権利条約」にみられる発達保障の思想
  - (3).現代社会と子どもの権利(1):世界の子供 - 『世界子供白書』を中心に -
  - (4).現代社会と子どもの権利(2):日本の子供 - 『子ども白書』を中心に -
5. 21世紀と発達保障
  - (1).「第3世代の人権」としての発達保障 - 健康権・環境権・戦争と平和・連帯する権利などに関わって -
  - (2).「発達保障の世紀」としての21世紀 - 発達保障の科学 -

### テキスト

特に定めないが、UNICEFの『世界子供白書』、UNDP『人間開発報告書』などをダウンロードすることができる。また、授業中に配布する資料を参照のこと。

### 参考書

- (1).糸賀一雄『福祉の思想』日本放送協会出版
- (2).田中昌人・清水寛編『発達保障の探求』全国障害者問題研究会出版部
- (3).ユニセフ編『世界子供白書』各年度版、日本ユニセフ協会
- (4).日本子どもを守る会編『子ども白書』各年版、草土文化
- (5). UNDP『人間開発報告書』各年版、世界開発計画

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

UNDP: <http://www.undp.org/>

UNICEF: <http://www.unicef.org/>

国連広報センター: <http://www.unic.or.jp>

日本ユニセフ協会: <http://www.unicef.or.jp/>

その他

パブリックアクセス論 S  
マス・コミュニケーション論 S

12693

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 3回生  
担当教員 津田 正夫

講義内容・テーマ

デジタル化の到来によって、多メディア・多チャンネル化は現実となり、インタ-ネットなどによる市民の発信機会は増えている。しかし日本ではマス・メディアへのアクセス権は保障されていない。市民社会での相互理解、自己決定、合意形成などの基本的なテーマとして、どのようにメディアへのアクセス権、言論の公共圏を形成してゆけるのか、アクセス権の生成、世界の現状から今後の課題を考える。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この講義は主にマス・メディアへのアクセス、自ら表現する思想や実践を学ぶものであることから、日頃からメディアに積極的に関心を持ち、働きかける習慣を持つと実践的な理解が深まる。

評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施  
\*日常点:加味する  
時に応じて実施する小テストおよび期末テストによる。積極的なアクセス実践や、具体的な事例の研究・調査、受講生自身の研究・調査の自主的発表なども高く評価する。

講義スケジュール

- 1、民主主義とメディア
  - (1)なぜパブリック・アクセスか
  - (2)パブリック・フォーラムの成立と変質
- 2、メディアの変質とアクセス要求
  - (3)誤報・不公平への反論・名誉回復
  - (4)人権侵害と名誉回復
  - (5)メディア規制のルールと現状
  - (6)アクセス権の拡大
- 3、欧米のパブリック・アクセス
  - (7)アメリカのパブリック・アクセス 制度
  - (8)アメリカのパブリック・アクセス 背景と課題
  - (9)ヨーロッパのオープン・チャンネル1
  - (10)ヨーロッパのオープン・チャンネル2
- 4、日本のPAC成立と課題
  - (11)日本のパブリック・アクセスの成立
  - (12)パブリック・アクセスの現場から
  - (13)さまざまなパブリック・アクセス番組
  - (14)パブリック・アクセスの課題と政策

テキスト

津田正夫・平塚千尋編『パブリック・アクセスを学ぶ人のために』世界思想社 生協扱い

参考書

津田正夫・平塚千尋編『パブリック・アクセス』リベルタ出版、津田正夫『メディア・アクセスとNPO』リベルタ出版、堀部政男『アクセス権とは何か』岩波書店、原寿雄『ジャーナリズムの思想』岩波書店、竹内郁郎・田村紀雄『新版・地域メディア』日本評論社

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 高橋 裕子

講義内容・テーマ

ジェンダーが社会的・文化的に構築されたものである以上、社会や文化の異相は男と女の生活様式の異相となって現れる。ジェンダーが、「男」と「女」のあるべき姿つまり理念系を構成し、その結果、社会・文化が異なろうとも男と女は、各々の社会・文化に規定された二項対立的な生活様式を有するからである。社会・文化によって異なる男と女の生活様式を概観し、そこで必要とされている「福祉」とはいかなるものなのかを考察したい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義への継続的な出席が望まれる。

評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施

\*日常点:加味する

小テスト・レポート20%、定期試験80%。出席点を加味する。

講義スケジュール

1. イントロダクション
2. 生物学的性・セクシュアリティ・ジェンダー
3. 生物学的性・セクシュアリティ・ジェンダー
4. ジェンダーに規定される生活様式
5. ジェンダーに規定される生活様式
6. ジェンダーに規定される生活様式
7. 北欧諸国に見る「労働」・「結婚」・「家族」
8. 北欧諸国に見る「労働」・「結婚」・「家族」
9. 「福祉国家」の可能性と限界
10. アジア諸国に見る「労働」・「結婚」・「家族」
11. アジア諸国に見る「労働」・「結婚」・「家族」
12. 「主婦化」の可能性と限界
13. ジェンダーと「福祉」
14. ジェンダーと「福祉」
15. まとめ

テキスト

使用しない。

参考書

講義の中で適宜紹介していく。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

比較宗教論 S  
比較宗教論 S

11788

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 本林 靖久

#### 講義内容・テーマ

誕生・成人・死などの人生儀礼、祭、年中行事などの民俗宗教は、我々の心の奥底にひそむ「見えない宗教」となっている。そこで、あまり宗教を意識しない生活慣習のなかで具体的に「見えない宗教」を探り、さらに宗教の原点ともいえる死生観を他の民族との比較を通して、日本の民俗宗教の根底にひそむ世界観を解明することを目的としながら日本の宗教について考えてみたい。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義形式で行う。但し、講義中に学生に意見をもとめることもある。  
講義中の私語は堅く禁止する。

#### 評価方法・基準

\*筆記試験：定期試験として実施  
\*日常点：加味する  
論述式の期末試験の成績と出席点で評価する。

#### 講義スケジュール

1. 日本人の死生観
2. 普遍宗教と民俗宗教
3. 宗教的シンクレティズム
4. 中絶と宗教
5. 中絶と水子供養
6. 女性と宗教
7. 女人禁制と民俗
8. 日本の通過儀礼の諸相
9. チベット・ブータンの葬送
10. インド・ネパールの葬送
11. タイの葬送
12. バリの葬送
13. 葬送儀礼の比較研究
14. 生命倫理と宗教
15. 民俗宗教のコスモロジー

#### テキスト

テキストは特に定めない。必要な資料はこちらで用意する。

#### 参考書

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

## 比較宗教論 S

14277

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 4回生

担当教員 永都 軍三

講義内容・テーマ

世界の諸宗教における来世観や現世観、特に社会生活と絡みあう場面での習俗や信念などを比較検討し、我々の無知や誤解を克服し、諸宗教の理性的理解を探る。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施

\*日常点:加味する

期末の筆記試験、抜き打ち的におこなう出席調査、数回の簡単な小テストなどから総合的に判断し評価する。

講義スケジュール

. 日本における比較宗教論の先駆者 富永仲基

(1)国民性論(2)方法論(3)仏教思想論

. 「神」概念

(1)ユダヤ教・キリスト教・イスラム教などの一神教の場合(2)ヒンドゥー教などの多神教の場合(3)仏教の場合

. 偶像崇拜について

. 来世観

(1)天国(2)地獄

. 現世観

(1)愛(2)結婚(3)道徳(4)職業生活(5)政治

\*ただし進捗状況により内容の変更もありうる。

テキスト

使用しない。

参考書

授業展開に応じて、適宜紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

比較スポーツ論 S 比較スポーツ論 S	12278
------------------------	-------

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 金井 淳二

### 講義内容・テーマ

様々な国で様々な展開されるスポーツは、それぞれかつてに生み出されてきたのではない。自国から生みだしたにせよ、また他国から受け入れてきたにせよ、それぞれの時代的背景がある。そのことが、スポーツに独特な思想と制度を付与させていくことになる。英・米・日のスポーツについて、その競技形態・ルールや規範・組織機構などを、そのスポーツを生み出した社会・経済的基礎とあわせて比較し、今後のスポーツ受け入れ・交流のあり方を考えていく。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

スポーツ文化論・スポーツ社会学・スポーツ文化史・身体表現論等産社開講科目で得られた知識と関連づけて考えていって欲しい。

### 評価方法・基準

- \* レポート: 試験に代わるレポートとして実施
  - \* 日常点: 加味する
- 評価は、基本的に期末に課すレポートによっておこなう。  
また、出席状況も評価に反映できるようにする。

### 講義スケジュール

#### 1. 序

今日のスポーツ問題と比較スポーツの視点

#### 2. スポーツ母国イギリスのスポーツ

民衆スポーツの生成と展開

騎士道的行為と近代スポーツ

アマチュアリズムの桎梏

#### 3. スポーツ王国アメリカのスポーツ

母国スポーツの継承と展開

経済発展と独自スポーツの創生

スポーツの王国化への背景

#### 4. 日本的スポーツの展開

武術の発生と武道への転換

武道国際化への課題

西欧近代スポーツの日本的受容

時宜の問題を題材にして講義形式で比較検討して行く。流れは若干異なることがある。

比較の基準となる論理を把握できるように、様々な視点・角度からの比較を試みたい。

### テキスト

とくにテキストは使用しない。教室でレジメを配布する。

### 参考書

参考文献は授業の中で紹介して行く。とりあえず、創文企画から出版されている"スポーツ文化論シリーズ"のいくつかを読んで欲しい。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他



比較政治論 S	11282
現代政治論 S	

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 國廣 敏文

講義内容・テーマ

人類はこれまで様々な政治制度や体制を経験してきた。だがこれまでに試みられてきたどの政治制度も、飢餓や貧困、紛争や差別、エネルギー・食料問題など、人々の生活を十全な形で、平和で公平で安定したものとするには成功していない。

本講義は、こうした状況を踏まえ、主要先進国の政治システムの構造・機能・動態を相互に比較・考察することによって各国政治の特質と問題点を抽出し、21世紀に相応しい政治の在り方 = "新しい政治"の在り方を模索することを目的とする。

その際、何よりも事実に基づく分析によって、各国政治に関する正確で具体的な知識の取得とそれらを昇華させた形で日本政治改革への視点を得ることも視野に入れたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

普段から新聞やニュースに目配りしておくこと。

評価方法・基準

\* 筆記試験、最終講義日試験で実施

成績評価 = 単位認定は、セメスター終了時の論述試験を中心としつつ、出席点(総点のうち10点)も加味して総合的に判定する。

講義スケジュール

以下の概要で講義を行なう予定である。

- 比較政治学の方法

第1回：歴史 アリストテレス、モンテスキュー、アダム

第2回：比較政治学の現代的アプローチ 歴史と構造

第3回：比較の指標

- 各国政治の制度的特質と現状 憲法、中央・地方自治、改革の現状

第4回：アメリカ合衆国建国の歴史

第5回：アメリカ合衆国の政治 大統領制

第6回：カナダ政治の歴史と特質

第7回：イギリスの建国と歴史

第8回：イギリスの政治 議院内閣制

第9回：フランス建国の歴史

第10回：フランスの政治 半大統領制

第11回：ドイツ建国の歴史

第12回：ドイツ政治の歴史と特質

第13回：イタリア政治の歴史と特質

- まとめ

第14回：新しい政治の在り方を求めて 日本の課題

テキスト

田口富久治・中谷義和編『新版 比較政治制度論』法律文化社、1999年。

参考書

授業に際してレジュメを配布するとともに、参考文献等を適宜紹介するので、事前・事後の学習に役立てて欲しい。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

「私語」は、自の学習権の放棄であると同時に、他人のそのの侵害であるので、厳禁する。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 小林 康正

講義内容・テーマ

「文化」とは、ひとつの概念、つまりモノの見方に過ぎない。その効用は、我々の日常の自明性を剥奪することにある。それは「異文化」を自らの可能性として引き受けることでもある。比較文化という手法に意味が生じるのは、日常の自明性と不知の異形性を一挙に観照しようとする態度においてしかありえない。本講義では、こうした観点から、憑依現象・「多重人格症」などを取り上げる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

既成概念・既得権(とくに教えてもらうなど)を自明視する態度は、放棄して欲しい。わかりやすさに対する懐疑をもち、ともに考える姿勢を望みたい。

評価方法・基準

\* 筆記試験・定期試験として実施

\* 日常点:加味する

講義には実験的方法を用いるので、その経験が重要である。したがって、授業への出席は重視する。また、講義時に提出してもらった批評感想を評価の対象にする。

なお、遅刻厳禁。授業開始15分後の入室と途中退室の禁止。私語・メール厳禁。

講義スケジュール

(日本における「憑依現象」、「多重人格症」などの諸事例やそれらに対する社会の取り扱いをみることで、近世から現代にいたる日本社会における「人間」、あるいは、「心」の概念の系譜を辿ること) これが本講義の目的である。

第1回 講義への招待 比較文化の可能性と意義

第2回 問題系としての人間 そこに人間はいたのか

第3回 憑依の人間観(1) 託宣のミソロジー 聖なるものの示現

第4回 憑依の人間観(2) 狐憑きのフォークロア 悪意のあらわれ

第5回 憑依の人間観(3) 憑霊のセミアロロジー 意味に喰われる

第6回 憑依の人間観(4) 霊性のモダニズム 教祖誕生

第7回 狂気の人間観(1) 座敷牢のフォークロア 「狐憑きから脳病へ」

第8回 狂気の人間観(2) 精神疾患のジェネアラジー 祈祷性精神病の誕生

第9回 「多重人格」の人間観(1) 白と黒のドキュメンタリー 「見知らぬ私」

第10回 「多重人格」の人間観(2) 無意識のクリミノロジー 危険な隣人たち

第11回 「多重人格」の人間観(3) 偽りのニーマニックス 「悪魔を思い出す娘たち」

第12回 「多重人格」の人間観(4) 解離性のフェノメノロジー 多元的現実と近代的規範の亀裂

第13回 侵入と分裂の人間観 憑依と「多重人格」のはざまで

第14回 多声的認識に向けて

講義の進行予定は、上記のようであるが、ビデオ教材等を利用することも考えているので、変更がありえる。了承をお願いしたい。

テキスト

使用しない。

参考書

川村邦光『幻視する近代空間』青弓社 1990

イアン・ハッキング『記憶を書きかえる 多重人格と心のメカニズム』早川書房1998

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

質問、意見を、歓迎します。ただし、冷静に。

授業開講期間 通年

単位数 2

配当回生 4回生

担当教員 田尻 潤子

### 講義内容・テーマ

本実習は、社会福祉援助技術現場実習のアドバンスト科目であり、社会福祉実践あるいは研究のためのより高度な知識と技能を習得することをめざす。本実習は資格取得の対象科目ではなく、純粋に専門性向上のためのものである。したがって、実習対象施設は、社会福祉実践が行われている施設・機関全般であり、社会福祉実習指定施設に限定しない。(昨年度の実習先として、「医療機関」「老人保健施設」や特色ある実践に取り組んでいる「NPO」等がある)

また、実習期間、時期、内容などは、受講生、担当教員、実習施設・機関の三者で協議しながら決める。実習施設・機関の開拓・調整にあたっては、受講生の積極的な参加を条件とする。授業では、受講生の主体的な取り組みを重視しつつ、実習前の準備と実習後のフォローアップを行う。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会福祉援助技術現場実習を履修済みの4回生であること。  
明確な実習目的をもち、主体的に取り組む姿勢と意欲を持っていること。

### 評価方法・基準

\* 日常点:加味する  
平常点、報告、レポート、実習施設・機関からの評価を総合して評価する。

### 講義スケジュール

通年で下記のように実施する。

1. オリエンテーション
2. 実習の目的・意義の再確認
3. 実習の事前学習
4. 実習計画作成
5. 現場実習
6. 個別およびグループスーパービジョン
7. 実習の報告
8. 実習の事後学習
9. 評価

\* 上記の各項目にかかる時間は、受講生により異なる。

### テキスト

授業において指示する。

### 参考書

必要に応じて紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生のみ

担当教員 中川 勝雄

### 講義内容・テーマ

エンゲルス『イギリスにおける労働者階級の状態』を読み解くことが、本講義のテーマである。社会福祉の成立根拠は、資本主義社会のなかで必然的に発生する社会問題のなかの生活問題の解決・緩和・予防である、といわれている。したがって、社会福祉の発生・対象・内容・水準等を的確に認識するためには、資本主義社会のメカニズムとの関連をとらえることがなによりも重要である。本書は、社会福祉の根本問題を理解するうえで格好の素材を提供してくれる。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講人数にもよるが、今のところ本書を適当に区分して受講生に割り当て、受講生が担当箇所を報告し、みんなで討論して社会福祉の根本問題の理解を深めていく、という授業形式としたい。報告は本書の要約だけではなく、関連する歴史的事実も取り上げることを。

### 評価方法・基準

\* レポート: 試験に代わるレポートとして実施

\* 日常点: 加味する

成績評価は、次の諸点を参考にして決める。

出席状態(1/3以上欠席すると評価の対象にしない)、 報告内容・水準、 討論のときの発言回数・内容、 レポートの内容・水準

### 講義スケジュール

初回の授業で受講生と相談して決めたい。

### テキスト

テキストは当然エンゲルス『イギリスにおける労働者階級の状態』であるが、販売している書店が少ないので、古本屋も探索してみること。なお、解説書として浜林正夫他『古典入門、エンゲルス、イギリスにおける労働者階級の状態1・2』有斐閣新書を利用することがあるかもしれない。

### 参考書

エンゲルスは多くの名著を出版している。その主なものを挙げておく。ドイツ・イデオロギー(1846)、共産党宣言(1848)、自然弁証法(1873)、反デューリング論(1877)、空想から科学へ(1880)、家族・私有財産・国家の起源(1884)

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生のみ

担当教員 松田 亮三

### 講義内容・テーマ

- 1) 対人サービスに関わる調査・研究の手法について、その基礎概念、課題に応じた方法の選択法などの概要について学ぶ。
- 2) 方法としては、量的な調査法、質的な調査法の両方を学ぶ。
- 3) 漠然とした問題意識から調査・研究としての的確な課題を設定し、それに応じた調査のデザインを立案することができることを学習の目標とする。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

### 評価方法・基準

- \* 筆記試験：定期試験として実施
- \* レポート：試験に代わるレポートとして実施
- ・試験で基礎的事項の理解を問う。
- ・レポートでは、学習した理論が身についているかどうかを評価する。

### 講義スケジュール

- ・以下の事項を予定している。
- ・調査研究の具体的例は、なるべく対人サービスで、福祉サービスに近い分野から導入する。
- ・基礎的なことを重点にし、受講者の学習の進み具合により、最終的にカバーする範囲を修正する。

#### 研究の進め方：概念、仮説、理論的枠組み

##### (量的調査法)

- ・事象の発生(incidence)と現存、量的変数と質的変数、測定の信頼性と妥当性
- ・標本調査、集団の比較
- ・介入の評価、RCT
- ・確立分布とモデル分析、多変量解析

##### (質的調査法)

- ・グラウンデッド理論、参与観察、フォーカス・グループ・インタビュー、アクション・リサーチ

##### (応用)

- ・参加型研究、コンジョイント分析

### テキスト

### 参考書

原野 悟 (2002)健康サービス研究入門 保健・医療の調査と評価。新興医学出版社。  
東京大学医学部保健社会学教室(1992)保健・医療・看護調査ハンドブック。東京大学出版会。  
その他、授業中に紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生のみ

担当教員 櫻谷 真理子

講義内容・テーマ

社会福祉の現場で生起するさまざまな問題に対する関心を持ち、粘り強く、課題解決に向けて取り組む姿勢を養う。  
自分の進みたい分野に関する基本文献、実践事例をまとめたものを読んで、報告し合う。さらに、福祉現場での体験を通じて学ぶ  
場合  
う。また、自己覚知を深め、援助技術を身につけるためのロールプレイも取り入れたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

児童・家族福祉、障害者福祉に関心のある学生を主に対象としたい。

評価方法・基準

- \* レポート: 試験に代わるレポートとして実施
  - \* 日常点: 加味する
- レポート・体験報告、出席状況等で評価する。

講義スケジュール

1. オリエンテーション
2. 見学、体験実習のための事前学習  
文献学習、レポート報告、ロールプレイ等。
3. 見学、体験実習  
依頼状作成、現場体験、体験報告、礼状作成等。
4. 事後学習とまとめ。

テキスト

とくに定めない。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生のみ

担当教員 加藤 園子

講義内容・テーマ

## 現代の生活・福祉問題へのアプローチ

現代社会は、様々なかたちの苦難を人びとにもたらしている。失業、貧困、過密労働・過労死、児童虐待・非行・犯罪、介護地獄・高齢者虐待、災害被害・トラウマ、社会的孤立、引きこもり、そしてホームレスの急増など、枚挙にいとまがない。こうした現代社会に生起する労働と生活、人格・人権に関わる多様な生活・福祉問題の現実と諸相を具体的な事例・資料分析、聞き取り調査など様々な手法・方法を用いて明らかにし、それぞれの社会的対応策や援助のあり方を検討する。その研究方法論の習得をめざす。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義及びテーマに関するプロジェクト研究を重視。授業時間外でのグループ討議や文献収集・調査活動が必要となる。

評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施

\*日常点:加味する

出席重視とともに、グループ報告・個人レポートなどを総合的に判断し評価する。

講義スケジュール

1. 現代の生活・福祉問題とはなにか
2. 生活・福祉問題の分析視角とアプローチの方法
3. テーマ・課題の設定と研究方法の確定
4. テーマ別プロジェクトの編成(1)
5. テーマ別プロジェクト調査研究の打ち合わせ(2)
6. プロジェクト別研究結果の発表
7. 各個人の研究計画(レポート提出)の報告とまとめ
8. 総括(現代の生活・福祉問題解決に向けて)

テキスト

使用しない。

参考書

授業中に随時紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他



授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生のみ

担当教員 前田 信彦

### 講義内容・テーマ

この講義は、2回生後期からの専門演習に入る前の、基本的な福祉の理論と方法について演習形式で学ぶ。特に社会科学の視点から福祉を理解することを第一の目的としたい。具体的には、参加者の問題関心の整理、文献の収集と講読、先行研究の整理、仮説の設定、ケーススタディ、知見の整理などの作業を通して、福祉を社会科学の視点から捉えるための方法について学習することが中心となる。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

ゼミ形式の予定なので、積極的な参加の姿勢(グループ作業でのイニシアティブ・講義中での積極的発言など)も重要な評価基準となる。遅刻・早退は厳禁。グループや個人での作業や発表が中心となるので、参加者には講義時間以外での学習時間が要求される。かなり厳しい講義なので、出席しないで単位だけを取る学生にはすすめない。

### 評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施  
\*日常点:加味する  
最終的な評価は、出席点・個人発表・最終レポートによる総合評価とする。特に出席点は厳しく評価する。またグループや個人での作業や発表への熱心な取り組みについても重点的に評価する。

### 講義スケジュール

- 1 福祉を社会科学の視点で捉えるということ
- 2 文献サーベイと先行研究の整理
- 3 仮説の設定・グループ発表
- 4 ケーススタディ・仮説の検討
- 5 まとめ・発表

### テキスト

講義中に指定する。

### 参考書

講義中に紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生のみ

担当教員 鉄川 重利

### 講義内容・テーマ

時代の大きな転換点のただなかで、複雑・多様化する児童福祉問題のニーズを家族・社会的視点との関わりでとらえ、次代を担う児童の健全育成をめざす児童家庭福祉の在り方や支援技術等の課題や実践についての基礎的な理解と学習をめざす。

同時にそれらを現場で実践し、生かすための豊かな感性と人格、人間性などが重要な要件となる。そのための体験学習的取り組みやケース検討・グループ討議なども実施したい。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

将来、児童福祉現場での実践的な援助方法や技術に携わる専門家志望の学生を対象とする演習入門科目なので、本格的なゼミや福祉実習等に運動すべく、目的意識をもって受講することが望まれる。

### 評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施

\*日常点:加味する

体験学習的な取り組みなど、授業に積極的に参加し、今後、福祉現場での実践への動機づけにつながるような主体的な努力等も評価したい。成績の評価は試験に代わるレポートを実施するが、授業への出席状況も評価対象に加味される。

### 講義スケジュール

- (1) 児童相談所の窓口から見た子どもの問題～児童・家庭福祉の現状と課題
- (2) 子育て支援システムと家庭・地域・社会の問題
- (3) 子どもの問題行動の理解と援助・指導技術(ケースワーク的アプローチ)
- (4) 子どもの問題行動の理解と援助・指導技術(心理学的アプローチ)
- (5) 養護ケースからみた家庭養育上の問題
- (6) 思春期危機の問題～不登校・ひきこもり・家庭内暴力・非行問題など
- (7) 児童虐待の問題の理解と対応について
- (8)～(14) 体験学習(ブラインドウォーク・応答構成トレーニング・ケース研究など)
- (15) 最終授業としてのまとめの討議

\* 以上はあくまでも授業の概括的計画であり、各授業は場合によっては次回に延長されたり、逆に短縮される場合もある。また、必要によりケース検討やグループ討議・体験学習的なものやビデオ学習等も取り入れたい。なお、課外授業として希望者があれば自由参加の施設見学の実施も可能。

### テキスト

テキストとしては特定せず担当者の作成するレジユメを使用する。

### 参考書

特定しないが授業の過程で必要に応じて紹介したい。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

表現の自由論 S  
言語表現論 S

11906

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 嘉納 新

講義内容・テーマ

新聞・電波を中心としたマスメディアで今論議されている「表現の自由」に関わる諸問題を手掛かりに、広く市民社会の状況を点検し、あるべき表現方法を考える。自由を体現する勇氣・熱情・誠実と、「異見」への思いやりとを併せ持った発信者側が、取材・表現・伝達に関わる様々なマナーを厳密に尊重して実践することが、高度情報化社会に置ける「表現の自由」を守り育てていく道であることを、具体的に話していきたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

数回おきに講義をやや早めに終えてミニレポートを課し、回収します。その中で出された疑問などは出来るだけ次週冒頭に答えま

す。

評価方法・基準

- \* レポート: 試験に代わるレポートとして実施
  - \* 日常点: 加味する
- ミニレポートも4割ぐらいのウエートを置きます。

講義スケジュール

1. 「表現の自由」の歴史と現在の状況概説 = 初回
2. 国家や公権力と「表現の自由」の対立の歴史
3. 現代経済社会の中の「表現の自由」
4. 現代日本社会の中の「表現の自由」 = 数回
5. 「表現の自由」と市民のプライバシー = 数回
6. 「表現の自由」と国家・社会の公益 = 数回
7. 高度情報化社会の中の「表現の自由」
8. 「表現の自由」と法規制のあり方
9. 「表現の自由」の現代的マナー = 数回
10. その他(ゲスト講師を予定)

テキスト

毎回、講師がレジユメを用意

参考書

『「表現の自由」を求めて アメリカにおける権利獲得の軌跡』奥平康弘著、1999年、岩波書店 「現代メディアと法」田島泰彦ほか編、1998年、三省堂 「言論の不自由」朝日新聞社会部編、1998年、径書房

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 松田 弘

### 講義内容・テーマ

フィランソロピー論とは「企業等の慈善活動やボランティア活動」から今は「企業等の社会貢献責任論」のことで、会社人間OBで現在「淡海フィランソロピーネット」の代表発起人が語る「異説・企業等の社会貢献責任論」。学説や論文的「フィランソロピー論」は語りません。これからの就活をはじめめる諸君やフィランソロピー論を研究する諸君に格好な講義です。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初回講義(ガイダンス)に必ず出席のこと。受講上の注意・講義の進め方・成績評価などを説明する。欠席すると不利になる。遅刻や私語や居眠りには厳しく対処します。

### 評価方法・基準

\* レポート:試験に代わるレポートとして実施

\* 日常点:加味する

評価は出席点、講義参加点(宿題提出・講義での発表)、最終レポート点の総合評価となるが、それぞれの評価点の配分は受講学生の人数と、ガイダンス時に受講学生の入札結果で決定する。ただし、講義に三分の二以上出席しない学生は単位認定をしません。

### 講義スケジュール

- 1 講義概要とガイダンス
- 2 フィランソロピーの実例を学ぶ
- 3 企業・行政・住民等の実態調査から
- 4 町なかのフィランソロピーの実例を探る(オータイムプレゼン)
- 5 社会福祉とフィランソロピー
- 6 フィランソロピーの歴史と先達に学ぶ
- 7 人権の視点から見るフィランソロピーの事例
- 8 フィランソロピーとNPO
- 9 外国企業の実例を探る
- 10 地域貢献実例探索オータイムプレゼン(レベルアップ版)
- 11 企業等の社会貢献実例から課題を探る(その1)
- 12 企業等の社会貢献実例から課題を探る(その2)
- 13 フィランソロピーと大学の社会貢献責任
- 14 企業評価諸説と企業統治
- 15 講義の総括

### テキスト

有力企業の社会貢献度2003(朝日新聞文化財団「企業の」社会貢献度調査委員会 編)出版社未定 大学生協で斡旋

### 参考書

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

## 福祉行財政論 S

10951

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 山本 隆

講義内容・テーマ

Course description

わが国は急速な少子高齢社会を迎えるに至った。講義では、社会福祉における対人援助サービスのあり方を国際福祉、福祉行財政、福祉経営、ケアマネジメントなどの諸側面から多面的に取り上げる。特に国や地方自治体の取り組みとともに、地域社会、家族、施設などでの福祉マネジメントをめぐる諸問題を構造的特質や具体的事例の分析を通して述べる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

Introduction

評価方法・基準

\*筆記試験・定期試験として実施

講義スケジュール

福祉行財政への思想的アプローチ、福祉国家のあゆみ、わが国の福祉改革のあゆみ、諸外国の社会福祉における国と地方の関係、わが国の社会福祉における国と地方の関係、社会福祉と市町村行財政、分野別研究 介護保険制度とケアマネジメント、分野別研究 障害者福祉制度とケアマネジメント、分野別研究 保育所保育制度、分野別研究 社会福祉協議会、住民自治型の福祉行財政の構築へ

テキスト

山本隆『福祉行財政論 - 国と地方からみた福祉の制度・政策 -』中央法規

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 廣末 利弥

講義内容・テーマ

- 1・福祉事業とは何か。福祉施設・福祉事業は誰のため、何のために存在するか
- 2・社会福祉基礎構造改革のもとで、真に国民の期待に応える福祉施設、事業の運営と経営および21世紀の社会福祉のあり方を考える

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

- \*レポート:試験に代わるレポートとして実施
  - \*日常点:加味する
- 出席・日常評価及びレポート提出  
概ね、出席及び日常評価50%、レポート内容50%で評価

講義スケジュール

- 1・社会福祉とは、社会福祉事業、社会福祉法人とは  
社会福祉法、社会福祉法人定款と準則、法人の運営等
- 2・社会福祉施設、事業の運営と経営 = その実状と課題  
会計準則、財務諸票と財務状況、事業毎の特徴と課題等
- 3・構造改革のもとでの民間営利企業参入と社会福祉  
非営利法人と営利企業の参入
- 4・社会福祉に従事する職員の専門性と労働実態、身分保障について
- 5・社会福祉法人の役割とアイデンティティ
- 6・これからの社会福祉事業と運営、経営を考える
- 7・その他

テキスト

毎回、レジюме・資料を用意する

参考書

授業の中で連絡する

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 上林 茂暢

講義内容・テーマ

今日、医療、福祉、保健のあらゆる局面で転換期をむかえているが、これと期を一にして福祉産業、福祉ビジネスが台頭し、注目をあつめている。その実態はどのようなものか。何故そうなるのか。一般産業とくらべて、福祉産業はどのような技術的特性、社会的特性をそなえているのか。日本の医療、福祉、保健の将来にとっていかなる意味を持っているのか考えていきたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

新聞、雑誌など取り上げられる機会が多い。常にアンテナをはりめぐらし、その意味を考えていくことがきわめて実践的な学習になる。

評価方法・基準

\* レポート:試験に代わるレポートとして実施

講義スケジュール

医療、福祉、保健の分野における産業論的接近の意味  
医療、福祉、保健の技術的特性  
国民皆保険下での製薬企業の高度成長  
病院自動化と医用機器産業の参入と市場拡大  
「ゲノム革命」と製薬企業の再編成  
「IT革命」と医療、福祉、保健  
供給体としての病院、診療所  
医療・福祉・保健複合体(二木立)の意味  
介護保険と福祉機器産業(住宅改修)  
介護保険と福祉サ・ビス  
保健分野では  
年金問題  
医療、福祉の階層消費の進行  
医療、福祉産業と地域再生  
福祉産業論と福祉経済学

テキスト

新しい分野なので成書はほとんどない。関係した論文をその都度紹介する。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 生田 正幸

### 講義内容・テーマ

介護保険制度の導入は、介護・福祉分野におけるコンピュータ活用のあり方を大きく変えた。社会福祉施設や在宅サービス機関においても、パソコンや情報システム、情報ネットワークがごく当たり前の存在となり、サービスの利用と提供を支える重要な役割を担っている。さらに、社会福祉法の施行によって、情報の開示・提供、苦情解決、サービス評価など情報に関わる事柄が、利用者のサービス選択を保障しサービスの質を高めていく重要なファクターとして位置づけられるようになった。

また、情報の入手や利用、発信の障壁(バリア)に直面する「情報弱者」の問題が顕在化し、先端的なIT(情報技術)を駆使した情報バリアフリー、情報のユニバーサルデザインへの取り組みが展開されている。さらには、福祉情報機器を用いた様々な自立支援システムなど支援技術(Assistive Technology)の発達と普及も著しい。

社会全体が、ITと情報への依存を強めようとしている中で、介護・福祉分野も例外ではなく、今や、介護・福祉の立場からの主体的な取り組みが強く求められている。

この講義では、福祉情報化とは何か、何をすることなのかについて、福祉の立場からあきらかにするとともに、福祉における情報化とコンピュータ利用のあり方について、コンピュータ実習をはさみながら考えていくことにする。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

「情報リテラシー」を履修し、メール、Web閲覧、ワープロ操作など、基礎的なパソコン操作が行えることが望ましい。

### 評価方法・基準

\* 筆記試験：定期試験として実施

\* 日常点：加味する

### 講義スケジュール

- 01 イントロダクション
- 02 現代社会における情報とコンピュータ(1)
- 03 現代社会における情報とコンピュータ(2)
- 04 社会福祉と情報(1)
- 05 社会福祉と情報(2)
- 06 社会福祉におけるコンピュータの活用と情報システム(1)
- 07 社会福祉におけるコンピュータの活用と情報システム(2)
- 08 社会福祉におけるコンピュータの活用と情報システム(3)
- 09 社会福祉におけるコンピュータの活用と情報システム(4)
- 10 社会福祉における情報活動(1)
- 11 社会福祉における情報活動(2)
- 12 社会福祉における情報活動(3)
- 13 社会福祉政策と福祉情報化(1)
- 14 社会福祉政策と福祉情報化(2)
- 15 テスト

### テキスト

『社会福祉情報論へのアプローチ』(ミネルヴァ書房)及び必要に応じて資料を配付する。

### 参考書

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

WAM NET(<http://www.wam.go.jp/>)

厚生労働省(<http://www.mhlw.go.jp/>)

その他、必要に応じて授業中に紹介する。

### その他

授業は、パソコン実習室において行う。各自、ID、パスワードを確認しておくこと。



福祉政策論 S  
福祉政策論 SG

12442

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 3回生  
担当教員 太谷 亜由美

#### 講義内容・テーマ

戦後の社会保障の変貌をたどり、現在の日本の福祉のあり方とその特質を理解する。そのなかで、保険主義を超える新たな社会保障の理念とは何か、公的責任とは何かを確認し、よりよき生活を目指すための社会保障運動の指針を自分のものとして捉える視野を養うことを目標とする。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

授業スケジュールは、学生の反応、理解等により変更の可能性がある。

#### 評価方法・基準

\*筆記試験:最終講義日試験で実施  
\*日常点:加味する  
最終講義日試験(テキストのみ持込可)……50%  
出席・授業への集中度(毎回、リアクションペーパーの提出)……50%

#### 講義スケジュール

1. 講義の概要・ねらい / 福祉政策とは何か
2. 社会保障前史
3. 戦後社会保障の変貌
4. 社会保障の原理・原則
5. 社会保障の財源
6. 社会保険の展開
7. ドイツ・イギリスの社会保険
8. 介護保険の仕組み - VTR -
9. 介護保険の今
10. 社会保障構造改革の基本視点
11. 社会保険方式・社会扶助方式の限界と今後
12. 日本におけるグループホームの可能性 - VTR -
13. 社会福祉基礎構造改革と社会福祉法の成立
14. 社会福祉法人、社会福祉協議会の役割
15. 最終講義日試験

#### テキスト

柴田英昭『これからの社会保障 - 社会保険主義をこえて』かもがわ出版(1999年)  
入手方法……立命館生活協同組合

#### 参考書

柴田英昭『福祉国家崩壊から再生への道』あけび書房(2001年)  
坂田周一『社会福祉政策』有斐閣アルマ(2000年)  
大野吉輝『社会保障政策論』勁草書房(1999年)

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 太谷 亜由美

講義内容・テーマ

本講義ではヨーロッパの福祉の発達を中心に、福祉の発達を考察する。そこで、いかにして一般の人々の貧困の救済が国の責任となっていたかを辿るが、その過程は、どれほど厳しいものであったかに気が付かれるだろう。時代の変化と共に変貌する福祉は現在ではなくてはならないものではあるが、一方では経済の停滞と共に後退を余儀なくされている。福祉の発達と国・経済のかかわりに注目しながら講義を進めていきたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

特に要求するものはないが、ヨーロッパの歴史の知識は多いに役に立つ事と思います。

評価方法・基準

\*筆記試験・定期試験として実施  
筆記試験によって評価を行う。

講義スケジュール

- 第1回 ヨーロッパにおける中世紀までの貧困の救済
- 第2回 イギリス救貧法の生成過程 1
- 第3回 イギリス救貧法の生成過程 2
- 第4回 イギリス救貧法の成立 1
- 第5回 イギリス救貧法の成立 2
- 第6回 市民革命期・産業革命期の福祉 1
- 第7回 市民革命期・産業革命期の福祉 2
- 第8回 新救貧法の成立 1
- 第9回 新救貧法の成立 2
- 第10回 19世紀後半の福祉の形成
- 第11回 19世紀末から20世紀初頭の福祉の展開 1
- 第12回 19世紀末から20世紀初頭の福祉の展開 2
- 第13回 大恐慌期から1940年代の「福祉国家」の生成 1
- 第14回 大恐慌期から1940年代の「福祉国家」の生成 2
- 第15回 第二次世界大戦直後の社会福祉の発達

テキスト

使用しない。

参考書

高島進氏著、「社会福祉の歴史」、ミネルヴァ書房

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

特になし

その他

時々、出欠調査をします。その折にみなさんの福祉に対する考え方を尋ねるつもりになっています。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 大山 博史

講義内容・テーマ

福祉ニーズを抱える者に対する直接援助の実践過程や技術について、臨床事例をもとに理解を深める。

本講では老人福祉と児童福祉の両領域に限定し、直接援助活動のうち、心理的危機を抱える者に対する心理的支援技法について論じる。それぞれの領域でしばしば遭遇する臨床事例に即して、心理的支援技法の適応、援助の実施方法、援助効果の発現機序、実施後の事例の経過などに関する説明を行う。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

\* 筆記試験：最終講義日試験で実施

\* 日常点：加味する

筆記試験による評価

講義スケジュール

1. 老人福祉における相談援助活動の実際
  - 第1 - 3回 1) 相談援助活動の概要
  - 第4 - 6回 2) 老年期の心理学的特性
    - 老年期の心理社会的発達
    - 老年期にみられる心の病
  - 第7 - 9回 3) 老人の心の危機と心理的支援
    - ストレスと適応障害
    - 幻覚妄想状態とそのケア
    - うつ状態とそのケア
    - 痴呆のケアの原則
    - 高齢者の自殺予防
2. 児童福祉における相談援助活動の実際
  - 思春期事例の心理的支援を中心に -
  - 第10 - 11回 1) 思春期の心理学的特性
    - 思春期の心理社会的発達
    - 思春期に見られる心の病とその治療
  - 第12回 2) 思春期の子どもと家族関係
    - 家庭内の人間関係と家族の機能
    - 相談援助における家族関係の調整
  - 第13 - 14回 3) 思春期の子どもに対する心理的支援
    - 思春期家庭内暴力とその援助
    - その他の事例
  - 第15回 閉講(休講があった場合は補講)

テキスト参考書

日本老年行動科学会監修：高齢者の「こころ」事典．中央法規出版．2000．

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

Name 大山 博史

Office location 修学館4F 410

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 今村 雅夫

講義内容・テーマ

「改革」がもたらす福祉労働変質の危機 その克服と再生への展望

「措置から契約への転換」がすすめられる中で、今、公私の福祉現場は大きな矛盾と混迷の中にあるといっても過言ではない。高齢者介護や障害者福祉の分野だけでなく、生活保護(=公的扶助)の分野でも法改正をふくめた制度改革が検討されている。これらの「改革」によって各分野・職域の福祉労働が歪められている現状を明らかにし、その克服と福祉労働再生の展望を考えたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施

\*日常点:加味する

出席状況、授業の中で随時提出を求める感想文(小レポート)、学期末のレポート等を総合的に勘案して評価を行う。

講義スケジュール

- 1 社会福祉とは?福祉労働とは?
- 2 社会福祉基礎構造「改革」の虚像と実像
- 3 介護保険制度の導入による福祉労働の変化
  - (1)相談援助労働(ケースワーク・ケアマネジメント)の場合
    - 福祉事務所・市町村の状況
    - ケアマネジャーの状況
  - (2)ホームヘルプ労働の場合
  - (3)その他(施設など)の場合
- 4 支援費制度のもとで福祉労働はどうなるか
  - (1)介護保険と支援費制度の共通点と相違点
  - (2)相談援助と障害者ケアマネジメント
    - 福祉事務所・市町村の役割
    - 障害者相談支援事業の役割
    - NPO・当事者組織の役割
  - (3)ホームヘルパー・施設職員など
- 5 生活保護制度と公的扶助労働
  - (1)生活保護「適正化」政策による福祉労働の歪み
  - (2)生活保護の今日的課題
    - 路上生活者と生活保護
    - 介護保障と生活保護
  - (3)生活保護法「改正」論議とケースワークの位置づけ
- 6 これからの社会福祉・公的扶助と福祉労働

テキスト参考書

植田・垣内・加藤編『社会福祉労働の専門性と現実』かもがわ出版  
 石川・小川ほか著『自治体は高齢者福祉にどう責任を持つのか』萌文社  
 伊藤周平監修・共著『介護保険を告発する』萌文社  
 『ケアマネジャー609人の証言 介護保険を変えよう』桐書房  
 障害者生活支援システム研究会編『障害者福祉改革への提言』かもがわ出版  
 (福)いぶき福祉会編『障害者福祉がかわる 考えよう!支援費制度』生活思想社

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 國廣 敏文

講義内容・テーマ

最新のフランス語文献の講読を通してフランス語の読解力を高めると同時に、現代フランスや世界の動きを異なった視点から探ることを通して、多面的なものの見方を身につけることを目指す。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

辞書を引くのを厭わないこと。異なる言語を学ぶことで、未知の世界に接近する喜びを身に付けてほしい。

評価方法・基準

\* 日常点:加味する

日常の発表(60点)、訳文の提出(30点)、出席点(10点)を合算して判定する。

講義スケジュール

受講生は、テキストを分担して訳出 全員で点検 担当教員による訳出とコメント 内容についての討議となるように、進行する予定である。

テキスト

フランス語の新聞記事や、L'Express,Le Nouvel Observateur,Le Pointなどの最新号からトピックスを拾って読み解いていく。テキストはコピーをして配布します。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

インターネットのサイトは沢山あるので、授業の際に紹介する。

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 藤田 博文

講義内容・テーマ

社会学の理論をテーマにした論文を読むことを通して、社会的な思考、またそれがかかえる主要な問題について考える。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

フランス語初級文法の知識を持っている学生が望ましい。

評価方法・基準

\* 日常点: 加味する

平常点。レポートを求める場合がある。

講義スケジュール

初回: オリエンテーション(授業の進め方やテキストなどについての話し合い)とイントロダクション。

第2回以降: 基本的に輪読形式で進めていく予定。適宜、重要な概念についての解説や議論を行う。

テキスト

Fabrice MULLER, Durkheim, Weber, et la normativité du savoir, L'Homme et la société, numero138, 2000を使用する予定であるが、他のテキストに変更する場合もある。なお、テキストはコピーして授業で配布する。

参考書

適宜紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

文化経済論 S 経済学 S	14615
------------------	-------

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 金武 創

### 講義内容・テーマ

文化経済学の基礎的理解

これまで相反するものと思われがちであった、「文化」と「経済」の関係を捉えなおし、これからの企業やNPO、政府・地方自治体のあり方を考える。

授業では、可能な限り、テキストのおさらいと関連話題（VTRや新聞）の提供という組み合わせで進めていきたい。

- ・文化と経済
- ・価値の理論
- ・文化資本と持続可能性
- ・経済発展と文化
- ・文化遺産の経済的側面
- ・創造性の経済学
- ・文化産業
- ・文化政策

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

### 評価方法・基準

\* レポート: 試験に代わるレポートとして実施

\* 日常点: 加味する

レポート・授業で出した課題(100%)

レポート評価は、論文としての体裁が整っていることを前提とし、執筆者の個性(自分だけの体験、独自の考え、現在打ち込んでいることから得た着想等)がどれだけ表現されているかを重視します。新聞で見かけるような「常識的な論旨」はそれほど評価しませんので注意してください。

### 講義スケジュール

### テキスト

スロスピー『文化経済学』日本経済新聞社、2002年

### 参考書

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

文化人類学 S  
人間文化特論 SA

14822

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 橋 健一

### 講義内容・テーマ

#### 講義テーマ

文化が対立するとき、開かれるとき

#### 授業内容

今日、文化という言葉は、様々な対立の場面で見受けられる。民族紛争ではもちろんのこと、文明の衝突論も文化衝突を文明に読み替えたものと理解できるし、伝統文化対近代的自由という対立図式も一般的になっている。講義の前半では、このような対立の根源としての文化を見つめ、その構造について考える。後半では、どのようにしたら文化のあいだに横たわる差異を許容しつつ、それを開いていくことができるのか考察していく。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

異文化の紹介というよりも、文化の見方についての話題が中心なので、その点を理解の上受講して欲しい。

### 評価方法・基準

\*筆記試験：定期試験として実施

### 講義スケジュール

- 1, 伝統と自由の対立
- 2, 伝統と自由の対立を開く 構造主義
- 3, 伝統と近代科学(神話、儀礼、身体加工)
- 4, 閉じる構造と開く構造
- 5, 権力の構造 資本、身体、メディア、国民国家
- 6, 国民国家を開く(文化相対主義)
- 7, 閉じる文化相対主義ー再び伝統と自由の対立へ
- 8, 閉じる文化と開く文化
- 9, ことば、文化の生まれるところ

### テキスト

なし

### 参考書

講義中で適宜紹介します。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他



文化理論 S  
文化論 S  
文化論 S

13754

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 小澤 亘

講義内容・テーマ

「文化」に対する理論的接近は、背景とする学問領域や立場の違いにより、その方法や問題関心が異なり、きわめて多種多である。

本講義では、1)「大学という場」に関する文化理論、2)「文化の型」に関する比較文化論、3)「家族文化」を社会の説明変数とするトッドの壮大な社会理論などを取り上げながら、現在、われわれが、直面している文化的課題を明らかにしていく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

必須とされる基礎的知識は別段ないが、「文化理論」を知識として習得するという態度ではなく、ともに考え、自らの文化的課題を明らかにしていく忍耐強い「学びの姿勢」が求められる。

評価方法・基準

\* 筆記試験・最終講義日試験で実施

最終講義試験結果と授業中に何回か作成してもらうレポートを総合して評価する。

講義スケジュール

1. 「見えない文化」を見る立場とは: 「校門圧死事件」を事例として
2. 「時間を守る」という文化と文化装置としての学校
3. 学校教育という場にかんする文化的分析: ブルデューの文化的再生産の理論
4. 日本における教育空間の差別化メカニズム
5. 「文化の型」にかんする議論と日本文化論: ベネディクトの文化人類学
6. 文化相対主義の再検討
7. 翻訳という文化: 日本文化論の前提
8. 日本文化論小史: 恥・甘え・縦社会
9. 映画「戦場に架ける橋」「僕らはみんな生きている」視聴
10. 日本文化論の告発: 吉野「文化ナショナリズムの社会学」杉本「日本人論も方程式」
11. 多文化世界にかんする実証研究: G. ホフステードの方法
12. 多文化世界にかんする実証研究: E. トッドの方法
13. 文化変容にかんする社会学
14. 「ボランティア」の文化社会学
15. 最終講義試験

テキスト

別段使用しない。授業にて資料を配布する。

参考書

授業にて紹介していく。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

放送メディア論 S  
電波メディア論 S

12937

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 柄子 澄雄

講義内容・テーマ

放送界は多チャンネル化を経て本格的なデジタル放送化に向かっている。放送の社会的影響力が増すに連れて、放送のあり方に社会から厳しい目が向けられている。この講座は放送の現況を正視し、視聴者と制作側の両面からアプローチして考察するとともに、将来の放送についても展望しようとする実学的な講座である。講座の時間数からみて、中心となるのは地上波テレビとなるが、社会的に大きな関心を持たれている「放送倫理」と「視聴率」の両者には多くの時間を割いて深い考察を期している。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

放送業界をはじめマスコミや関連業界を志望する学生、および放送について深い関心を持つ学生の受講を期待する。期間中に提示する6本程度の課題レポート(前年度は8本、A4版1枚1200字標準)や多くの配布資料の読破はかなりの負担となるが成果を信じて取り組んでほしい。

評価方法・基準

\* レポート: 試験に代わるレポートとして実施  
\* 日常点: 加味する  
試験は行わない。絶対評価である。  
評価は課題レポートの採点を中核として出席数、授業態度の日常点を加味する。  
課題レポートの採点基準は「深く考えたか、多角的に考えたか」というように「思考」の過程を重視する。  
絶対評価なので評価点ごとの分野率は考慮しないが、これまでの実績をみるとは評価Aの学生が少なくない一方で、評価Fの学生も少なくないという結果になっている。

講義スケジュール

第一回 放送メディアの多様性 放送と周波数について  
第二回 放送メディアの変遷と現行テレビ・ラジオのネットワーク体制  
第三回 放送の基本知識 (1) 各国の憲法に見る「言論・報道の自由」  
第四回 " (2) 放送法・電波法などの放送法規  
第五回 " (3) 番組基準・放送基準・自主規制  
第六回 視聴率 (1) 視聴率の基本知識と視聴質  
第七回 視聴質 (2) 世帯視聴率と個人視聴率 測定から誤差まで  
第八回 視聴率 (3) 視聴率の社会的利用と営業的利用  
第九回 放送倫理と自主規制機関 BROと青少年委員会の活動  
第十回 地上波放送と衛星放送 「地上波ローカル局炭焼き小屋論」とは  
第十一回 "企画書を書こう" 企画はどこから生れるのか  
第十二回 "CMを考えよう~テーマは立命館大学~"(課題レポートの発表)  
第十三回 私の研究「テレビ界不祥事事例」から事例研究  
第十四回 放送界が抱える諸問題と今後の展開  
第十五回 まとめ、質疑、就職指針など

テキスト

特定のテキストは使用しない。毎回配布の複数資料、上映ビデオによる。

参考書

「言論の自由はガラスの城か ~ マスメディアの自由と責任 ~」清水英夫著 三省堂 1999  
「テレビ放送への提言」津金沢聡広・田宮武編著 ミネルヴァ書房 1999  
「メディアリテラシーの現在と未来」鈴木みどり 世界思想社 2001

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

日本民間放送連盟 <http://www.nab.or.jp> (民放全局にリンク可能)  
NHK <http://www.nhk.co.jp>  
BRO <http://www.bro.gr.jp>  
放送番組向上協議会内 青少年委員会 <http://homepage2.nifty.com./kojokyo/>

その他

前年度は25人で「漢字学習」の課外授業を実施したが、今期も希望があれば人数限定で実施する。

メディア技術史 S  
情報技術論 S

11415

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 2回生  
担当教員 宮下 晋吉

講義内容・テーマ

「IT革命」が云々され、携帯電話やデジタルハイビジョン放送など技術進歩は日進月歩である。本講は、マクルーハンなどのメディア論をふまえ、検討しつつ、中世のグーテンベルクの活版印刷術から今日のインターネットまで、メディア技術がどのように発展してきたのか、を具体的に明らかにする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

毎回講義レジュメ、および講義資料(図版、および文献資料)を配布する。

評価方法・基準

- \*筆記試験:定期試験として実施
  - \*日常点:加味する
- 成績評価には日常点を加味するが、その比率は概ね30%程度とする。

講義スケジュール

- 第1回 メディア・技術・社会 メディア技術史とは? ジョブズとパソコンの将来性
- 第2回 グーテンベルクの銀河系 マクルーハンのメディア論、「42行聖書」を見ながら考える
- 第3回 グーテンベルクの銀河系 グーテンベルクと活版印刷術の発明
- 第4回 テレコミュニケーションの誕生 腕木式通信機から電信、海底ケーブル、電話の発明まで
- 第5回 テレコミュニケーションの発達 19世紀における電磁気学の成立と無線電信の発明
- 第6回 複製技術と大衆社会 発明王エジソンをめぐって、フォノグラフからグラモフォンへ
- 第7回 複製技術と大衆社会 フィルムとカメラの世界史、ダゲレオタイプから映画産業まで
- 第8回 マスメディアの生成 ラジオ、電子技術の発達と放送産業の成立
- 第9回 マスメディアの発展 テレビ技術の発達と放送産業の発展
- 第10回 レポート提出
- 第11回 コンピュータの誕生 コンピュータの起源、MARKIからIBM360へ
- 第12回 シリコンバレーの一粒の麦 電子部品の発達、トランジスタからIC、マイクロコンピュータへ
- 第13回 パーソナルメディア パーソナルコンピュータの誕生、インターネットヒストリー
- 第14回 マクルーハン、メディア技術と文明、社会 メディア技術史をふりかえって
- 第15回 定期試験

テキスト

テキストに準じて、山崎俊雄・木本忠昭「新版電気の技術史」(オーム社、1992年)

参考書

授業中に随時指示する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

授業中に適宜指示する。

その他

連絡などは、教室で受け付けます。質問など歓迎。授業後どしどし私のところまで来てください。

メディア社会論 S  
 情報社会論 S  
 情報産業論 S  
 情報産業論 NB

11273

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 伊藤 武夫

講義内容・テーマ

テーマ:「メディアと民主シー」。現代は、地球上のどのような地域間でもただちに双方向通信が可能な時代である。高速通信技術と多様なメディアの発達により、人びとの自由で平等なコミュニケーションを実現させる物質的条件は整ったといえる。しかし、巨大に成長したメディア産業と市民社会との間には、公正・正義をめぐる多くの問題点が指摘されている。この講義では、こうした社会の情報化とそこに内在する諸問題を解説し、その解決の方向を検討する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

産業社会学科・現代社会学系・社会形成プログラムのみ3回生配当  
 1回生配当・学部共通入門科目「現代とメディア」の受講を希望する。

評価方法・基準

- \* 筆記試験: 定期試験として実施
- \* 日常点: 加味する
- ・講義期間中に小レポート・質問紙の提出を求める。
- ・評価は、定期試験(70%)、諸提出物(30%)の比重でおこなう。

講義スケジュール

- 第1部 マスメディアの発達(4回ほど)
  - ・出版、言語、教育と国民統合
  - ・ラジオ・テレビと市民社会
  - ・ネットワーク社会、マルチメディアを考える
- 第2部 メディア企業複合体とその社会的影響(4回ほど)
  - ・巨大メディア企業複合体
  - ・利益を追求するメディア企業
  - ・広告、その機能
- 第3部 グローバル化時代のメディア(6回ほど)
  - ・メディアの効果研究
  - ・メディアとオーディエンス
  - ・メディアと公共圏の形成
- まとめと今後の課題

テキスト

- ・テキストは指定しない。毎回、レジュメを配布する。

参考書

- ・各講義ごとに適宜、紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

- ・各講義ごとに適宜、紹介する。

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 黄 盛彬

講義内容・テーマ

この授業では、放送番組などの映像ソフトの制作をめぐる諸環境の理解を深めることや、デジタル技術が映像ソフトの制作過程にもたらした影響などについて検討することが第一義的な目標である。その目標に到達するひとつの手段として、受講生自らがビデオ・カメラやパソコンの映像編集技術を駆使して、映像作品の制作に取り組んでみることを提案する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

Windowsの基本操作ができること。

評価方法・基準

\* 日常点:加味する

個人およびグループ別の日常点評価、出席率、実習参加度を総合評価

講義スケジュール

1. イントロダクション
2. 番組企画の説明
3. ビデオカメラ操作の実習 (1)
5. ビデオカメラ操作の実習 (2)
6. 撮影実習(1)基礎
7. 撮影実習(2)野外撮影
8. 撮影実習(3)自由撮影
9. 撮影実習(4)スタジオ撮影
10. 効果的な画面構成法-映像言語の理解
11. ノンリニア編集の基礎実習 - 取り込み&カット編集
12. ノンリニア編集実習(1) - 効果
13. ノンリニア編集実習(2) - 効果音&字幕
14. 作品の仕上げ
15. 作品上映会および評価

テキスト参考書

その都度、案内する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

その都度、案内する。

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 津田 正夫

### 講義内容・テーマ

メディア制作研究 は同 を受けて、さらにドキュメンタリー作品を企画・制作したり、それをテレビ電波で放送する場合を想定し、実際の制作のポイントや具体的な問題点を考えてゆく。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この講義はドキュメンタリー作品を制作する際の、さまざまな実際の課題を考えてゆくものなので、日頃からドキュメンタリー作品に積極的に接し、できれば撮影(写真、ビデオ)も経験すると理解が深まる。

### 評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施

\*日常点:加味する

授業はできるだけケースワークで進めたい。授業中の発言・参加や期末レポートによって評価する。

### 講義スケジュール

- 1、ドキュメンタリー制作入門
  - (1)いま、なぜ伝えるのか
  - (2)映像のはじまりと文法
  - (3)社会的映像とフォトジャーナリズム
  - (4)映像ジャーナリズムの成立
- 2、制作のポイント
  - (5)企画・リサーチ・提案
  - (6)カメラ位置から見る制作意図
  - (7)カメラ位置から見る撮影意図
  - (8)インタビューの重要性
- 3、制作の実際
  - (8)応用問題1 隠し撮り
  - (9)応用問題2 再現とやらせ
  - (10)応用問題3 情報操作とのたたかい
  - (12)制作者の意識 現場から
  - (13)制作者の意識 カメラマンたち
  - (14)制作者の意識 放送ウーマンたち

### テキスト

特に定めませんが、自分で興味をもてる関連書、また各種の映画、テレビのドキュメンタリーや映像ライブラリーなどと接することが望ましい。

### 参考書

今村庸一「映像メディアと報道」丸善  
桜井均「テレビの自画像」筑摩書房  
林英夫「安心報道」集英社  
神保哲夫「ビデオ・ジャーナリストの挑戦」ほんの木

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

メディア調査法 S メディア認知論 S	11493
------------------------	-------

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 坂田 謙司

講義内容・テーマ

コミュニティ・メディアを対象とした文化・社会学的調査法:音声放送型メディアの生成と展開

メディア調査・研究の対象としてコミュニティ・メディアをとりあげ、メディアの生成とその後の展開への、社会と人々との関わり合いを考察する。本講義では、コミュニティ・メディアの中でも音声放送型メディア(有線放送電話、ミニFM、コミュニティFM)に注目し、実際の調査・研究事例に基づいた報告や調査手法の紹介なども行う。音声放送型コミュニティ・メディアは、日本のメディア史あるいはメディア研究において注目されることは少ない。しかし、音声放送というメディアの形態が国家や資本の論理だけではない、もう一つの道筋を持っていたことは十分に調査・研究の対象とする価値がある。その点をふまえながら、メディアがなぜ生成され、なぜそのような展開に至ったのかの社会的文脈を考えたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

メディア文化や情報文化に関する講義を受講していると、考察の手助けになる。

評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施

\*日常点:加味する

適宜行われる小レポート(日常点)と試験に代わるレポートにより評価を行う。

講義スケジュール

- 第1回 メディア研究の対象としてのコミュニティ・メディア
- 第2回 音声放送メディアの誕生 その1:電話からラジオへ
- 第3回 音声放送メディアの誕生 その2:草創期ラジオ放送
- 第4回 音声放送メディアの誕生 その3:戦後のラジオ放送と生活
- 第5回 コミュニティ・メディアとしての有線放送電話 その1:手作りのコミュニティ・メディア
- 第6回 コミュニティ・メディアとしての有線放送電話 その2:自主放送という第三のメディア
- 第7回 コミュニティ・メディアとしての有線放送電話 その3:現状と将来
- 第8回 コミュニティ・メディアとしての自由ラジオとミニFMブーム 究極のコミュニティ・メディア
- 第9回 コミュニティ・メディアとしてのコミュニティFM その1:規制緩和と音声放送への憧れ
- 第10回 コミュニティ・メディアとしてのコミュニティFM その2:震災とコミュニティ・メディア
- 第11回 コミュニティ・メディアとしてのコミュニティFM その3:NPOコミュニティFMの意味するもの
- 第12回 コミュニティ・メディアとしてのインターネット放送 エリアは地球というコミュニティ
- 第13回 コミュニティ・メディアの調査手法 その1
- 第14回 コミュニティ・メディアの調査手法 その2
- 第15回 最終講義日試験

テキスト

参考書と資料を適宜使用

参考書

- ・吉見俊哉『「声」の資本主義:電話・ラジオ・蓄音機の社会史』
- ・水越伸『メディアの生成:アメリカ・ラジオの動態史』堂文館出版
- ・吉見俊哉編『メディア・スタディーズ』せりか書房
- ・粉川哲夫編『これが「自由ラジオ」だ』晶文社
- ・上野俊哉・毛利嘉孝『カルチュラル・スタディーズ入門』筑摩書房
- ・上野俊哉・毛利嘉孝『実践カルチュラル・スタディーズ』筑摩書房

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

適宜紹介

その他

メディア認知論 S  
メディア認知論 S

15255

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 稲葉 哲郎

#### 講義内容・テーマ

「マスコミやメディアは大きな影響力を持つ」といわれるが、ではその影響力とはいったいどのようなものなのだろうか。講義では、「メディアは思われているほど効果はないのでは？」という疑問を出発点に、これまでのマスコミ効果研究を振りかえりつつ、マスコミの効果について考えていく。  
われわれが入手する情報の多くをマスコミに依存している現状において、マスコミが受け手に影響をもたらさないと考えられない。現在のマスコミ研究がどのような側面に注目をしているのか理解を深めていきたい。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

他学部受講の場合は、受講を希望する理由を400～800字程度書いて、第1回目の講義までに電子メールで mcog@inabalab.net に提出して下さい(昨年度、他学部からの受講者の成績が悪かったためです)。

#### 評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施  
レポート(80%)、出席(20%)

#### 講義スケジュール

1. イントロダクション
2. 人々は簡単に踊らされるか?: 大衆説得と政治宣伝
3. 心のボタンはどう押されるか?: コミュニケーションと説得
4. 対人コミュニケーションとマス・コミュニケーション
5. ニュースと世論: 議題設定機能
6. 「こころ」とメディア: 認知心理学的アプローチの導入
7. 動く世論: 沈黙の螺旋
8. 歪む現実認識: 培養効果
9. 政治キャンペーンをめぐる
10. まとめ

#### テキスト

プリントを配布。

#### 参考書

授業の内容に関しては、田崎篤郎・児島和人(編)『マス・コミュニケーション効果研究の展開』北樹出版が最も参考になる。  
その他、レポートの書き方に関する文献を各自参照しておくこと。例えば、小笠原喜康喜康『大学生のための論文・レポート作成術』講談社現代新書、樋口裕一『やさしい文章術: レポート論文の書き方』中央公論新社中公新書ラクレなど。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他



メディア表現論 S ルポルタージュ論 S	15144
-------------------------	-------

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 増田 幸子

講義内容・テーマ

本講義では、映像メディアの一つである映画をとりあげ、その発展の歴史に沿いながら、映画の表現様式と映画の表現が生成する社会的意味について学ぶ。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

基本的には講義形式で行うが、随時、以上のテーマに関わる具体的な映画テキストを示しながら、授業を進める。

映画が見られるという安易な考えで受講しても、楽しいばかりの作品ではないので、登録の際、よく検討してほしい。

評価方法・基準

\* レポート: 試験に代わるレポートとして実施

\* 日常点: 加味する

授業中に課す数回の受講エッセイ

中間レポートと期末レポート: 課題・字数・提出方法などについては授業中に知らせる。

中間レポートを提出しない者は期末レポートの提出資格がないものとする。

講義スケジュール

- 第1回 ガイダンス、映画の歴史とは?
- 第2回 シネマトグラフからサイレントへ
- 第3～4回 映像の文法 ex. 『サイコ』『戦艦ポチョムキン』『アンダルシアの犬』
- 第5回 ドイツ表現派 ex. 『カリガリ博士』『メトロポリス』
- 第6～8回 プロパガンダと映画 ex. 『民族の祭典』『汝の敵を知れ』『戦ふ兵隊』
- 第9回 イタリアのネオリアリズム ex. ロッセリーニ
- 第10回 1950年代の日本映画 ex. 小津、黒澤、溝口
- 第11回 フランスのヌーヴェル・ヴァーグとその周辺
- 第12回 アメリカン・ニューシネマ ex. 『俺たちに明日はない』
- 第13～14回 1980年代以降のアジア映画 ex. 香港、台湾、中国、イラン、インド
- 第15回 まとめ

テキスト

特に指定しない。授業中にレジユメや資料を配付する。

参考書

ジェームズ・モナコ(1983)『映画の教科書』フィルムアート社。

ジェレミー・ヴィンヤード(2002)『映画技法完全レファレンス』フィルムアート社。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

メディア文化論 S  
情報文化論 S

14454

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 3回生  
担当教員 功刀(くぬぎ) 遼吉

講義内容・テーマ

keywordは「ソフト」・「コンテンツ」・「エンタテインメント」。  
毎日あふれるように流れてくる情報を見聞きして流すだけでなく、観察し分析を心がける  
up-to-dateな「情報解析論」。また、それぞれに新しく課題を抱えて次の時代を模索して  
いるテレビ・新聞・出版・映画・音楽などのメディア産業社会でいま起きていること、これ  
から起こるであろうことを、敢えて独断を交えて解説したい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

好奇心を持ち、いつも情報の獲物を狙っている人、  
情報や報道に、疑問を感じたり批判的に見ている人、  
上に掲げた各産業社会のもうひとつ先きのことを知りたいと思っている人、  
そういった諸君の受講を望む。

評価方法・基準

- \*レポート:試験に代わるレポートとして実施
- \*日常点:加味する  
日常点: Brief Report 文字通り「簡単」なレポート(B5判・1枚)を、  
講義中に3回記入提出してもらう。

講義スケジュール

- 第1回 インストラクション
- 第2回 情報メディアと広告産業 BriefReport
- 第3回 テレビ画面からTV放送が消える日
- 第4回 地上波デジタル放送と衛星放送
- 第5回 新聞はどこへ行くのか
- 第6回 出版業界の光と陰影
- 第7回 出版は志(こころざし)の文化 BriefReport
- 第8回 映画産業の再建
- 第9回 音楽産業のkeyword
- 第10回 著作権ビジネス
- 第11回 家庭用TVゲームの現状 BriefReport
- 第12回 メディアと政治経済社会
- 第13回 エンタテインメント2003年総括
- 第14回 メディア業界就職活動アドバイス
- 第15回 まとめ

テキスト

なし。

参考書

- 「テレビ局が潰れた日」石光 勝著 アートデイズ発行 02-07刊
- 「TVメディアの興亡」辛坊治郎著 集英社 00年刊
- 「新聞が消えた日・2010年へのカウントダウン」新聞労連編 現代人文社発行 98-07刊
- 「盛田昭夫語録」小学館文庫 99-03刊

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

なし。

その他

なし。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 2回生  
担当教員 鈴木 みどり

**講義内容・テーマ**

今日のメディア社会を主体的に生きるうえで不可欠な能力といえるメディア・リテラシーについて、その理論と実践の展開を学び、自ら行うメディア分析をとおして基本的な概念を理解する。とくに本科目では、「メディア社会と私たち」を全体的なテーマに据え、メディアのなかのテレビを中心に、メディアが記号化し構成する「現実」、映像言語の特性、価値観やイデオロギー、そのような内容をつくりだしているメディアの産業や制度としての側面、オーディアンス、などの「基本概念」を社会的文脈で読み解く方法を実践的に学び、理解することに力点を置く。

**受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目**

グループ学習活動としてのメディア分析と討論、個人によるメディア・ログ(メディア分析レポート)の提出、クラス全体での発表と対話、という運営方式を基本に、文献を使いながら行う講義を織り交ぜ、全体として参加型の授業を行う。したがって、授業への能動的参加が受講条件といえる。

**評価方法・基準**

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施  
\*日常点:加味する  
評価は授業への出席/参加の度合い(50%)と授業中に課すメディア・ログ(メディア分析レポート)の内容による(25%×2=50%)。筆記式の定期試験や最終授業試験は行わない。なお個人で提出するメディア・ログは、授業の進行に沿って随時だす課題のなかから少なくとも2回を選んで執筆し、原則として翌週に提出する。

**講義スケジュール**

- 第1回～第3回 メディア・リテラシーとは何か？  
・Introduction / ショートエッセイ  
・メディア・リテラシーが求められる社会的背景  
・メディア・リテラシーの定義 / 基本概念 / 学び方  
・1990年代後半の日本におけるメディア・リテラシーの展開  
・ビデオパッケージ「スキヤニング・テレビジョン日本版」(STJ)について
- 第4回～第6回 記号化され構成された「現実」(representation)  
・基本概念(キーコンセプト)と分析モデル  
・メディアを社会的文脈で読み解くとは？  
・メディア分析1:メディアはどう構成されているか  
メディア分析2:メディアが構成する「現実」  
・グループ討論 / 発表 / クラス討論 / 提出
- 第7回～第9回 メディア言語、映像言語  
・メディア言語とは？ 映像言語とは？  
・産業・制度としてのメディア(1)  
・メディア分析3:テレビCMの映像言語  
STJから:スーパーモデルがやきもちを妬くと...  
・グループ討論 / 発表 / クラス討論 / 提出
- 第10回～第12回 メディアの価値観・イデオロギーをどう読み解くか  
・「ジェンダーとメディア」をめぐる研究の動向  
・産業・制度としてのメディア(2)  
・メディア分析4:ジェンダー、エスニシティを読み解く  
STJから:グラウンド・ゼロの広告、ココロ化された世界  
・グループ討論 / 発表 / クラス討論 / 提出
- 第13回～第15回 オーディアンスを考える  
・オーディアンスがメディアを解釈し、意味をつくりだす  
・「メディアと子ども」をめぐる議論とそのグローバルな展開  
・産業・制度としてのメディア(3)  
・メディア分析5:私のメディア史、私たちのメディア史  
STJから:人種差別をやめよう! PSA  
・分析 / グループ討論 / 発表 / クラス討論 / 提出

『メディア・リテラシーを学び人のために』(鈴木みどり編、世界思想社、1997)

#### 参考書

『Study Guideメディア・リテラシー2』(鈴木みどり編、リベルタ出版、2003)  
他は授業のなかで紹介する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

メディア・リテラシーの世界 (Media Literacy Project in Japan) <http://www.mlpj.org/>  
Media Awareness Network (Mnet) <http://screen.com/mnet/eng/>

#### その他

メディア理論 S コミュニケーション論 S	10368
--------------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 赤井 正二

講義内容・テーマ

この講義で採りあげる「メディア」は「マス・メディア」ではなく、それらの底にある聴覚的な「声」や「音」、視覚的な「文字」や「映像」のことである。これらの「コミュニケーション・メディア」の変化から人間・文化・社会の変化を観るというマクルーハンを代表とする一連の研究の発想を学んでもらいたい。

学習目標は、(1)マクルーハンを中心とするメディア理論の第一世代の基礎的な理解をとおして、(2)メディア経験の複雑さと文化的な可能性を考えることにある。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

「第一世代メディア理論の流れ」の部分は、テキストに接することを重視するのでやや難解であることは承知しておいてもらいたい。参考書などでの自主学習が必須となる。

評価方法・基準

\*筆記試験・定期試験として実施

講義スケジュール

第 1回・「メディア」についての発想転換

?メディアの力1

第 2回・見せることと見ること 映像編集から

第 3回・見るとはどういうことか? 視覚と意味解釈

第 4回・遠近法 視覚特性を予期した見せ方

第 5回・動く絵 知覚の組み入れ

?第一世代メディア理論の流れ

第 6回・コミュニケーションの「バイアス」と「社会的性格」 - H.A. イニス & D. リースマン -

第 7回・メディアの構成力 - M.マクルーハン -

第 8回・音響としての声がつくる文化 - W - J. オング -

第 9回・感覚比率と触覚(共通感覚) マクルーハン & ベンヤミン

第10回・中間まとめ

?メディアの力2

第11回・メディアの力の源泉

第12回・状況に依存することと越えること

第13回・メディアと状況との出会い方 絵文字・読み聞かせetc.

第14回・メディア論的想像力のために まとめ

第15回・試験

テキスト

レジメ(資料)を使用する。

参考書

T. ゴードン『マクルーハン』ちくま学芸文庫

服部『メディアの予言者』廣済堂出版

マクルーハン『メディア論』みすず書房

多木『ベンヤミン「複製技術時代の芸術作品」精読』岩波現代文庫など。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

余暇・スポーツ史 S  
スポーツ文化史 S

11681

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回数 3回生

担当教員 有賀 郁敏

### 講義内容・テーマ

講義のテーマ: 民衆の「余暇」活動と権力との関係

不幸にして「余暇」と訳されてしまった狭義の非労働時間は、この言葉から派生するやや消極的な意味とは裏腹に、われわれの生活に固有の意味を付与する非常に大きな価値をもっているよう思われる。なぜなら「余暇」を欠落させた生活を考えることは、現状ではもはやリアリティを欠いているからである。日本とヨーロッパの生活史をひもとくなら、「余暇」が娯楽性のみならず、民衆にとって多様で重要な意味をもっていたことに気づく。実は、この民衆の「余暇」活動をいかにして管理してゆくのかは国家をはじめとした諸権力にとっても非常に重要な課題であったのである。本講義では広範囲にわたる「余暇」活動のなかから、幾つかのサブテーマを選び取り、「余暇」の実相と権力との関連に迫りたい。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

授業は講義形式が基本となる。しかし、受講生が内容をよりよく理解するために講義に関するレジュメはもとより、ビデオ、デジタル写真、CD - Romなどを多く活用する。また講義の内容に関する意見交換の場を設け、受講生の貴重な見解については、それを共有するように努めたい。

### 評価方法・基準

\*筆記試験: 定期試験として実施

評価は基本的に定期試験の結果による。基準は講義についての知識ならびに内容に関する自己の理論展開である。また、それぞれの講義のセクションごとにミニレポートを書いてもらい、それを評価の対象としたい。このミニレポートの評価基準はレポートの提出回数を基本とする。

### 講義スケジュール

1. オリエンテーション: 講義の進め方、受講に際しての確認事項
2. 近代イギリスの「合理的娯楽」運動 : 民衆娯楽の世界ー賭け、闘鶏、ボクシング
3. 近代イギリスの「合理的娯楽」運動 : 福音主義と娯楽の合理化、動物愛護協会の活動
4. 近代イギリスの「合理的娯楽」運動 : カウンターアトラクションとしての合理的娯楽運動
5. フットボールの社会史 : マスフットボールから近代サッカー
6. フットボールの社会史 : アスレティズムとアマチュアリズム
7. ファシズムと娯楽: 「ドーボラボーロ」と「歓喜力行団」
8. ドイツにおけるアソシエーション : 都市の生活とアソシエーションへの期待
9. ドイツにおけるアソシエーション : 男性合唱協会、体操協会、自主消防団の活動
10. 日本における「公と私」関係の推移と余暇・スポーツとの関係
11. 世紀末資本主義、帝国主義、植民地主義の展開とスポーツ: フランス近代とオリンピック、スポーツの伝播と普及
12. 近代日本における近代化政策と民衆娯楽 : 運動会の社会史
13. 近代日本における近代化政策と民衆娯楽 : 運動会の社会史
14. 近代日本における近代化政策と民衆娯楽 : スポーツの政策化と娯楽の管理と統制そして逸脱
15. 講義のまとめ

### テキスト

特に使用しない。その都度、参考文献などの情報を受講生に提供する。

### 参考書

- ・R. マーカムソン『英国社会の民衆娯楽』平凡社
  - ・有賀郁敏他『近代ヨーロッパの探究8 スポーツ』ミネルヴァ書房
  - ・O. グルーベ、M. クリュエーガー『スポーツと教育ードイツスポーツ教育学への誘い』ベースボールマガジン社
  - ・高津勝『近代日本スポーツ史の底流』創文企画
- 以上の文献はすべて大学図書館にある。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

講義の場で必要に応じて紹介する。

### その他

余暇論 S  
現代余暇論 S

10616

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 棚山 研

### 講義内容・テーマ

本講義では、近年の余暇活動の全体的状況を概観し、さらにグリーンツーリズムやボランティアなどの「新しい余暇活動」に注目していく。そして、そのような余暇活動がいかなる社会的背景を持った人々によって支えられているのか、また、そこから照らし出される「労働」の現代的なあり様について論じたい。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

授業では簡単に触れるに留めるが、何よりも日本の余暇問題は労働時間問題である。労働時間についての基本的知識(国際比較など)を持っておくことが望ましい。

### 評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施

\*日常点:加味する

基本は定期試験(試験期間中)のみで行う。その他、学生参加の授業形態を予定している。授業中、「余暇に関する適当なテーマ」で個人発表をした人には、原則として単位認定をする予定。具体的には第1回目の授業で説明する。

### 講義スケジュール

余暇論の概略・コンセプト

現代日本の余暇活動(1) その全体的な状況

現代日本の余暇活動(2) 新しい余暇活動のトレンド

「社会性余暇」について(1)

「社会性余暇」について(2) 「サッカー・ボランティア・グループ」の事例から

「農村ツーリズム」について(1) その概略

「農村ツーリズム」について(2) 課題と発展可能性

「余暇社会」の可能性について考える(1) 現代日本の労働との関係で

「余暇社会」の可能性について考える(2) 環境問題、情報化との関わりで

まとめ

以上の項目を14回にわたって授業していく。

これ以外にも学生参加の授業形態を予定している。

### テキスト

使用しない。

### 参考書

自由時間デザイン協会編『レジャー白書』2001、2002年度版。生協および大型書店の「政府刊行書コーナー」で入手可。図書館「白書・統計コーナー」で閲覧可。その他の参考書は適宜紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

適宜紹介する。

### その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 櫻谷 真理子

講義内容・テーマ

人間が社会の中で生まれ、育ち、老いていく過程をライフサイクルの各ステージに沿って概説し、心理・社会的存在としての人間理解を深め、人間の一生について総合的に考察する。とくに、各段階の心理的危機とその克服過程について論じる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

テーマを設定して、レポートを書いてもらうことが多い。

評価方法・基準

\*筆記試験：定期試験として実施

数回のレポートと出席状況(40%)、定期試験にて(60%)評価する。

講義スケジュール

1. 乳幼児期の子どもの発達と親のライフサイクル  
出生前から乳児期まで  
幼児期その1  
幼児期その2  
親と子の共感の世界を築くために
2. 学童期、思春期の発達課題と心理的危機  
学童期の子どもをつまづきと成長  
思春期の危機と成長  
子どもの思春期危機と親の思秋期危機
3. 青年期から成人期—社会人として、家庭人として—  
青年期、成人期の発達課題  
職業人としての葛藤、結婚、家庭生活の悩み
4. 中年期の光と闇  
中年期の心身の変化  
中年期の危機の諸相  
アイデンティティの問い直し
5. 老年期を生きる  
ライフサイクルの中の老い  
自我機能の発達と人格の統合  
まとめ

テキスト

とくに定めない。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他



ライフデザイン論 S 人間発達論 S	11500
-----------------------	-------

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 中村 正

講義内容・テーマ

自己決定の尊重、生活の質(QOL)の確保、市民社会の自律性、NPO・NGOへの期待、公共圏の再構築、持続可能な社会創造など、生活の仕方や価値にかかわる新しい問題群が、新社会システム形成と関わって議論された。新しいライフデザインを模索する問題群を扱いながら、人間の生き方や他者との関わり方が変容する時代の「A Way of Life」の諸相を明確にする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義の流れに即して解説を行う。ライフデザイン論は新しい分野なので、定型的な知識や体系化された知識が出来上がっているわけではない。ノートを取ることを基本にして講義を進める。資料など必要なデータは適時配布する。

評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施

講義スケジュール

- 1) ライフデザイン研究の背景
- 2) ユニット1 ライフサイクルの変容1 - 脱青年期の誕生 -
- 3)         ライフサイクルの変容2 - 長寿社会化 -
- 4)         ライフサイクルの変容3 - 少子社会 -
- 5) ユニット2 ライフデザインとジェンダー1 - 女性の問題 -
- 6)         ライフデザインとジェンダー2 - 男性の問題 -
- 7)         ライフデザインとジェンダー3 - 社会の問題 -
- 8)         中間まとめとレポート
- 9) ユニット3 ケアのカタチ1 - 先端技術とQOL -
- 10)        ケアのカタチ2 - 自立生活と自己決定 -
- 11)        ケアのカタチ3 - 介護と介助の社会化 -
- 12) ユニット4 コミュニティの形成1 - 共助のスタイル -
- 13)        コミュニティの形成2 - NPOとボランティア -
- 14)        コミュニティの形成3 - 共生のスタイル -
- 15) ライフデザイン研究の課題 - まとめとして -

テキスト

なし

参考書

担当者の書いたものとして、『家族のゆくえ』(人文書院)、『「男らしさ」からの自由』(かもがわ出版)、『ドメスティック・バイオレンスと家族の病理』(作品社)、『なぜ夫は、愛する妻を殴るのか』(ダットン著中村正訳、作品社)、『京都発NPO最前線』(京都新聞社)、『家族の暴力をのりこえる』(かもがわ出版)などがある。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

講義のなかで紹介する。

その他

リハビリテーション論 S  
リハビリテーション論 S

14547

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 門 祐輔

講義内容・テーマ

リハビリテーションは、理想的には「全人間の復権」を目的とし、従来の「疾患を対象とし、治癒を目的とした」医学とは異なり、障害を対象とするという特徴を持つ。医療の現場ではこの従来の医学とリハビリテーション医学の両方が求められている。また高齢化がすすみ、介護保険が施行された時代にあつて、リハビリテーションは医療と福祉をつなぐ重要な役割を持っている。

本講義は、医療を中心としたリハビリテーションの現場の諸問題をとりあげ、リハビリテーションの理念とともに、現場で役立つ知識をえることを目的とする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

\* 筆記試験：定期試験として実施

講義スケジュール

社会福祉士などの取得をめざし将来医療・福祉の現場で働くことを希望する学生が、現場をイメージできるように、ビデオ、スライドなどを利用し行う。

以下の内容で行うが、詳細なスケジュールは最初の講義の時に提示する。

リハビリテーションと障害(総論)  
障害の概念と変遷  
障害者の心理  
リハビリテーションの基本的考え方  
リハビリテーションを理解するための基礎医学  
リハビリテーションを支えるスタッフ  
リハビリテーションと障害(各論)  
脳卒中のリハビリテーション  
脊髄損傷および脊髄疾患のリハビリテーション  
リウマチおよび骨関節疾患のリハビリテーション  
脳性麻痺および小児のリハビリテーション  
神経筋疾患のリハビリテーション  
切断のリハビリテーション  
内部障害のリハビリテーション  
精神障害者のリハビリテーション  
高齢者のリハビリテーション  
廃用症候群のリハビリテーション  
職業的リハビリテーション  
社会的リハビリテーション  
教育的リハビリテーション  
介護保険とリハビリテーション  
トピックス  
障害者の外出  
障害者の居住など

テキスト

なし。必要なプリントをつくります。

参考書

『リハビリテーション医療入門』(医学書院)  
『目で見えるリハビリテーション医学 第2版』(東京大学出版会)  
『脳卒中のリハビリテーション』(医歯薬出版株式会社)

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他



臨床社会学 S  
現代人権論 S

14930

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 中村 正

講義内容・テーマ

臨床の現場がたくさんある。心理相談、福祉援助、医療・看護、臨床教育、障害者援助などだ。こうした人々の営為に社会学はどのように貢献できるのか。社会行動や相互作用の諸過程を分析する社会学の方法は臨床実践に「関係性」という射程をもって接近できるだろう。だからその射程は社会それ自体の病理性をも扱うこととなる。こうした広がりの中で臨床実践を把握する。可能な限り多くの主題を扱いながら、臨床社会学の基本的考え方について講義していきたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義の流れに即して解説を行う。臨床社会学は新しい分野なので、定型的な知識や体系化された知識が出来上がっているわけではない。ノートを取ることを基本にして講義を進める。資料や視聴覚教材などを用いて分かりやすくすすめる。講義に必要なデータは適時配布する。

評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施

講義スケジュール

- 1) 社会病理学から臨床社会学へ
- 2) 臨床社会学の射程と方法
- 3) 関係性のなかの「私」 自我を病むことの社会性
- 4) パッシングとスティグマ
- 5) アイデンティティワーク
- 6) 家庭内暴力その1
- 7) 家庭内暴力その2
- 8) アディクション(依存症) - 薬物依存を中心に -
- 9) いじめと共同性の病理 - 傍観者の存在 -
- 10) ひきこもりと家族
- 11) 非行 - 修復的少年司法について -
- 12) 自殺 - 社会問題として -
- 13) 障害理解 - 環境の障害性へ -
- 14) 心病む人々をささえる - 脱施設化の流れ -
- 15) 臨床社会学の役割(まとめとして)

テキスト

なし

参考書

担当者の書いたものとして、『家族のゆくえ』(人文書院)、『「男らしさ」からの自由』(かもがわ出版)、『ドメスティック・バイオレンスと家族の病理』(作品社)、『なぜ夫は、愛する妻を殴るのか』(ダットン著中村正訳、作品社)、『家族の暴力をのりこえる』(かもがわ出版)、『京都発NPO最前線』(京都新聞社)などがある。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

授業のなかで随時紹介する。

その他

社会病理現象に関しては新聞などをよく読むことを薦める。しかし、メディアの社会病理の扱い方に関しては批判的に位置づけることが必要だ。

老人福祉論 S  
老人福祉論 S  
老人福祉論 SG

11495

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 高橋 正人

### 講義内容・テーマ

わが国の高齢者福祉制度、サービスに関する基礎知識とそこにおける問題点について講じる。また高齢者の介護問題を中心にして、在宅福祉の展開過程をたどりながら、わが国の高齢者福祉のあり方を福祉先進国といわれる諸外国の高齢者福祉事情と比較しながら検討する。とくに公的介護保険制度の導入にかかわる諸動向について述べ、そこにおける問題点や課題を明らかにする。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

新聞・雑誌等に掲載される高齢者福祉関連の記事に関心をもつこと。  
自分の住んでいる地域の高齢者福祉について調べたりすること。  
「若い」を想像し、自分の問題としてほしい。

### 評価方法・基準

\*筆記試験：定期試験として実施  
\*日常点：加味する  
定期試験及び講義の中で課す小レポート、出席点などによる総合評価

### 講義スケジュール

- 1 高齢者福祉の考え方
- 2 人口高齢化と高齢者問題の予見
- 3 家族変化と高齢者問題の現出
- 4 高齢者福祉制度の成立
- 5 高齢者福祉制度と福祉見直し論
- 6 高齢者福祉と在宅福祉の考え方
- 7 高齢者福祉と在宅福祉の展開
- 8 高齢者福祉と施設
- 9 高齢者福祉と地域
- 10 高齢者保健福祉推進10ヶ年戦略
- 11 高齢者福祉と介護保険の成立
- 12 高齢者福祉と介護保険の問題点
- 13 高齢者福祉と介護保険の課題・展望
- 14 高齢者福祉の未来
- 15 閉講

### テキスト

とくに定めない

### 参考書

・社会福祉士養成講座(第2巻)「老人福祉論」中法法規出版  
・最新介護福祉全書(8巻)「老人の心理と援助」メジカルフレンド社  
・体験ルポ世界の高齢者福祉 岩波新書  
・高齢者医療と福祉 岩波新書

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

労働社会学 S  
労働社会学 S

14730

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 辻 勝次

講義内容・テーマ

21世紀になったのに日本の経済と社会は長い低迷の中にあり、失業、リストラ、就職難、フリーターの急増など、人々の仕事や働き方には大きな変化と問題が生じている。講義の内容は大きく2つの部分に分かれる。前半は最近の変化の理由や原因とそこから生じている新しい現象について考える。後半は君たちが仕事に就いたときに会う「サラリーマン生活」の仕組みについて考える。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

労働、勤労、職業、仕事などさまざまな言葉があるが、個性を生かし、収入を確保し、社会に参加するには誰もが働かなければならない。現実を直視してそれを乗り越える知恵を学んでほしい。

評価方法・基準

\*筆記試験・定期試験として実施

講義スケジュール

- 1講 仕事と職業の社会学 講義の狙いと構成、目標など
- 2講 いま何が起きているのか 年功制と終身雇用への反省と改革
- 3講 「多様な就労形態」フリーター 派遣 裁量労働など
- 4講 賃金制度の変化 年功給から成果主義
- 5講 人事管理の変化 職位と職業能力(職能)
- 6講 中間まとめ 企業社会と職業社会
- 7講 専門職の仕事( ) 専門職の歴史と現状
- 8講 専門職の仕事( ) 組織内専門職
- 9講 ホワイトカラーの仕事( ) 事務職
- 10講 ホワイトカラーの仕事( ) 技術職
- 11講 ブルーカラーの仕事( ) 熟練技能型労働
- 12講 ブルーカラーの仕事( ) 量産型技能労働
- 13講 仕事とジェンダー( ) 職場の性別分業
- 14講 仕事とジェンダー( ) 労働と家庭
- 15講 全体まとめ 労働から仕事へ

テキスト

テキストを使わないが毎回レジュメを配布する。またレジュメのなかに参考書などを示す。

参考書

稲上毅・川喜多喬編『講座社会学 6 労働』東京大学出版会

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 4回生

担当教員 辻 勝次

講義内容・テーマ

いま日本の労働や勤労の世界には50年に一度という大きな変化が起きている。私はこの事態について「新しい職業能力と職業経歴」という概念を中心に研究している。言い換えると新しいキャリアと仕事能力がどのように生成されているのか、またそれは今後の日本と日本人にどのような事態をもたらすのかを考えている。この講義ではこの研究のなかで日々出会っている問題について理論的かつ実証的に、しかし仮説的に論じたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

担当者はフィールドから学ぶことをモットーとし実証を旨としている。性急な全体像は示せないと思うが、最新の事例を示すことは心がけたい。受講者は事例の中から自分で一般化してほしい。

評価方法・基準

\*筆記試験・定期試験として実施

講義スケジュール

- 1講 講義の進め方と目標 新しい職業能力と職業経歴とは何か
- 2講 職業能力をめぐる先行研究( )
- 3講 職業能力をめぐる先行研究( )
- 4講 職業経歴をめぐる先行研究( )
- 5講 職業経歴をめぐる先行研究( )
- 6講 職業能力と職業経歴の分析図式
- 7講 事務職の職業経歴
- 8講 事務職の職業能力
- 9講 営業職の職業経歴
- 10講 営業職の職業能力
- 11講 技術職の職業経歴
- 12講 技術職の職業能力
- 13講 量産型ブルーカラーの職業経歴
- 14講 技能集約型ブルーカラーの職業経歴
- 15講 全体のまとめ 新しい職業能力と職業経歴

テキスト

レジメを配布してそのなかで参考文献などを示す。

参考書

これも講義の中で示す

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

老年社会学 S  
 老人福祉論 S  
 老年社会学 SG

11676

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回数 2回生  
 担当教員 高橋 正人

#### 講義内容・テーマ

高齢化にともなう社会変化は多様である。高齢化社会の問題に対するアプローチも人口、雇用・就業、家族、医療保健、社会福祉、社会活動・生涯学習、生きがい等と多様である。本講義では高齢化社会の問題を諸データを通じて多角的にとらえつつも、そこに通底する意味を探る。その際、高齢期の問題が世代をこえた課題として実感される接点を提示する。また現代の「古い」の意味を探ることをめざし、社会学的幸福論を主テーマとしたい。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

新聞・雑誌等の高齢者に関する記事を読む。  
 「古い」を想像し、自分の問題としてほしい。

#### 評価方法・基準

\* 筆記試験：定期試験として実施  
 \* 日常点：加味する  
 定期試験及び講義中に課す小レポート、出席点による総合評価

#### 講義スケジュール

- 1 「古い」を想像する
- 2 高齢期のこころと身体
- 3 高齢期の世代的特性
- 4 高齢期の健康生活と痴呆症
- 5 高齢期の経済生活と年金
- 6 高齢期の家族生活と老親扶養慣行
- 7 高齢ねたきりと介護問題
- 8 高齢期の無為と生きがい・社会活動
- 9 高齢期の孤独・孤立と疎外
- 10 高齢期の自殺と虐待
- 11 高齢期の性愛とジェンダー
- 12 エイジズム
- 13 高齢期と「世代性」
- 14 「古い」の意味
- 15 閉講

#### テキスト

とくに定めない

#### 参考書

・「エイジングの社会学」日本評論社  
 ・「図説高齢者白書」全国社会福祉協議会

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他



**基礎演習** ・ **全クラス**

99050

授業開講期間 前期・後期単位数 2配当回生 1回生のみ担当教員講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスで学生が全体的・共同的に学ぶ導入期の小集団科目です。学部における「テーマ研究」の手法を経験的に学ぶことによって、専門学習の基礎的な力を養うことを主な目的としています。「テーマ研究」とは、特定の研究テーマを設定し様々な角度から事実や文献について調査・分析し、クラス発表と討論を行い、そのテーマについて理解を深めていくものです。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視しますので、準備段階からの主体的な参加や共同の取り組み、班学習が欠かせません。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスに、5～6名のエンター(援助担当者の略称)が参加し、学習やクラスの運営に協力し、援助します。

評価方法・基準

\* 日常点:加味する

開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となる。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によるが、担当教員から個別に指示を行います。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

演習 / 人間福祉演習 (全クラス)

99090

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2回生のみ

担当教員

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習をおこなう。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

\* 日常点: 加味する

平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によるが、担当教員から個別に指示を行う。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

## 演習 / 人間福祉演習 (全クラス)

99091

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3回生のみ

担当教員

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とする。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめ力量の形成を目指す。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

- \* レポート: 試験に代わるレポートとして実施
  - \* 日常点: 加味する
- 日常点評価(「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」による)

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

企画研究(自主企画学習) SA

15697

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 深井 純一

#### 講義内容・テーマ

この科目は、学習者自らが「主体的な学びのプロセス」を獲得することが主たる目的です。キーワードは「問題を探す」「科学する」「探求する」「参加する」「自ら学ぶ」です。自ら学ぶことで必要な学習の仕方、問題の複雑性や変化に対応する確かな感覚、センス、洞察力を獲得していくこともこの科目の目標です。与えられた課題やテーマを受動的にこなすのではなく、学習者自身が主体的に学習を企画し、対象者と関わりながら学習を展開していくことが特徴であり最も重要なポイントです。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

#### 評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施

個人であれグループ活動であれ学習の開始から終了まで学習に関わったあらゆる文書や資料などを添えた「学びのプロセス」がわかるような報告記録と最終の成果物(レポートや論文や作品など)を提示してもらい、それによって評価を行います。また、グループ活動の場合、構成メンバーのそれぞれの役割を明確にする必要があります。

企画研究 (自主企画学習の評価は、「P」もしくは「F」となり、後期での単位認定となります。

#### 講義スケジュール

各グループ・個人により研究・学習をすすめていく。

#### テキスト

#### 参考書

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

企画研究(インターンシップ) SA

15701

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 深井 純一

### 講義内容・テーマ

この科目は、学習者自らが「主体的な学びのプロセス」を獲得することが主たる目的です。キーワードは「問題を探す」「科学する」「探求する」「参加する」「自ら学ぶ」です。自ら学ぶことで必要な学習の仕方、問題の複雑性や変化に対応する的確な感覚、センス、洞察力を獲得していくこともこの科目の目標です。与えられた課題やテーマを受動的にこなすのではなく、学習者自身が主体的に学習を企画し、対象者と関わりながら学習を展開していくことが特徴であり最も重要なポイントです。

インターンシップとは、一般的に、学生が企業などにおいて就業体験をする産学協同プログラムのことです。90年以上の歴史をもちインターンシップが活発に行われているアメリカにおいては、多様なケースがありますが、日本では区別せずに総称してインターンシップと呼び「学生が在学中に自らの研究テーマ、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」として幅広く捉えられています。

「企画研究（インターンシップ）」として、単位認定するインターンシップは学部独自で募集を行うものに限ります。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

### 評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施  
インターンシップを通じて学んだこと等についてレポートにまとめ、提示してもらいます。  
企画研究（インターンシップ）の評価は、「P」もしくは「F」となり、後期での単位認定となります。

### 講義スケジュール

インターンシップは、10日～1ヶ月以上に渡り行います。詳細は募集掲示で確認してください。  
また、事前・事後指導への出席が必要です。

### テキスト

### 参考書

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 M1

担当教員 吉田 信介

講義内容・テーマ

The main purpose of this course is to give learners instruction and practice in making effective presentations in class on a wide variety of timely topics such as Education, Travel and Culture, Health and Environment, Society, Relationships, and Media and Technology. Class activities are divided into three parts. The first part is devoted to activating learner's existing knowledge of the topic through reading and listening sections, encouraging learners to offer additional information of their own, and requiring them to write out their opinion. The second part is devoted to planning, preparing, and delivering the presentations based on the topic of the unit. The last part is designed to help learners to evaluate the presentations and to show whether they agree or disagree with statements.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

産業社会学科3回生以上

評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施

\*日常点:加味する

Grades will be based on attendance, class work, presentations, participation in debates, and a final report.

講義スケジュールテキスト

R.McMahon(2003)"Presenting Different Opinions"南雲堂

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

アカデミックライティング S  
アカデミック・ライティング S

30045

授業開講期間 前期                      単位数 2                      配当回生 M1  
担当教員 IAN T. HOSACK

講義内容・テーマ

This course will help students develop their academic writing and research skills. It will introduce students to the process of writing an academic paper: how to make a start with pre-writing exercises; how to paraphrase and summarize information from secondary sources; how to outline, draft and revise a paper.

Students will develop their formal writing skills through 3 projects: a Summary Report, a Cause-Effect Essay and an Academic Argument essay. The culmination of the course will be a mini-conference in which students will have the chance to present and discuss their papers.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

産業社会学科3回生以上 / 人間福祉学科2回生以上

This is a demanding course with homework assignments every week. Students are expected to be highly motivated. Regular attendance is essential.

評価方法・基準

\* 日常点: 加味する

講義スケジュール

Provisional course outline - subject to amendment:

1. Orientation : The Academic Writing Process
2. Expressing main ideas: basic paragraph structure
3. The summarizing process; Note-taking and organising ideas
4. The Summary Report
5. Creating a list of references
6. The Cause-Effect Research Paper
7. Writing the introduction / thesis statement
8. Using information from printed sources; Academic Honesty
9. Making an outline; Writing with transitions
10. Writing the conclusion
11. Preparing for an Academic Argument Paper
12. Using modal auxiliaries
13. Writing accurate generalizations
14. Writing definitions
15. Mini-conference - student presentations & discussion

テキスト

Foundations of Writing: Developing Research & Academic Writing Skills  
Carolyn Spencer & Beverly Arbon (National Textbook Company, 1996)

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

Presentation of main points by instructor; class discussion; group work; pair work

参考になるWWWページ

その他



社会学基礎理論 S 応用社会学特論 S	30160
------------------------	-------

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 M1

担当教員 出口 剛司

講義内容・テーマ

そもそも、社会学とは何か？ 社会的な物の見方とは、どのようなものか？ 「社会的」という表現をしばしば耳にする  
が、実際その答えは定かではない。また近年の学問的状况を見ると社会学の研究対象が多様化すると同時に、ポスト・モダニズム  
の影響で、人文科学の社会学化と社会学の脱中心化が進展している。このような現状を踏まえ、本講義は「社会学とは何か？」  
という基本的な問いに、理論社会学の立場から取り組んでいくことをめざす。理論社会学を専門とする学生・院生だけでなく、  
社会学の基本的な発想法や思考法を学びたい、幅広い専門分野をもつ学生・院生の受講を期待する。15回の講義のなかで「社会  
を社会的に見る方法」を身につけたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

産業社会学科3回生以上 / 人間福祉学科2回生以上  
基礎社会学、社会学理論、社会学史、社会学入門等の社会学関連科目を受講しておくことが望ましい。これらの科目を受講して  
いない場合は「社会学のあゆみ」の通読を希望。

評価方法・基準

- \* レポート: 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点: 加味しない

講義スケジュール

1. 社会学理論の基本構造
  - 「社会的なるもの」の出現と社会学
  - 社会学における行為論的視座
  - 行為の意味論的分析
  - 社会学における制度論的視座
  - 制度の構造論的分析
  - 中間考察「社会学理論における行為 = 構造のディレンマ」
  - 自然科学的まなざしとシステム論的視座
  - 社会の体系的 = システム論的分析
  - 人類学的まなざしと社会過程論
  - リアリティのミクロ社会学
  - 中間考察「社会学理論における統合論 = 解体論の対立」
2. 現代社会学の諸理論
  - 理論社会学の課題: 構造化理論(ブルデュー・ギデンスと構造化)
  - 理論社会学の課題: オートポイエシス(ルーマン・システム論の射程)
  - 理論社会学の課題: 社会学と規範理論(ハーバーマス・討議倫理の展開)
  - 理論社会学の課題: 権力論の刷新(フーコー・生産する権力)

テキスト

テキストの指定は行わない。毎回レジュメを配布する。

参考書

講義のなかで適宜紹介するが、さしあたり以下を参考書として指定する。  
『現代社会学の理論と方法』(岩波講座・現代社会学別巻)  
『講座社会学1 理論と方法』(東京大学出版会)  
『社会学理論の可能性を読む』(情況出版)  
拙著『エーリッヒ・フロム: 希望なき時代の希望』(新曜社)

授業の方法(大学院科目のみ)

レジュメに基づく講義形式をとる。講義終了後に簡単なコミュニケーション・ペーパーを作成してもらう。

参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 M1

担当教員 伊藤 武夫

講義内容・テーマ

テーマ:「モダンとポスト・モダン」

私は、ここで「モダン」な世界とは何か、という問題を問い直す議論を丁寧に行いたいと思う。日本のように「伝統」と「モダン」と「ポスト・モダン」が奇妙に重なり合う現実には、検討してみると実に興味深い。論理的に整理される「モダン」と私たちの日常意識にある、その重なり合いを切り分ける議論を皆さんとしてみたい。

そのあとに、「ポスト・モダン」あるいは「現代的なるもの」について、さらに現代の秩序形成の在り様について、検討してゆきたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

産業社会学科3回生以上 / 人間福祉学科2回生以上

講義ではあるが、各回ごとに受講生の意見を求める。活発に、率直に意見交換できる雰囲気を期待する。

評価方法・基準

- \* レポート: 試験に代わるレポートとして実施
  - \* 日常点: 加味する
  - ・ レポートの提出が評価の不可欠な要件。
- ただし、評価はレポート(75%)、出席・質問紙の提出など(25%)の配分で行う。

講義スケジュール

第1部 「モダン」世界とは何か(5回ほど)

- ・ 伝統性と近代
- ・ 近代化 - 「産業化」「組織化」
- ・ 近代化 - 「都市化」「個人化」
- ・ 国家と市民社会、
- ・ 近代化論、など

第2部 現代社会への移行(8回ほど)

- ・ システムとしての社会
- ・ 「消費社会」と<体制収斂>
- ・ 「大衆化」と「中間層」論
- ・ 大衆社会とメディア
- ・ 政治・経済システムにおける協調と調整
- ・ モダンとポストモダン、など

まとめと今後の課題

テキスト

- ・ テキストは指定しない。しかし、議論は次の二つの著作を俎上にのぼす。
- 新 睦人著『現代社会の理論構造』、恒星社厚生閣、1995年。
- 友枝敏雄著『モダンの終焉と秩序形成』、有斐閣、1998年。

参考書

- ・ クリシャン・クマー著、杉村芳美他訳『予言と進歩』、文真堂、1996年
- ・ ここで紹介した文献はいずれもすでに5年以上前のものである。そのほかは講義のなかで適宜、紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

- ・ 各講義ごとに20分ほどの質問と討論に時間を設けるように努力する。

参考になるWWWページ

- ・ 講義のなかで適宜、紹介する。

その他

社会文化研究 S  
 応用社会学特論 S

30268

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 M1

担当教員 松田 博

講義内容・テーマ

本講義の主目的は現代的な社会文化研究に大きな影響を与えているカルチュラル・スタディーズ(CS)の諸特徴を概観しつつ、S・ホールが強調しているように(立命館大学での講義参照)、CSの大衆(民衆)文化論一般への拡散を克服する方法として再度CSの知的源泉であるA・グラムシの文化論を検討することにある。

ガイダンス

現代文化研究(CS等)と文化社会学の諸潮流

S・ホールとA・グラムシの文化論の特質

グラムシ「文化論ノート」(「知識人論ノート」等)の特質

グラムシ「サルタン論と民衆文化論」の展開

グラムシ・CS的社会文化研究の可能性

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

双方向的なレクチャーをしたいので自己の問題意識や研究テーマと関連づけて、ホールやグラムシなどの知的巨人と格闘するつもりで、積極的に議論に参加してほしい。

評価方法・基準

\* 日常点:加味する

出席などの平常点および小論文によって評価する。

講義スケジュール

大学院科目兼アドヴァンスト科目であるので機械的なスケジュールにはしない。

一方通行ではなくディベートや院生発表を重視したい。

アカデミック・ライティング(論文・レポート)も重視する。

ガイダンス(科目の特徴、課題、方向など)

現代文化研究(CS等)・文化社会学の動向と課題

CS&amp;S・ホールの文化論

グラムシ「文化論」各「ノート」の特質

「民族文化論の展開とサルタン(従属的社会集団)論の接合」

CS&amp;グラムシ的社会文化研究の可能性と課題

同上テーマと文化社会学の可能性

受講生各自の研究テーマの内在的發展との結合を重視したいので、各自の「文化」概念、方法論などについての一定の論点整理を事前しておくことを期待する。

テキスト

テキストは使用しない。必要に応じて資料レジュメや文献リストを配布する。

参考書

S・HALL:CRITICAL DIALOGUES IN CS, ROUTLEDGE 1996

ホール講演「産業社会論集」20巻4号 1996

A・GRAMSCI:SELECTIONS FROM CULTURAL WRITINGS,LAWRENS &amp; WISHART

松田他共編『グラムシ思想のポリフォニー』法律文化社

同共編『グラムシは世界でどう読まれているか』社会評論社

その他多数あるので必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

講義、討論、院生発表など双方向的授業にしたいので、事前の準備や討論への参加、自発的発表を期待する。

参考になるWWWページ

多数あるので関心あるテーマに即して検索されたい。

その他

アカデミック・ライティングに関する文献は必読である。

人間福祉研究 S  
応用社会学特論 S

30315

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 M1

担当教員 岡田 まり

講義内容・テーマ

社会福祉のキーワードを取り上げて議論することにより、福祉に関する基礎知識を習得することを第1の目的とする。さらにキーワードに関連する事象、事例・実践報告、論文等を読み解いて、その知識を机上のものにおわらせず、現実世界で応用可能なレベルに発展させたい。これまで全く気付かなかった領域に触れることで、各自の研究テーマに広がりや深みを加える可能性を追求する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

産業社会学科3回生以上 / 人間福祉学科2回生以上

評価方法・基準

- \* レポート: 試験に代わるレポートとして実施
  - \* 日常点: 加味する
- 日常点およびミニレポート(報告のレジメおよび授業終了後のまとめ)によって評価する。

講義スケジュール

- 1 オリエンテーション
- 2 キーワードの選定および受講生の担当キーワード決定
- 3～14 報告および議論
- 15 まとめ

テキスト

なし

参考書

随時、紹介する

授業の方法(大学院科目のみ)

報告と議論中心

参考になるWWWページ

その他

社会福祉学研究 S  
 社会福祉学特論 H  
 応用社会学特論 S

30508

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 M1

担当教員 高橋 正人

講義内容・テーマ

社会福祉理解の基礎的視点の獲得と歴史社会的に規定された現代的課題の分析的把握を目的とする。とくに介護保険、社会福祉基礎構造改革後をも射程にいられた考察を行いたい。社会福祉の動向の中から浮かび上がる現代的課題を原論的枠組において整理しながら講じる。「社会福祉とは何か?」といった「問い」から社会福祉を考える基礎的視点を獲得し、社会福祉の現代的課題にみることのできるいくつかの新しい論点について考察する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

産業社会学科3回生以上 / 人間福祉学科2回生以上。  
 「考える」ための「問い」を意識的につくること。

評価方法・基準

\* レポート: 試験に代わるレポートとして実施  
 \* 日常点: 加味する  
 レポートと出席点による総合評価

講義スケジュール

- 1 社会問題の生成と対象化
- 2 社会福祉理論の成立
- 3 福祉国家論の系譜
- 4 日本的福祉社会論
- 5 社会福祉と財源問題
- 6 社会福祉と供給の多元化
- 7 社会福祉とニーズ論
- 8 社会福祉と援助・コミュニケーション論
- 9 社会福祉と少子高齢化
- 10 介護保険制度(1)
- 11 介護保険制度(2)
- 12 社会福祉とコミュニティ
- 13 社会福祉と家族
- 14 社会福祉と社会サービス
- 15 まとめ

テキスト

とくに定めない

参考書

とくに定めない  
 講義の中で資料等を配布する

授業の方法(大学院科目のみ)

基礎講義を行うが、受講者のレポートを題材にした討論を取り入れる

参考になるWWWページその他

特殊講義 SA  
 応用社会学特論 SA

30738

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 M1  
 担当教員 功刀(くぬぎ) 遼吉

#### 講義内容・テーマ

「スローライフ・日本」「がんばらない国・ニッポン」の研究  
 今や多くの日本人が、かつての「右肩上がり経済」の再来を予想したり期待してはいない。政治家や一部の経済人・学者が、あたかもドンキホーテを思わせる勇しい姿で「改革できれば成長できる」と立ち向かっているが、世の常識ある権威はその無謀を危惧し、日本の将来を冷静に分析する諸外国からは、わが国を重視する見方やかつての期待感は消えた。もしかすると国民は、現状のままずっと今のままの生活を楽しみ、優雅に坂道を下りて行くことを望んでいるのかもしれない。それを後ろ向きと捉えずに、「モノからこころ中心の生活」「文化芸術を中心とした21世紀社会」と考えることはできないか。事実を事実として理解し、われらの明日を真摯に語り真摯に見通したい。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

産業社会学科3回生以上 / 人間福祉学科2回生以上  
 まちかどに起っている小さな出来ごとにも関心を寄せ興味を持つ、そんな好奇心を持つ人ならだれにも理解できる、足下の社会・経済・政治から入り込んで日本の将来を予測する。

#### 評価方法・基準

- \* レポート: 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点: 加味する  
 日常点: 講義中に Brief Report(感想・意見・質問等 B5判/1枚)の提出を求める。

#### 講義スケジュール

- 第1回 インストラクション
- 第2回 スローライフの研究
- 第3回 資料・岩手県の「がんばらない宣言」
- 第4回 資料・澄んだ目になにを残せるか
- 第5回 資料・なお「改革なくて成長なし」か
- 第6回 BriefReport
- 第7回 資料・人類はゴミで滅びる
- 第8回 資料・浪費なき成長への転換
- 第9回 資料・ガラクタ経済からの脱却
- 第10回 BriefReport
- 第11回 資料・改革をさほど望まぬ日本人
- 第12回 資料・日本のオーストリア化
- 第13回 資料・勝者は常にひと握り、残りがスタンダード
- 第14回 BriefReport
- 第15回 まとめ

#### テキスト

なし。

#### 参考書

なし。(講義に並行して提示する)

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

資料の読合せから始めて、意見・感想・質問を出し合う形式。

#### 参考になるWWWページ

「スローライフ」で約23,500件の登録あり。

#### その他

なし。

特殊講義 SB  
応用社会学特論 SB

30259

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 M1

担当教員 嘉納 新

### 講義内容・テーマ

日本の新聞をより多角的に分析・理解し、受け手(読者)の立場から必要な改善・改革を提起していくための手がかりとして、形態だけでなく文化的背景の異なる英字紙と比較しながら紙面企画、記事内容、体裁、レイアウト、写真・イラストなどビジュアル・インフォメーション、コラム、社説・評論、広告、販売方法などを点検していく。とりわけ今年4月の統一地方選における日本の新聞の報道と紙面づくりを、昨年11月のアメリカ中間選挙における米主要紙(ニューヨーク・タイムズ紙やワシントン・ポスト紙)の報道、紙面づくりと比較検討していく中で、現代民主主義社会における選挙報道のあるべき姿も探っていく。また講義当日の朝刊(日本の全国紙と、日本で発行の英字紙)から随時タイムリーな課題テーマを選び出し、意見発表やディスカッションも重視する。講義の流れの中で、複眼的な思考に役立つ英字紙に少しでもなじんでもらいたい。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

産業社会学科3回生以上 / 人間福祉学科2回生以上  
英字紙嫌いとか、硬い英文記事が苦手という人をむしろ歓迎します。

### 評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施  
\*日常点:加味する  
課題レポートと、平生の受講態度や発表内容を半々で評価します。

### 講義スケジュール

4月中(3回)は紙面企画、記事内容、体裁、レイアウト、写真・イラストなどビジュアルインフォメーション、コラム、社説・評論、広告、販売方法などの違いについて概要を講義します。5月(4回)は「日本の03年統一地方選挙」と「米国の02年中間選挙」について具体的な紙面での比較検討をします。6月に入ってから授業当日の朝刊から課題テーマを選び出し、4月に説明した様々なテーマについてできるだけ具体的な肉付けをしていきます。最終回は「日本の新聞のあるべき姿」について全員で意見交換をしたい。

### テキスト

当日の「ヘラルド朝日」(1部150円)をなるべく入手して授業にのぞむこと。主要駅のキオスクで販売していますが、入手難の人のために必要箇所のコピーは用意します。

### 参考書

参考紙面としてニューヨーク・タイムズ紙とワシントン・ポスト紙を活用。やや古いバックナンバー多数を講師が用意し、希望者全員に1~2部ずつ参考資料として提供。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

4月中と5月前半までは講師の話が中心。毎回、当日のヘラルド朝日から注目記事なども紹介する。5月後半は選挙紙面の日米比較をテーマ。全員参加で分担し検討結果を意見交換する。6月以降は、主に当日の「ヘラルド朝日」紙面から提起された紙面企画や記事内容、広告などを課題に、割り振られた受講者が検討結果を翌週に発表した後に、全員で意見交換をする。そして終了後に、次週向けの新たな課題提示をする形で進める。

### 参考になるWWWページ

### その他

特殊講義 SC  
 応用社会学特論 SC

30601

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 M1

担当教員 RITU VIJ

講義内容・テーマ

This course introduces students to the study of welfare in modern Japan. Its main objective is to understand the notion of welfare, its institutionalized form, and social practices in Japan within a comparative context. Beginning with a study of the concept of welfare as it has developed historically in Japan, we will trace the emergence of the welfare as a significant instrument of state and nation building in pre-War Japan, so as to build a foundation for the study of welfare and civil society in the contemporary Japan. Focusing on the distinctive nature of Japan's civil society in post-War Japan, the course critically examines claims about Japan's welfare state exceptionalism, typically attributed to its developmental state or culture, outlines its major characteristic and provisions, analyses its social practices of cultural identity construction, specifically its impact on marginal and gendered identities, and finally examines the transformation of Japan's welfare system in the aftermath of the bursting of the economic bubble in the last decade.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

産業社会学科3回生以上 / 人間福祉学科2回生以上

評価方法・基準

- \* レポート: 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点: 加味する

Students' understanding of the key issues raised in the course and their grasp of the material assigned will be examined in a mid-term and final exam, each of which constitutes 30% of the final grade. In addition, students will be given three multiple-choice short exams based on the readings assigned for the day (30% of the grade). The remaining 10% of the grade will be for class attendance and participation. Sample questions will be provided in class for review and discussion.

講義スケジュール

## Part I INTRODUCTION

State, Market, and the Individual: A Conceptual Overview  
 A Brief History of the Welfare State: North American, Europe, and Asia in Comparative Perspective  
 Civil Society and Welfare: Contradiction or Necessity?

## Part II WELFARE AND STATE FORMATION IN JAPAN

The Concept of Welfare in the Edo Period  
 Religion, Family and Welfare in Tokugawa Japan  
 The Meiji Ishin, State Formation, and Welfare Provision

## Part III WELFARE, CIVIL SOCIETY AND THE "ECONOMIC MIRACLE"

Family and Welfare  
 The Corporation and Welfare  
 Consumption and Welfare

## Part IV WELFARE GOODS: POLICY-MAKING AND OUTCOMES

Social Security, Pensions  
 Health Care, Education

## Part V WELFARE AND CULTURAL IDENTITY

Homelessness and Marginal Identity  
 Minorities in the Welfare System  
 Yoseba in Japanese Society

## Part VI GENDER AND WELFARE IN MODERN JAPAN

Women and the 'Economic Miracle'  
 Lone Mothers and Welfare  
 Gendered Care in an Aging Society

## Part VII THE 'CRISIS' OF WELFARE IN CONTEMPORARY JAPAN

Citizenship and the Re-Constitution of Welfare



## テキスト

There is no required text for this course; the class will read a collection of inter-disciplinary essays selected by the instructor that will be made available as a course packet at the beginning of the term. I will provide a guide to reading for each week that will help students identify key points and issues covered in the readings. We will also view and discuss several films that touch on key themes covered in this course. Other visual material - slides, short videos, web-based information and the like, will be used extensively to facilitate a grasp of the central themes.

## 参考書

Interested students may choose to read the following recommended books as background to the course.

Anthony Giddens, ed. The Global Third Way Debate. Cambridge, U.K.: Polity Press, 2001.

Christian Aspalter, ed. Discovering the Welfare State in East Asia. Westport, Conn.: Praeger, 2002.

Tom Gill. Men of Uncertainty: the Social Organization of Day Laborers in Contemporary Japan. Albany: State University of New York Press, 2001.

Tsukada Hiroto. Economic Globalization and the Citizens' Welfare State: Sweden, UK, Japan, US. Great Britain Ashgate Pub.Co. 2002

Carolyn S. Stevens. On the margins of Japanese society : volunteers and the welfare of the Urban Underclass. London ; New York : Routledge, 1997.

Please note that you are NOT required to read this material, nor will you be examined on it. Rather, these are suggested readings for those wanting to place the question of welfare in Japan in a wider theoretical and comparative context.

## 授業の方法(大学院科目のみ)

## 参考になるWWWページ

## その他

特殊講義 SCと特殊講義 SDは、両方をあわせて受講することが望ましい。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 M1

担当教員 東 自由里

講義内容・テーマ

International Affairs (Kokusai Jijo I) Instructor: Julie Higashi

The historical debate on how to depict national history is, of course, not unique to Japan. Similar debates are found in many other parts of the world and can be as complicated and intense. This course will expose you to do an in-depth comparison study on how history is narrated and represented in textbooks, museums, monuments, and the media in the United States, Germany Japan, and other parts of the world.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

産業社会学科3回生以上 / 人間福祉学科2回生以上 This course is conducted entirely in English. This course is open for international, graduate, DUDP, UBC program students, returnee, advanced junior and senior undergraduate level students. Your participation is "a must" to make this course successful. Please come to class well prepared with your reading assignment completed beforehand.

評価方法・基準

\* 日常点:加味する

Presentation (20%), Final Exam (20%), Paper (30%), weekly Performance(30%).

講義スケジュール

- 1) Introduction of the Course:
- 2) Global Power and Social Change
- 3) Old textbooks and the Ienaga Trial in Japan
- 4) Controversial New History textbooks in Japan
- 5) Vietnam War in American High School Textbooks
- 6) War Crimes and the American Media
- 5) World War II and German History Education
- 6) Teaching War and Teaching Democracy
- 7) Comparison among Germany, Japan, and the United States
- 8) Cases of Joint History Writing Projects
- 8) Group presentations
- 9) Historical Narration in Museums
- 10) Historical Monuments and Memory
- 11) Other Cases of Museum and Monuments
- 12) Individual Research Project Review
- 13) Individual Presentations
- 14) Individual Presentations
- 15) Final Exam and Paper Due

テキスト参考書

"Censoring History: Citizenship and Memory in Japan, Germany, and the United States" by Laura Elizabeth Hein, Mark Seldon, eds. (New York: M.E. Sharpe, 2000)

授業の方法(大学院科目のみ)

Presentation, discussion, video, lecture, use of internet in class

参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 M1

担当教員 東 自由里

講義内容・テーマ

International Relations II (Kokusai Jijo II) Professor Julie Higashi

Why is it that some countries are poor, and others are rich? Are the richer countries getting richer, while others are getting poorer? What are the reasons behind the economic status? What do we mean by historical and cultural "tradition" or social and scientific "progress" ? There are two major schools of thought that try to explain the differences between the rich and poor states. The Modernization and Dependency theories will enable you to frame your answers in their perspective. In the end of the course, students are expected to apply these theories to their own case studies that were not discussed in the textbook or class.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

産業社会学科3回生以上 / 人間福祉学科2回生以上

This course is conducted entirely in English. This course is open for international, graduate, DUDP, UBC program students, returnee, advanced junior and senior undergraduate level students. Your participation is "a must" to make this course successful. Please come to class well prepared with your reading assignment completed beforehand.

評価方法・基準

\* 筆記試験:最終講義日試験で実施

\* 日常点:加味する

Presentation 20%, Paper 20% (to support your presentation), Final Examination 30%, Weekly Performance 30%

講義スケジュール

The Modernization School and Dependency School

- 1) Introduction to course
- 2) The Historical Context
- 3) The Modernization Perspective
- 4) Theoretical Assumptions
- 5) Policy Implementation
- 6) Review of the Modernization School
- 7) The Historical Context of Dependency School
- 8) The Dependency Perspective
- 9) Classical Dependency Studies
- 10) Political, Cultural Impact, and Financial Impact
- 11) Policy Implications
- 12) Comparison of the Two Schools
- 13) Presentations
- 14) Presentations
- 15) Final Examination

テキスト

Social Change and Development: Modernization, Dependency, and World-System Theories. By Alvin Y. So. Sage Publications, 1990.

参考書授業の方法(大学院科目のみ)

Lecture, group and individual presentations

参考になるWWWページその他

社会学入門 N  
(教)社会学 NB

12196

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 尾場瀬 一郎

### 講義内容・テーマ

テーマ:社会学的想像力の涵養

獲得目標:学說的知識よりも、社会学的な考え方、ものの見方を身につけること。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

原則的に講義形式をとるが、学生の主体性を重視したい。

積極的に何かのテーマについて、みなさん自身が発表する機会を設けたい。

また、できるだけ書くことに慣れるよう、感想文やレポートを数度にわたって課し、添削をしてお返ししたいと考えている。

### 評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施

\*日常点:加味する

200字の中間レポートと、2000字の期末レポートによって評価を行う。

両者の評価の割合は、200字中間レポートが三割、2000字期末レポートが七割である。

出席よりも、レポートの質を問う。

### 講義スケジュール

以下のような内容を扱いたいと予定している。しかし、時間的な制約のため、すべてに触れることはできないかもしれない。

- ・日常生活と社会学
- ・社会問題と社会学の機能
- ・社会の合理化と社会学の両義性
- ・合理化と人間存在の変容
  
- ・マルクス、ウェーバー、デュルケームの基本構図
  
- ・戦後日本社会の変容

講義では、社会学の存在意義を問いながら、それが私たちの生活とどのように関わりうるのか、またその可能性がどこにあるのか、できるだけ分かりやすく話していきたいと考えている。また、社会学の基本的な考え方を理解するために、マルクス、ウェーバー、デュルケームの考え方を紹介したい。

### テキスト

使用しない。

毎回、とりあげる社会学者や扱う事柄についてのレジュメを配布する。

### 参考書

多いので、授業のなかで毎回、紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

特にない。

各自、検索されたし。

### その他

特にない。

経済学入門 N  
経済学 N

12213

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 櫻井 純理

### 講義内容・テーマ

テーマ「日本経済の諸問題」  
経済学の基礎的な知識を学びながら、バブル経済の発生と崩壊、バブル後の日本経済が抱える諸問題について勉強していくことを主な目的とする。扱う具体的なトピックとしては、バブル前後の日本の金融政策、日本企業の雇用システムの変化、長時間労働問題、コーポレートガバナンス(企業統治)の変化などを予定している。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講に必要な知識・スキルは特にない。授業への積極的な参加が望ましい。

### 評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施  
\*日常点:加味する  
レポート(A4ワープロ打ち・参考文献リスト付き、3枚以上)の採点結果(100点満点)をベースに評価する。日常点評価は、授業時間に感想文程度のものを提出してもらう機会を設け、20点程度を上限として加味する。

### 講義スケジュール

基本は講義形式とするが、ディスカッションなども取り入れるつもりである。  
受講者の興味関心に応じて、授業内容はフレキシブルに変更していきたい。  
予定している主な授業内容は以下。

- 1 経済学の基礎的な知識(レジュメに基づく講義)
- 2 日本経済の諸問題(テキストを参照する)
  - (1)日本的金融システムとバブル経済
  - (2)日本的雇用システムの特徴
  - (3)日本的雇用システムの変容
  - (4)企業再編と人員削減
  - (5)長時間労働と過労死、過労自殺
  - (6)コーポレート・ガバナンス論
  - (7)日本企業のコーポレート・ガバナンス
  - (8)株主オンブズマンの取組み(障害者雇用、内部告発制度、株主代表訴訟など)

### テキスト

森岡孝二『日本経済の選択』(桜井書店、2000年)。大学生協で購入できるように手配する。

### 参考書

授業中に適宜紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

株主オンブズマン、派遣労働ネットワーク、大阪過労死問題連絡会、労働基準オンブズマンなど。  
その他の情報や詳細は授業中に紹介する。

### その他

私自身の研究テーマは日本企業における「労働」の諸問題です。現代日本の雇用や労働について、授業時間中に議論することができればと思います。

現代社会入門 N  
(教)社会学 NA

12178

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 1回生  
担当教員 森重 拓三

#### 講義内容・テーマ

本講義では「社会と個人のつくりながらつくられる関係から人間の諸活動をみる」という社会学の基本的な考え方を学び、それに基づいた現代社会の諸相の理解を目指す。この過程を通じて受講者各自が、これまで自明視してきた様々な現象を「考える対象」として捉える視点を身につけ、また、現代社会における関心領域を明確にしていくことを目指す。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

#### 評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施  
授業中のレポートor小テスト(40%)、及び、期末のレポート(60%)で評価。

#### 講義スケジュール

授業の流れは2つに分かれる予定。前半(第1～10回)は現代社会の諸相を捉える一つの枠組みとして、社会学の基本的な視点(領域、方法、理論など)について確認し、後半(第11～15回)は私達の生活において比較的身近で現実感覚を持ちやすいと思われる社会現象と私達自身との関係を中心に現代社会の諸相をみていく。レジュメ、資料等を配布し、講義形式ですすめる。

第1回 オリエンテーション  
第2～3回 社会学の領域・方法  
第4～7回 社会実在論  
第8～10回 社会名目論  
第11～14回 実在論と名目論の社会現象への応用  
第15回 まとめ

#### テキスト

特に定めない。

#### 参考書

E.デュルケム著 宮島喬訳『自殺論』中公文庫、1985年  
M.ウェーバー著 大塚久雄訳『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』岩波文庫、1989年

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 池田 知加

講義内容・テーマ

文化とはあまりにも「あたりまえ」すぎて、ふだんは意識しないために、かえって目にみえにくくなるものです。この講義では、自己、家族など日常的な事柄を出発点に社会学的な分析を加えることによって、今まで「あたりまえ」と思っていたことの背後にある文化のあり方を再発見していくことを目標とします。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

日常点として授業内で小レポートを提出してもらう場合あり。

評価方法・基準

- \* 筆記試験: 定期試験として実施
  - \* レポート: 試験に代わるレポートとして実施
  - \* 日常点: 加味する
- 定期試験もしくは試験に代わるレポートと日常点で評価する。

講義スケジュール

第1回 イン트로ダクション

自己と対人関係

第2回 「私」という存在

第3回 メディアの発達と対人関係

第4回 都市の中の人間関係

第5回 まとめ

家庭と仕事

第6回 近代家族とは？

第7回 男が働く仕組み

第8回 家族のこれから

第9回 まとめ

セラピー文化

第10回 「こころの時代」とは？

第11回 宗教の役割

第12回 セラピー文化

第13回 まとめ

第14回 脱伝統社会での生き方

第15回 まとめ

テキスト

レジュメを使用。参考文献については授業内で紹介していく。

参考書

授業内で紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 森田 浩平

講義内容・テーマ

個人のレベルにせよ、集団のレベルにせよ、人びとの社会的行動を理解するうえで、アイデンティティは鍵概念の1つであり、その重要性は今日では一層増大しているように思われる。当科目ではこのアイデンティティの概念、人びとにおけるその形成過程、そして、アイデンティティが要因として関与していると考えられる人びとの社会的行動を取り上げ、アイデンティティの機能的意味について考察することにした。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初歩的な、しかし科学的な心理学の知識をもっていることが望ましいが、とくに受講条件や受講上の注意事項はない。

評価方法・基準

\*筆記試験：定期試験として実施  
定期試験として筆記試験を実施する。評価は、試験の成績によってのみおこなう。

講義スケジュール

授業は以下のスケジュールに沿って進めていく予定である。

- 第1回 序—講義の目標と内容—
- 第2回～第3回 アイデンティティの概念と指標
- 第4回～第7回 アイデンティティの形成と発達
- 第8回～第10回 アイデンティティと自尊感情
- 第11回～第15回 アイデンティティと社会的行動

テキスト

テキストは使用しない。

参考書

授業の途次、必要に応じて提示することにした。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他



授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 長崎 孝

講義内容・テーマ

幕末から明治維新を経て、明治、大正へと日本の近代化は進展していったが、この近代化の途上で、我々の先人たちが、欧米の近代文明をいかに苦闘しながら受容していったかをたどることとする。  
講義であるが、ビデオも利用する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義期間中に随時出席をとる。

評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施  
評価は定期試験によって行う。

講義スケジュール

- 第1、2回 シーボルト
- 第3、4回 黒船来航と日本開国
- 第5回 小栗上野介
- 第6回 津田梅子
- 第7回 森有礼
- 第8回 野口英世
- 第9回 渋沢栄一
- 第10、11回 森鷗外
- 第12回 夏目漱石
- 第13回 岡倉天心
- 第14回 ヘレンケラーの来日。ウォーナー・リスト
- 第15回 閉講

テキスト

授業中レジユメを配布する。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 増田 幸子

### 講義内容・テーマ

本講義では、アメリカ映画をテキストにとりあげ、その中に現れた「日本人」のイメージを考察する。アメリカ映画の歴史と日米関係を踏まえながら、映像を中心としたメディアとイメージ形成の関係、とりわけ、エスシティあるいは他者の描かれ方を考える。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

授業は、随時、映画テキストを示しながら行う講義と、受講者による発表やディスカッションによって進める予定である。受身でない授業への参加を期待する。

### 評価方法・基準

- \* レポート: 試験に代わるレポートとして実施
  - \* 日常点: 加味する
- 授業中に課す発表と期末レポート、出席などから総合的に評価する

### 講義スケジュール

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 基本用語の概説
- 第3～4回 アメリカ映画草創期の「日本人」  
テキスト『ザ・チート』、『蝶々夫人』
- 第5～6回 B級映画の中の「アジア人」刑事  
テキスト『チャーリー・チャン』、『ミスター・モト』シリーズ
- 第7～8回 戦争映画と「敵」の顔  
テキスト『東京上空30秒』、『東京スパイ作戦』
- 第9～11回 異文化間の恋愛における「日本人女性」の役割  
テキスト『暗黒街・竹の家』、『サヨナラ』、『ミスター・ベースボール』
- 第12～14回 日米関係を反映する「日本人男性」のイメージ  
テキスト『ザ・ヤクザ』、『ガンホー』、『ブラック・レイン』
- 第15回 まとめ

### テキスト

特に指定しない。授業中にレジュメや資料を配付する。

### 参考書

村上由見子(1993)『イエロー・フェイス』朝日選書。その他は、随時授業中に紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

外書講読 N

15469

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 池田 知加

講義内容・テーマ

Mackay,H. ,W.W.Maples, P.Reynolds (eds.)  
Investigating the Information Society. (Routledge, 2001) から  
第1章 The information society: continuity or change? を講読する。

目標

- ・英文を読み、日本語に訳す
- ・テキストの内容を理解する
- ・「情報社会」についての理解を深める

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

自主学習は必要。少なくとも、テキストは毎回読んでくること。

評価方法・基準

- \* 日常点:加味する
- 平常点(出席と担当箇所の翻訳)で評価する。

講義スケジュール

## 第1回

オリエンテーション:テキスト配布、授業の進め方など

## 第2回～第14回

基本的に担当者を決めて輪読していく。  
専門用語などについてはその都度解説する。

## 第15回

まとめ

テキスト

最初の授業で配布

参考書

参考書については授業内でその都度紹介していく。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

外書講読 N

15481

授業開講期間 後期単位数 2配当回生 2回生担当教員 千守 隆夫講義内容・テーマ

本講義で使用する文献は、大衆文化、現代家族、パーソナリティをテーマとする論文である。  
正確な訳出はもちろん重要であるが、本講義は、特に論文全体の論理構造の理解に力点をおきつつ進めていく。  
また今後の社会学的研究に必要な基礎的知識の獲得も本講義の目的のひとつであり、論文中の各トピックや重要な概念、そして関連する議論などについて適宜解説を加えていく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

個々の授業は輪読形式で行っていく。

評価方法・基準

\* 日常点:加味する  
平常点とレポート

講義スケジュールテキスト

C. Lasch, Haven in a Heartless World, Basic Books, 1977

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 山口 歩

### 講義内容・テーマ

現代科学・技術の社会的課題

科学・技術が社会に与える(正・負両面にわたっての)影響について語られる機会は多い。しかしそれ以前に、科学・技術はそれが置かれた社会の状況に束縛され存在しているものである。そして、現代科学・技術の諸問題の解決策を建設的に考察する上でも、そうした「社会的規定性」を的確に捉え、社会科学的に考察していくことが求められる。本講義では科学と技術の発展過程を具体的に示しながら、考察の指針を与えるものである。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

科学・技術の基本事項についてもその都度丁寧に説明するので、理系的知識を前提としておりません。

### 評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施  
セメスター末のレポートで評価する。

### 講義スケジュール

- 1 オリエンテーション
- 2 科学技術の発展と社会1 中世の終焉と科学・技術
- 3 科学技術の発展と社会2 近代の出立と科学・技術
- 4 科学技術の発展と社会3 現代社会と科学・技術
- 5 機械技術と人間労働1 動力と制御
- 6 機械技術と人間労働2 工作機械の発展
- 7 機械技術と人間労働3 動力の問題
- 7 現代における巨大技術の問題1 原子力と現代
- 8 現代における巨大技術の問題2
- 9 社会における技術選択の構造1 エネルギー生産
- 10 社会における技術選択の構造2 大量生産
- 11 社会における技術選択の構造3 技術の寿命
- 12 科学者の社会的責任1 現代科学技術の特徴
- 13 科学者の社会的責任2 原子力開発と科学者
- 14 科学者の社会的責任3 公害問題
- 15 まとめ

### テキスト

テキストは使わない。適宜資料とレジュメを配布する。

### 参考書

『技術と労働』大沼正則 岩波書店

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 鈴木 未来

### 講義内容・テーマ

テーマ:現代日本の家族生活をトータルに捉える

現代日本の家族生活におけるさまざまな問題状況を、「全体としての家族」という観点で捉える力を養うことを目的とする。具体的には、戦後の家族生活の変化動向を踏まえ、さまざまな家族論が変化動向の諸特徴をどのように説明しているのかを考察する。そして今日提起されている家族論が、現代の家族生活における具体的現実をどのように反映させるかたちで論じられているかを、「全体としての家族」という観点から検討し、家族生活の将来を展望する。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義はテキストに沿って進めるので、講義スケジュールを参照して事前に該当箇所を読んでおくこと。

### 評価方法・基準

\* 筆記試験・定期試験として実施

### 講義スケジュール

- 第1回 インTRODクシヨン(1)本講義の概要
- 第2回 インTRODクシヨン(2)家族をめぐるさまざまな見方
- 第3回 現代日本の家族生活の変化(1)
- 第4回 現代日本の家族生活の変化(2)
- 第5回 現代日本の家族生活の変化(3)
- 第6回 家族論の流れ(1)
- 第7回 家族論の流れ(2)
- 第8回 家族論の流れ(3)
- 第9回 現代日本における家族論1 - 家族社会学の視点から(1)
- 第10回 現代日本における家族論1 - 家族社会学の視点から(2)
- 第11回 現代日本における家族論2 - 新たな視点の取り入れ(1)
- 第12回 現代日本における家族論2 - 新たな視点の取り入れ(2)
- 第13回 家族生活の将来を展望する(1) - 「全体としての家族」とは
- 第14回 家族生活の将来を展望する(2) - 理論の必要
- 第15回 まとめ

### テキスト

飯田哲也『第二版現代日本家族論』学文社 2001 生協で販売

### 参考書

飯田哲也『家族と家庭-望ましい家庭を求めて-』学文社 1994

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 和田 武

講義内容・テーマ

環境社会論/リサイクル論「持続可能な環境保全型社会の構築」  
20世紀後半に展開された物とエネルギーの使い捨て型大量生産・消費を軸とする社会は、地球環境破壊や資源枯渇を引き起こす持続不可能な社会であることが判明してきた。本講では、「物」と「エネルギー」の生産体系の現状と問題点を国際的、国内的事例に基づいて、21世紀に持続可能な環境保全型社会への転換を実現するための条件とプロセスについて論じる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

高度な予備知識はとくに必要ないが、講義はまじめに出席、受講すること。ときどき、授業中に小レポート(感想、意見、質問など)を書き、提出を求める。また、環境保全に関して自主的に調査、実践、学習した成果を「自主レポート」として提出することを歓迎する(テーマや作成方法は自由。提出期限は6月の最後の講義)。

評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施

\*日常点:加味する

期末試験に日常点(小レポート)を加味して評価。評価の比重は、試験80%、日常点20%。

なお、優れた「自主レポート」については、成績評価にプラスする。「自主レポート」は内容により+5~+20。

講義スケジュール

1. 自然の物質、エネルギー、生態系の循環平衡と人間活動
2. 大量生産消費システムがもたらす問題・資源枯渇、廃棄物問題と有害物質汚染
3. 大量生産消費システムがもたらす問題・地球環境破壊
4. 持続可能な環境保全型生産消費システムのあり方
5. 日本の資源循環利用の現状と問題点(1)資源循環利用の方法
6. 日本の資源循環利用の現状と問題点(2)廃棄物・リサイクルに関する制度
7. 諸外国の資源循環利用対策(1)ドイツの包装廃棄物リサイクル
8. 諸外国の資源循環利用対策(2)EU諸国の包装廃棄物リサイクル
9. 諸外国の資源循環利用対策(3)製品リサイクル
10. エネルギー資源利用のあり方(1)日本のエネルギー利用
11. エネルギー資源利用のあり方(2)デンマークとドイツのエネルギー対策
12. エネルギー資源利用のあり方(3)持続可能なエネルギーシナリオと市民参加による再生可能エネルギー普及
13. 環境保全と技術、産業、経済発展
14. 環境保全型生産消費システムの構築
15. まとめ

テキスト

テキストは使用しない。配布資料を中心に講義を行う。理解を深めるためにビデオ教材等も活用する。

参考書

和田武『新・地球環境論』創元社、和田武『環境問題を学ぶひとのために』世界思想社、日本科学者会議『環境展望1999-2000』、『環境展望 Vol.2』、『環境展望 Vol.3』実教出版、循環型社会法制研究会『循環型社会形成推進基本法の解説』ぎょうせい、ジェトロ・ワールドナウ『21世紀世界のリサイクル』JETRO、林智ら『地球温暖化を防止するエネルギー戦略』実教出版、日本科学者会議『地球温暖化防止とエネルギーの課題』水曜社

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

環境省; <http://www.env.go.jp/>、厚生労働省; <http://www.mhlw.go.jp/>、日本容器リサイクル協会; <http://www.jcpra.or.jp/>、環境goo; <http://eco.goo.ne.jp/>、資源エネルギー庁; <http://www.enecho.meti.go.jp/>、NEDO(新エネルギー産業技術開発機構); <http://www.nedo.go.jp/>、気候ネットワーク; <http://www.jca.apc.org/kiconet/>、など。

その他

「環境保全論」との重複受講は不可。

自主的、積極的に学んでほしい。質問は大いに歓迎する。



(教)カウンセリング論 N

12204

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 5回生以上

担当教員 安田 一之

講義内容・テーマ

本講義ではカウンセリングについての基本的理解は既に得られているものとして、より深く学習する。カウンセリング諸理論の根底にある人間観や、こころの成長・発達について検討する。また、カウンセリングのロールプレイも実施する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

- \* レポート: 試験に代わるレポートとして実施
  - \* 日常点: 加味する
- 講義中に実施する事例学習とロールプレイに関するレポートと講義終了後のレポートを中心に総的に評価する。

講義スケジュール

第1回 ガイダンス

第2 - 6回 カウンセリング論における人間観・発達論

- ・精神分析的自我論
- ・ユングの自己論
- ・ロジャーズの人間論

第7 - 9回 カウンセリングのロールプレイ

第10 - 11回 事例研究

- 第12回 教育とカウンセリング
- 第13回 死生観(死を考える)
- 第14回 超越的なもの
- 第15回 予備日

テキスト

山本昌輝編 こころの教育とカウンセリング 八千代出版 (大学生協)

参考書

適宜紹介する

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 伊藤 武夫

### 講義内容・テーマ

テーマ:「国際産業体制のもとでの勤労」。国境を越えたグローバルな生産と消費の連鎖、それを支える金融システムの基本構造を解説し、そのもとで働く勤労市民の在り様を具体的に検討する。それは、勤労者からみた世界経済論であり、また、経済と社会の在り様を探る産業社会論でもある。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この講義のねらいは、社会の各階層が抱えている「仕事をめぐる喜びと悲しみ」の現実を深く見詰め直す機会とすることである。皆さんは、できれば『日本経済新聞』を閲読されることを希望する。

### 評価方法・基準

- \*筆記試験:定期試験として実施
- \*日常点:加味する
- ・講義期間中に小レポート・質問紙の提出を求める。
- ・評価は定期試験(70%)、諸提出物など(30%)の比重で行う。

### 講義スケジュール

- 第1部 国際産業体制(6回ほど)
  - ・いわゆる経済のグローバル・シフト
  - ・繊維・衣服産業
  - ・自動車産業
  - ・エレクトロニクス産業
  - ・メディア企業複合体と消費の演出者たち、など
- 第2部 経済のグローバル化の構図と勤労者(8回ほど)
  - ・国際労働移動と国際労働問題
  - ・日本社会の社会階層と階層間移動
  - ・若者世代の終業と意識
  - ・女性の就業と意識
  - ・高齢者の就業と意識
  - ・経済のグローバル化を生き抜く、など
  - ・まとめと今後の課題

### テキスト

テキストは指定しない。レジュメを配布する。

### 参考書

- ・講義のなかで適宜、紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

- ・講義のなかで適宜、紹介する。

### その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 田中 不二夫

講義内容・テーマ

20世紀においてアメリカ合衆国は映画芸術を発展させただけでなく、映画によって自己を変えていった。少なくとも20世紀の前半、映画はアメリカにおける最も大衆的かつ有力な文化のメディアであった。本講義では、『天国は待ってくれる』(1943年)、『わが谷は緑なりき』(1941年)、『理由なき反抗』(1955年)を中心に、制作者や観客の社会的階層や文化意識がいかに作品と関わっていたのかについて考察する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

\* 筆記試験: 定期試験として実施  
定期試験で評価する。

講義スケジュール

- 第1～5回      ガイダンス～『天国は待ってくれる』  
                 <ジャンル論、倫理規定問題、「作家」エルンスト・ルビッチ、など>  
第6～10回    『わが谷は緑なりき』  
                 <ハリウッド映画産業の興隆、社会主義の描写、「作家」ジョン・フォード、など>  
第11～15回   『理由なき反抗』  
                 <衰退期のハリウッド、「作家」ニコラス・レイ、など>

テキスト参考書

ロバート・スクラー『アメリカ映画の文化史 映画がつくったアメリカ(上・下)』鈴木主税訳、講談社学術文庫

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 雑賀 恵子

講義内容・テーマ

人間は言語を通して思考するのだが、その言語とは一体なにか。言語論を通して、現代思想の巨星たちは何と闘ってきたのかをまず、考える。このとき、私たちは、国家や民族と個人の関係性、暴力とはなにか、といった問題にも向き合っていることに気が付くだろう。次に、「わたし」の思考やその表現は他者と関わらざるを得ないが、その「わたし」とはなにか、「他者」とはなにか、理解するということはどういうことなのか、共に在ることとはなにか、について、探っていきたい。いま、ここに、生きて在るものとして、学生諸君と一緒に考えていきたいと願っている。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施

講義スケジュール

(講義は生きているものですから変更の可能性は大いにあります)

- 第1回 :この講義は何を対象としているか
- 第2～4回 :日本語とはなにか・・・国家と言語
- 第5～6回 :記号?言語?
- 第7～8回 :時間と言語・・・法則という閉域
- 第9～10回 :交通について
- 第11回 :いま、ここに、あるもの
- 第12～13回:わたしと他者
- 第14回 :理解することの可能性/不可能性
- 第15回 :暴力に抗する言語

テキスト

特に指定しない。参考文献は講義中に紹介する。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 鈴木 隆

### 講義内容・テーマ

「情報」というと、とかく、現代の情報化社会のことと思いがちなのであるが、無論、情報とは、人がコミュニケーションを始めた時から存在していたのであって、この講義では、そのあり方の変遷を辿りながら、情報化社会といわれるものの正体、その秩序の原理とは工場の原理なのだとすることを、システムの論理、時計の役割を通して考えたいと思う。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義資料を可能な限り、前以って配布し、これに沿って講義を進める予定なので、これを必ず受け取り、よく読んでほしい。

### 評価方法・基準

\*筆記試験：定期試験として実施

テストの一発勝負。ただし、講義内容の理解ポイントになるようなキーワードもしくは、キー概念を提示するように心がけるつもりであり、その意味がどの程度、理解できているかを重視する。

### 講義スケジュール

1. コミュニケーション、メディア、についての基礎知識
  - a. 人は何故、言語を発達させ、社会を組織せねばならなかったのか？
  - b. シンボルと宗教と古代国家 想像力の役割と情報の保存ということ
2. 近代社会の倫理 コミュニケーションの省略ということ
  - a. 社会的連帯の不透明化と富の存在様式の変化
  - b. 市場経済と交通・通信革命の不可避性
3. 近代社会におけるシステム概念と「情報」
  - a. 工場の原理とシンクロナイゼーション
  - b. 通信革命
  - c. 情報処理のシステムの出現とコミュニケーションの省略
4. ピラミッド型組織の巨大化
  - a. 官僚制の論理と巨大化コンピューターの機能
  - b. 時間の概念の変質と権力媒体としての時計/存心館の見える風景
  - c. 巨大ピラミッドの解体とインターネット

### テキスト

使用しない

### 参考書

講義資料の中で紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

講義中にいくつか紹介する。

### その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 牧野 泰典

### 講義内容・テーマ

生産システムの発展経緯について、大量生産体制としてのフォード型生産システム、日本型生産システム、ボルボ社のカルマール工場、ウッデバラ工場、ドイツのダイムラー・クライスラー社のラシュタット工場などの特色を紹介しつつ、近年では雇用や作業環境を向上させつつ、日本型生産システムを海外では導入していること、それに対応して小集団活動も導入していることについて述べる。そのうえで海外で導入された日本型生産システムにおける新しい労使関係・労務管理は、日本国内にも有効な概念として提起していきたい。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

キーワード 現代の生産システムにおける作業工程、労務管理、労使関係

### 評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施

\*日常点:加味する

定期テストと出席調査を兼ねたミニテスト(2回)

### 講義スケジュール

1. 授業の概要
2. 生産システムの変遷と大量生産体制(フォード型生産システム)の出現
3. フォード型生産システムの課題と「労働の人間化」(QWL:Quality of Working Life)について
4. QWLを具体化した工場について(ボルボ社のカルマール工場、ウッデバラ工場、ダイムラー・クライスラー社のラシュタット工場など)
5. 日本型生産システムの特色と課題
6. 第1回ミニテスト
7. 日本型生産システムの合理化と品質を向上させる小集団活動(QCサークル)
8. 海外企業・日系企業の小集団活動(その1)
9. 海外企業・日系企業の小集団活動(その2)
10. 日本型生産システムにおける新しい工場(トヨタの田原第4組立工場、九州工場)
11. 日本型生産システムを導入した海外企業の動向(自動車工場を中心に)
12. 非製造業における小集団活動
13. 日本と欧米における労務管理と労使関係の課題(人事考課査定、企業別組合、産業別組合など)
14. 第2回ミニテスト
15. まとめ

### テキスト

牧野泰典『小集団活動の機能と役割』八千代出版,2001年

### 参考書

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

定期テストはテキストの範囲から設定するので、テキストを購入すること

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 久保 和洋

講義内容・テーマ

この講義では、都市とはなにか、を理論的につかんだうえで、西洋と日本の都市を例にとりながら都市の歴史を検討し、今日の都市再生の課題を私たちの生活に密着した「町内会」に視点をおいて考えたいと思います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

授業に積極的に参加すること

評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施  
レポートの提出  
講義内容を参考にして、独自の見解を論理的に展開したものを重視する

講義スケジュール

- はじめに 都市問題にみる都市
1. 都市とはなにか
  2. 「都」と王朝 権力の集積・階級支配の象徴としての都市  
「ウルビス」としてのアテネ  
「律令都市」としての「京」
  3. 民衆の自治としての都市とその崩壊  
「シピタス」としてのアテネ、バグとしての中世西欧都市  
京都;「ミヤコ」と町衆、その自治の側面(祇園祭と町衆)
  4. 現代の日本の「都市」構造と民衆自治  
町内会の歴史と町づくり町運動  
中央 周辺(東京 京都)問題としての都市再開発(都市計画)  
生活空間としての都市再開発(ヨーロッパの経験)

テキスト

特になし。授業中にレジメを配布します。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 鈴木 隆

### 講義内容・テーマ

概略、前近代・近代・脱近代という順に、文化史的にその定義を追いながら、人は、その生活の意味を、文化の中でいかにして見いだして来たのかを簡単に見た上で、近代社会では、この「意味を見い出す」という営みが、どのように変貌していったのかを、J.ハバーマスの言う「生活世界の植民地化」という考え方を手がかりとして考えて行きたいと思う。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義資料を可能な限り、前以って配布し、これに沿って講義を進める予定なので、これを必ず受け取り、よく読んでほしい。

### 評価方法・基準

\*筆記試験：定期試験として実施

テストの一発勝負。ただし、講義内容の理解ポイントになるようなキーワードもしくは、キー概念を提示するように心がけるつもりであり、その意味がどの程度、理解できているかを重視する。

### 講義スケジュール

1. 血縁集団と意志疎通?それは「社会」どう違うのか?  
「ダンス・ウイズ・ウルプス」と「未知との遭遇」
2. コミュニケーション・イマジネーション・そして文化
3. 汎神論(Panthism)の世界と人間:何故、「神」は唯一でなければならなかったのか?
4. 人が、自分が不可侵の尊厳を持つ自立した個人であると考えることができたのは何故?。
5. 「魔術かの解放」:合理性の三つの領域について:  
宇宙船「エンタープライズ」のブリッジの風景とカント/遠近法の意味
6. 古典哲学は何故、「終焉」を迎えたの?  
a. 「神は死んだ」:スタンリー・キューブリック「2001年・宇宙の旅」  
b. ウェーバー「神々の闘争」について:「私」は地上の神である。
7. 「意味」の問題としての近代批判:  
a. 疎外論と商品論  
b. G.ルカーチ「物象化論」
8. 植民地化とコミュニケーションの省略ということ

### テキスト

使用しない。

### 参考書

講義資料の中で紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

講義中にいくつか紹介する。

### その他



授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 2回生  
 担当教員 功刀(くぬぎ) 遼吉

#### 講義内容・テーマ

「最近のメディアと出版・音楽産業の研究」  
 テーマを3つに分け、まずはじめに最近のメディア全般を、次に、近年になって趣味の多様化の名のもとに低迷を続ける出版・音楽メディアを取り上げその概観を研究する。この2つの産業はベストセラー・ミリオンセラーで成り立つ構造は類似するが、流通チャンネルに大きな違いがある。文献の読合せを中心に講師の業界体験を織りまぜて、平易な業界入門編としたい。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

あたまがかたいと言われている人はすこしでも柔軟な発想を持つ心構えで、  
 やわらか過ぎると言われている人はもうすこし tight & square に  
 むのごとを考える訓練をするつもりで、受講してはいかがか。

#### 評価方法・基準

- \* レポート: 試験に代わるレポートとして実施
  - \* 日常点: 加味する
- 日常点: テーマの区切りごとに、講義の中で Brief Report (B5判・1枚) の記入提出を求める。

#### 講義スケジュール

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 メディアと政治経済社会
- 第3回 エンタテインメントメディア概観
- 第4回 最近のメディアの話題
- 第5回 Brief Report
- 第6回 出版産業の課題
- 第7回 ベストセラーの創りかた
- 第8回 雑誌研究
- 第9回 書店の現場から
- 第10回 Brief Report
- 第11回 音楽業界の課題
- 第12回 ミリオンセラーの創りかた
- 第13回 音楽著作権の研究
- 第14回 見方を変えた音楽産業論
- 第15回 Brief Report

#### テキスト

なし。

#### 参考書

- 「だれが本を殺すのか」 佐野真一著 プレジデント社(01-02刊)
- 「なぜ人はジュンク堂書店に集まるか」 渡辺 満著 自由国民社(02-07刊)
- 「ヴィレッジ・ヴァンガードで休日を」 菊地敬一著 リブリオ出版(97-09刊)

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

なし。

#### その他

なし。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 福地 潮人

講義内容・テーマ

経済のグローバル化が進み、高度情報化社会が到来しつつある現在、国際政治の舞台でも大きな変化が生まれつつあります。これまで国際政治は「国家」が担うのが「常識」とされてきました。しかし、近年、アフガン復興会議や国連環境サミットなどの例に見られるように、国際政治の重要な舞台でNGO(非政府組織)を中心とする国際的な市民のネットワークが活発な活動を展開しています。これらの市民ネットワークは、時には諸国家と協力しながら、そしてまた、時には反目しあいながら、国際政治の展開に重要なインパクトを与えています。本講義では、このような国際的な市民ネットワークの諸活動の現状と問題点を踏まえ、市民が地域社会から現行の国際政治のあり方をどのように変えていくのか考えていきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講生諸君と協力しながら、「ともに作り上げる講義」を目指したいと思います。可能な限り討論を中心とした講義を展開したいと考えますので、積極的な発言、質問をこころがけてください。なお、出席を最重視しますので、忙しい方(?)や面倒くさいことが嫌いな方(?)の受講はお勧めしません。具体的な講義の進め方については第1回目のオリエンテーションで受講生の皆さんと協議して決めたいと思います。受講を希望される方は必ず第1回目に出席してください。なお、受講生数、受講生の希望によってはゼミ形式をとる場合がありますので、予めご了承ください。質問・討論以外の私語や、講義中の飲食は厳禁です。目に余る行為があった場合、以降の受講を認めない場合もありますのでご注意ください。

評価方法・基準

\*筆記試験:最終講義日試験で実施  
\*日常点:加味する  
小テスト×2(40%) + 期末考査(40%) + 平常点(20%)。  
なお、ゼミ形式の場合、試験はしません:出席(3分の2以上:50%) + グループないしは個人発表(1回以上:50%)  
なお、それぞれの比重(%)は仮のものです。

講義スケジュール

以下の内容については、今後変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

1. オリエンテーション
2. 経済のグローバル化と「国家の空洞化」
3. WTOと反グローバリズム運動 - ニュー・フリンジ-
4. グローバル・ガバナンスと市民社会
5. 小テスト
6. NGOとは何か
7. 先進国のNGO
8. NGOと国際組織
9. 途上国のNGO
10. 小テスト
11. 国際市民運動の現状 : エコロジー運動
12. 国際市民運動の現状 : 反戦・平和運動
13. 国際市民運動の現状 : 人権・市民権擁護運動
14. まとめ - 市民のための「再グローバル化」は可能か -
15. 期末考査

テキスト

とくに指定しませんが、講義中、下記の参考書を使用しますので、読んでおくことをお勧めします。

アン・C・ハドック「開発NGOと市民社会:代理人の民主政治か?」

(中村文隆・土屋光芳監訳、人間の科学社、2002年)

生協に発注しますので、各自お求めください。

**参考書**

上記をご参照ください。

**授業の方法(大学院科目のみ)**

**参考になるWWWページ**

**その他**

心のケア N

13309

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 野田 正人

講義内容・テーマ

どうやら最近は「こころ」の時代らしい。教育現場は「こころの教育」を実践するし、臨床現場は「こころのケア」実践する。その内容を確認しつつ、臨床心理に限定しない多様な視点から論じる場にしたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

小課題とレポートによる。

講義スケジュール

- 1 こころのケアとは
- 2 面接
- 3 関係
- 4 聴く
- 5 居る
- 6 遊ぶ
- 7 査定
- 8 事例 1
- 9 事例 2
- 10 事例 3
- 11 ワーク 1
- 12 ワーク 2
- 13 ワーク 3
- 14 こころのケアとその他の技法
- 15 こころのケアと社会

テキスト

河合隼雄『河合隼雄のカウンセリング入門』創元社

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 大橋 喜美子

講義内容・テーマ

ここでの子育て文化とは、子どもの心に響く温もりとどのような困難もくぐり抜けるねばり強さ、そして自立心を育てる文化であるといった立場から考察を行う。

前半は日本の子育ての歴史と、現在の日本が抱える子育ての諸問題と課題を明らかにする。後半は、日本で暮らす諸外国の父母より子育てについて行なった調査から、異文化に学んだ子育てのあり方と日本の子育てについて比較研究を行なう。

上述の研究から子育ての課題を多角的な目をもって明らかにしつつ、保育園などの集団生活で培われる子どもの発達や問題を持つ子どもの療育等について事例から検討を加える。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

各自がテーマに関心を持ち子育ての課題を明らかにしておく。

評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施  
レポート点等

講義スケジュール

- 【歴史に見る子育てとあそび】
- ・江戸時代の子育てと子どものあそび
- ・明治時代の子育てと子どものあそび
- ・大正から昭和の子育てと子どものあそび
- ・現代の子育てと課題
- 【異文化に学ぶ子育て】
- ・日本に在住する専業主婦と働く母親の育児不安
- ・日本での滞在年数としつけ
- ・国籍の違いによる子育ての受け止め方
- 【地域で育つ子ども】
- ・外国籍の子どもと日本の子どものコミュニケーション
- ・保育園・幼稚園で育つ子ども
- ・療育が必要な子ども
- ・子育て情報ネットワーク
- 【まとめ・人権保育とは】

テキスト

「事例でわかる保育と心理」 プリント配布

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 中川 勝雄

### 講義内容・テーマ

#### 講義内容・テーマ

今日、産業の失敗、政府の失敗、地域社会の閉塞感の中で、市民社会や市民、事業者、行政のパートナーシップによる、新しい市民自治の取組が始まっている。

この講義では、主として環境問題を中心に、このように現実に行われている新しい事例を調べながら、急激にクローズアップされている市民自治や市民による地域経営の課題は何か、これからの新しい自治体のあり方、市民や行政の果たす役割は何かについて考えてみたい。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

多様な利害関係者によるパートナーシップによる地域経営など、地域の時代を担う新しい公務員やNPO像などへの具体的なイメージの提供と受講生との議論の場とすることを考えている。したがって受講生は、地域で現実に行われているコミュニティビジネスや参加の実態などについて自ら問題意識をもって受講することを期待している。

### 評価方法・基準

- \* レポート: 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点: 加味する

### 講義スケジュール

1. 公害問題と地方自治体
2. 環境問題、まちづくりと自治体現場の問題状況
3. 今日の政策課題と環境マネジメント、市民参加の不可避性
4. 公共性概念の拡大と市民・行政の役割の変化
5. これまでの市民参加の役割の変化と自治体の新しい模索
6. 自治体の政策過程・政策形成と市民参加 - 効果的な参加過程を求めて
7. 環境政策における市民参加からパートナーシップへの展開
8. ローカルアジェンダ21(イギリスの例) - パートナーシップ政策の意義と役割
9. ローカルアジェンダ21(日本の例) - 日本での混乱と環境パートナーシップの取組
- 10.11. 各地の市民参加とパートナーシップの実態と問題点、課題
- 12.13. わが国の市民参加、パートナーシップにおける課題、行政支援のあり方など
14. 市民参加の手法面の整理と課題 - まちづくり条例、市民参加条例、NPO条例など
15. まとめ - 21世紀の自治と参加を求めて、新しい市民社会への課題と挑戦

### テキスト

### 参考書

環境自治体づくりの戦略 - 環境マネジメントの理論と実践 - 、ぎょうせい、2002年9月

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

<http://www.colgei.org/>

### その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 高橋 裕子

講義内容・テーマ

諸個人が暗黙裡に規定する「女」のイメージが、実は社会的・文化的に構築されていることを社会学及び文化人類学の知見から明らかにし、現代社会における女のリアリティを考察する。「自立した女」や「家庭的な女」といったイメージもまた諸個人の自由な選択を超えて社会・文化に規定されたものであるが、社会・文化に規定されつつも、諸個人はまたそのイメージを相互行為上の戦略の資源として用いているのである。そして、その結果、女はどのようなリアリティを生きているのだろうか。「社会」と「個人」の関係性を具体的な事例から掘り取り、自由と束縛のなかで揺れる女のリアリティへの洞察を深めていただきたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講者数を見て可能ならば、ディベート方式を採用する。そうでない場合も何らかの形で受講者に講義に積極的に参加してもらる方法を考えたい。ということで、受講生には講義への継続的な出席を求める。

評価方法・基準

- \* 筆記試験：最終講義日試験で実施
- \* 日常点：加味する
- 小テスト、レポート20%、定期試験80%

講義スケジュール

1. イントロダクション
2. 生物学的性・セクシュアリティ・ジェンダー
3. 社会・文化とジェンダー
4. 社会・文化とジェンダー
5. 部族社会における女
6. 部族社会における女
7. 近代社会は「女」をいかなる者と捉えたか
8. 近代社会は「女」をいかなる者と捉えたか
9. 現代社会は「女」をどこに誘うのか
10. 現代社会は「女」をどこに誘うのか
11. 現代社会における女のリアリティ 「社会」と「個人」のはざままで
12. エゴイズムとアノミーの果てにユートピアはあるのか？
13. エゴイズムとアノミーの果てにユートピアはあるのか？
14. それでも、なお・・・、「私らしさ」の模索
15. 最終講義日試験

テキスト

高橋裕子『「女らしさ」の社会学』学文社

参考書

- B. マリノフスキー『未開人の性生活』新泉社、M. ミード『男性と女性 上・下』現代社会学叢書、
- B. フリーダン『新しい女性の創造』大和書房、小山静子『良妻賢母という規範』勁草社

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 篠田 武司

講義内容・テーマ

経済のグローバル化に伴い、企業は世界的な競争に追い込まれている。そのなかで、大きくなる企業はますますその影響力を社会に、また世界に広げている。ある企業は海外であまりの悪い労働環境の中でその製品を作ることによって巨大な利益を上げている。また、国内で不祥事を起こした企業の数も減る様子がない。しかし、他方で企業が社会的に大きな存在であるだけに、社会への貢献が重要だと自覚する企業も増えている。また、そうしたことを促すような社会からの活動もある。この講義では、そもそも企業、あるいは会社とはどんな組織なのか、そして現代の企業の特徴は何かを見ながら、いま企業は社会とどのような関係を結ぶべきなのか、あるいは企業と社会はそれぞれよき関係を作り上げるためにどのようなことが求められているのか、それを企業ガバナンス(企業統治と訳される場合が多い)という言葉を使いながら考えていく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

質問があれば、講義後あるいはメール等で受け付けます

評価方法・基準

\* 筆記試験：定期試験として実施

\* 日常点：加味する

講義の内容が理解できているかを、レポートで考査する。

なお、2 - 3回、出席確認のため小テストを行う。

講義スケジュール

- 1回 講義の目的  
会社の構造
- 2回：株式会社の組織の特徴(1) - 多様な会社の形態
- 3回：株式会社の組織の特徴(2) - 株主とは？ 経営者とは？  
株式会社の变化
- 4回：経営者支配論 - 会社をガバナンスしているのは株主か、経営者なのか？
- 5回：法人資本主義 - 日本の会社の特徴は、少し違うらしい
- 6回：株主ガバナンス論の復活 - 「もの言う」株主の登場か？  
企業の社会的責任
- 7回：企業市民論の登場 - 企業も市民社会の一員、だから社会に責任がある、という
- 8回：社会的責任論の系譜 - しかし、多様な意見がこれまであった。
- 9回：企業の社会的責任に関する活動 - では、具体的にはどんな活動をしているのか？  
これからのガバナンスの新たなありかた
- 10回：ガバナンスを考える - ガバナンスとはどういうことか？ 企業内部から、外部の社会から
- 11回：ステークホルダー論 - 株主だけが企業をガバナンスしているのか？
- 12回：社会的責任投資 - 社会からの「声」を実現するための工夫も必要。アメリカでは盛んになってきた
- 13回：企業オンブズマン制度の可能性 - オンブズマン制度とは？

各講義で1回分とは限らない。

テキスト

とくに指定しない

参考書

参考資料は、順次、講義の中で知らせていくこととする。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

レジュメ、資料は講義時のみに配布するものとする(必要なら直接に適時請求されたい)。



授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 尾場瀬 一郎

講義内容・テーマ

テーマ:思想の実践性、および実践の思想性

獲得目標:思想をファッションとしてではなくて、自分のものとして引き付けて考える。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

基本的に講義形式であるが、学生の主体性を重視したい。  
できれば、学生自らテーマを設定して、発表する場を設けたい。  
また、できるだけ書く機会をつくり、それに添削を施して返却したいと考えている。

評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施  
\*日常点:加味する  
2000字の中間レポートと、2000字の期末レポートによって評価する。  
配点割合は、2000字中間レポートを三割、2000字期末レポートを七割とする。  
出席などよりもレポートの質を重視する。

講義スケジュール

限られた回数の中かですべて扱うことはできないが、以下のようなテーマを考えている。

- ・疎外と物象化(マルクス、ルカーチ)
- ・合理化と啓蒙の弁証法(ウェーバー、アドルノとホルクハイマー)
- ・ヘゲモニーと知識人の役割(グラムシ、サイド、)
- ・日本の近代思想家(森有正、丸山真男)
- ・沖縄と本土日本(岡本太郎、島尾敏男)
- ・今日の反近代主義者(西部萬、西谷啓思)

\* 沖縄問題等、実践的な問題についても扱いたい。

以上の他に、学生が自由に問題を設定して、発表する機会をつくりたい。  
また、近・現代社会、あるいは社会思想の理解を助けるために、ビデオ等の使用を計画している。

テキスト

使用しない。  
毎回、とりあげる思想家や社会学者の一節をコピーして配布する。

参考書

多いので、授業の中かで毎回紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

特になし。  
各自それぞれで検索されたし。

その他

ない。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 松田 亮三

講義内容・テーマ

- 1) 「福祉」の捉え方、考え方について学ぶ。
- 2) 社会や国家が「福祉」とどのように関わっているかを学ぶ。
- 3) 学習の素材としては、広い意味での社会の「福祉」に関わって、医療を中心におくが、その他の分野についても必要な範囲で扱う。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

\* 筆記試験：定期試験として実施

講義スケジュール

以下の項目を中心に学ぶ予定である。

- 1) 現代社会における「福祉」
  - ・福祉国家の発達
  - ・社会福祉サービスの発達
  - ・公平と福祉政策
- 2) 福祉国家における医療
  - ・近代社会における医療
  - ・医療制度の発達 医療保険、公共サービスとしての医療
  - ・医療保険制度の編成と日本社会
  - ・「医療費」問題の政治的対応
- 3) グローバル社会の「福祉」と医療
  - ・健康の格差と不公平
  - ・グローバル公共政策と医療

テキスト参考書

野村拓・松田亮三『わかりやすい医療経済学』看護の科学社。  
池上直己『日本の医療』中公新書。  
池上直己『ベーシック医療問題』日本経済新聞社。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

社会のひずみ N

11245

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 高橋 裕子

講義内容・テーマ

社会学の知見は、「社会」と「個人」との関係性をいかに見据え、そうであるが故に社会病理現象をどのように読み解いて見せるのか。ラベリング論やアノミー論の根底にある「社会」と「個人」との関係性に光を当て、そこから社会病理現象を捉えるまなざしを学び取っていただきたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

\*筆記試験:最終講義日試験で実施

\*日常点:加味する

レポート20%、定期試験80%(定期試験は、最終講義日試験を予定しています。)

講義スケジュール

第1回 イントロダクション

第2回 社会病理現象 事例紹介

第3回 社会病理現象 事例紹介

第4回 犯罪をどう捉えるのか?

第5回 犯罪をどう捉えるのか?

第6回 ラベリング論

第7回 自殺をどう捉えるのか?

第8回 自殺をどう捉えるのか?

第9回 狂気とは?

第10回 狂気とは?

第11回 アノミー論

第12回 「社会」と「個人」

第13回 「社会」と「個人」

第14回 まとめ

テキスト

使用しない。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

基本的には講義形式で行うが、レポートやアンケートの提出を求める予定である。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 真鍋 能章

講義内容・テーマ

(住民はどのように負担すべきか) わが国では、公共サービスの多くは地方公共団体によって提供されるが、税金はその多くが国(中央政府)に納められている。巨額の財政赤字は、人々が負担する以上に受け取ることから生じたものだが、日本では、住民と地方公共団体との間に国が入るので、住民には受益と負担の関係は見えにくい。国と地方公共団体における負担のあり方が検討されねばならない。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義では、テキストを批判的に取り扱い(text critique)、決してテキストを真理の固まりとは見なさない。毎回の講義では、まず章の主張点を明らかにし、次にこれに検討を加え、最後に試験問題を提起するので、受講者は予習・復習を行わねばならない。

評価方法・基準

\* 筆記試験・定期試験として実施

科目としての評価は「定期試験」によってのみ決定されるが、事前に2回にわたってレポートのかたちで答案の提出を求める。定期試験では、1章から1問、計10問を選択し、各問に対する肯定あるいは否定の立場とその根拠(原因や理由)をあげるものとする。評価は、あなたの答えが説得的か否かによってのみ決まり、あなたが設問を肯定したか・否定したかは問わない。

講義スケジュール

\* 講義はテキストを使用して以下の順序で行い、第7回と第15回の講義では提出されたレポートを返却し解説を行う。

- |      |                     |            |
|------|---------------------|------------|
| 第1回  | : 1章 地方財政の実態        |            |
| 第2回  | : 2章 国と地方の機能分担      | 第1回レポートの範囲 |
| 第3回  | : 3章 制度としての地方財政     | (1章～4章)    |
| 第4回  | : 4章 地方公共支出の経済学     |            |
| 第5回  | : 5章 地方団体の行財政改革     |            |
| 第6回  | : 6章 広域行政と狭域行政      |            |
| 第7回  | : 演習(第1回レポートの返却と解説) |            |
| 第8回  | : 7章 地方税の体系と原則      | 第2回レポートの範囲 |
|      | 8章 地方税の改革           | (5章～11章)   |
| 第9回  | : 9章 国庫支出金と地方財政     |            |
| 第10回 | : 10章 地方交付税と財政調査    |            |
| 第11回 | : 11章 地方債の発行と国の関与   |            |
| 第12回 | : 12章 地域づくりと地方団体の役割 |            |
| 第13回 | : 13章 少子高齢社会と地方財政   |            |
| 第14回 | : 14章 地方公営企業と第3セクター |            |
| 第15回 | : 演習(第2回レポートの返却と解説) |            |

テキスト

テキストは、林宜嗣(はやしよしつぐ)『地方財政』有斐閣、1999年である。

参考書

スティグリッツ『ミクロ経済学』第2版、東洋経済新報社、2000年。  
ヴァリアン『入門ミクロ経済学』第5版、勁草書房、2000年。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 鈴木 雄也

### 講義内容・テーマ

テーマ

ブランド戦略:高度情報化社会におけるマーケティングの新展開

概要

消費の低迷が続くデフレ不況下において、快進撃を維持するブランドがある。ブランドの価値は、それを選好、購買する消費者とともに、マーケティング努力を絶やさない企業によって支えられている。本講義では、両者の関係性に留意しつつ、とりわけ企業経営の視点からブランド構築のマーケティングについて学ぶ。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

テキストの持参を前提とするが、講義レジュメ等の資料も併用したい。また、受講にあたって必要となる経営学の基本的な理論は随時解説する。

### 評価方法・基準

\* 筆記試験:定期試験として実施

\* 日常点:加味する

定期試験, レポート, さらに講義への参加態度で総合的に評価する。

### 講義スケジュール

- . 高度情報化社会における消費:質実消費とブランド消費(第1回)
- . 経営管理の基礎:企業, 経営とは, 経営資源としての情報(第2回)
- . マーケティングとは:概念と体系(第3回)
- . マーケティング戦略の策定と実行
- . 市場細分化:基準と方法(第4回)
- . 消費者行動分析:消費者情報処理モデルとポストモダンの消費行動(第5回)
- . 競争の分析と対応:経営資源と競争地位(第6回)
- . マーケティングの諸政策:製品, 価格, プロモーション, チャンネル(第7~9回)
- . マーケティングの新展開:ブランド戦略
- . ブランドの価値:エクイティとアイデンティティ(第10回)
- . ブランド・アイデンティティの視点:製品, 組織, 人格, シンボル(第11~13回)
- . 企業と消費者の関係性:ブランド・コミュニケーションの枠組み(第14回)
- . まとめ(第15回)

### テキスト

陶山計介・梅本春夫[2000], 『日本型ブランド優位戦略』ダイヤモンド社。

### 参考書

講義のなかで必要に応じて紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 池田 知加

講義内容・テーマ

情報化社会とは、上から政策的に導入されたり、ビジネスチャンスの到来といった経済的な効果が期待されたりするだけでなく、人々の社会文化的な営みによってもまた展開されるものである。  
 情報化の現実過程をふまえた上で、情報メディアを使用する人間の経験的な側面を中心に情報化社会について考察する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

自らのメディア経験をふりかえりながら、情報化社会を解釈したり、検証したりする視点(=分析視覚)を学んでほしい。

評価方法・基準

- \*筆記試験:定期試験として実施
  - \*レポート:試験に代わるレポートとして実施
  - \*日常点:加味する
- 定期試験もしくは試験に代わるレポートと日常点で評価する。  
 日常点として授業内で小レポートを提出してもらう。

講義スケジュール

第1回 イントロダクション

第2回 マス・コミュニケーション論-1:メディアと研究パラダイムの歴史

第3回 マス・コミュニケーション論-2:マス・コミュニケーション論の展開

第4回 マス・コミュニケーション論-3:今日のマス・コミュニケーション

第5回 まとめ-1:擬似現実論

第6回 CMCネットワークの展開-1:日本社会の情報化

第7回 CMCネットワークの展開-2:メディアのパーソナル化とメディア利用のパーソナル化

第8回 CMCネットワークの展開-3:コミュニケーションの変容

第9回 まとめ-2:時空間と身体の変容

第10回 情報化の中の「私」の問題-1:情報の意味づけ問題

第11回 情報化の中の「私」の問題-2:情報化社会の中での生き方

第12回 情報化の中の「私」の問題-3:情報化社会のパラドックス

第13回 監視と近代社会・ポストモダン社会

第14回 情報化と「公共圏」

第15回 講義全体の総まとめ

テキスト

レジュメを使用する。参考文献は授業内で紹介する。

参考書

フランク・ウェプスター『「情報社会」を読む』田畑暁生訳、青土社、2001年、  
 加藤春明『メディア文化の社会学』福村出版、2001年、  
 守弘仁志、岩佐淳一他『情報化の中の<私>』福村出版、1996年など。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 本山 益子

### 講義内容・テーマ

我々は、人のかかわりの中で生活している。そして、主に言語を通してコミュニケーションしているが、その際、我々の“からだ”は表情やしぐさなどによって言語以上に雄弁にものを伝えている。すなわち、人の“からだ”は常に何かの情報を発信するとともに、人は“からだ”によって情報を受信しているのである。

この講義では、まず、このような日常生活における“からだ”によるコミュニケーションについてさまざまな観点から検討し、自分の“からだ”について再確認してもらいたい。さらに、世界の国々に存在している舞踊(身体表現)に見られる、“からだ”によるコミュニケーションについても比較検討したいと考える。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義は、適宜プリントを配布し、視聴覚教材も使用して行う。

### 評価方法・基準

\* 筆記試験：最終講義日試験で実施

\* 日常点：加味する

評価の割合は、最終のテスト(60%)。

ほぼ毎回の授業感想文、及び、小レポート(40%)の予定である。

### 講義スケジュール

1. “からだ”について
  - “からだ”のとらえ方
  - “からだ”という言葉
  - “からだ”は語る
2. 日常生活における“からだ”でのコミュニケーション
  - 身体表現(コミュニケーション)
  - 身体表現(感性とイメージ)
  - 子どもの世界のコミュニケーション
  - 子どもの発達とコミュニケーション
  - 子どもと大人のかかわり
  - 大人の世界の“からだ”でのコミュニケーション
3. 舞踊に見られるコミュニケーション
  - ダンスにおけるコミュニケーション
  - 舞踊に見られるコミュニケーション...日本
  - 舞踊に見られるコミュニケーション...アジア
  - 舞踊に見られるコミュニケーション...アフリカ
4. 現代社会における“からだ”でのコミュニケーション
5. 講義のまとめ

### テキスト

### 参考書

「原初的コミュニケーションの諸相」・鯨岡峻・ミネルヴァ書房

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 山下 高行

講義内容・テーマ

テーマ: グローバル化する世界の中のスポーツ

この講義では、近代スポーツをグローバル化していく流れの中にとらえ、その可能性と問題について論じます。この問題を、1. 近代スポーツの中に持つ抽象化していく性格、2. 近代社会がもつ文化の特徴、3. 今日のグローバル化の持つ特徴、という3点から考えていきます

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この講義がベースとしているのはノルベルト・エリアスの主張する「文明化の過程」という考え方です。近代文化全般を考える上で重要な主張ですので、講義に際してはエリアスの著作を読み進めると理解が深まると思います。なお、受講生に応じて講義のすすめ方を一部変更する場合があります。

評価方法・基準

- \* レポート: 試験に代わるレポートとして実施
  - \* 日常点: 加味する
- 授業中課すレポートと講義後のレポートの提出により評価

講義スケジュール

- スポーツと文化: イントロダクション  
国際化、グローバル化、記号商品の展開
1. 近代スポーツの発生と歴史
    - ・福音主義とスポーツ
    - ・階級とスポーツ
    - ・国際化の展開
  2. スポーツと文明化
    - ・文明化の見取り図
    - ・情動抑制と近代社会
    - ・スポーツタイゼーションのプロセス
  3. グローバルスポーツの情景
    - ・ジョセフ・マクワイアの見取り図
    - ・スポーツの世界システム
    - ・商品連鎖とグローバルメディアの展開
    - ・グローバル化についての諸議論
  4. スポーツのテキスト分析
    - ・記号論とカルチュラル・スタディーズ
    - ・イベントのメッセージ
    - ・メディア媒体の問題
  5. まとめ: グローバル化する文化とスポーツ

テキスト

特定のテキストは使用しません。参考書のいくつかを読んでください。

参考書

- ノルベルト・エリアス『文明化の過程』法政大学出版局  
ノルベルト・エリアス、エリック・ダニング『スポーツと文明化』法政大学出版局  
山下高行『グローバル化とスポーツ』有賀郁敏他著『西洋史シリーズ スポーツ』ミネルヴァ書房  
ジェリー、清野正義他編『スポーツ・レジャー社会学』道和書院

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

日本スポーツ社会学会のホームページ(4月よりアドレスが変更される予定ですので、検索して開いてください)。



その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 中嶋 陽子

講義内容・テーマ

最近、日本の生活の質は、どう変化してきただろうか。大量生産ー大量消費は大量廃棄に他ならないことが厳しく問われ、私たちの生活も、自問自答がせまられてきた。よって、この授業では、実生活との関連を重視し、今日の社会経済との間を往復しながら、両者を考察してゆきたい。生活の主体としてできることは何か、客体としての社会に向かって問いかけねばならないことは何か？問題の歴史的文化的背景を考慮したうえで、意見を持つことができるよう、そのきっかけ作りの授業にしたい。受講者の生活領域におけるさまざまなグループ(たとえば消費者組織や生活関連重視の環境団体など)の現状も学ぶ。

登録者数によって、できればゼミ形式も取り入れたいと思っている。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

色々な情報媒体を活用し、生活問題への感覚を磨く。NHK(TV)を中心に、よいドキュメンタリー番組も増えているので、時間の許す限り、チェックする。自分の生活を改めて考えてみる。

評価方法・基準

\*筆記試験・最終講義日試験で実施

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施

定期試験か、レポート一本、いずれにするかは、受講生の人数などを見てから決めたい。

基準:授業内容をおよそ理解し、感想程度が書き加えられているもの-C。誤りが無く自分のコメントが論理的に展開できているもの-B。自主的な勉強の成果が消化され、レポートが「作品」に仕上がっている場合 A.A+。レポートの場合、参考文献の付記など、作成上の作法が守れていない場合は、内容の如何に関わらず不可。

講義スケジュール

- 第1講 自分の生活を見つめる
- 第2講 生産・消費の分裂と社会問題の始まりー貧困ラインとシチズンシップ(英)
- 第3講「先進国」の消費者運動の流れ(英・米)
- 第4講 ライフサイクルと生活の変化ー日本の高度経済成長とその産物
- 第5講 消費者から生活者へー日本の協同組合の発展と展開
- 第6講 自主報告または自由討論 大学・職場・地域での生活応援組織
- 第7講 日本の市民生活(1)ー女性生活者が活発な協同組合の事例
- 第8講 自主報告または自由討論 経済のグローバル化と私たちの生活への影響
- 第9講 日本の市民生活(2)ー増大する不安定就労層と生活実態
- 第10講 生活問題の解決と再建 自助組織の展開事例
- 第11講 解決のヒントー地域資源のあいだの連携
- 第12講 公共資源のビジネス化 ビデオをみる
- 第13講 進捗や内容の調整
- 第14講 レポートまたは試験に関する質問、補足説明など
- 第15講 予備 試験の場合は実施日

皆さんの報告や討論など、なるべく双方向の機会を設けたい。開講後の状況によって、上の計画は、一部変更する可能性がある。

テキスト

なし。適宜、プリントを配布する。

参考書

さしあたり、E・シュローサー「ファストフードが世界を食いつくす」(草思社、'01年)。その他、授業で随時紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

<http://www.seikatsuclub.coop> など。授業で随時紹介する。

その他

特に無し。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 文 楚雄

講義内容・テーマ

この授業は、激動する世界国々の現代社会や文化などについて学習する。今年も引き続いて中国の取り上げる。

長い不況に苦しんでいる日本と対照的に、隣の中国はすさまじい経済成長を成し遂げている。日本とますます緊密に関係してくる。2002年度の対中貿易を見ても、中国は戦後初めてアメリカを抜いて、日本の第一輸入相手国となった。授業では、中国の経済成長ぶりやそれに伴う新しい社会変化・新しい文化現象などについて、ビデオを使いながら紹介していく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

ビデオを使いながら、講義していく。ディスカッションをも交えたい。

評価方法・基準

- \* レポート: 試験に代わるレポートとして実施
  - \* 日常点: 加味する
- 最終レポートや出席などの平常点を総合して判断する。

講義スケジュール

およそ次のような内容で授業を進めていく。(一部変更する場合もある)

- |             |               |
|-------------|---------------|
| 第1回(10/1)   | 国慶節・中秋節       |
| 第2回(10/8)   | 北京オリンピック誘致    |
| 第3回(10/15)  | 北京の交通         |
| 第4回(10/22)  | 五ヶ年計画と西部大開発   |
| 第5回(10/29)  | 西部の鉄道・石油      |
| 第6回(11/5)   | 新婚姻法          |
| 第7回(11/12)  | 第16回党大会       |
| 第8回(11/19)  | WTO加盟         |
| 第9回(11/26)  | 中国の宗教と政治 法輪功  |
| 第10回(12/3)  | 悪質な風俗産業の取り締まり |
| 第11回(12/10) | 流行歌手・映画・民族舞踊  |
| 第12回(12/17) | 中国のIT産業       |
| 第13回(12/24) | ニュース番組        |
| 第14回(1/7)   | 南水北調          |
| 第15回(1/14)  | まとめ           |

テキスト

授業時プリントを配布する。

参考書

- 「変貌する中国を読み解く(新語辞典)(莫邦富、草思社)
- 「中国の社会構造」(中野謙二、大修館書店)

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 前田 信彦

講義内容・テーマ

「国際福祉」という学問分野はまだ未開拓の分野であるため、国際比較から見た「比較福祉」という視点から講義する。この講義では、国際比較の視点から、特に「労働」と「福祉」について考え、これからの日本の福祉社会のあり方を探る。講義は主に次の手順で行われる。

まず第一に、国際福祉の方法について講義する。特に福祉社会を国際比較の視点から捉えるための枠組みを提示する。第二に、主にオランダ、日本を対象として比較福祉論を講義する。

具体的には、女性の労働、家族、高齢者の就業・介護問題といった個別の領域について国際比較の視点から講義する。第三に、国際比較から各国の福祉の実態を相対化し、日本のこれからの福祉について考える。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会学の基礎的な知識があること。

評価方法・基準

\*筆記試験：最終講義日試験で実施  
 \*レポート：試験に代わるレポートとして実施  
 \*日常点：加味する  
 出席点・小テスト・レポート・定期試験による総合評価。  
 講義期間に何度か小テストを実施する。講義中にあげた参考図書の感想文などのレポートを課す。レポートを提出しなかったものは定期試験は受験不可とする。  
 遅刻・早退は厳禁。  
 かなり厳しい講義なので、出席しないで単位だけを取る学生にはすすめない。

講義スケジュール

1回 講義の進め方について  
 2 - 3回 福祉国家の形成と危機  
 4 - 5回 中高年の失業と福祉  
 6 - 10回 女性の就業と社会的支援  
 11 - 13回 高齢者の就業と社会参加  
 14 - 15回 まとめ・試験

テキスト

テキストは特に指定しない。  
 講義中に参考文献を随時紹介する。

参考書

富永健一 2001 『社会変動の中の福祉国家 - 家族の失敗と国家の新しい機能』中公新書  
 前田信彦 2000 『仕事と家庭生活の調和 - 日本・オランダ・アメリカの国際比較』日本労働研究機構  
 アラン・ウォーカー1997 『ヨーロッパの高齢化と福祉改革 - その現状とゆくえ』ミネルヴァ書房  
 (ほか、講義中に紹介する)

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 木津川 計

### 講義内容・テーマ

知識的教養人のハイグレードな文化とは別に、大衆文化は広く大衆に受け入れられる通俗文化を指すのです。その大衆文化が持っている健康な民衆精神、ヒューマンで在野的な精神の健在を評価しつつ、猥雑と退廃に陥りやすい傾向を見据え、あるべき大衆文化像を具体的に探るのが本講の目的です。とくに本年度は大衆文化の諸相と時代との関連をさぐります。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

### 評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施  
レポートを開講中2回提出していただきます。  
1回目課題「あなたの選ぶヒューマンな作品」  
2回目課題「男と女はどう歌われているか」  
提出日は教室で知らせます。

### 講義スケジュール

- 1、なぜ「大衆文化と時代」なのか 大衆文化論概説
- 2、趣味と時代 「趣味力」の発見
- 3、道楽と時代 人間らしさを求めて
- 4、優しさは国民的人気たり得るか アニメ、漫画、演芸の場合
- 5、優しさは国民的人気たり得るか 映画、喜劇の場合
- 6、優しさは国民的人気たり得るか 歌と詩の場合
- 7、歌と時代 歌はどう変わってきたか
- 8、歌と時代 男と女の歌われ方
- 9、文化と時代 草の根文化と一輪文化
- 10、笑い時代 笑いのうねりの起るとき
- 11、川柳と時代 サラリーマン川柳の照準
- 12、都市文化と時代 都市のグレードを決める条件
- 13、若者文化と時代 文化の潮をみちびくもの
- 14、文化の都市へ 夫婦同伴文化のすすめ

### テキスト

ありません。毎回プリントを配ります。

### 参考書

折にふれ紹介します。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 長澤 克重

### 講義内容・テーマ

この科目では統計分析パッケージであるSPSSを使って社会調査データの集計と統計的分析の初歩を学ぶことを目的とする。パソコン版のSPSSはプログラミングの知識を必要としないが、データ入力から出力の編集に至るまで習得すべき内容は多々ある。また適切な分析方法を適用し出力結果を正しく理解する上で統計分析の基礎知識も必要である。実習をベースとしながら以上のようなデータ分析の基本を学んでいく。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

パソコンの基本的操作は習得済みであることを前提とする。統計学の基礎的知識があることが望ましい。ない場合はある程度の自習が必要である。

### 評価方法・基準

\* 日常点:加味する  
実習課題の提出(数回)、および出席点により評価する。

### 講義スケジュール

- 第1回 実習説明、SPSSの機能説明
- 第2回 データ入力(1)
- 第3回 データ入力(2)
- 第4回 変数の加工
- 第5回 度数分布表、クロス集計表
- 第6回 代表値と散布度
- 第7回 グラフの作成法
- 第8回 出力の編集
- 第9回 推定・統計的仮説検定
- 第10回 平均値の差の検定
- 第11回 クロス集計表の検定
- 第12回 2変数間の関係の分析:相関
- 第13回 2変数間の関係の分析:回帰
- 第14回 課題データの分析(1)
- 第15回 課題データの分析(2)

### テキスト

特定のテキストは使用せず配布するプリントを使用する。

### 参考書

授業中に随時紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

授業に遅刻・欠席すると実習についていくことが困難になるので各自注意すること。  
オープンパソコンルームを利用して自習することも望まれる。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 鈴木 未来

講義内容・テーマ

テーマ:現代社会と生活研究～現代中国を題材に

高度経済成長期以降の日本社会では、「豊かさとは何か」という問いが繰り返し提起されている。これは「ものの豊かさ」だけではない生活の質を求める動きである。ただ、かつての所得倍増のような社会レベルの指標がなく、個人レベルでの動きにとどまることが、問いが繰り返される理由の一つとして考えられる。そこで、社会全体が大きな変革期にある現代中国を題材に、社会変動と人々の生活とのかかわりをマクロに把握する。その上で個人のレベルにとどまらない「全体としての生活」の豊かさの問い直しを試みたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

生活研究にかかわる文献(生活様式論や生活構造論など)を一読することを推奨する。

評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施

\*日常点:加味する

講義スケジュール

- 第1回 インTROダクシオン
- 第2～4回 生活研究の史的展開
- 第5～7回 新中国における近代化と人々の生活
- 第8～10回 生活をめぐる諸問題～調査事例をもとに
- 第11～13回 さまざまな格差の存在と人々の生活
- 第14回 「全体としての生活」の豊かさをめぐって
- 第15回 まとめ

テキスト

使用しない。授業時のプリントを配布する。

参考書

飯田哲也『現代日本生活論』学文社、1999

中野謙二『中国の社会構造 近代化による変容』大修館書店、1997

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員

講義内容・テーマ

近代的な「個人」とはいかなるものかを考察する。近代的な「個人」という概念はキリスト教の影響下にある西欧諸国において芽生え、日本に移植されたが、第一にその生成過程を振り返ることで、「個人」の自由・権利がア priori に人間に付与されたものではないことを明らかにしたい。そのうえで、第二に、「個人」の自由・権利が称揚される現代社会において、「個人」が何を獲得し、何を失ってきたのか、「社会」と「個人」との関係性から解き明かしていく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

現代社会に生きる私たちは、「個人」の自由・権利といったものを当然視しがちだが、そうでないことを理解していただくためにも、ぜひとも継続的に講義に出席してほしい。(そうした努力の積み重ねが、社会や文化、そしてそこに生きる人間に対する理解の深化をもたらすと信じて…)

評価方法・基準

- \*筆記試験:最終講義日試験で実施
- \*日常点:加味する
- レポート20%、最終講義日試験80%

講義スケジュール

1. イントロダクション
2. 自由 心理学的問題か?
3. 自由 心理学的問題か?
4. 個人の解放と自由
5. 個人の解放と自由
6. 近代的な「個人」における自由・権利
7. 近代的な「個人」における自由・権利
8. 個人主義の最大化
9. 幸福の追求?!
10. 幸福の追求?!
11. 自由・権利の戦い 事例より
12. 自由・権利の戦い 事例より
13. ナルシズムと自閉
14. ナルシズムと自閉
15. まとめ

テキスト

使用しない。

参考書

D. リースマン『孤独な群集』みすず書房、E. フロム『自由からの逃亡』東京創元社、  
R. N. ベラー『心の習慣』みすず書房、  
荻野美穂『中絶論争とアメリカ社会 身体をめぐる戦争』岩波書店

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他



特殊講義 N

20302

授業開講期間 夏期集中

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 森重 拓三

### 講義内容・テーマ

社会現象学(現象学的社会学)の視点に立つと、私達は、日常生活のなかで認識される様々な対象を常に判断し意味づけて(意味構成して)生きていることになる。本講義では、この視点から、人が「進路選択」という対象をどのように意味構成しているのか、その社会的背景を含めて考察し、それを通じて社会現象学の基本的な考え方を学んでいく。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

### 評価方法・基準

\* レポート:試験に代わるレポートとして実施  
授業中のレポートor小テスト(40%)、期末のレポート(60%)

### 講義スケジュール

第1回はオリエンテーションをおこない、第2回以降は各項目について、それぞれ3～4回にわけて講義形式ですすめる予定。

第1回	オリエンテーション
第2回	社会学における「意味概念」
第3～6回	私からみた私の行為(進路の意味構成)
第7～10回	私からみた他者の行為(進路の意味構成の過程)
第11～14回	私からみた社会的世界(進路の意味構成の社会的背景)
第15回	まとめ

### テキスト

特に定めない

### 参考書

A.シュッツ著、佐藤嘉一訳『社会的世界の意味構成』木鐸社、1982年

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

授業開講期間 夏期集中

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 中嶋 陽子

講義内容・テーマ

最近、市民が社会的活動に関わる度合いが広がり、一応NPO法も施行されたのは周知の通りである。市民参加がよりリアルな力をつけつつあり、その主な場面が、いわば、広義の非営利組織であろう。内外の事例をいくつか考察しながら、非営利組織の未来、市民のあり方に思いをめぐらし、自分自身の経験などともつぎあわせてみよう。討論や報告の時間もとり入れたい。

その際、次の3点に留意したい。1) ボランティアやその活動は、NPOの重要な構成部分であるが、すべてではない。専門スタッフの役割や組織の客観的な全体像にも注意する。2) 経済活動に深く関与するNPOでは、その特徴は何だろうか。3) 市民運動的なルートにこだわるNPOやNGOの場合、どのような社会的価値が重んじられ、その歴史的な背景は何だろうか。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会問題全般への関心を深める。情報収集を重視するよりも、むしろ、ここでは自分のこだわりたい点を見つける。とくに人権系、異議申し立て系のNPOの行方と、日本の社会システムの行方とを重ねて考察してみる。

評価方法・基準

\* 筆記試験：定期試験として実施

\* レポート：試験に代わるレポートとして実施

期末試験一本、又は試験に代わるレポート一本、いずれかに統一するが、どちらにするかは授業の様子をみてきめる。C - 授業が理解できているが、誤解が散見されコメントが感想文レベルのもの。B 誤解が無く、コメント部分も論理的な説得力を持って書けているもの。その上で、加点の対象として、授業への積極的参加、自主レポートや報告などを考慮し、優れたものをA、秀逸なものをA+とする。評価は辛め。

講義スケジュール

第1講 導入 NPOを促進する客観的な要因

第2講 「テクニカルターム」の数々、NPOの種類・規模・分野別構成

第3講 NPOの経済的原理

第4講 大学生生活・地域生活での非営利組織について報告と討論

第5講 ボランティアと寄付

第6講 企業フィランソロピー・企業財団

第7講 財団の新しい役割 サンフランシスコの事例から

第8講 様々なNPO(A) - 協同組合の経験と実績

第9講 (B) 文教分野における市民活動 個人やグループの自主報告20分～30分を2本程度

第10講 (C) 社会的マイノリティーの考察：日・米ホームレス支援から

第11講 (D) 人権問題や環境・開発問題とNPO・NGO 個人やグループの自主報告を織り込んで

第12講 なぜ、結局NPOなのか。行動主体の背景と社会的公正について討論

第13講 調整(可能ならゲストスピーカー、又は、ディスカッション/ディベート)

第14講 補足説明、質問 回答

第15講 最終講義日試験の実施、又は予備(期末試験をしない場合)

\*ただし、実際の授業の様子によって、進度・内容の変更はありうる。

テキスト

なし。自分なりの授業ノートをつくる。

参考書

島田恒「非営利組織のマネジメント」東洋経済、99年。その他、随時、紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

市民活動情報センター <http://www1.meshnet.or.jp> その他、随時紹介する。

その他

ホームレス支援に関わっていますので、関心のあるかたには、情報を提供できます。

特殊講義 N

14596

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 鈴木 隆

講義内容・テーマ

市場経済とは人の欲望を刺激し、これを肥大させ、消費を拡大させることによって成長していくシステムである。しかし問題は、このシステムはいかにして、人の欲望に働きかけて、これを市場の倫理に従わせ、肥大させることができるのかという点なのであって、この講義では、その 媒体がマス・メディアなのだという視点から、メディアと欲望の関係について論じたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義資料を可能な限り、前以って配布し、これに沿って講義を進める予定なので、これを必ず受け取り、よく読んでほしい。

評価方法・基準

\*筆記試験：定期試験として実施

テストの一発勝負。ただし、講義内容の理解のポイントになるようなキーワードもしくは、キー概念を指示するように心がけるつもりであり、その意味がどの程度、理解できているかを重視する。

講義スケジュール

1. 高齢社会についての疑問 その原因と言われるものは、単なる思い込みではないのか？
  - a. わが国における高齢化 少子化の経緯
  - b. 真田社会問題理論 「新しい貧困」ということについて
2. 近代社会と欲望の理論
  - a. デュルケーム「社会分業論」/「自殺論」とアノミー
  - b. マートンのアノミー論
3. 近代社会における欲望とその対象
  - a. 欲望の理論(リアルな欲求と媒体への欲望)
  - b. 近代社会における富の形態の変質
  - c. 貨幣形態の富と欲望の変質
  - d. 連帯の喪失と欲望の歯止めの喪失
4. マス・メディアと消費会社
  - a. 幼想としての豊さと、そのしわよせ
  - b. 高齢化社会と呼ばれる現象の正体とは？

テキスト

使用しない。

参考書

講義資料の中で紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

講義中にいくつか紹介する。

その他

特殊講義 N

14569

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 笹田 恭史

講義内容・テーマ

グローバル時代のなかで、わたしたちはどのようにして(外なる、内なる)「国境」を越えてゆくかについて、比較文化論的に考察してゆく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施  
レポートと平常点で評価する。

講義スケジュール

- 第1回 はじめに
- 第2回 「好きな国」「嫌いな国」
- 第3回 国際化と日本人
- 第4回 「アイデンティティー」の根拠
- 第5回 欧化と回帰
- 第6～7回 オリエンタリズム…「文明」と「野蛮」
- 第8～9回 (文明)について
- 第10～11回 (文化)について
- 第12回 翻訳語としての「文化」
- 第13回 文化の国境を越えて
- 第14回 グローバリゼーション/多文化主義
- 第15回 移民と難民

テキスト

西川長夫 増補『国境の越え方』 平凡社ライブラリー

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 円満字 洋介

講義内容・テーマ

街路観察の要点をスライドを使って紹介しながら、地域の歴史を再発見する手法を分かりやすく解説します。  
特定の地域(未定)の街路観察を課題とし、発表・討論を通して、地域史と都市計画的なアメニティ(快適な環境)との関連を考える契機とします。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講時間外に、各自、指定地域(未定)の街路観察を行ってください。

評価方法・基準

\* 日常点:加味する  
日常点評価。

講義スケジュール

- 9月(4回) 街路観察の要点 近代建築や古社寺の動物彫刻などのスライドを紹介します。
- 10月(4回) 町の構造を読み解く 赤穂(兵庫県)や竹田(同)など具体例を挙げて、地域史の読み解きを、街路観察を踏まえて行います。
- 11・12月(4回) 地域史の発見 地図の見方や年表のつくり方など 街の構造を読み解くための手法を分かりやすく解説します。
- 12・1月(3回) 発表と討論

テキスト

なし

参考書

なし

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

なし

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 尾場瀬 一郎

### 講義内容・テーマ

テーマ: 合理化の行方

獲得目標: マックス・ウェーバーが使用した「合理化」概念を基礎に据えて、今日までの人間存在の変容を理解すること。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

基本的に講義形式である。  
ただし、学生の主体的参加を重視する。  
何らかのテーマで発表したい学生を歓迎したい。

### 評価方法・基準

\* レポート: 試験に代わるレポートとして実施  
\* 日常点: 加味する  
200字の中間レポートと、2000字の期末レポートで評価する。  
評価の割合は、200字中間レポートが三割で、2000字期末レポートが七割である。  
出席などよりもレポートの質を評価したい。

### 講義スケジュール

主として、以下のようなトピックを考えている。

- ・ウェーバーの「世界の脱魔術化」論
- ・ニーチェの「道徳の系譜学」
- ・トルストイの人間論
- ・サルトルと神なき時代の人間
- ・ファシズムと権威主義的人間
- ・合理化とホロコースト
- ・マクドナルド化する社会

以上のようなテーマと関連した他の事柄や社会学者に触れる。  
また、以上のテーマを理解するために、ビデオ等の使用を考えている。  
また、それ以外に関心のあることがあれば、ぜひ発表してほしい。  
歓迎する。

### テキスト

使用しない。  
毎回、講義でレジユメを配布する。

### 参考書

参考書はとても多いので、授業のなかで紹介していきたい。  
また、学生の達成度はまちまちだろうから、個人的な質問の時間を設けたい。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

特にない。  
各自で検索されたし。

### その他

特にない。

## パーソナリティ論 N

14548

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 山田 重樹

講義内容・テーマ

テーマ 行為と自我

G.H.Meadの理論を中心に自我論を検討する。S.Freudとの対比を通して、日常的な人間関係に基点を置いたパーソナリティ形成のあり方を考察してゆく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

心理学だけでなく、社会学や哲学にも言及してゆすが、幅広く柔軟に対応してゆく学習態度を望んでいる。

評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施

\*日常点:加味しない

講義スケジュール

1回～5回 心理学の流れ及びfreud理論の概略を示す。

6回～10回 プラグマティズムおよびMead理論を紹介

11回～15回 いくつかのテーマを通してパーソナリティ論の現状を考察する。

テキスト

適当なテキストがないので、重要度の高い参考文献を適宜授業で紹介する。

参考書

フロイト、『精神分析入門』,角川文庫・岩波文庫等

ミード、『精神・自我・社会』,青木書店,1973年

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 福地 潮人

講義内容・テーマ

経済のグローバル化が進むなかで、今日、福祉国家は大きく変わろうとしています。特に福祉サービス供給の面では、70年代末以降、「福祉の混合経済」論(福祉ミックス論)という形で、国家だけではなく、市場やボランティア・セクター、家族なども含めた複数の主体による新たなサービス供給システムの可能性が論じられています。また、このような議論を受けて、実際にほとんどの先進各国では、福祉の市場化がすすめられてもいます。

本講義では、このような「福祉の混合経済」論の基礎を学ぶことを通して、社会福祉の領域における国家の役割、市場の役割、ボランティア・セクターの役割について考察し、ありべき福祉国家、福祉社会の姿について議論していきたいと思います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

具体的な講義の進め方については第1回目のオリエンテーションで受講生の皆さんと協議して決めたいと思います。受講を希望される方は必ず第1回目に出席してください。

現在のところ、前半は下記テキストに則して進め、後半は先進諸国で現在展開されている福祉ミックスのあり方について、比較しつつ論じていこうと考えています。

なお、受講生数、受講生の希望によってはゼミ形式をとる場合がありますので、予めご了承ください。

質問・討論以外の私語や、講義中の飲食は厳禁です。目に余る行為があった場合、以降の受講を認めない場合もありますのでご注意ください。

評価方法・基準

\*筆記試験:最終講義日試験で実施  
\*日常点:加味する  
小テスト×2(40%) + 期末考査(40%) + 平常点(出席、受講態度等:20%)。  
なお、ゼミ形式の場合、試験はしません:出席(3分の2以上:50%) + グループもしくは個人発表(1回以上:50%)。

なお、それぞれの比重(%)は仮のものです。

講義スケジュール

以下の内容については、今後変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

- 1.オリエンテーション
- 2.福祉の混合経済
- 3.社会福祉と国家の役割1
- 4.社会福祉と国家の役割2
- 5.小テスト
- 6.社会福祉と市場の役割1
- 7.社会福祉と市場の役割2
- 8.社会福祉とボランティア・セクター1
- 9.社会福祉とボランティア・セクター2
- 10.社会福祉と家族の役割
- 11.小テスト
- 12.事例研究1:イギリス
- 13.事例研究2:オランダ
- 14.事例研究3:スウェーデン
- 15.期末考査

テキスト

ノーマン・ジョンソン「グローバリゼーションと福祉国家の変容:国際比較の視点」  
(青木郁夫・山本隆監訳、法律文化社、2002年)  
生協に発注しますので、そちらでお求めください。



参考書

講義中に指示します。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 鈴木 暁子

講義内容・テーマ

ボランティア活動は、自分だけの世界で完結してしまうものではなく、自己への問い、他者との係わりや、さまざまな出会いを通じて、私たちが生きている社会と関わっていく行為である。この講義では、グループディスカッション、ゲストスピーカーとの対話を通じて、受講生が抱えているボランティアのイメージを明確にすることと、実際にNPOで働く講師の経験も交えながら、社会を変える手段としてのボランティア活動の可能性について、理解を深めたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

ボランティア活動に関する一定の知識、経験を要することが望ましい。  
受講生同士の議論やグループワークを重視するので、積極的にコミュニケーションをとる意思のある受講生が望ましい。

評価方法・基準

\* レポート: 試験に代わるレポートとして実施  
\* 日常点: 加味する  
「日常点(発言の積極性、出席)60%」と、試験に代わる「レポート(40%)」を、あわせて評価します。  
講義終了後には、毎回、「感想レポート」を課します。

講義スケジュール

\* 講義は、受講生との対話の結果、内容の変更の可能性も考えられる。

- 1 ガイダンス
- 2 ボランティア活動 概論(特性、受け入れ体制、課題)
- 3 ボランティアイメージの抽出
- 4 ボランティアイメージの抽出  
ワークショップを通じて各々のボランティアに対するイメージを明確にする。
- 5 グループワーク
- 6 グループワーク
- 7 グループワーク
- 8 グループワーク  
小グループに分かれ、ボランティアに係わる課題を設定し、調査分析を行い、発表を行う。
- 9 ゲストスピーカーとの対話
- 10 ゲストスピーカーとの対話
- 11 ゲストスピーカーとの対話  
講義の合間に、環境、福祉、国際など、様々な分野でボランティアに係わる人をゲストスピーカーとして招き、活動の動機、現在の課題、将来像について、意見交換を行い、ボランティア活動の多様性について理解する。
- 12 グループ発表
- 13 グループ発表
- 14 振り返り
- 15 まとめ

テキスト

随時、指示します。新聞やテレビ、WEBサイトなどを常にチェックすること。

参考書

その都度、指示します。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

その都度、指示します。

その他

ボランティア活動やNGO・NPOを、「研究対象」としてではなく、「実践」のフィールドとして考えたい受講生を歓迎します。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 有賀 郁敏

講義内容・テーマ

講義のテーマ: 歴史における民衆と身体文化

本講義では数ある歴史事象のなかから、身体文化をめぐる問題を題材に数名の歴史上の人物を選びだし、かれらが時代のなかでなした営為について、その歴史的な意味を考察していく。また同時に、通常、歴史叙述には固有名詞としてはほとんど登場しない社会の下層、女性など、総じて民衆のと言われている人々の活動にも光をあて、こうした人々の歴史における意義も併せて考えてみたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

授業は講義形式が基本となる。しかし、受講生が内容をよりよく理解するために講義に関するレジュメはもとより、ビデオ、デジタル写真、CD - Romなどを多く活用する。また講義の内容に関する意見交換の場を設け、受講生の貴重な見解については、それを共有するように努めたい。

評価方法・基準

\* 筆記試験: 定期試験として実施

定期試験を評価の基本とする。講義にかかわる知識ならびに内容に関する自己の理論展開が評価の基準となる。また、数回に1度の割合でミニレポートを書くことになるが、これも評価に入れる。この場合、レポート提出回数が評価の基準となる。

講義スケジュール

1. オリエンテーション: 講義の進め方、受講生との確認事項
2. プラトンと身体文化 : 古代オリンピックの歴史と展開
3. プラトンと身体文化 : 「身体と知と道徳」
4. ヨーロッパ啓蒙主義における身体文化 : ルネサンス、宗教改革、市民革命と身体
5. ヨーロッパ啓蒙主義における身体文化 : ドイツの哲学者、教育論者の身体観
6. ヨーロッパにおけるアソシエーションの成立と公共圏の変遷
7. ヨーロッパにおけるアソシエーションの成立と公共圏の変遷
8. 近代日本の国家と身体 : 「産育」から「教育」へー近代学校の誕生
9. 近代日本における公私観念の変遷
10. 近代日本の国家と身体 : 森有礼の権力のテクノロジー
10. 近代日本の国家と身体 : 森有礼の権力のテクノロジー
12. 近代日本の国家と民衆文化 : 通俗道徳
13. 近代日本の国家と民衆文化 : 村の遊び、女性と身体文化
14. 戦間期から現代における身体観: 総力戦と体力、身体ブーム
15. まとめ

テキスト

特に使用しない。参考文献などを講義の場で紹介する。

参考書

- ・O. グルーベ、M. クリュウガー『スポーツと教育ードイツスポーツ教育学への誘いー』ベースボールマガジン社
  - ・安丸良夫『日本の近代化と民衆思想』平凡社
  - ・鹿野政直『健康観にみる近代』朝日選書
- 以上はすべて大学図書館にある。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 牧野 泰典

講義内容・テーマ

日本の労働者は若年層を中心として余暇志向を高めているが、日本企業では企業社会の価値観を前提とした諸制度として労使関係や労務管理が制度化しており、労働者の意識や行政の政策と比較して、「企業制度」の改革が十分ではない。本講義では余暇の理論的定義や、余暇に対する意識を述べつつ、仕事優先の企業内諸制度の課題について述べていきたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

キーワード 「企業社会」としての日本企業、「所得保障なき労働時間」の課題、残業を是認する労働基準法第36条(サブロク協定)

評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施

\*日常点:加味する

レポートと出席調査を兼ねたミニテスト(2回)

講義スケジュール

1. 授業の概要
2. 余暇の理論的定義(J.デュマズディエ、M.キャプテン、S.パーカーの理論を中心に)
3. 余暇に関する日本の労働者の活動状況(資料を配布)
4. 企業社会における日本の労働者の意識と雇用形態のギャップ(正規従業員とフリーターの職業意識と雇用形態格差)
5. 日本と欧米各国の労働時間比較(所定内労働時間、残業、その他の「企業の時間」)
6. 第1回ミニテスト実施
7. 日本企業の教育訓練制度:トヨタを事例に(「企業社会」としての「企業の時間」)
8. 日本企業の人間関係諸活動:レクリエーション活動、寮自治会、社内団体など(「企業社会」としての「企業の時間」)
9. 日本企業の小集団活動:QCサークルについて(「企業社会」としての「企業の時間」)
10. 海外企業・日系企業の小集団活動(労働時間や雇用・作業環境に考慮した小集団活動の実施)
11. 日本企業の人事考課査定(日本の企業制度や賃金制度を支える労務管理)
12. 日本企業と欧米企業の労使関係
13. 日本企業と欧米企業の経済的な逆転現象
14. 第2回ミニテスト実施
15. 授業のまとめ

テキスト

牧野泰典『小集団活動の機能と役割』八千代出版,2001年

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

課題レポートはテキストの範囲から設定するのでテキストを購入すること

カウンセリング論 N  
(教)カウンセリング論 N

12187

授業開講期間 前期                      単位数 2                      配当回生 2回生以上  
担当教員 安田 一之

#### 講義内容・テーマ

本講義では、カウンセリングにおける基本的態度を学習する。また実際のカウンセリング場面で生じる様々な問題を検討することにより、カウンセリングを行なう者に問われる専門性に対する理解を深めたい。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

#### 評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施  
\*日常点:加味する  
心理テストの自己解釈レポートと講義終了後の試験を中心に、講義時間中に実施する小レポート等を加え、総合的に評価する。

#### 講義スケジュール

- 第1回 ガイダンス  
第2回 心理臨床及びカウンセリング概論  
第3回 カウンセリング場面における基本的姿勢と実際のカウンセリングの流れ
- 第4 - 7回 カウンセリングの諸理論  
・精神分析  
・分析心理学  
・クライエント中心療法  
・ゲシュタルト療法
- 第8 - 10回 カウンセリング場面における諸問題  
・共感 転移 - 逆転移  
・治療的距離  
・カウンセラーの倫理
- 第11回 自分を知る 心理テストを実施し、自己解釈を試みる<レポート>
- 第12 - 13回 カウンセリングの事例紹介
- 第14回 対象喪失・死について考える  
第15回 予備日

#### テキスト

山本昌輝編 こころの教育とカウンセリング 八千代出版(大学生協)

#### 参考書

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生

担当教員 本山 敦

講義内容・テーマ

法の視座から家族を考える。そのためには、家族に関わる法制度の基礎知識を確実に習得することが必要である。そこで、まず、「民法第4編 親族」に規定されている様々な制度、関連する重要判例、代表的学説等について学ぶ。さらに、現在、家族が抱えている様々な問題のうち、法が家族にできること／できないことは何か、あるいは家族は法に何を求めているのか、できるだけ時事的な話題を用いて検討したいと考えている。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

予習:「授業の流れ」に示したテキストの予習範囲を一読してから出席すること。読んでいるときは理解できなくても、一度目を通した上で講義を聞けば、教室でかなり理解できるはずである。事前に配布される資料についても同様である。講義中:必死にノートを取る。担当者は早口だが、大切な事項は繰り返し述べる。頭に浮かんだ疑問なども一緒にメモをしておく。復習:できるだけその日のうちに、テキストや配布資料によって書き／聞き取れなかったノートの穴を埋めるとなるとよい。「相続法」も履修すれば、家族の財産的側面を知ることができ、「家族法」の理解も深まるはずである。

評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施

定期試験。制度や用語の説明など、基礎知識の習得を見る選択式・短文記述式・穴埋め式などの問題が半分(50点)、価値判断の分かれる問題について論述し、思考力や表現力を見る論文式問題が半分(50点)。

講義スケジュール

- 第1回:序論:家族・家族制度・家族法(テキスト予習範囲)3-14頁、279-282頁
- 第2回:夫婦関係法1婚姻(1)婚姻の効果(テキスト予習範囲)17-54頁
- 第3回:夫婦関係法2婚姻(2)婚約/婚姻の成立(テキスト予習範囲)54-90頁
- 第4回:夫婦関係法3離婚(1)離婚の方法(テキスト予習範囲)91-123頁
- 第5回:夫婦関係法4離婚(2)離婚の効果(テキスト予習範囲)123-140頁
- 第6回:夫婦関係法5内縁(テキスト予習範囲)141?162頁
- 第7回:親子関係法1実親子関係(1)嫡出子(テキスト予習範囲)163-185頁
- 第8回:親子関係法2実親子関係(2)非嫡出子(テキスト予習範囲)185-208頁
- 第9回:親子関係法3親権法(テキスト予習範囲)209?246頁
- 第10回:親子関係法4養親子関係(1)普通養子(テキスト予習範囲)247-271頁
- 第11回:親子関係法5養親子関係(2)特別養子(テキスト予習範囲)271-278頁
- 第12回:後見法(テキスト予習範囲)283-290頁
- 第13回:扶養法(テキスト予習範囲)291-302頁
- 第14回:手続法(テキスト予習範囲)303-318頁
- 第15回:予備日(質疑応答、補足説明などに充てる)

テキスト

内田貴『民法!V親族・相続』東京大学出版会。  
最新版の小型六法必携。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生以上

担当教員 古澤 夕起子

講義内容・テーマ

昭和期の児童文学

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

- \*レポート:試験に代わるレポートとして実施
- \*日常点:加味する
- 毎回の感想文など授業への参加を30%程度加味する。

講義スケジュール

明治・大正期の児童文学について簡単に説明したのち、以下のような作品を読んでいく予定です。

豊島与志雄「夢の卵」  
千葉省三「トテ馬車」  
吉野源三郎「君たちはどう生きるか」  
坪田譲治「善太と三平」  
新美南吉「おぢさんのランプ」「久助君の話」  
石井桃子「ノンちゃん雲に乗る」  
壺井栄「二十四の瞳」他

テキスト

プリントによる。

参考書

『日本児童文学名作集』上下 桑原三郎・千葉俊二編 岩波文庫

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生

担当教員 山本 忠

### 講義内容・テーマ

社会の高齢化が進展するなかで、社会保障の役割が増大し、国民の期待も大きくなってきている。その一方で、社会保障制度は、本格的な高齢社会にももちこたえられるように80年代以降、大きな制度改正が繰り返されてきている。この講義では、日本の社会保障制度について、その法的根拠・目的・機能などの総論部分と所得保障・医療保障の分野を中心に、「人権としての社会保障」という観点から、現在の法制度の状況とその法的課題について具体的に検討していく。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

新聞などで社会保障・社会福祉にかかわる出来事に目を通し、問題意識をもって講義に出席するようにしてください。

### 評価方法・基準

\*筆記試験・定期試験として実施

講義規模によっては小テストをおこなったり、出席をとり、平常点として加味するようにしたいと思っています。

### 講義スケジュール

- 1) オリエンテーション  
社会保障とは何か。その概念・目的・機能などについて
- 2) 社会保障の保障方法
- 3) 社会保障の財政負担の仕組み
- 4) 社会保障法の諸原則(1)
- 5) 社会保障法の諸原則(2)
- 6) 社会保障法の諸原則(3)
- 7) 社会保障法の諸原則(4)
- 8) 社会保障法の諸原則(5)
- 9) 所得保障の法 (1)年金制度の構造と諸問題
- 10) 所得保障の法 (2)公的扶助行政の現状と諸問題
- 11) 医療保障の法 (1)医療保険制度の現状と課題
- 12) 医療保障の法 (2)医療供給主体
- 13) 介護保障の法 介護保険法の基本的理解
- 14) 介護保障の法 介護保険法と老人福祉
- 15) 社会福祉の法 社会福祉基礎構造改革の行方

### テキスト

レジュメ・資料を適宜配布します。

### 参考書

『社会福祉小六法』(ミネルヴァ書房、誠信書房などから発行されている)

『社会保障法判例百選(第3版)』(有斐閣)、2000年

佐藤進・児島美都子編『私たちの社会福祉法』法律文化社、2001年

その他講義の中で紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

<http://www.ritsumei.ac.jp/~yamamoto/>

### その他



人文地理学概論 Y  
 (教)人文地理学 N  
 (教)人文地理学NA

11239

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 1回生以上  
 担当教員 徳安 浩明

### 講義内容・テーマ

地理学について概観したのち、人文地理学(とくに文化地理学、村落・都市地理学、社会地理学)の内容と研究の動向などについて概説する。その際、自然と人間の関係、文化景観(村落・都市景観)の見方・考え方を中心にとりあげる。そのうえで、人文地理学の今後の課題について検討していく。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講：文学部学生は「人文地理学概論」としてのみ受講可。「(教)」は他学部学生用。  
 講義の理解、あるいは教職志望者の受講に対応するため、写真や地図を数多く提示し、地形図への図作業を多く行う。

### 評価方法・基準

出席状況を重視しつつ(ほぼ毎日課題を提出していただく)、考査によって評価を行う。地形図の作業については、作業の成果を提出していただく。色エンピツを準備しておくこと(12色で十分、課題の提出に必要、ペンは不可)。

### 講義スケジュール

- 第1回 地理学の概要。
- 第2回 文化地理学の概要。文化生態(自然 - 人間関係)の研究意義。
- 第3回 気候と文明の関係。
- 第4回 日本の基層文化(照葉樹林文化・ブナ林文化)。
- 第5回 村落地理学の基礎。村落社会の構造・機能・再編成。
- 第6回 地形と集落立地・土地利用の関係。地形の基礎的知識について説明したうえで、地形図の読図を行う。
- 第7回 (1)沖積平野の地形と集落立地 - 琵琶湖岸の事例
- 第8～9回 (2)低湿地の地形と集落立地 - 鳥取県日野川下流域平野の事例
- 第10回 (3)洪積台地の地形と集落立地 - 相模野台地の事例
- 第11回 (4)山地・海岸の地形と集落立地
- 第12回 都市地理学の基礎。都市の形態と機能。
- 第13～15回 成立起源による都市の分類。京都盆地を事例として、歴史的な都市(平安京、寺内町、中・近世の京都、伏見城下町)について検討する。

### テキスト

なし

### 参考書

高橋信夫ほか『文化地理学入門』原書房 1995年。坂本英夫ほか『基礎地理学』大明堂 1994年。中野尊正ほか『新版・地形の教室』古今書院 1986年。藤岡謙二郎ほか『新訂・歴史地理』大明堂 1990年。植村善博ほか『京都地図物語』古今書院 1999年。その他講義中に紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

人文地理学概論 Y  
 (教)人文地理学 N  
 (教)人文地理学NB

11256

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回数 1回生以上  
 担当教員 徳安 浩明

### 講義内容・テーマ

前期の人文地理学概論Y・(教)人文地理学 の内容をふまえ、日本の現在・過去の農山村地域における地理学研究の動向と課題などについて検討する。とくに、研究の遅れている、山地資源に依拠した生業とそれらの生業が営まれてきた集落について、扱っていくことになる。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講：文学部学生は「人文地理学概論」としてのみ受講可。「(教)」は他学部学生用。  
 講義の理解、あるいは教職志望者の受講に対応するため、写真や地図を多数提示し、地形図への図作業を多く行う。

### 評価方法・基準

評価は、出席状況を重視(ほぼ毎日課題を提出していただく)しつつ考査で行う。地形図の作業については、作業の成果を提出していただく。色エンピツを準備しておくこと(12色で十分、課題の提出に必要、ペンは不可)。

### 講義スケジュール

- 第1～2回 村落の歴史地理学の基礎。成立起源による村落分類。京都盆地を事例として、歴史的村落(条里プラン、中世村落、近世村、新田集落など)について検討する。
- 第3回 山地集落の歴史地理学的アプローチの課題と意義。
- 第4回 日本村落史や近世史の動向(水田中心史観の見直し)について概観する。
- 第5回 タタラ製鉄による鉄生産の概要
- 第6回 鉄穴流し(砂鉄採取法)と濁水紛争(鉱害問題)
- 第7回 鉄山の集落構成と農林業集落への再編成
- 第8回 タタラ製鉄による中国山地の開発
- 第9～10回 タタラ製鉄と稼業地域との関係
- 第11回 木地屋による木器の生産
- 第12～13回 焼畑農業と焼畑村
- 第14回 マタギによる狩猟と採取
- 第15回 現代山村の現状と課題。まとめ

### テキスト

なし

### 参考書

藤田佳久『日本の山村』地人書房 1981年。市川健夫『森と木のある生活』白水社 1992年。河瀬正利『たたら製鉄の技術と構造の考古学的研究』淡水社 1995年。橋本鉄男『ろくろ』法政大学出版 1979年。田口洋美『越後三面山人記』農山漁村文化協会 1992年。など  
 その他講義中に紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生以上

担当教員 三浦 俊介

### 講義内容・テーマ

今年の「神話学」では、『古事記』『日本書紀』を中心に、日本神話の面白さを学んでもらいたい。21世紀を生きる我々にとって神話がどのような意味を持つのかも考えてみたい。

講義の達成目標は以下の通りである。

- 1 時間的に配列されている記紀神話の展開を把握する。
- 2 記紀間における神話伝承の異同の意義を理解する。
- 3 アジアや世界の神話の中で日本神話を位置付ける。
- 4 神話を通して、世界や自分について考え直す。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

- 1 『古事記』の神話を通読しておくこと。
- 2 ギリシアやアジアの神話についても調べておこう。
- 3 松前健・岡田精司・大林太良・吉田敦彦氏の本や論文を読もう。

### 評価方法・基準

- \*筆記試験:定期試験として実施
- \*日常点:加味する

### 講義スケジュール

本年は以下の内容を講ずる予定である。

- 1 神と神語り
- 2 古事記と日本書紀
- 3 兄妹婚姻の禁忌
- 4 怪奇、両面神
- 5 私の正体を見るな
- 6 日月の神々とスサノオ
- 7 アマテラスの死
- 8 死体から生える植物
- 9 出雲神話の意義
- 10 アメワカヒコの死と再生
- 11 天孫降臨
- 12 神武天皇(1)
- 13 神武天皇(2)
- 14 一言主神との遭遇
- 15 神々の巡行と生産

### テキスト

『古事記』(角川ソフィア文庫)角川書店(780円)

### 参考書

多岐にわたるため、講義中に随時紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

(三浦佑之氏のHP) <http://homepage1.nifty.com/miuras-tiger/index.html>

(神山重彦氏のHP) <http://www.aichi-gakuin.ac.jp/~kamiyama/e.htm#e4>

### その他

政治過程論 U  
 (教)政治学 NA  
 (教)政治学 N

12209

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生

担当教員 堀 雅晴

講義内容・テーマ

政治過程論は現代政治に対するアプローチの仕方なかで、いわゆる「法制度」アプローチとは異なり、国家と個人の中間領域に存在し、両者の媒介機能を果たす中間団体による具体的な政治的働きを研究する一学問である。すでに数十年の歴史を有している。したがって、当科目ではこうした学問の登場の背景からはじまって、具体的研究の成果、その問題点と今後の課題について講義する予定にしている。受講生には、この講義を通じて、政治のダイナミックさについての理解を深め、いわゆる「政治的無関心」のもつ政治的意味についての検討の必要性が明確になることを期待する。あわせて政治を「学ぶ」と「教える」ことの共通性と相違についても、受講生との相互理解が深まることも期待している。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

毎回の授業を大切にさせていただくために、出席確認や授業での「発問」や質疑をおこなって、受講生に興味を持てるようにしていきたい。したがって、受講生も毎日の新聞に目を通すことはもちろんのこと、積極的な姿勢づくりが期待される。なお初回の講義で出席表を配付しますので、かならず出席してください。

評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施

\*日常点:加味する

前述のとおり、出席表により、受講生との情報交換をすすめることにしている。最終評価にあたっては、この交換の成果を加える。

講義スケジュール

第1講 当科目の進め方・双方向授業の方法、受講生からの質問等

以下、予定です。

第2～3講 政治学という学問の性格と「政治教育」

第4～6講 ベントリーとトルーマンの「政治過程論」の特徴

第7～8講 多元主義政治学と「自由民主主義体制」論

第9～10講 政治権力論等からみた政治の実像と虚像

第11～12講 「現代日本の政治」と政治過程論

第13～14講 まとめと補講

テキスト

特に定めない。なお各自、Webの図書館の書誌検索にて、「政治過程論」「現代政治」「政治学」等を入力して、文献リストを作って下さい。そしてそれに従って、当該科目を深めるように自習してください。もちろん、こちらからも文献を紹介します。なおWebシラバスには、参考文献をあげているので、それを必ずみておいてください。

参考書

A・F・ベントリー著 喜多・上林訳統治過程論 法律文化社1994

上林良一(著)圧力団体論 有斐閣1976

石田徹著 自由民主主義体制分析 法律文化社 1992

五十嵐仁著 概説現代政治(第3版)法律文化社 1999

伊藤光利, 田中愛治, 真淵勝著 政治過程論 有斐閣 2000

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

期末試験前に現れる人はいませんか? 初回の講義にくるようにしてください。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2回生以上

担当教員 中塚 良

講義内容・テーマ

「発掘調査から地域を観る ～考古学・地理学の複眼によるフィールドワーク～」

担当者は地理学出身ながら、地域文化(考古学)の調査を職業としています。2つの世界をつなぐコトバに、対象とする大きさ(スケール)や時間(歴史)こそちがいますが、「地域」、「景観」、「土地」、「形態」などがあります。一方、専門的に両者は分かれています。現場で体験される事象はひとつづきで全体性をおびています。実際に調査で掘り出されたモノやカタチを出発点にして地域の個性や歴史を学んでみましょう。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

授業中盤、担当者のフィールド(京都の発掘調査現場とその周辺地域)への巡検をおこないますので、参加可能であることが受講の条件です。

評価方法・基準

\* 筆記試験: 定期試験として実施

\* 日常点: 加味する

定期試験・巡検に関わるレポートの結果を勘案して総合的に評価します。

講義スケジュール

- 第1回 : 考古学・地理学をつなぐ世界、「形態学」("Morphology")
- 第2回 : 形態の動き1 - 地形と遺跡の歴史 -
- 第3回 : 形態の動き2 - 風景の歴史・景観形態学 -
- 第4回 : 発掘調査と地形(自然地理学的)調査 - フィールド・ワークの方法 -
- 第5回 : フィールドに出よう - 野外巡検計画 -
- 第6回 : フィールド・ワークまとめ
- 第7回 : 発掘調査と地域研究1 - 「とむらい」の場(古墳・墳墓)を調べる -
- 第8回 : 発掘調査と地域研究2 - 生活の場(集落遺跡)を調べる -
- 第9回 : 発掘調査と地域研究3 - 生産の場(農地・用水)を調べる -
- 第10回 : 発掘調査と地域研究4 - 「地変」(地表・断層運動)と生活の関係を考える -
- 第11回 : 発掘調査と地域研究5 - 記憶・体験を掘りおこす民俗(族)誌の世界 -
- 第12回 : 発掘調査と地域研究6 - 遺跡と「総合的学習」 -
- 第13回 : 発掘調査と地域研究7 - 応用考古学・「応用地誌学」の可能性 -
- 第14回 : 発掘調査と地域研究8 - これからの発掘調査 -
- 第15回 : 授業まとめ

巡検のタイミングは前後する可能性があります(受講者と担当者の都合を考慮)。

テキスト

授業内で適宜紹介しますが、フィールドそのものがテキストに相当します。

参考書

適宜紹介します。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生

担当教員 村上 弘

講義内容・テーマ

地方自治体(地方政府)の政治と行政は、市民生活のあらゆる場面と関係し、地方分権改革のなかでいっそう注目されている。この科目は、日本の自治体と中央政府のさまざまな関係、および自治体内部で首長、議会、住民等がつくりだす政策過程を対象とし、制度とともに現実の動向や課題を政治学の視点から説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

資料プリントは出席者にのみ配布する。

評価方法・基準

\*筆記試験:定期試験として実施  
持ち込みなし。

講義スケジュール

- |        |   |
|--------|---|
| 1～3回   | 1、地方自治の歴史<br>・戦後日本での発展                            |
| 4～6回   | 2、地方自治の機能と単位<br>・地方自治の効果と問題点<br>・地方自治の単位、市町村合併    |
| 7～10回  | 3、中央地方関係<br>・行政的關係<br>・政治的關係<br>・地方分権改革           |
| 11～15回 | 4、地方政府<br>・二元代表制<br>・首長とその選挙<br>・議会とその選挙<br>・市民参加 |

テキスト

参考書を指定する。

参考書

兼子仁『新・地方自治法』岩波新書、1999  
 原田尚彦『地方自治の法としくみ』全訂3版、学陽書房、2001  
 松下圭一・西尾勝・新藤宗幸編『自治体の構想』全5巻、岩波書店、2002  
 村上弘『日本の地方自治と都市政策』法律文化社、2003(予定)  
 阿部齊・新藤宗幸『概説・日本の地方自治』東京大学出版会、1997  
 伊藤祐一郎編『住民主体の行政システム』ぎょうせい、2002  
 今井一『住民投票』岩波新書、2000  
 日本経済新聞社編『自治体破産』日本経済新聞社、1999

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生

担当教員 福井 純子

講義内容・テーマ

この講義では明治期を中心に近代日本の政治史を扱うが、その際つぎの3点に重点を置く。

- 1 国内の政局の流れを押える
- 2 欧米列強や東アジアとの関係を視野に入れる
- 3 権力と対抗したさまざまな国内外の民衆の動きに留意する

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講生は政治史を単に過去の出来事の羅列とみなすのではなく、今日の政治との連関や比較など、各人の視点から主体的にとらえてほしい。

評価方法・基準

\* 筆記試験・定期試験として実施

講義スケジュール

以下のような流れで行う。ただし授業の様子を見ながら多少変化することもある。

王政復古から廃藩置県へ  
岩倉使節団と明治6年政変  
士族反乱と自由民権運動  
自由民権の政治文化  
憲法制定と初期議会  
御真影と君が代  
日清戦争と台湾統治  
日清戦争の社会史  
日清戦後の大国意識  
日露戦争と韓国併合  
など

テキスト

テキストは用いない。毎回配布するレジュメにそって、講義形式でおこなう。

参考書

大日向純夫『はじめて学ぶ日本近代史』(大月書店)  
宮地正人『日本通史 国際政治下の日本』(山川出版社)  
いずれも図書館に所蔵されている。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2回生以上

担当教員 黄地 百合子

講義内容・テーマ

現代社会に生きる私たちは、急激な時代の変化と価値観の多様化に日々さらされている。しかし一方、私たちがふだんの生活の中で何げなく行っている習慣や、当然のこととして守っているしきたりの中には、個人や家族独自のものだけでなく、一定の地域や同じ職業・同じ環境の人々の間で共通するものが見受けられる。そしてそこには、長い年月を経て伝承されてきた生活文化が存在し、それを支える伝統的な思考様式や観念を読みとることができる。

本講義では主に「時間の民俗」と「心意の民俗」を通して、そのような生活文化とそこに潜む我々の思考様式のあり様に迫ってみたいと考える。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

特に事前に必要な知識や受講条件はないが、年中行事・人生儀礼・民間信仰・民間文芸といった事柄に興味を持っていることが望ましい。また特にテキストは使用せず、毎回レジュメと講義資料を配布し、それらに沿って講義を行なう。講義資料はレポート作成の際に必要な場合が多い。

評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施

\*日常点:加味する

レポートを主な評価対象とするが、講義の中で何回か(全体を通して5回程度)アンケートを実施し、その内容を日常点として評価の際に加味する。

講義スケジュール

- 第1回 「民俗学」とはどのようなものだろう?
- 第2回 時間の民俗 年中行事 その1・様々な年中行事
- 第3回 時間の民俗 年中行事 その2・正月行事と盆行事
- 第4回 時間の民俗 年中行事 その3・一日の民俗
- 第5回 時間の民俗 人の一生 その1・誕生と子供の成長
- 第6回 時間の民俗 人の一生 その2・子供から大人への通過儀礼
- 第7回 時間の民俗 人の一生 その3・婚姻儀礼、様々な人生儀礼
- 第8回 時間の民俗 人の一生 その4・老人と子供、死と葬送儀礼
- 第9回 時間の民俗のまとめ・時間の概念、死と再生の論理
- 第10回 心意の民俗・その1・日本人の他界観
- 第11回 心意の民俗・その2・俗信と禁忌
- 第12回 心意の民俗・その3・ハレとケとケガレ
- 第13回 心意の民俗・その4・伝説と民間信仰
- 第14回 心意の民俗・その5・民俗事象としての昔話
- 第15回 現代社会と民俗、民俗学のこれから

テキスト

使用しない。

参考書

- 『時間の民俗』(講座 日本の民俗学・第6巻)雄山閣出版
- 『神と靈魂の民俗』(講座 日本の民俗学・第7巻)雄山閣出版
- 『暦と祭事』(日本民俗文化大系・第9巻)小学館
- 『日本民俗学概論』(福田アジオ・宮田登、編)吉川弘文館

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他



倫理学概論 Y (教)倫理学 N (教)倫理学NA	12225
---------------------------------	-------

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1回生以上

担当教員 小泉 義之

#### 講義内容・テーマ

近年の思想の主流となっている社会構築主義を批判的に乗り越えることを目指す。  
具体的には、民族と人種をテーマにする。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

文学部学生は「(教)倫理学」「(教)倫理学」としては受講不可

#### 評価方法・基準

- \* レポート: 試験に代わるレポートとして実施
  - \* 日常点: 加味しない
- 主としてレポートで評価する。

#### 講義スケジュール

数回にわたって、Ian Hacking, The Social Construction of What ? (2001)の内容を紹介しながら講義を進める。  
そして、数回にわたって、Naomi Zack, Philosophy of Science and Race (2002)の内容を紹介しながら講義を進める。  
以上の準備を経て、民族と人種をめぐる政治的倫理的争点について考察する。

#### テキスト

授業内で指定する。

#### 参考書

授業内で指定する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

倫理学概論 Y (教)倫理学 N (教)倫理学NB	12245
---------------------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1回生以上

担当教員 小泉 義之

#### 講義内容・テーマ

優生思想とはそもそも何であるのかを吟味し、現代生物学の知見も含めて、批判的に考えていく。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

文学部学生は「(教)倫理学」「(教)倫理学」としては受講不可

#### 評価方法・基準

\*レポート:試験に代わるレポートとして実施

\*日常点:加味しない

主としてレポートで評価する。

#### 講義スケジュール

生命操作技術や遺伝子改造技術にはらまれた優生思想とは、結局のところ、何であり、何ほどのものであるのかを、ある意味で、

危険な極論にまで引っ張ることで、鮮明にしていく。

その上で、根底的な批判を展開するように努める。

#### テキスト

授業内で指定する。

#### 参考書

授業内で指定する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生

担当教員 佐藤 敬二

講義内容・テーマ

雇用上の女性差別や使用者の一方的な人事考課の是正、リストラ対策、労働時間短縮、賃金水準の向上、職場における安全衛生の確保など、働く際の諸条件は労働組合の活動により確保されます。労働法は、労働条件の最低基準については法律で定めていますが（「労働保護法」）、それ以外ならびにそれ以上の条件は使用者と労働組合との交渉によって設定することを期待しています。この労働組合の活動について規律しているのが、「労働団体法」です。労働組合の結成から始まり、組合活動、団体交渉、労働協約、そして労働争議という労働組合の各活動領域毎に、法はどのように対処しており、また対処すべきなのかを議論するのが本講義の目的です。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初回の講義を欠席する悪弊が蔓延しています。しかし受講上の注意や試験の説明は講義の初回に行いますから必ず出席してください。受講しないことによる不利益は受講生自身が負い、後で説明することはありません。

評価方法・基準

\* 筆記試験：定期試験として実施

\* 日常点：加味する

基本的には定期試験、自己点検、中間試験で評価します。

定期試験は、二題の事例問題に対して、1. 法的問題、2. 法的説明、3. 諸説、4. 自説を問うものです。各項目毎に10点満点を配点とし、追加点10点と合わせて50点満点、二題で100点満点です。

真剣に講義を受講すると、合格率は9割を越えています。講義欠席者が単位取得することは困難です。

\* なお、この合格率とは、講義受講者でかつ試験受験者に占める合格者の比率をあらわしています。昨年度からF評価導入に伴って、教務では受講登録者に占める合格者の比率しか算定できなくなっていますが、そのような数字には何の意味もありませんので、私はそのような無意味な数字は使っていません。

講義スケジュール

第01回：受講上のガイダンス

第02回： 総論A.....：日本の労使関係

第03回： 総論B.....：日本国憲法と労働法..... \* 公務員に対するスト禁止は合憲だろうか？

第04回： 労働組合A：労働組合組織..... \* 管理職の組合は労働組合なのか？

第05回： 労働組合B：組合と組合員..... \* 組合員に言論の自由は認められるのか？

第06回： 組合活動A：使用者の便宜供与..... \* 組合は組合事務所を自由に使えるのだろうか？

第07回： 組合活動B：行為としての組合活動..... \* 仕事にあるいは職場で組合活動はできるのか？

第08回：中間試験

第09回： 団体交渉.....：団交権保障の要件..... \* 組合は何についても使用者に交渉要求できるか？

第10回： 労働協約A：協約の本質..... \* 団体協約と労働協約の相違はどこにあるのか？

第11回： 労働協約B：協約の効力..... \* 労働者は不利な協約条件にも拘束されるのか？

第12回： 労働争議.....：争議の正当性..... \* 「病欠スト」は正当な争議行為と扱われるか？

第13回： 不当労働行為A：制度..... \* 使用者が組合つぶしをしたらどうなるのか？

第14回： 不当労働行為B：要件..... \* 使用者に組合活動について言論の自由があるか？

各回講義のイメージをつかんでもらうために下に設問をあげておきました。これらに対して回答できますか。いずれもYESともNOとも簡単に答えることはできません。受講生には、説得的な理由付けをした上でYESないしNOと答えてもらいます。

各回の講義も試験もすべて、具体的事例から始まり、論点の提示、それについての基本的法制度の解説、諸見解の紹介、という構成をとっています。みなさんの見解は試験の場で述べてください。

講義は各回に配布するレジュメに沿って進め1回に1テーマの講義を行います。レジュメとは資料ではなく講義を聞くための道具です。講義中以外で配布することはありません。講義の理解度を毎回、自己点検してもらいます。講義への質問・意見表明を歓迎します。その一環として、毎回の講義で質問を提出してもらい、次回講義で回答しています。e-mailも活用してください。

テキスト

萬井隆令・西谷敏編『労働法1 - 集团的労働関係法 - 』（法律文化社、1995年）

参考書

全体に関しては、西谷敏『労働組合法』（1998年、有斐閣）

各回の講義内容に関する参考文献は、各回の講義レジュメの中で提示します。興味ある人はそれらを読んで考えてみてください。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

昨年の講義レジュメは私のウェブ・ページ(次項参照)においてありますので参考にして下さい。

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生

担当教員 佐藤 敬二

### 講義内容・テーマ

雇用上の女性差別、採用内定の取消、単身赴任、片道切符の子会社出向、管理職を中心としたリストラ、年間三千時間にもなる長時間労働と際限ない残業、ほとんどない休みの日、上司の命令に少しでも逆らうと懲戒処分、年間一人にのぼる過労死、低賃金のパートタイマー、無権利の外国人労働者。労働法は、使用者が守るべき労働条件の最低基準を定めています。それにもかかわらず、このような劣悪な労働条件となっているのはなぜでしょうか。考えてみたいと思います。

本講義は知識の伝達を目的とはしていません。もちろん、学生諸君はこれまで労働法の勉強をしたことがないので、最低限の知識は覚えてもらわなければならないと思いますが、本講義では、労働法を素材として、法的思考の訓練をすることを目的としています。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初回の講義を欠席する悪弊が蔓延しています。しかし受講上の注意や試験の説明は講義の初回に行いますから、必ず出席してください。受講しないことによる不利益は受講生自身が負い、後で説明することはありません。

また、労働法は労働団体法で形成された法理によって特徴付けられます。「労働団体法」と続けて受講してください。つまみ食いはいけません。

### 評価方法・基準

\*筆記試験：定期試験として実施

\*日常点：加味する

基本的には定期試験、自己点検、中間試験で評価します。

定期試験は、二題の事例問題に対して、1. 法的问题、2. 法的説明、3. 諸説、4. 自説、を問うものです。各項目毎に10点満点を配点とし、追加点10点と合わせて50点満点、二題で100点満点です。

真剣に講義を受講すると、例年、合格率は90.0%を越えます。昨年度は100%合格しました。

講義欠席者が単位取得することは困難です。

\*なおこの合格率とは、講義受講者でかつ試験受験者にしめる合格者の比率をあらわしています。昨年度からF評価導入に伴って、教務では受講登録者に占める合格者の比率しか算定できなくなっていますが、このような数字に何の意味もありませんので、私はそのような無意味な数字は使っていません。

### 講義スケジュール

第01回：ガイダンス：動向と権利救済機構... \*「規制緩和」は労働者保護につながるのだろうか？

第02回：総論A：市民的権利..... \*労働者にプライバシーは認められるのだろうか？

第03回：総論B：男女雇用平等..... \*女性の昇進差別は法により是正できるのだろうか？

第04回：労働契約A：労働契約の締結..... \*内定取り消しは救済されないのだろうか？

第05回：労働契約B：労働契約の変更..... \*配転命令には従わなければならないのだろうか？

第06回：労働契約C：労働契約の終了..... \*リストラで首を切ることができるのだろうか？

第07回：中間まとめと中間試験

第08回：労働条件A：労働時間..... \*残業を拒否することはできないのだろうか？

第09回：労働条件B：休息..... \*長期間の休暇をとることはできないのだろうか？

第10回：労働条件C：賃金・福利厚生..... \*福利厚生の一時的廃止はできるのか？

第11回：職場環境A：就業規則と懲戒..... \*使用者が決めたことには従う義務があるのか？

第12回：職場環境B：労働災害と過労死.... \*過労死に対する補償はされないのだろうか？

第13回：職場環境C：ハラスメント..... \*何でもかんでもセクハラなのか？

第14回：多様な雇用形態：パートタイマー・派遣労働者・外国人労働者・障害者雇用

..... \*パートタイマーの給与が正社員より低くて当然なのだろうか？

各回講義のイメージをつかんでもらうために、下に設問をあげておきました。これらに対して回答できますか。いずれもYESともNOとも簡単に答えることはできません。受講生には、説得的な理由付けをした上でYESないしNOと答えてもらいます。

各回の講義も試験もすべて、具体的事例から始まり、論点の提示、それについての基本的法制度の解説、諸見解の紹介、という構成をとっています。みなさんの見解は試験の場で述べてください。

講義は各回に配布するレジュメに沿って進め、1回に1テーマの講義を行います。レジュメとは資料ではなく講義を聞くための道具ですから、講義中以外で配布することはありません。毎回の講義の理解度を毎回、自己点検してもらいます。講義への質問・意見表明を歓迎します。その一環として、毎回の講義で質問を提出してもらい、次回講義で回答しています。e-mailも活用してください。

### テキスト

西谷敏・萬井隆令編『労働法2—個別的労働関係法(第4版)』(法律文化社、2002年)

### 参考書

各回の講義内容に関する参考文献は各回の講義レジュメ中で提示します。興味のある人はそれらを読んで考えてください。一般的には、西谷敏『ゆとり社会の条件』(旬報社)がおもしろいでしょう。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

昨年の講義レジュメは私のウェブ・ページ(次項参照)においてありますので参考にしてください。

その他